

**Canon**

# *PowerShot V1*



詳細ガイド

この使用説明書は、PowerShot V1のファームウェアが Ver1.2.0以上であることを前提に説明しています。

JA

# 目次

---

はじめに	9
カメラと主な付属品	10
補足情報	11
対応アクセサリ	12
使用説明書について	13
すぐ撮影するには	14
このガイドについて	20
使用できるカードについて	22
安全上のご注意	23
取り扱い上のご注意	26
各部の名称	28
ソフトウェア/アプリケーション	36
準備と基本操作	40
バッテリーを充電する	41
バッテリーとカードを入れる／取り出す	46
モニターを使う	52
電源を入れる	54
マルチアクセサリシュー	60
基本操作	62
メニュー機能の操作と設定	70
クイック設定	76
画面にタッチして操作する	77
画面表示を切り換える	81
かんたん撮影ゾーン	82
A+：全自動撮影（シーンインテリジェントオート）	83
動画撮影	84
静止画撮影	87
スペシャルシーンモード	100
動画撮影	102
静止画撮影	105

クリエイティブフィルターモード	115
動画撮影	117
静止画撮影	121
応用撮影ゾーン	124
動画撮影	125
静止画撮影	132
撮影	141
メニュー目次：動画撮影	144
メニュー目次：静止画撮影	151
動画記録サイズ	157
静止画記録画質	165
ハイフレームレート	169
デジタルズーム	170
録音	172
オーディオ形式	174
オーディオ設定	175
DPRAW設定	183
静止画クロップ/アスペクト	185
露出補正	186
動画ISO感度に関する設定	187
動画オートスローシャッター	192
NDフィルター	193
AEB撮影	194
露出を固定して撮る/AEロック撮影	196
静止画ISO感度に関する設定	198
外部ストロボ撮影	201
ストロボ機能の設定	206
測光モード	220
ピクチャースタイル	221
Canon Log設定	232
明瞭度	239
カラーフィルター	240

HDR撮影(PQ).....	242
オートライティングオブティマイザ.....	243
高輝度側・階調優先.....	244
色空間.....	245
HDRモード.....	246
ホワイトバランス.....	250
ホワイトバランスの補正.....	259
長秒時露光のノイズ低減.....	263
高感度撮影時のノイズ低減.....	264
タイムラプス動画.....	266
タリーランプ.....	277
動画セルフタイマー.....	278
フォーカスBKT撮影.....	279
シャッター方式.....	283
手ブレ補正 (IS機能) 設定.....	285
クイック設定カスタマイズ.....	288
動画自動水平補正.....	291
測光タイマー.....	292
タイムコード.....	293
ゼブラ設定.....	300
撮影情報表示設定.....	302
表示フレームレート設定.....	310
鏡像表示.....	312
自動電源オフ温度.....	313
温度上昇緩和.....	314
シャットダウン警告ガイダンス.....	315
HDMI接続時の表示.....	316
撮影画像の確認時間.....	318
露出Simulation.....	319
撮影全般.....	320
AF/ドライブ.....	327
メニュー目次: AFタブ (動画撮影).....	328
メニュー目次: AFタブ (静止画撮影).....	330

AF動作	334
動画サーボAF	339
レビュー用AF	342
AFエリアの選択	343
プリAF	364
AF補助光の投光	365
AFエリアの限定	366
手動ピント合わせ（マニュアルフォーカス）	367
ドライブモードの選択	370
セルフタイマー撮影	372
リモコン撮影	374
ゾーンAFフレームのサイズを変更する	375
再生	376
メニュー目次：再生タブ	378
画像の再生	380
画像の拡大表示	385
インデックス表示（複数画像表示）	387
動画の再生	390
動画の前後部分のカット	394
4K動画からのフレームの切り出し	397
テレビで見る	400
画像プロテクト	402
画像消去	406
静止画の回転	413
動画の回転情報の変更	414
レーティング	415
印刷指定／DPOF	421
RAW現像	426
クリエイティブアシスト	434
クイック設定からのRAW現像	437
再生時クリエイティブフィルター	438
JPEG/HEIF画像のリサイズ	442
JPEG/HEIF画像のトリミング	444

HEIF画像をJPEG画像に変換. . . . .	447
スライドショー. . . . .	451
画像検索の条件設定. . . . .	454
前回の画像から再生. . . . .	457
再生する情報の設定. . . . .	458
ハイライト警告表示. . . . .	461
再生時のグリッド. . . . .	462
動画再生カウント. . . . .	463
HDMI HDR出力. . . . .	465
通信機能. . . . .	466
メニュー目次：通信機能タブ（静止画撮影）. . . . .	468
メニュー目次：通信機能タブ（動画撮影）. . . . .	470
スマートフォン（タブレット）と接続. . . . .	472
ワイヤレスリモコンと接続. . . . .	500
image.canonに画像送信. . . . .	505
画像送信（中国大陸地区向け）. . . . .	510
ライブ配信. . . . .	515
Live Switcher Mobileで配信. . . . .	521
プリンターとWi-Fi接続. . . . .	529
通信機能の基本設定. . . . .	541
2回目以降のWi-Fi/Bluetooth接続. . . . .	562
接続先の機器の編集／削除. . . . .	563
機内モード. . . . .	567
Wi-Fi設定. . . . .	568
Bluetooth設定. . . . .	569
カメラの名前. . . . .	570
GPSの設定. . . . .	571
エラー内容の表示. . . . .	575
エラー表示の対応. . . . .	576
USB接続アプリの選択. . . . .	583
通信の設定初期化. . . . .	584
仮想キーボードの操作方法. . . . .	585
無線通信機能での注意事項. . . . .	586

セキュリティについて.....	588
ネットワークの設定を確認する.....	589
無線通信機能の接続状態.....	590
<b>機能設定.....</b>	<b>592</b>
メニュー目次：機能設定タブ.....	593
フォルダの設定.....	597
画像番号.....	599
カード初期化.....	604
縦位置画像回転表示.....	606
動画縦位置情報の付加.....	608
日付／時刻／エリア.....	609
言語.....	612
単位.....	613
ビデオ方式.....	614
機能ガイド.....	615
電子音.....	616
音量.....	617
ヘッドフォン.....	618
モニターの明るさ.....	622
暗所表示.....	623
メニュー画面の拡大.....	624
起動画面.....	625
HDMI出力解像度.....	626
冷却ファン設定.....	627
レンズ収納時間.....	629
パスワードの管理.....	630
節電.....	635
カメラの初期化.....	636
カスタム撮影モード（C1-C3）.....	637
バッテリー情報.....	640
著作権情報.....	641
その他の情報.....	644

操作カスタマイズ	645
メニュー目次：操作カスタマイズ機能タブ	646
操作カスタマイズで変更できる内容	648
カスタム機能／マイメニュー	662
メニュー目次：カスタム機能タブ	663
カスタム機能で変更できる内容	664
メニュー目次：マイメニュータブ	667
マイメニューの登録	668
資料	675
パソコンへの画像の取り込み	676
スマートフォンへの画像の取り込み	678
故障かな？と思ったら	681
エラー表示	696
情報表示	697
主な仕様	708
商標・ライセンスについて	731

# はじめに

---

## はじめに必ずお読みください

撮影の失敗や事故を未然に防ぐため、はじめに[安全上のご注意](#)、および[取り扱い上のご注意](#)をお読みください。また、この「詳細ガイド」をよく読んで正しくお使いください。

## 試し撮りと撮影内容の補償について

撮影後は画像を再生して、画像が正常に記録されていることを確認してください。万一、カメラ（本製品）やメモリーカードなどの不具合により、画像の記録やパソコンへの画像の取り込みができなかった場合の、記録内容の補償についてはご容赦ください。

## 著作権について

あなたがカメラ（本製品）で記録した画像やメモリーカードに取り込んだ音楽および音楽付き画像は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示会などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

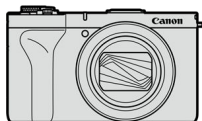
- [カメラと主な付属品](#)
- [補足情報](#)
- [対応アクセサリ](#)
- [使用説明書について](#)
- [すぐ撮影するには](#)
- [このガイドについて](#)
- [使用できるカードについて](#)
- [安全上のご注意](#)
- [取り扱い上のご注意](#)
- [各部の名称](#)
- [ソフトウェア/アプリケーション](#)

## カメラと主な付属品

---

ご使用前に、以下のものがすべてそろっているかご確認ください。万一、足りないものがあるときは、お買い求めの販売店にご連絡ください。

---



**カメラ**  
(シューカバー付き)



**バッテリーパック LP-E17**  
(保護カバー付き)



**リストストラップ**



**ウインドスクリーン**

- メモリーカード (📁)、HDMIケーブル、インターフェースケーブル、バッテリーチャージャーは付属していません。
- 付属品は、なくさないように注意してください。
- ソフトウェアのCD-ROMは付属していません。ソフトウェア (📁) は、キヤノンホームページからダウンロードしてください。

## 補足情報

---

カメラに関する補足情報については、下記のサイトでご確認ください。

- <https://cam.start.canon/H001/>



## 対応アクセサリ

---

最新の対応アクセサリについては、下記のサイトでご確認ください。

- <https://cam.start.canon/H002/>



## 使用説明書について

---

- **使用説明書（製品に付属）**

ご使用前に必ずお読みください。

- **詳細ガイド**

すべての使い方は、この「詳細ガイド」で説明しています。  
最新の詳細ガイドは、下記のサイトでご確認ください。

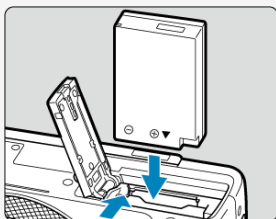
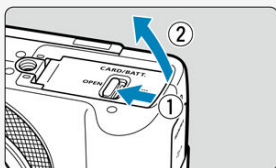
<https://cam.start.canon/C016/>



ソフトウェア使用説明書については[ソフトウェア使用説明書](#)を参照してください。

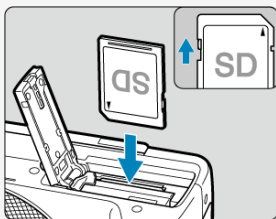
## すぐ撮影するには

### 1. バッテリーを入れる (🔗)



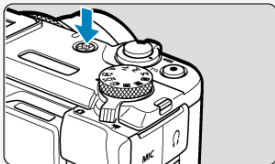
- 購入時はバッテリーを充電してからお使いください (🔗)。

### 2. カードを入れる (🔗)



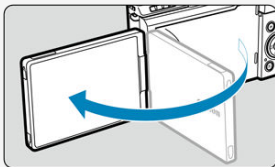
- カードの表を、カメラの前面側にして、「カチッ」と音がするまで差し込みます。

### 3. 電源を入れる (☑)



- 撮影に必要な設定がすべて自動設定されます。

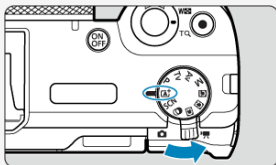
### 4. モニターを開いてセットする (☑)



- モニターに日付／時刻／エリアの設定画面が表示されたときは、日付／時刻／エリアを参照してください。
- モニターにパスワードの設定画面が表示されたときは、[パスワードを設定する](#)を参照してください。
- モニターに【ようこそ】の画面が表示されたら、画面の指示に従ってカメラとスマートフォンを接続します (☑)。

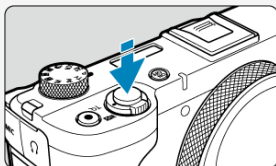
## 動画を撮影する

1. 静止画撮影/動画撮影切り換えスイッチを「**AV**」にし、モードダイヤルを「**A+**」にする (☑、☑)



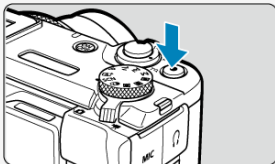
- 撮影に必要な設定がすべて自動設定されます。

2. ピントを合わせる



- 初期状態では、[AF: 動画サーボAF] が [する] に設定されているため、常時ピント合わせが行われます (☑)。

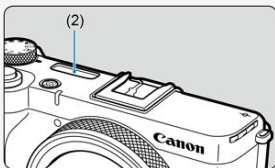
### 3. 動画を撮影する



- 動画撮影ボタンを押すと、動画撮影が始まります。画面の【●】をタッチしても、動画撮影が始まります。



- 動画撮影中は画面右上に【●REC】(1)が表示され、画面の周囲に赤枠が表示されます。



- 音声は動画撮影用マイク(2)で記録されます。
- もう一度動画撮影ボタンを押すと、動画撮影が終了します。画面の【■】をタッチしても、動画撮影が終了します。

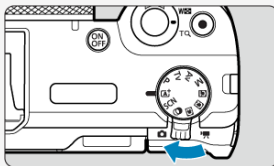
## 4. 撮影した動画を確認する (🔍)



- <▶> ボタンを押します。
- <🔍> を2回押します。

## 静止画を撮影する

### 1. 静止画撮影／動画撮影切り換えスイッチを <📷> にする (🔍)

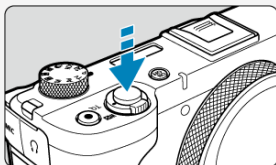


### 2. ピントを合わせる (🔍)



- 顔を検知すると、ピント合わせを行う追尾フレーム [ ] が顔の部分に表示されます。
- シャッターボタンを軽く押すと、ピントが合います。

### 3. 撮影する (📷)



- さらにシャッターボタンを押して撮影します。

### 4. 撮影した画像を確認する












- 撮影した画像がモニターに約2秒間表示されます。
- 〈▶〉ボタンを押すと、もう一度画像が表示されます (📷)。












## このガイドについて

- [☑ 本文中の絵文字について](#)
- [☑ 操作説明の前提と作例写真について](#)

### 本文中の絵文字について

	コントローラーホイールを示しています。
   	 十字キーの押す方向を示しています。
	コントローラーリングを示しています。
	クイック設定／設定ボタンを示しています。
	操作ボタンから指を離したあと、タイマー機能により、ボタンを押した状態が*秒間保持されることを示しています。

- その他、本文中の操作ボタンや設定位置の説明には、ボタンやモニターの表示など、カメラで使われている絵文字を使用しています。

	タイトル右の  は、静止画撮影用の機能であることを示しています。
	タイトル右の  は、動画撮影用の機能であることを示しています。
	タイトル右の  は、応用撮影ゾーン (〈P〉 〈Tv〉 〈Av〉 〈M〉 モード) 限定の機能であることを示しています。
	関連トピックへのリンクを示しています。
	撮影に不都合が生じる恐れのある注意事項を記載しています。
	補足説明や補足事項を記載しています。
	上手に使うためのヒントや撮影のポイントを記載しています。
	困ったときの助けになる内容を記載しています。

## 操作説明の前提と作例写真について

---

- 電源が入っていることを前提に説明しています (🔌)。
- メニュー機能やカスタム機能などが初期状態になっていることを前提に説明しています。
- このガイドで使用している作例写真は、効果を分かりやすく伝えるためのイメージです。

## 使用できるカードについて

---

カードの容量に関わらず下記のカードが使用できます。なお、新しく買ったカードや、他のカメラ、パソコンで初期化したカードは、このカメラで初期化（フォーマット）してください (🔗)。

- SD/SDHC/SDXCメモリーカード  
UHS-II、UHS-I対応

## 動画が記録できるカードについて

---

動画を撮影するときは、動画記録サイズに適應する性能（書き込み／読み取り速度）を備えたカードを使用してください (🔗)。



このガイドでは、SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、SDXCメモリーカードのことを「カード」と表記しています。

\*画像を記録するカードは付属していません。別途ご購入ください。

## 安全上のご注意

安全に使っていただくための注意事項です。必ずお読みください。  
お使いになる方だけでなく、他人への危害や損害を防ぐためにお守りください。



**警告**

死亡や重傷を負う恐れがある内容です。

- 乳幼児の手の届くところに置かない。
  - バッテリーを子供の手の届く範囲内に置かない。
- ストラップを首に巻き付けると、窒息することがあります。  
カメラ、アクセサリーの部品や付属品を飲み込むと危険です。飲み込んだ場合は、すぐ医師に相談してください。

電池を飲み込むと危険です。飲み込んだときは、すぐ医師に相談してください。

- この製品はボタン/コイン電池を使用しています。
- ボタン/コイン電池は危険であり、新品が使用済みかにかかわらず、常に子供の手の届かないところに保管してください。  
これらの電池を飲み込んだり、体のどこかに入れたりすると、2時間以内に重傷や死亡に至ることがあります。

ボタン/コイン電池を飲み込んだ、または体のどこかに入れた疑いがある場合は、直ちに医師の診察を受けてください。

- 指定外の電源は使わない。
- 分解や改造をしない。
- 強い衝撃や振動を与えない。
- 破損したときは、内部に触れない。
- 煙が出ている、異臭がするなどの異常が発生したときは使わない。
- アルコール、ベンジン、シンナーなどの有機溶剤で手入れしない。
- 液体でぬらしたり、内部に液体や異物を入れない。
- 可燃性ガスを含んだ空気中では使用しない。

感電、破裂、火災の原因となります。

- 雷が鳴り出したら、コンセントにつながれた製品に触れない。
- 感電の原因となります。

- バッテリーや電池を使うときは、次のことに注意する。
  - 指定外の製品で使わない。
  - 熱したり、火中投入しない。
  - 指定外の製品で充電しない。
  - 端子に他の金属や金属製のピンやゴミに触れさせない。
  - 液漏れしたものは使わない。
  - 廃却するときは、接点にテープを貼るなどして絶縁する。

感電、破裂、火災の原因となります。

液漏れして身体や衣服についたときは、水でよく洗い流す。目に入ったときは、きれいな水で十分洗った後、すぐ医師に相談してください。

- バッテリーチャージャーやACアダプターを使うときは、次のことに注意する。
  - 電源プラグやコンセントのほこりを、定期的に乾いた布で拭き取る。
  - ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。
  - 電源プラグの差し込みが不十分なまま使わない。
  - 電源プラグや端子に金属製のピンやゴミを触れさせない。
  - 雷が鳴り出したら、コンセントにつながれたバッテリーチャージャーやACアダプターに触れない。
- 電源コードに重いものをのせたり、傷つけたり、破損させたり、加工したりしない。
- 使用中および使用後すぐに、製品に布などをかけない。
- コードを引っ張って電源プラグを抜かない。
- 電源に長時間つないだままにしない。
- 5°C~40°Cの範囲外で充電しない。

感電、破裂、火災の原因となります。

- 長時間、身体と同じ部位に触れさせたまま使わない。
- 熱いと感じなくても、皮膚が赤くなったり、水ぶくれができたりするなど、低温やけどの原因となることがあります。気温の高い場所で使うときや、血行の悪い方や皮膚感覚の弱い方などが使うときは、三脚などを使ってください。
- 使用が禁止されている場所では、電源を切るなどの指示に従う。
- 電波の影響で機器類が誤動作し、事故の原因となる恐れがあります。
- ベットの近くにバッテリーを置かない。

バッテリーに噛みついたとき、バッテリーの液漏れ、発熱、破裂により故障や火災の原因となることがあります。

## ⚠️注意

下記の注意を守らないと、けがを負う可能性または物的損害の発生が想定されます。

- ストロボを目に近付けて発光しない。

目をいためる恐れがあります。

- 長い時間、画面を見続けず。

乗り物酔いのような症状をおこすことがあります。すぐに製品の使用を中止して休息をとってください。

- ストロボを指や布などで覆ったまま、発光させない。

やけどや故障の原因となります。

- 製品を高温や低温となる場所に放置しない。

製品自体が高温や低温になり、触れるとやけどやけがの原因となります。

- ストラップ使用時は、他のものに引っ掛けたり、強い衝撃や振動を与えない。

- レンズを強く押ししたり、ぶつけたりしない。

けがやカメラの故障の原因となります。

- 三脚を使うときは、十分に強度があるものを使う。

- カメラを三脚につけたまま移動しない。

けがや事故の原因となります。

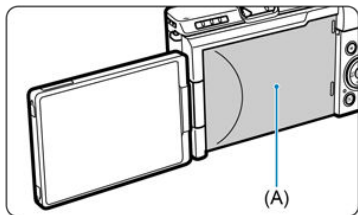
- 製品の内部には手を入れない。

けがの原因となります。

- 使用中や使用後に肌に異常を感じた場合は、使用を中止し医師にご相談ください。



- 連続撮影を長時間繰り返したり、動画撮影を行うと、**モニター収納部 (A) の温度が高くなる場合がありますので触らないでください。**やけどの原因となることがあります。



- [📷: 自動電源オフ温度] を [高] に設定すると、カメラ本体、およびカードがより高温になることがあります。
  - 低温やけどなどの原因になる可能性がありますので、手持ちで撮影することは避けて、三脚などのご使用をおすすめします。
  - 撮影直後はカードに触れないでください。カードが高温になり、やけどの原因となることがあります。温度が下がってからカードを取り出してください。

## 取り扱い上のご注意

### カメラについて

- カメラは精密機器です。落としたり衝撃を与えたりしないでください。
- このカメラは防水構造になっていませんので、水中では使用できません。万一水に濡れてしまったときは、早めに修理受付窓口にご相談ください。また、水滴が付いたときは乾いたきれいな布で、潮風にあたったときは固くしぼったきれいな布でよくふき取ってください。
- カメラを磁石やモーターなどの強力な磁気が発生する装置の近くに、絶対に置かないでください。また、電波塔などの強い電波が発生しているところで使用したり、放置したりしないでください。電磁波により、カメラが誤動作したり、記録した画像データが破壊されることがあります。
- 直射日光下の車の中などは予想以上に高温になります。カメラの故障の原因になることがありますので、このような場所にカメラを放置しないでください。
- カメラには精密な回路が内蔵されていますので、絶対に自分で分解しないでください。
- レンズにゴミが付いているときは、市販のプロアーで吹き飛ばすだけにしてください。カメラボディおよびレンズは、有機溶剤を含むクリーナーなどでふかないでください。特に汚れがひどいときは、修理受付窓口にご相談ください。
- カメラの電気接点は手で触らないでください。腐食の原因になることがあります。腐食が生じるとカメラが作動不良を起こすことがあります。
- カメラを寒いところから、急に暑いところに移すと、カメラの外部や内部に結露（水滴）が発生することがあります。カメラを寒いところから、急に暑いところに移すときは、結露の発生を防ぐために、カメラをビニール袋に入れて袋の口を閉じ、周囲の温度になじませてから、袋から取り出してください。
- 結露が発生したときは、故障の原因になりますので、カメラを使用したり、カード、バッテリーをカメラから取り外さないでください。カメラの電源を切り、水滴が完全に消えるまで待ってから、カメラを使用してください。なお、水滴が完全に消えても、カメラ内部が低温になっているときは、周囲の温度になじむまで、カード、バッテリーをカメラから取り外さないでください。
- カメラを長期間使用しないときは、カメラからバッテリーを取り出し、風通しが良く、涼しい乾燥した場所に保管してください。保管期間中でも、ときどき撮影して作動することを確認してください。
- カメラの保管場所として、実験室などのような薬品を扱う場所は、さび・腐食などの原因になるため避けてください。
- 長期間使用しなかったカメラは、各部を点検してから使用してください。長期間使用しなかったあとや、海外旅行など大切な撮影の前には、各部の作動を修理受付窓口、またはご自身でチェックしてからご使用ください。
- 連続撮影を長時間繰り返したり、静止画撮影や動画撮影を長時間行くと、カメラの温度が高くなる場合があります。これは故障ではありません。
- 明るい光源が撮影画面の内側や外側近くにあると、ゴーストが写り込むことがあります。
- 逆光での撮影では、太陽を画角から十分にずらしてください。また、強い光源（太陽、レーザー、人工的な強い光源など）が撮影画面の内側や外側近くに絶対に入らないようにしてください。強い光の集光により、撮像素子やカメラ内部の損傷、発煙などの恐れがあります。

## モニターについて

下記の現象は、記録されている画像には影響ありません。

- モニターは、非常に精密度の高い技術で作られており99.99%以上の有効画素がありますが、0.01%以下の画素欠けや、黒や赤などの点が現れたままになることがあります。これは故障ではありません。
- モニターを長時間点灯したままにすると、表示していた内容の像が残ることがあります。この残像は一時的なもので、カメラを数日間使用しないでおくと自然に消えます。
- 液晶の特性で低温下での表示反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されます。

## カードについて

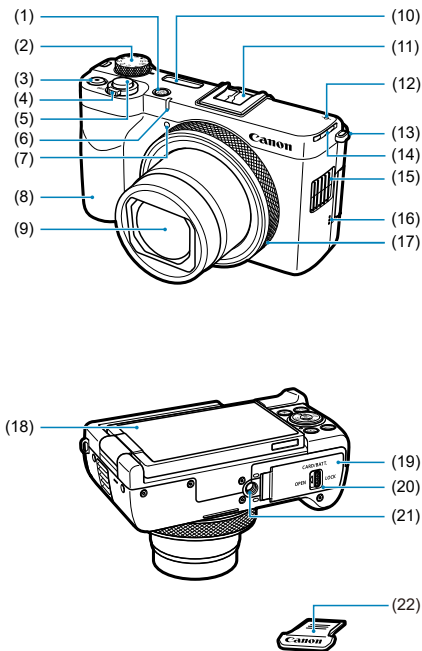
カードとその中に記録されているデータを保護するために、次の点に注意してください。

- 「落とさない」、「曲げない」、「強い力や衝撃、振動を加えない」、「濡らさない」。
- カードの端子に、ほこり、異物が付着しないようにしてください。また、指や金属が触れないようにしてください。
- カード表面にシールなどを貼らない。
- テレビやスピーカー、磁石などの磁気を帯びたものや、静電気の発生しやすいところで保管、使用しない。
- 直射日光のあたる場所や、暖房器具の近くに放置しない。
- ケースなどに入れて保管する。
- 温度の高いところ、ほこりや湿気の多いところに保管しない。
- 連続撮影を長時間繰り返したり、静止画撮影や動画撮影を長時間行くと、カードの温度が高くなる場合があります。これは故障ではありません。

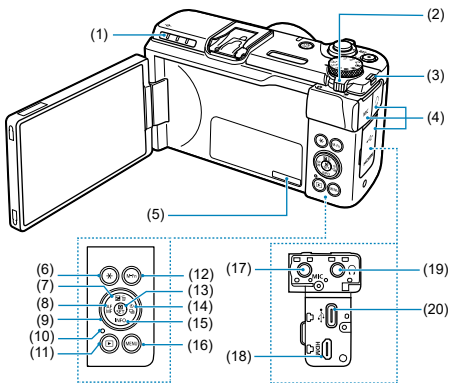
## 各部の名称

☑ [ストラップ（吊りひも）の取り付け方](#)

☑ [ウィンドスクリーンの取り付け方](#)

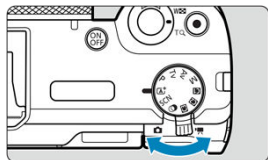


- 
- (1) 電源ボタン
- 
- (2) モードダイヤル
- 
- (3) 動画撮影ボタン
- 
- (4) ズームレバー  
撮影時：〈W〉 広角／〈T〉 望遠  
再生時：〈〉 インデックス／〈Q〉 拡大
- 
- (5) シャッターボタン
- 
- (6) タリーランプ
- 
- (7) AF補助光／赤目緩和／セルフタイマー／リモコンランプ
- 
- (8) グリップ
- 
- (9) レンズ
- 
- (10) マイク（ステレオ）
- 
- (11) マルチアクセサリシュー
- 
- (12) 〈〉 撮像面マーク
- 
- (13) ストラップ取り付け部
- 
- (14) 排気口
- 
- (15) 吸気口
- 
- (16) スピーカー
- 
- (17) 〈〉 コントローラーリング
- 
- (18) モニター
- 
- (19) カード／バッテリー収納部ふた
- 
- (20) カード／バッテリー収納部ふたロック
- 
- (21) 三脚ねじ穴
- 
- (22) シューカバー
-



- 
- (1) 排気口
  - (2) 静止画撮影／動画撮影切り換えスイッチ
  - (3) ストラップ取り付け部
  - (4) 端子カバー
  - (5) シリアル番号（機番）
  - (6) 〈✳〉 AEロックボタン
  - (7) 〈▲／／〉 上／露出補正／消去ボタン
  - (8) 〈◀／AFMF〉 左／オートフォーカス、マニュアルフォーカスボタン
  - (9) 〈○／◇〉 コントローラーホイール／十字キー
  - (10) アクセスランプ
  - (11) 〈▶〉 再生ボタン
  - (12) 〈M-Fn〉 マルチファンクションボタン
  - (13) 〈〉 クイック設定／設定ボタン
  - (14) 〈▶／／〉 右／セルフタイマー／ドライブモード選択ボタン
  - (15) 〈▼／INFO〉 下／インフォボタン
  - (16) 〈MENU〉 メニューボタン
  - (17) 〈MIC〉 外部マイク入力端子
  - (18) 〈HDMI〉 HDMIマイクロ端子
  - (19) 〈Ω〉 ヘッドフォン端子
  - (20) 〈〉 デジタル端子
-

## 静止画撮影／動画撮影切り換えスイッチ



静止画撮影を行うときは、静止画撮影／動画撮影切り換えスイッチを〈📷〉に、動画撮影を行うときは、〈📹〉にします。

### ⚠ 注意

- 静止画撮影／動画撮影切り換えスイッチを切り換えたときは、撮影を行う前にカメラの設定を再確認してください。

### 📖 参考

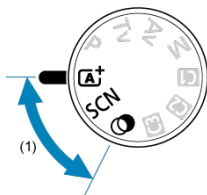
- 静止画撮影時に動画撮影ボタンを押すと、動画を撮影することができます。

## モードダイヤル

モードダイヤルには、「かんたん撮影」と「応用撮影」の機能ゾーンがあります。

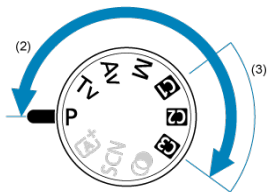
### (1) かんたん撮影ゾーン

被写体やシーンに応じてカメラまかせの撮影ができます (C1)。



### (2) 応用撮影ゾーン

シャッタースピードや絞り数値を設定したり、カメラの設定を変更して撮影することができます (C2)。

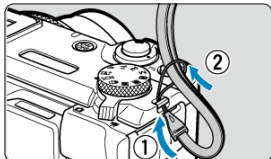


### (3) カスタム撮影モード

撮影モード〈P〉〈Tv〉〈Av〉〈M〉やAF動作、メニュー機能などを、〈C1〉〈C2〉〈C3〉に登録することができます (C4)。

## ストラップ（吊りひも）の取り付け方

### 1. 付属のリストストラップをストラップ取り付け部に取り付ける



- リストストラップは、左手側にも取り付けることができます。

## ウィンドスクリーンの取り付け方

1. カメラの電源を切る
2. カメラのマルチアクセサリースューから、シューカバーを取り外す
3. カメラのマルチアクセサリースューにウィンドスクリーンを取り付ける

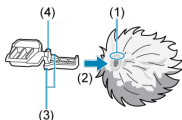


### ⚠ 注意

- ウィンドスクリーンのファーをアクセサリースューに挟み込まないように注意して取り付けてください。

### 📖 参考

- ウィンドスクリーンのファーが外れてしまったときは、以下のように取り付けてください。



- (1)の白い糸が上になるように、ウィンドスクリーンを図の向きにします。
- (2)の向きに、アタッチメントをファーに差し込みます。
- (3)の突起がファーの中に入るように、ファーをかぶせます。
- (4)の突起はファーの外に出しておきます。

# ソフトウェア/アプリケーション

---

- [☑ ソフトウェア/アプリケーションの概要](#)
- [☑ パソコン用ソフトウェアのインストール](#)
- [☑ スマートフォン用アプリケーションのインストール](#)
- [☑ ソフトウェア使用説明書](#)

## ソフトウェア/アプリケーションの概要

---

### パソコン用ソフトウェア

- **Digital Photo Professional (デジタルフォトプロフェッショナル)**  
RAW画像を撮影される方におすすめのソフトウェアです。画像の閲覧・編集・印刷などができます。

### スマートフォン用アプリケーション

- **Camera Connect (カメラコネクト)**  
カメラとスマートフォンを無線または有線で接続して、スマートフォンへの撮影画像の取り込み、リモート撮影、カメラの各種設定などを行うことができます。
- **Digital Photo Professional Express (デジタルフォトプロフェッショナル エクスプレス)**  
スマートフォン/タブレット用のRAW現像・画像編集用アプリケーションです。有償プランへの加入が必要です。

# パソコン用ソフトウェアのインストール

ソフトウェアは必ず最新版をインストールしてください。なお、旧バージョンのソフトウェアは上書きされます。

## ⚠ 注意

- カメラとパソコンを接続した状態でインストールしないでください。ソフトウェアを正しくインストールできません。
- インターネットに接続していない状態では、インストールできません。
- 旧バージョンのソフトウェアでは、このカメラで撮影したRAW画像の処理や、画像の正しい表示などを行うことはできません。

## 1. ソフトウェアをダウンロードする

- パソコンからインターネットに接続し、キヤノンの下記のWebサイトにアクセスしてください。  
<https://cam.start.canon/>

ソフトウェアによっては、シリアル番号の入力が必要です。シリアル番号は、カメラ本体に記載されています。

## 2. パソコン上で解凍する

### Windows

- 表示されたインストーラーファイルをクリックすると、インストーラーが起動します。

### macOS

- dmgファイルをダブルクリックすると、インストール画面が表示されます。
- 画面内のアイコンをダブルクリックすると、インストーラーが起動します。

## 3. 画面の指示に従ってインストールする

## スマートフォン用アプリケーションのインストール

---

- 必ず最新版をインストールしてください。
- Google PlayまたはApp Storeからインストールすることができます。
- キヤノンの下記のWebサイトからもGoogle PlayまたはApp Storeにアクセスすることができます。

<https://cam.start.canon/>



## ソフトウェア使用説明書

---

ソフトウェア使用説明書は、下記のサイトでご確認ください。

- <https://cam.start.canon/>



## 準備と基本操作

---

この章では、撮影に入る前にあらかじめ準備しておくことと、基本の操作について説明しています。

- [バッテリーを充電する](#)
- [バッテリーとカードを入れる／取り出す](#)
- [モニターを使う](#)
- [電源を入れる](#)
- [マルチアクセサリシュー](#)
- [基本操作](#)
- [メニュー機能の操作と設定](#)
- [クイック設定](#)
- [画面にタッチして操作する](#)
- [画面表示を切り換える](#)

## バッテリーを充電する

---

[充電器（別売）を使って充電／給電する](#)

[バッテリーチャージャー（別売）を使って充電する](#)

- **購入時、バッテリーはフル充電されていません**  
充電してからお使いください。
  - **充電は使用する当日か前日にする**  
充電して保管していても、自然放電により少しずつバッテリーの容量が少なくなっています。
  - **カメラは0℃～+35℃の範囲で使用する**  
カメラの性能を十分に発揮させるためには、0℃～+35℃の範囲でを使用することをおすすめします。低温下ではバッテリーの性能が一時的に低下し、使用できる時間が短くなることがあります。高温下では、カメラ本体が熱くなり、連続使用できなくなることがあります。
  - **カメラを使わないときはバッテリーを取り出しておく**  
バッテリーを長期間カメラに入れたままにしておくと、微少の電流が流れて過放電状態になり、バッテリー寿命短縮の原因となります。バッテリーの保護カバーを取り付けて保管してください。なお、フル充電して保管すると、性能低下の原因になることがあります。
- 

### 充電器（別売）を使って充電／給電する

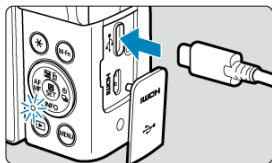
---

別売の充電器を使って充電することができます。

#### 充電

#### 1. バッテリーを入れる (☑)

## 2. 充電する



- 充電器を接続します。アクセスランプがオレンジ色に点灯します。
- アクセスランプが消灯すると、充電完了です。

## 給電

カメラの電源を入れると給電のみを行い、充電はされません。ただし、オートパワーオフ中は充電が行われます。

給電中は、バッテリー残量表示がグレーになります。

カメラの電源を切ると給電から充電に切り換わります。

### ⚠ 注意

- 本体が高温になると、充電が停止することがあります。
- 充電器の取り外しは、カメラの電源を切ってから行ってください。
- カメラ内にバッテリーパック LP-E17がない状態では、給電しないでください。
- バッテリーを保護し、性能の劣化を防ぐため、24時間以上連続して充電しないでください。
- 充電を開始したときにランプが点灯しないときや、充電中に異常が発生（アクセスランプがオレンジ色に点滅）したときは、電源プラグをコンセントから抜き、バッテリーの取り外し／取り付けを行ってから、2～3分後にもう一度コンセントに差し込んでください。改善しない場合は、修理受付窓口にご相談ください。

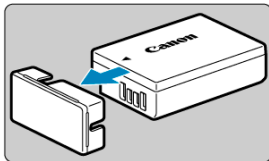
## 参考

- 本製品の充電器として、別売のUSB電源アダプターPD-E2またはPD-E1の使用をおすすめします。
- PD-E2およびPD-E1は給電状態での使用も可能です。
- 市販の充電器についても動作を確認している製品があります。詳しくはキヤノンのホームページで確認してください (🔗)。
- 使い切った状態からフル充電までに要する時間は、常温(+23℃)で約2時間です。
- 充電時間は周囲の温度や残量によって大きく異なります。
- 安全に充電を行うため、低温下(+5℃~+10℃)では充電時間が長くなります。

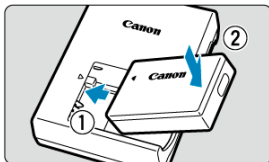
## バッテリーチャージャー（別売）を使って充電する

別売りのバッテリーチャージャーLC-E17シリーズ (LC-E17/LC-E17E/LC-E17C) を使って充電することができます。

### 1. 付属の保護カバーを外す

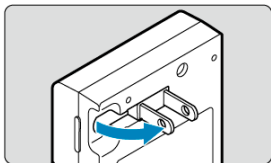


### 2. バッテリーをバッテリーチャージャーにしっかりと取り付ける

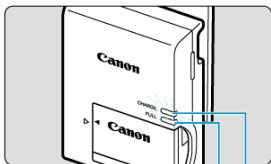


- 取り外しは逆の手順で行います。

### 3. 充電する



- バッテリーチャージャーのプラグを矢印の方向に起こし、プラグをコンセントに差し込みます。




(2) (1)

- 自動的に充電が始まり、充電ランプ (1) がオレンジ色に点灯します。
- 充電が完了すると、充電完了ランプ (2) が緑色に点灯します。

#### ⚠ 注意

- 充電が終わったら、バッテリーを取り外し、プラグをコンセントから抜いてください。
- バッテリーチャージャーは海外でも使うことができます。お使いになる国や地域に対応した、市販の電源プラグ変換アダプターを使用してください。
- バッテリーチャージャーが故障する恐れがありますので、海外旅行用の電子変圧器などに接続しないでください。
- バッテリーチャージャーをコンセントから取り外したときは、約5秒間、バッテリーチャージャーのプラグに触れないようにしてください。

## 参考

- バッテリーチャージャーは家庭用電源のAC100~240V 50/60Hzに対応しています。
- 使い切ったバッテリーの充電に要する時間は、常温（+23°C）で約2時間です。
- 充電時間は周囲の温度や残量によって大きく異なります。
- 安全に充電を行うため、低温下（+5°C~+10°C）では充電時間が長くなります（最長約4時間）。
- フル充電したのにすぐ使えなくなるときは、バッテリーの寿命です。バッテリーの劣化度を確認した上で 、新しいバッテリーをお買い求めください。

## バッテリーとカードを入れる／取り出す

☑ [入れ方](#)

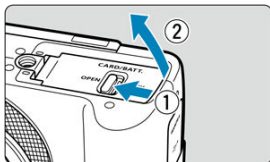
☑ [カードを初期化する](#)

☑ [取り出し方](#)

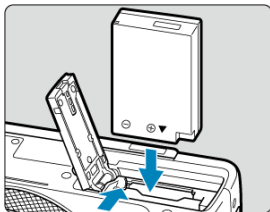
充電したバッテリーパック LP-E17とカードをカメラに入れます。撮影した画像は、カードに記録されます。

### 入れ方

1. カード／バッテリー収納部ふたロックをスライドして、ふたを開ける

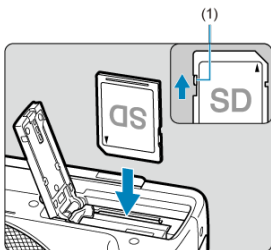


2. バッテリーを入れる



- バッテリー接点の方から入れます。
- ロック位置までしっかりと入れてください。

### 3. カードを入れる

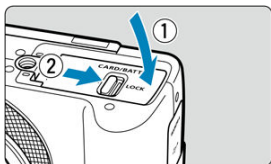


- カードの表をカメラの前面側にして、「カチッ」と音がするまで差し込みます。

#### ⚠ 注意

- カードの書き込み禁止スイッチ (1) が上側 (書き込み/消去可能位置) にセットされていることを確認してください。

### 4. ふたを閉じる



- ふたを押して閉じ、カード/バッテリー収納部ふたロックをスライドしてロックします。

#### ⚠ 注意

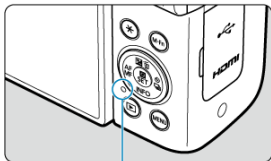
- バッテリーパック LP-E17以外は使用できません。

## カードを初期化する

---

新しく買ったカードや、他のカメラ、パソコンで初期化したカードは、このカメラで初期化（フォーマット）してください (🔗)。

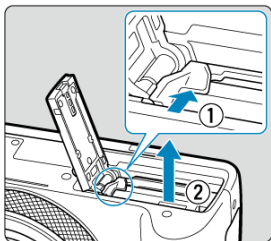
### 1. カード/バッテリー収納部ふたロックをスライドして開ける



(1)

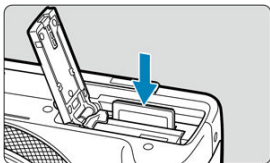
- 電源を切ります。
- アクセスランプ (1) が消えていることを確認して、カード/バッテリー収納部ふたを開きます。

### 2. バッテリーを取り出す

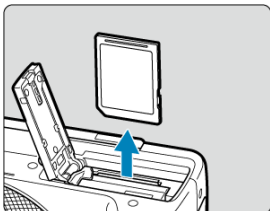


- バッテリーロックレバーを矢印の方向に押してロックを外し、バッテリーを取り出します。
- ショート防止のため、必ずバッテリーに付属の保護カバー (🔒) を取り付けてください。

### 3. カードを取り出す




- カードを軽く押し込んで離すと出てきます。



- カードをまっすぐに取り出して、ふたを閉じます。

#### 注意

撮影時に画面に赤い【】が表示されたときは、カードをすぐに取り出さないでください。カメラ内部の発熱により、カードが熱くなっていることがあります。電源を切りにして撮影を休止し、しばらく経ってからカードを取り出してください。撮影直後に熱くなっているカードを取り出すと、カードを落下させてカードが破損する恐れがあります。カードを取り出すときは十分注意してください。

#### 参考

- 撮影可能枚数は、使用するカードの空き容量や、記録画質、ISO感度などにより変わります。

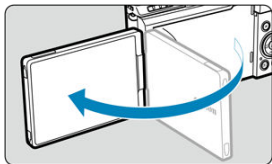
## ⓘ 注意

- アクセスランプ（緑色）が点灯／点滅しているときは、カードへの記録／読み出し中や、消去中、データ転送中です。カード／バッテリー収納部ふたを開けないでください。また、アクセスランプが点灯／点滅しているときに次のことを行うと、画像データが壊れたり、カードやカメラ本体が損傷する原因になるため、絶対に行わないでください。
  - カードを取り出す
  - バッテリーを取り出す
  - カメラ本体に振動や衝撃を与える
  - 電源コードの抜き差しを行う
- 画像が記録されているカードを使用すると、撮影した画像の番号が0001から始まらないことがあります (🔗)。
- モニターにカードのトラブルに関するメッセージが表示されたときは、カードの抜き差しを行ってください。それでも改善しないときは、別のカードに交換してください。  
なお、パソコンでカードの内容が読み取れるときは、カード内のデータをすべてパソコンに保存したあと、カメラでカードを初期化してください (🔗)。正常な状態に戻ることがあります。
- カードの端子部分に指や金属が触れないようにしてください。また、ゴミや水などを付着させないでください。端子部分に汚れが付着すると、接触不良の原因になります。
- マルチメディアカード（MMC）は使用できません（カードエラー表示）。

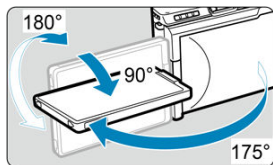
## モニターを使う

モニターは、向きと角度を変えて使用することができます。

### 1. モニターを開く

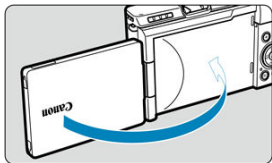


### 2. モニターを回転させる



- モニターは、開いた状態や上向き、下向き、対面（裏返し）でも使用することができます。
- 角度は「約」です。

### 3. 画面を表向きにする



- 通常は画面を表向きにして使用します。

## 注意

- モニターを無理に回転させて、軸の部分（ヒンジ部）に強い力がかからないようにしてください。

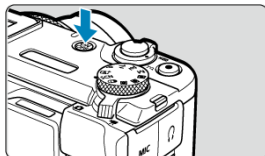
## 参考

- カメラを使わないときは、モニターを内側にして閉じてください。画面を保護することができます。
- モニターを被写体に向けた対面撮影を行うと、映像が鏡像（左右反転）で表示されます。

## 電源を入れる

---

- ☑ [表示言語を設定する](#)
- ☑ [日付/時刻/エリアを設定する](#)
- ☑ [パスワードを設定する](#)
- ☑ [カメラとスマートフォンを接続する](#)
- ☑ [バッテリー残量表示について](#)




- 電源ボタンを押すと、電源が入ります。もう一度押すと、電源が切れます。

### 参考

- カードへの画像記録中に電源を切ると、[書き込み中...]が表示され、画像記録が終了してから電源が切れます。

## 表示言語を設定する

---

電源を入れたときに、[言語言語を設定してください。

## 日付／時刻／エリアを設定する

---

【日付／時刻／エリア】の設定画面が表示されたときは、[日付／時刻／エリア](#)を設定してください。

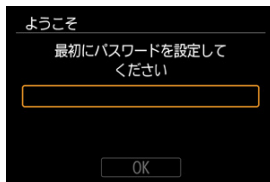
## パスワードを設定する

カメラ内の情報に不正にアクセスされることを防ぐため、カメラにパスワードを設定します。

### ⚠ 注意

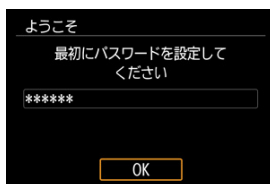
- パスワードを設定しても、カード内の撮影データ等は保護されません。
- 本製品の盗難やカードの盗難については、弊社は一切の責任を負いかねます。
- [次回から確認しない] にチェックを付ける場合は、第三者にカメラの設定情報などにアクセスされないようご注意ください。

### 1. パスワードを設定する

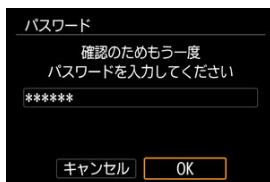


- 6桁の数字を入力し、[OK] を押します。

## 2. [OK] を選ぶ

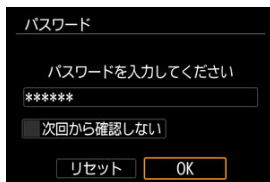


## 3. もう一度パスワードを入力する



- [OK] を選ぶとパスワードが設定されます。

カメラの電源スイッチを〈ON〉にしたときや、オートパワーオフから復帰したときに、[パスワード] 画面が表示されます。設定したパスワードを入力します。



- [次回から確認しない] にチェックを付けると、次回よりこの画面は表示されません。
- [リセット] を選ぶと、カメラの設定が初期化され、パスワードが解除されます。

## ⚠ 注意

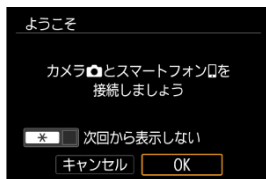
- パスワード入力画面の状態のときは、パスワードを入力するまで以下の接続が利用できません。
  - USB接続
  - Wi-Fi接続
  - Bluetooth接続
- 以下の場合、パスワード入力画面で「次回から確認しない」にチェックを付けてください。
  - 電源スイッチを〈OFF〉にしたとき、もしくはオートパワーオフ中に、Bluetooth機能を使用する
  - image.canonへ画像を自動送信する

## 📖 参考

- パスワードの設定後にパスワードの変更などを行う場合は、[パスワードの管理](#)を参照してください。

## カメラとスマートフォンを接続する

設定画面が表示されたときは、「OK」を選択すると、スマートフォンとの接続手順が表示されます (📷)。



## バッテリー残量表示について

バッテリーの残量は、電源を入れたときに表示されます。



	バッテリーの残量は十分です。
	バッテリーの残量が少なくなってきましたが、まだ使用できます。
	まもなくバッテリー切れになります（点滅表示）。
	バッテリーを充電してください。

### 参考

- 下記の操作を行うとバッテリーが早く消耗します。
  - シャッターボタン半押し状態を長く続ける
  - AF動作だけを行って撮影しない操作を頻繁に行う
  - 手ブレ補正機能を使用する
  - Wi-Fi機能、Bluetooth®機能を使用する
  - モニターを頻繁に使用する
  - マルチアクセサリシュー対応アクセサリを使用する
- 実際の撮影条件により、撮影可能枚数が少なくなることがあります。
- [P: バッテリー情報] でバッテリーの状態を確認することができます (P)。
- 低温下ではバッテリーの残量があっても撮影できないことがあります。
- 給電中は、バッテリー残量表示がグレーになります。

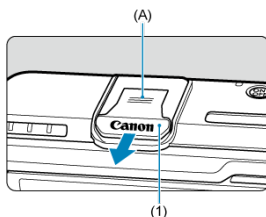
## マルチアクセサリースュー

### [マルチアクセサリースューを使用する](#)

マルチアクセサリースューは、電源供給機能と高度な情報通信機能を備えたアクセサリースューです。

## マルチアクセサリースューを使用する

### シューカバーの取り外し

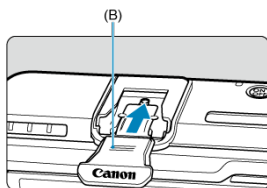


- シューカバー (1) の (A) の部分に指をかけて矢印の方向に引き抜きます。取り外したシューカバーは、紛失しないように保管してください。

### アクセサリーの取り付け

- マルチアクセサリースュー用の接点で通信を行うアクセサリーを取り付けるときは、アクセサリーの取り付け脚をカチッと音がするまで差し込んでから、取り付け脚ロックレバーをスライドして固定します。詳しくは、使用するアクセサリーの使用説明書を参照してください。
- 本カメラでマルチアクセサリースューに非対応のアクセサリーを使用するときは、別売のマルチアクセサリースューアダプター AD-E1が必要です。詳しくはキヤノンのホームページを参照してください ( )。

## シューカバーの取り付け



- マルチアクセサリースューからアクセサリーを取り外したときは、ほこりや水などから接点を保護するため、シューカバーを取り付けてください。
- シューカバーの (B) の部分を矢印の方向に押しながら、突き当たるまで差し込んでください。

### ⚠ 注意

- アクセサリーは、[アクセサリーの取り付け](#)の内容に従って、正しく取り付けてください。カメラやアクセサリーの動作不良や、アクセサリーが落下する恐れがあります。
- マルチアクセサリースューにごみなどが入ったときは、市販品のブロアーなどを使用して除去してください。
- マルチアクセサリースューに水分が入ったときは、カメラの電源を切り、乾くまで放置してください。
- シューカバーは、カメラに付属のものをお使いください。

## 基本操作

---

- [カメラの構え方](#)
- [ズームレバー](#)
- [動画撮影ボタン](#)
- [シャッターボタン](#)
- [〈!\[\]\(88e3a73ac7de6af0578c779b8e8ff993\_img.jpg\)〉コントローラーホイール](#)
- [〈!\[\]\(7ac4e1966f14c1adaf693fe5a7ac46d7\_img.jpg\)〉コントローラーリング](#)

## カメラの構え方

- モニターの向きを変えて撮影することができます。詳しくは[モニターを使う](#)を参照してください。



(1)



(2)



(3)

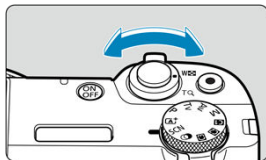
- (1) 通常のアングル
- (2) ローアングル
- (3) ハイアングル


### ⚠ 注意

- 吸気口や排気口を手や指でふさがないように注意してください。

## ズームレバー

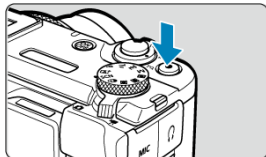
画面を見ながらズームレバーを操作し、撮りたいものの大きさを決めます。



撮影時：〈W〉（広角）／〈T〉（望遠）  
再生時：〈〉（インデックス）／〈Q〉（拡大）

## 動画撮影ボタン

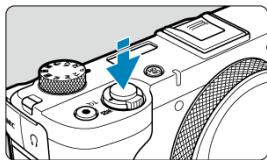
動画撮影ボタンを押すと、動画撮影を開始します。もう一度押すと、終了します。



## シャッターボタン

シャッターボタンは二段階になっています。シャッターボタンを一段目まで浅く押すことを「半押し」といいます。半押しからさらに二段目まで深く押すことを「全押し」といいます。

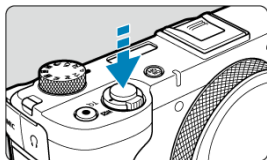
### 半押し



自動ピント合わせと、自動露出機構によるシャッタースピードと絞り数値の設定が行われます。

露出値（シャッタースピードと絞り数値）が、モニターに8秒間表示されます（測光タイマー/8）。

### 全押し



シャッターが切れて撮影されます。

### ● 手ブレしにくい撮影のしかた

手にしたカメラが撮影の瞬間に動くことを「手ブレ」といい、全体がぼやけたような写真になります。鮮明な写真を撮るため、次の点に注意してください。

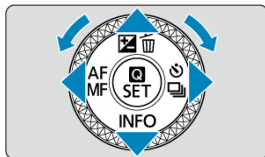
- **カメラの構え方**のように、カメラが動かないようしっかり構える。
- シャッターボタンを半押ししてピントを合わせたあと、ゆっくりシャッターボタンを全押しする。

 参考

- シャッターボタンを一気に全押ししたり、半押し後すぐに全押しすると、一瞬の間を置いてから撮影されます。
- メニュー画面表示中、画像再生中でも、シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

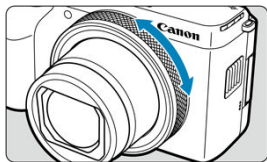
## 〈○〉 コントローラーホイール



コントローラーホイールを回すと、項目を選んだり画像を切り換えたりできます。また、一部の操作を除き、〈▲〉〈▼〉〈◀〉〈▶〉と同じ操作ができます。



## 〈0〉 コントローラーリング

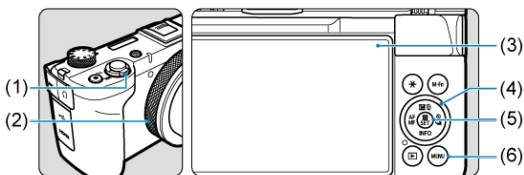
〈P〉 〈Tv〉 〈Av〉 〈M〉 モードのときに、シャッタースピードや絞り数値を設定することができます。



クイック設定画面では、AFエリアやAF動作などの設定を変更することができます。また、[ : ホイール/リング カスタマイズ] で ()、設定する内容を切り換えることができます。

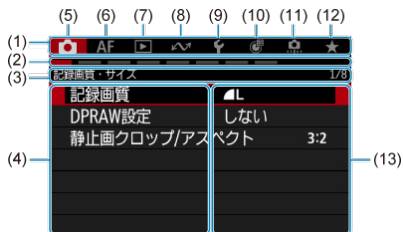
## メニュー機能の操作と設定

- ☑ [応用撮影ゾーンのメニュー画面](#)
- ☑ [かんたん撮影ゾーンのメニュー画面](#)
- ☑ [メニュー機能の設定操作](#)
- ☑ [メニュー項目の灰色表示](#)



- 
- (1) ズームレバー
  - (2) 〈i〉 コントローラーリング
  - (3) モニター
  - (4) 〈○/◇〉 コントローラーホイール/十字キー
  - (5) 〈〉 ボタン
  - (6) 〈MENU〉 ボタン
-

## 応用撮影ゾーンのメニュー画面



(1) メインタブ

(2) サブタブ

(3) サブタブの名称

(4) メニュー項目

(5) 📷：撮影

(6) **AF**：オートフォーカス

(7) ▶️：再生

(8) 📶：通信機能

(9) ⚙️：機能設定

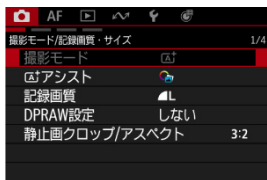
(10) ⚙️：操作カスタマイズ

(11) ⚙️：カスタム機能

(12) ★：マイメニュー

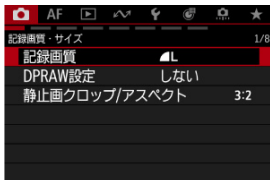
(13) 設定内容

## かんたん撮影ゾーンのメニュー画面



\* かんたん撮影ゾーンのときは表示されないタブやメニュー項目があります。

### 1. メニューを表示する

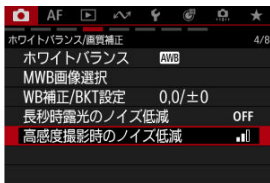


- 〈MENU〉 ボタンを押すと、メニューが表示されます。

### 2. タブを選ぶ

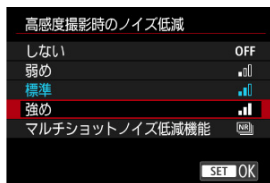
- ズームレバーでメインタブ（系統）を切り換えます。
- 〈◀〉〈▶〉を押す、または〈⌂〉を回してサブタブを選びます。

### 3. 項目を選ぶ



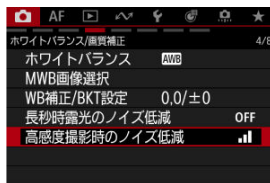
- 〈▲〉〈▼〉を押して項目を選び、〈⌂〉を押します。

## 4. 内容を選ぶ



- 〈▲〉〈▼〉を押して内容を選びます (◀▶)、〈◀〉〈▶〉を使うこともあります。
- 現在設定されている内容は青色で表示されます。

## 5. 内容を設定する



- 〈MENU〉を押すと設定されます。

## 6. 設定を終了する

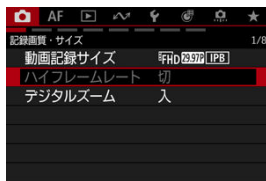
- 〈MENU〉ボタンを押すと、撮影準備状態に戻ります。

### 参考

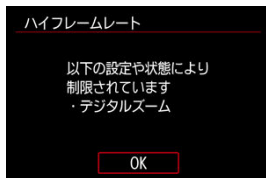
- これ以降のメニュー機能の説明は、〈MENU〉ボタンを押して、メニュー画面が表示されていることを前提に説明しています。
- メニュー画面にタッチしてメニュー機能の操作を行うこともできます。
- 操作の途中でキャンセルするときは、〈MENU〉ボタンを押します。

## メニュー項目の灰色表示

例：[デジタルズーム：入] 設定時



灰色で表示されている項目は設定できません。すでに設定されている他の機能が優先されるためです。



灰色で表示されている項目を選び(ⓘ)を押すと、制限している機能を確認することができます。

制限している機能の設定を解除すると、灰色で表示されていた項目が設定できるようになります。

### 注意

- 項目によっては、制限している機能を確認できないことがあります。

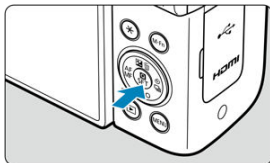
### 参考

- [🔧：カメラの初期化] の [基本設定] を選ぶと、メニュー機能の設定を初期状態に戻すことができます (🔄)。

# クイック設定

モニターに表示されている項目を直接選択して、直感的な操作で設定することができます。

## 1. <MENU>を押す (約10)



## 2. 項目を選び、内容を設定する



- <▲><▼>を押して項目を選びます。
- <MENU>を回して設定を変更します。さらにボタンを押して設定する項目もあります。

## 画面にタッチして操作する

- ☑ [タッチ](#)
- ☑ [ドラッグ](#)
- ☑ [タッチシャッターで撮影する](#)

### タッチ

#### 画面例（クイック設定）



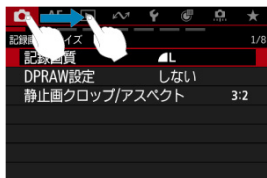
- モニターに指を触れて、指を離します。
- 例えば [Q] をタッチすると、クイック設定の状態になります。[戻る] をタッチすると、元の画面に戻ります。

#### 📖 参考

- [🔊 電子音] を [入] に設定すると、タッチ操作時に電子音を鳴らすことができます (🔊)。
- [👆 タッチ操作] でタッチしたときの反応を設定することができます (👆)。

## ドラッグ

### 画面例（メニュー画面）



- モニターに指を触れたまま動かします。

## タッチシャッターで撮影する

画面にタッチするだけで、ピント合わせから撮影まで自動で行うことができます。

### 1. タッチシャッター機能を設定する



- 画面の [AF-ON] にタッチします。
- タッチするたびに、[AF-ON] と [C] が切り換わります。
- [C] (タッチシャッター：する)  
タッチした位置にピントを合わせてから撮影が行われます。
- [AF-ON] (タッチシャッター：しない)  
タッチした位置にピントを合わせることができます。シャッターボタンを全押しして撮影します。

### 2. 画面にタッチして撮影する



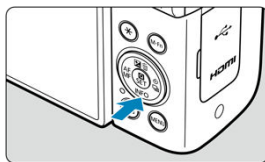
- 画面上の顔や被写体にタッチします。
- 設定されている **AFエリア** で、タッチした位置でピント合わせが行われます (タッチAF)。
- [C] に設定したときは、自動的に撮影されます。

 注意

- ドライブモードを [Q<sub>1</sub>] [Q<sub>2</sub>H] [Q<sub>3</sub>] に設定していても、1枚撮影になります。
- [AF: AF動作] が [サーボAF] に設定されていても、画面にタッチしたときは [ワンショットAF] でピント合わせが行われます。
- 拡大表示中に画面にタッチしても、ピント合わせや撮影は行われません。
- [📷: 撮影画像の確認時間] で [撮影画像の確認時間] を [ホールド] に設定して、タッチで撮影を行ったときは、シャッターボタンを半押しするか、[↶] にタッチすると、次の撮影を行うことができます。

## 画面表示を切り換える

---



〈INFO〉 ボタンを押すたびに情報表示内容が切り換わります。

## かんたん撮影ゾーン

---

この章では、モードダイヤルの「かんたん撮影ゾーン」を使って上手に撮影する方法を説明しています。

「かんたん撮影ゾーン」では、カメラまかせの撮影ができるように、各種機能が自動設定されます。



- [A+ : 全自動撮影 \(シーンインテリジェントオート\)](#)
  - [動画撮影](#)
  - [静止画撮影](#)
- [スペシャルシーンモード](#)
  - [動画撮影](#)
  - [静止画撮影](#)
- [クリエイティブフィルターモード](#)
  - [動画撮影](#)
  - [静止画撮影](#)

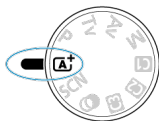
## A+ : 全自動撮影 (シーンインテリジェントオート)

---

- [動画撮影](#)
- [静止画撮影](#)

モードダイヤルを **(A+)** にすると、カメラまかせの全自動による動画/静止画撮影ができます。

---




### [シーン判別アイコン](#)

カメラがシーンを判別して、シーンにあった全自動撮影が行われます。判別したシーンは、画面の左上に表示されます。アイコンについては、[シーン判別アイコン](#)を参照してください。

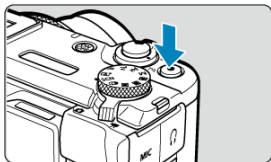
---

#### 1. 静止画撮影／動画撮影切り換えスイッチを「」にする

#### 2. ピントを合わせる

- 初期状態では、[AF: 動画サーボAF] が [する] に設定されているため、常時ピント合わせが行われます ()。
- シャッターボタンを半押しすると、設定されているAFエリアでピント合わせが行われます。

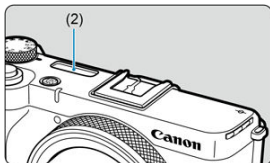
### 3. 動画を撮影する



- 動画撮影ボタンを押すと、動画撮影が始まります。画面の [●] をタッチしても、動画撮影が始まります。




- 動画撮影中は画面右上に [●REC] (1)が表示され、画面の周囲に赤枠が表示されます。



- 音声は動画撮影用マイク(2)で記録されます。
- もう一度動画撮影ボタンを押すと、動画撮影が終了します。画面の [■] をタッチしても、動画撮影が終了します。
- ISO感度は自動設定されます (📷)。

## シーン判別アイコン



撮影モードが【】のときは、カメラがシーンを判別して、シーンにあった全自動撮影が行われます。判別したシーンは、画面の左上に表示されます。アイコンについては、[シーン判別アイコン](#)を参照してください。

## 静止画撮影

---

- [動いているものを撮影する](#)
- [シーン判別アイコン](#)
- [設定の変更](#)
- [A+ : アシスト機能](#)

カメラが撮影シーンを解析し、シーンに適した設定を自動的に行います。また、被写体の動きを検知して、止まっている被写体や動いている被写体に、自動でピントを合わせることができます (📷)。

---

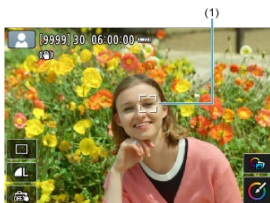
1. 静止画撮影/動画撮影切り換えスイッチを (📷) にする

2. [A+]アシスト機能を選択する



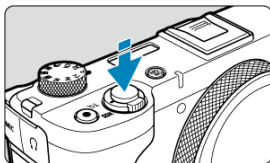
- [A+] を押し、切り換え画面を表示します (📷)。

### 3. カメラを被写体（写したいもの）に向ける



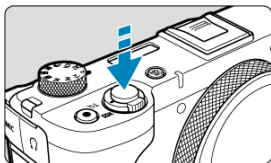
- 撮影条件により、被写体にAFフレーム（1）が表示されます。
- 画面にAFフレームが表示されているときは、AFフレームを被写体に合わせます。

### 4. ピントを合わせる



- シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせが行われます。
- 暗い場所では、必要に応じてAF補助光 (☑) が自動投光されます。
- ピントが合うと、ピントを合わせたAFフレームが緑色で表示され、同時に「ピピッ」と電子音が鳴ります（＝ワンショットAF）。
- 被写体が動いているときは、ピントが合うと、AFフレームが青色で表示され、AFフレームが被写体の動きに追従して動きます（＝サーボAF）。

## 5. 撮影する



- シャッターボタンを全押しすると撮影されます。
- 撮影した画像がモニターに約2秒間表示されます。

### ⚠ 注意

- 撮影する被写体や撮影状況などにより、被写体の動き（止まっている／動いている）を適切に検知できないことがあります。

### 📖 参考

- AF動作（ワンショットAF／サーボAF）は、シャッターボタンを半押しした際に自動設定されます。ワンショットAFに自動設定されても、シャッターボタン半押し中に、被写体が動いたと判断したときは、サーボAFに切り換わります。
- 〈A+〉モードで、自然や屋外シーン、または夕景シーンを撮影すると、より印象的な色あいの写真になります。なお、好みの色あいにならなかったときは、撮影モードを応用撮影ゾーン（📷）にして、[📷:A] 以外のピクチャスタイルを選んで撮影してください（📷）。

### 🌟ブレの少ない画像の撮影

- 手持ち撮影のときは手ブレに注意してください。手ブレを防ぐため、三脚の使用をおすすめします。撮影機材の重さに耐えられる三脚を使用してください。また、カメラを三脚に確実に固定してください。
- ワイヤレスリモートコントローラー（別売／📷）の使用をおすすめします。

## ?こんなときは

### ● ピントが合わない (AFフレームが黄色に点灯)

明暗差 (コントラスト) のある部分にAFフレームを合わせてシャッターボタンを半押ししてください (👉)。また、被写体に近づきすぎているときは、離れて撮影してください。

### ● 複数のAFフレームが同時に表示される

表示されているすべての位置にピントが合っています。

### ● シャッタースピード (数字) が点滅している

光が不足している (暗い) ため、そのまま撮影すると手ブレによって被写体が鮮明に写らないことがあります。三脚を使用するか、外部ストロボ (👉) を使用して撮影することをおすすめします。

### ● ストロボ撮影で、明るい写真になった

ストロボ撮影時に、被写体が近いと、明るい写真 (露出オーバー) になることがあります。被写体から離れて撮影してください。

### ● ストロボ撮影で、画面の下側が不自然に暗くなった

被写体に近づきすぎると、レンズの影が写り込むことがあります。被写体から離れて撮影してください。

#### 参考

### ● ストロボを使用しないときは、下記の説明を参考にしてください。

- 手ブレしやすい暗い場所では、カメラが動かないように構えるか、三脚を使用してください。ズームを広角側にすると、手持ち撮影でも手ブレしにくくなります。
- 暗い場所で人物を撮影するときは、撮影が終わるまで動かないように、写される人に声をかけてください。撮影中に動くと、人物がブレた写真になります。

## 動いているものを撮影する

---



シャッターボタンを半押しすると、被写体の動きに追従してピント合わせが行われます。シャッターボタンを半押ししたまま、被写体を画面内に捉え続け、シャッターチャンスがきたらシャッターボタンを全押しします。

## シーン判別アイコン



カメラがシーンを判別して、シーンに合った全自動撮影が行われます。静止画撮影時、またはモードダイヤルを **(A)** に設定した状態で動画撮影ボタンを押して動画を撮影するとき、判別したシーンのアイコンが画面の左上に表示されます (📷)。

## 設定の変更



画面のアイコンにタッチして、ドライブモード、記録画質、タッチシャッター、**A+**アシスト、クリエイティブアシストの設定を変更することができます。

### ☑️ アシスト機能を選ぶ

1. [📷 : ☑️アシスト] を選ぶ
2. 項目を選ぶ



### 📖 参考

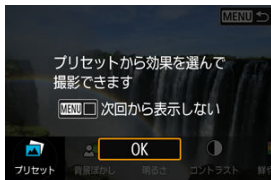
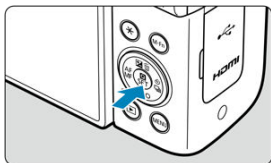
- 撮影画面では、[📷] をタッチすると切り換え画面が直接表示されます (☑️)。



## クリエイティブアシスト

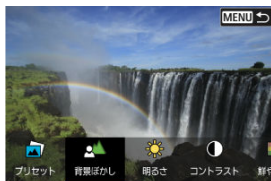
好みの効果を付けて撮影することができます。

## 1. を押す



- メッセージを確認して [OK] を選びます。




## 2. 効果を選ぶ











-  で効果を選び、 を押します。

### 3. 効果の度合い・内容を選ぶ




- 〈〉で設定し、〈〉を押します。
- 設定をリセットしたいときは、〈〉ボタンを押して [OK] を選びます。

## クリエイティブアシストの効果

- **[] プリセット**  
用意された効果の中から選ぶことができます。  
[B&W] を設定したときは [鮮やかさ] [色あい1] [色あい2] は選べません。
- **[] 背景ぼかし**  
背景のボケ具合を設定することができます。設定値が大きいほど背景がくっきりした画像になります。設定値が小さいほど背景がぼけた画像になります。[オート] に設定したときは、明るさに応じて背景のボケ具合が変わります。ズーム位置によっては、設定できない位置があります。
- **[] 明るさ**  
画像の明るさを設定することができます。
- **[] コントラスト**  
コントラスト（明暗差）の強さを設定することができます。
- **[] 鮮やかさ**  
色の鮮やかさを設定することができます。
- **[] 色あい1**  
アンバーとブルーの色あいを設定することができます。
- **[] 色あい2**  
グリーンとマゼンタの色あいを設定することができます。
- **[] モノクロ**  
モノクロで撮影するときの色調を設定することができます。

### 参考

- ストロボ撮影時、[背景ぼかし] は設定できません。
- 撮影モードを変更したり電源を切ったりすると、設定した内容は初期設定に戻ります。なお、[: クリエイティブアシスト設定記憶] を [する] に設定しておくと、設定が保持されます。

## アドバンス $\square$

カメラがシーンを認識し、結果に応じて画像合成などの高度な処理を行います。

1. [📷:  $\square$ アシスト] を選ぶ (🔗)

2. [アドバンス $\square$ ] を選ぶ



3. アイコンを確認する



- シーン判別アイコン (1) が点滅表示されると、複数枚の画像が撮影され、合成画像が生成されます。このとき、保存されるのは合成画像だけです。
- シーン判別アイコンが通常表示のときは、 $\langle \square \rangle$  の設定で撮影されません (🔗)。



## ⓘ 注意

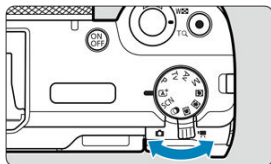
- 連続撮影は設定できません。
- シャッター方式は [電子シャッター $\frac{1}{25}$ ] になります。
- 他の撮影モードより、撮影される範囲が狭くなります。
- RAW画質は選択できません。
- ストロボ撮影はできません。
- 手ブレなどにより画像のズレ量が多いときは、画像の位置合わせが正常に行われ  
ないことがあります。
- 手ブレを抑えるため、ISO感度が高く設定されることがあります。
- グラデーションが滑らかに再現されなかったり、ムラやノイズが発生することがあ  
ります。
- 極端に強い逆光シーンや、明暗差が大きいシーンでは、処理効果が十分に得られな  
いことがあります。
- 動いている被写体を撮影すると、被写体の動きが残像のように写ったり、被写体の  
周辺が暗めに写ることがあります。
- 格子模様、ストライプ模様のような繰り返しパターンや、画面全体が平坦で単調な  
とき、また手ブレなどにより画像のズレ量が多いときは、画像の位置合わせが正  
常に行われなくなることがあります。
- 手持ち撮影のときは手ブレに注意して撮影してください。
- 蛍光灯やLED照明などの光源下で撮影すると、フリッカーの影響により画像に色ム  
ラや露出ムラなどが発生することがあります。
- 画像処理中は、画面に [BUSY] が表示され、処理が終わるまで次の撮影はできま  
せん。
- 画面に表示される仕上がりのイメージは、撮影した画像と完全には同じになりませ  
ん。

## スペシャルシーンモード

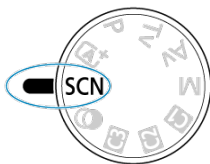
- [動画撮影](#)
- [静止画撮影](#)

被写体やシーンに合わせて撮影モードを選ぶと、撮影に適した機能が自動設定されます。  
\* 〈SCN〉はSpecial Scene（スペシャルシーン）の略です。

1. 静止画撮影／動画撮影切り換えスイッチで、動画〈〉または静止画〈〉を選ぶ



2. モードダイヤルを〈SCN〉にする



3. スペシャルシーンのアイコンをタッチする



#### 4. スペシャルシーンを選ぶ



## 動画撮影


[美肌動画](#)

[レビュー用動画](#)

[手ブレ補正動画](#)

撮影シーンに合わせて、撮影モードを変更することができます。

### 美肌動画


[>] を選びます。

画像処理によって肌がなめらかに見えるような効果をかけることができます。クイック設定で、[美肌効果] の強弱などを設定することができます。



### 撮影のポイント

#### ● 顔にピントを合わせる

顔とカメラの距離を調整して、顔に追尾フレーム [] が表示されるようにしてピントを合わせます。

#### 注意

- 撮影シーンによっては、人の肌以外も補正されることがあります。
- 美肌効果を強くすると、意図しない画像になることがあります。事前にテスト撮影を行ない、撮影画像を確認することをおすすめします。

#### 参考

- [美肌効果] の設定は、撮影モードを変更したり電源をオフにしても、記憶されません。

## レビュー用動画

---

[] を選びます。































カメラの近くにあるものにピントを合わせて撮影することができます。商品などのレビュー撮影に適しています。

クイック設定で、明るさなどを調整することができます。

### 注意

- AFフレームは表示されません。
- 被写体を選択することはできません。

## 手ブレ補正動画

[, , , , , , , , , , , , , , , , , , , , , , , , , , , , , ] を選びます。

手ブレを軽減した動画を撮影することができます。

クイック設定で、明るさなどを調整することができます。



〈〉 ボタンを押すと、手ブレ補正の設定を変更することができます。



## 静止画撮影


---

- [自分撮りモード](#)
- [ポートレートモード](#)
- [美肌モード](#)
- [パノラマショットモード](#)
- [料理モード](#)
- [手持ち夜景モード](#)
- [HDR逆光補正モード](#)
- [打ち上げ花火](#)

撮影シーンに合わせて、撮影モードを変更することができます。

---

## 自分撮りモード

自分撮りをするときは、 (自分撮り) モードを使用します。モニターをレンズ側に向けます。画像処理によって肌がなめらかに見えるよう美肌の効果をかけるほか、明るさや背景を自分好みに設定し、自分が浮き立つような画像にすることができます。






### 撮影のポイント

#### ● 明るさや美肌効果を設定する

[明るさ] や [美肌効果] を5段階から選ぶことができます。[背景] で背景のぼかし具合も設定できます。



#### ● 画面にタッチして撮影する

シャッターボタン全押しだけでなく、 にタッチして  (タッチシャッター：する) に設定すると、画面にタッチして撮影することができます 。


#### ⚠ 注意

- ピントが合ってから撮影が終了するまで、カメラと自分との距離が変わらないようにしてください。
- カメラを落とさないように注意してください。

#### 📖 参考

- [自分撮り] モードでモニターを対面状態にしているときは、セルフタイマーランプ  は点滅しません。
- [自分撮り] モード以外の撮影モードのときも、モニターをレンズ側に向け、画面左下の  にタッチすると、自分撮りを行うことができます。

## ポートレートモード

背景をぼかして人物を浮き立たせた写真を撮りたいときは、 (ポートレート) モードを使用します。肌や髪の毛の感じが柔らかな写真になります。



### 💡撮影のポイント

- **人物と背景ができるだけ離れている場所を選ぶ**  
人物と背景が離れているほど、背景のボケ方が大きくなります。また、背景がすっきりして暗いほど人物が浮き立ちます。
- **望遠を使用する**  
ズームレバーを〈Q〉側に押し、人物の上半身が画面いっぱいに入るよう人物に近づきます。
- **顔にピントを合わせる**  
ピント合わせのときに、顔の位置にあるAFフレームが緑色になったことを確認して撮影します。なお、顔をアップで写すときは、**[AF:瞳検出]**が**[する]**のときは、瞳にピントが合うように撮影することができます。
- **連続撮影する**  
初期状態では、**[C]**(低速連続撮影)に設定されています。シャッターボタンを押し続けると、連続して撮影が行われ、被写体の表情やポーズの変化を写すことができます。

## 美肌モード

人物の肌をきれいに写したいときは、[美肌]（美肌）モードを使用します。画像処理によって肌がなめらかに見えるような効果を加えることができます。



### 撮影のポイント

#### ● 顔が検出されるようにする

美肌効果を加える主被写体が検出されたときに顔に枠が表示されます。被写体の顔に枠が表示されるよう被写体との距離を調整すると、効果的に美肌効果を加えることができます。


#### ● 顔にピントを合わせる

ピント合わせのときに、顔の位置にあるAFフレームが緑色になったことを確認して撮影します。なお、顔をアップで写すときは、[AF:瞳検出]が[する]のときは、瞳にピントが合うように撮影することができます。

#### ❗ 注意

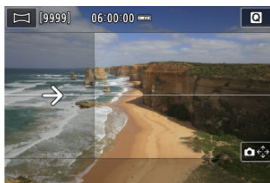
- 撮影シーンによっては、人の肌以外も補正されることがあります。
- 美肌効果を強くすると、意図しない画像になることがあります。事前にテスト撮影を行ない、撮影画像を確認することをおすすめします。


## パノラマショットモード

パノラマ写真を撮影したいときは、 (パノラマショット) モードを使用します。シャッターボタンを全押ししたままカメラを一定の方向に動かして撮影すると、連続撮影した画像を合成してパノラマ画像が作成されます。



### 1. 撮影する方向を選ぶ

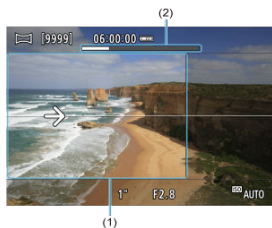


- 画面右下の  をタッチして撮影する方向を選びます。
- カメラを動かす方向を示す矢印が表示されます。

### 2. シャッターボタンを半押しする

- ピントを合わせ、シャッターボタンを半押ししたままにします。

### 3. 撮影する



- シャッターボタンを全押ししたまま、矢印の方向にカメラを一定の速さでまっすぐに動かします。
- 画面で透明に表示されている部分 (1) が撮影されていきます。
- 撮影の進み具合を示すバー (2) が表示されます。
- シャッターボタンを離すか、バーがすべて白色になると撮影が終了します。

#### ⚠ 注意

- シーンによっては、思いどおりの画像が保存されなかったり、思いどおりの効果が得られないことがあります。
- カメラの動かし方が速すぎたり遅すぎたりすると、撮影が途中で中断されます。ただし、作成された画像は保存されます。
- <□> モードで撮影した画像は画像サイズが大きいため、キヤノン製プリンターにカードを差し込んでプリントするときは、一度パソコンなどで画像をリサイズしてからプリントしてください。  
また、ソフトウェアや Web サービスなどで画像が正しく扱えないときは、画像のリサイズをお試しください。
- 次の被写体やシーンでは、適切に合成されないことがあります。
  - 動いている被写体
  - 近くの被写体
  - 構図の中で明暗差が大きいとき
  - 空や海など単調な色や模様が続くシーン
- スイングブレ補正による振動が伝わるがありますが、撮影に影響はありません。
- ズームを望遠側にしたときや、夜景シーンなどの暗いシーンを撮影する場合には、ゆっくりカメラを動かして撮影することをおすすめします。

## 料理モード

料理を撮りたいときは、[🍴] (料理) モードを使用します。明るく、おいしそうな色あいの写真になります。また、白熱電球下などで撮影するときは、光源による赤みを抑えた写真になります。



## 📖 撮影のポイント

### ● 色あいを変える

[色あい] を変えることができます。料理の赤みを強めたいときは [暖色] (赤) 側に、赤みが強すぎるときは [寒色] (青) 側に設定を変更して撮影してください。

### ❗ 注意

- 赤みのある被写体の色が薄くなる場合があります。
- 画面内に複数の光源が含まれるときは、赤みの少ない写真にならないことがあります。
- ストロボを使用したときは、[色あい] が標準設定に切り換わります。
- 人物を入れて撮影すると、人物が適切な色あいにならないことがあります。

## 手持ち夜景モード

[📷] (手持ち夜景) モードを使用すると、カメラを手に持ったまま夜景を撮影することができます。この撮影モードでは、1回の撮影で4枚連続撮影し、手ブレを抑えた画像が1枚記録されます。



### 📷撮影のポイント


#### ● カメラが動かないように構える

カメラが動かないように、脇を締めて構えます (📷)。この撮影モードは、4枚の画像の位置を合わせながら合成して、1枚の画像を作成しますが、手ブレなどにより、画像のズレ量が大きいと、画像の位置合わせが正常に行われなことがあります。

#### ⚠️ 注意

- 他の撮影モードより、撮影される範囲が狭くなります。
- RAW画質は選択できません。
- 夜景などを撮影したときに、AFフレーム内に点状の光源が含まれているときは、AFでピントが合いにくいことがあります。このようなときは、手動ピント合わせ (マニュアルフォーカス) (📷) に設定して手動でピントを合わせてください。
- 動いている被写体を撮影すると、被写体の動きが残像のように写ったり、被写体の周辺が暗めに写ることがあります。
- 格子模様、ストライプ模様のような繰り返しパターンや、画面全体が平坦で単調なとき、また手ブレなどにより画像のズレ量が大きいつきは、画像の位置合わせが正常に行われなことがあります。
- 撮影後に画像を合成してからカードに記録するため時間がかかります。画像処理中は、画面に [BUSY] が表示され、処理が終わるまで次の撮影はできません。
- 画面に表示される仕上がりのイメージは、撮影した画像と完全には同じになりません。

## HDR逆光補正モード

明るいところと暗いところが混在する逆光シーンなどを写すときは、 (HDR逆光補正) モードを使用します。1回の撮影で明るさの異なる3枚の画像を連続撮影し、特に逆光による黒つぶれを抑えた広い階調の画像が1枚記録されます。

\* 「HDR」はHigh Dynamic Range (ハイダイナミックレンジ) の略です。



### 🔦 撮影のポイント

#### ● カメラが動かないように構える

カメラが動かないように、脇を締めて構えます (📷)。この撮影モードは、3枚の画像の位置を合わせながら合成して、1枚の画像を作成しますが、手ブレなどにより、画像のズレ量が大きいと、画像の位置合わせが正常に行われなことがあります。

#### ⚠ 注意

- 他の撮影モードより、撮影される範囲が狭くなります。
- RAW画質は選択できません。
- ストロボ撮影はできません。
- グラデーションが滑らかに再現されなかったり、ムラやノイズが発生することがあります。
- 極端に強い逆光シーンや、明暗差が大きいシーンでは、補正効果が十分に得られないことがあります。
- 順光シーンなど、被写体がもともと明るいシーンでは、HDR効果で不自然な画像になることがあります。
- 動いている被写体を撮影すると、被写体の動きが残像のように写ったり、被写体の周辺が暗めに写ることがあります。
- 格子模様、ストライプ模様のような繰り返しパターンや、画面全体が平坦で単調なとき、また手ブレなどにより画像のズレ量が大きいときは、画像の位置合わせが正常に行われなことがあります。
- 撮影後に画像を合成してからカードに記録するため時間がかかります。画像処理中は、画面に「BUSY」が表示され、処理が終わるまで次の撮影はできません。

## 打ち上げ花火

[機] (打ち上げ花火) モードを使用すると、打ち上げ花火を色鮮やかに撮影できます。



### 撮影のポイント

- **カメラが動かないように構える**

手ブレを防ぐため、三脚などでカメラが動かないように固定してください。また、三脚などでカメラを固定するときは、[📷: 手ブレ補正 (IS機能) 設定] を [切] にして撮影することをおすすめします。

最適なピント位置に設定されますが、シャッターボタンを半押ししても枠は表示されません。



## クリエイティブフィルターモード

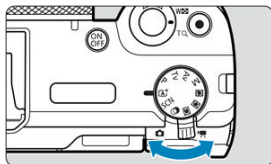
---


- [動画撮影](#)
- [静止画撮影](#)

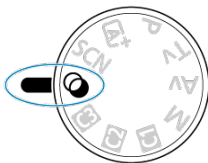
フィルター効果を付けた画像を撮影することができます。撮影前にフィルター効果を確認することができます。

---

1. 静止画撮影／動画撮影切り換えスイッチで、動画（）または静止画（）を選ぶ



2. モードダイヤルを（）にする




3. クリエイティブフィルターのアイコンをタッチする



## 4. フィルター効果を選ぶ








### 参考

- クイック設定で [  ] を選ぶと、フィルター効果を調整することができます。

☑ [各クリエイティブフィルターの特徴](#)

☑ [ジオラマ風の操作](#)

### 各クリエイティブフィルターの特徴

-  **ファンタジー**  
夢の中のような、幻想的でやわらかな雰囲気になります。全体的にやわらかい感じで、画面周辺にモヤがかかったような動画になります。効果を調整することで、画面周辺のモヤがかかる範囲を変えることができます。
-  **オールドムービー**  
映像の揺れや傷、明滅効果で古い映画のような雰囲気になります。画面の上下が黒くマスクされます。効果を調整することで、映像の揺れや傷の具合を変えることができます。
-  **メモリー**  
遠い昔の記憶のような雰囲気になります。全体的にやわらかい感じで、画面周辺の光量を落とした動画になります。効果を調整することで、画面全体の彩度や画面周辺の暗部の範囲を変えることができます。
-  **ダイナミックモノクローム**  
黒と白の階調を際立たせ、力強い臨場感のある雰囲気になります。効果を調整することで、粒子のざらついた感じや白黒の感じを変えることができます。
-  **ジオラマ風動画**  
ジオラマ（ミニチュア模型）風の動画が撮影できます。再生時の速さを、選んでから撮影します。  
画面の中央をはっきり見せたい場合は、そのまま撮影します。  
はっきり見せたい部分（ジオラマ枠）を移動する場合は[ジオラマ風の操作](#)を参照してください。AFエリアは1点AFになります。AFフレームとジオラマ枠の位置を合わせて撮影することをおすすめします。撮影中、AFフレーム、ジオラマ枠は表示されません。再生速度を、**[5倍速]** **[10倍速]** **[20倍速]** のいずれかに設定してから撮影します。

### 倍速と再生時間の目安（動画を1分間撮影したとき）

倍速	再生時間
5倍速	約12秒
10倍速	約6秒
20倍速	約3秒

⚠ 注意

【⚠】(ジオラマ風動画) について

- 音声は録音されません。
- 動画サーボAFは機能しません。
- 再生時間が1秒未満のジオラマ風動画は編集できません (🔒)。

### 1. ジオラマ枠を移動する




- はっきり見せたい部分（ジオラマ枠）を設定します。
- 〈INFO〉ボタンを押すか画面右下の〔☒〕をタッチすると、ジオラマ枠がオレンジ色に変わり、移動させることができます。なお、〔☒〕をタッチすると、ジオラマ枠の縦／横を切り換えることができます。また、ジオラマ枠が横向きの場合は〈◀〉〈▶〉、縦向きの場合は〈▲〉〈▼〉を押しても、ジオラマ枠の縦／横を切り換えることができます。
- 〈☉〉または〈◆〉で、ジオラマ枠が移動します。〈MENU〉ボタンを押すと、ジオラマ枠が中央に戻ります。
- 〈☑〉を押すと、ジオラマ枠の位置が確定しAFフレームがオレンジ色に変わり、移動させることができます。

### 2. AFフレームを移動して撮影する



- 〈☉〉または〈◆〉で、ピントを合わせたい位置にAFフレームを移動します。
- ジオラマ枠とAFフレームの位置を合わせることをおすすめします。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、AFフレームが画面中央に戻ります。
- 〈☑〉を押すと、AFフレームの位置が確定します。

 参考


- AFフレームを移動しているときに〈〉に続けて〈INFO〉ボタンを押すと、ジオラマ枠に切り換えて移動させることができます。

## 静止画撮影

---

### [各クリエイティブフィルターの特徴](#)










#### 注意

- RAW、RAW+JPEGは選択できません。RAW画質が設定されているときは、の画質で記録されます。また、RAW+JPEG画質が設定されているときは、設定されているJPEG画質で記録されます。

#### 参考

- ヒストグラムは表示されません。
- 拡大表示はできません。

## 各クリエイティブフィルターの特徴

-  **ラフモノクロ**  
ざらついた感じの白黒写真になります。コントラストを調整することで、白黒の感じを変えることができます。
-  **ソフトフォーカス**  
やわらかい感じの写真になります。ぼかし具合を調整することで、やわらかさの感じを変えることができます。
-  **魚眼風**  
魚眼レンズで撮影したような効果が得られます。タル型にゆがんだ写真になります。なお、フィルター効果のレベルによって、画像周辺のカットされる領域が変わります。また、フィルター効果により画面中央が拡大されるため、記録画素数によっては、画面中央の解像感が低下することがありますので、映像を確認しながら設定してください。AFフレームは、中央1点固定になります。
-  **水彩風**  
水彩画のような写真で、やわらかい感じの色になります。効果を調整することで、色の濃度を変えることができます。なお、夜景や暗い撮影シーンのグラデーションが滑らかに再現されなかったり、ムラやノイズが発生することがあります。
-  **トイカメラ風**  
トイカメラ（おもちゃのカメラ）で撮影したような独特の色調で、画面の四隅が暗い写真になります。色調によって、色の感じを変えることができます。
-  **ジオラマ風**  
ジオラマ（ミニチュア模型）風の写真になります。画面の中央をはっきり見せたい場合は、そのまま撮影します。はっきり見せたい部分（ジオラマ枠）を移動する場合は『ジオラマ風の操作』を参照してください (🔗)。**[AFエリア]** は **[1点AF]** になります。AFフレームとジオラマ枠の位置を合わせて撮影することをおすすめします。
-  **HDR HDR 絵画調標準**  
白とびや黒つぶれが緩和された写真になります。コントラストを抑えたフラットな階調のため、絵画のような仕上がりになります。被写体の輪郭部分に明るい（または暗い）縁取りが付きます。
-  **HDR HDR グラフィック調**  
[HDR HDR 絵画調標準] よりも鮮やかでありながら、コントラストを抑えたフラットな階調で、グラフィックアートのような仕上がりになります。
-  **HDR HDR 油彩調**  
最も鮮やかで被写体の立体感を強調した、油絵のような仕上がりになります。

## ● HDRピンテージ調









鮮やかさと明るさを抑えながら、コントラストをさらに抑えたフラットな階調で、色あせた古めかしい感じの仕上がりになります。被写体の輪郭部分に明るい（または暗い）縁取りが強めに付きます。

### ⚠ 注意

#### の注意事項

- 他の撮影モードより、撮影される範囲が狭くなります。
- 画面に表示されるフィルター効果の仕上がりがイメージは、撮影画像と完全には同じになりません。
- 動いている被写体を撮影すると、被写体の動きが残像のように写ったり、被写体の周辺が暗めに写ることがあります。
- 格子模様、ストライプ模様のような繰り返しパターンや、画面全体が平坦で単調なとき、また手ブレなどにより画像のスレ量が多いときは、画像の位置合わせが正常に行われないことがあります。
- 手持ち撮影のときは手ブレに注意して撮影してください。
- 空や白壁のようなシーンのグラデーションが滑らかに再現されなかったり、露出ムラや色ムラ、ノイズが発生することがあります。
- 蛍光灯やLED 照明などの光源下で撮影を行うと、照明されている部分が適切な色で再現されないことがあります。
- 撮影後に画像を合成してからカードに記録するため時間がかかります。画像処理中は、画面に **[BUSY]** が表示され、処理が終わるまで次の撮影はできません。
- ストロボ撮影はできません。

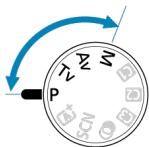
### 📖 参考

-     は、明暗差の大きいシーンで、白とびや黒つぶれが緩和された階調の広い（ハイダイナミックレンジな）写真を撮影することができます。1回の撮影で明るさの異なる3枚の画像を連続撮影し、1枚の画像を作成します。    の注意事項を参照してください。

## 応用撮影ゾーン

---





応用撮影ゾーンでは、シャッタースピードや絞り数値を設定したり、カメラの設定を変更して撮影することができます。



- [動画撮影](#)
- [静止画撮影](#)

## 動画撮影

---

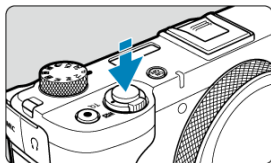
- ☑  [自動露出撮影](#)
- ☑  [シャッター優先AE撮影](#)
- ☑  [絞り優先AE撮影](#)
- ☑  [マニュアル露出撮影](#)

### 自動露出撮影

---

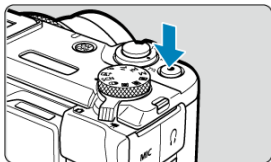
明るさに応じて自動露出制御が行われます。

1. モードダイヤルで〈P〉を選ぶ
2. ピントを合わせる



- 初期状態では、[AF: 動画サーボAF] が [する] に設定されているため、常時ピント合わせが行われます (📷)。
- シャッターボタンを半押しすると、設定されているAFエリアでピント合わせが行われます。

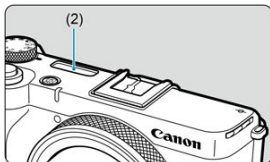
### 3. 動画を撮影する



- 動画撮影ボタンを押すと、動画撮影が始まります。画面の [●] をタッチしても、動画撮影が始まります。



- 動画撮影中は画面右上に [●REC] (1) が表示され、画面の周囲に赤枠が点灯して表示されます。



- 音声はマイク (2) で記録されます。
- もう一度動画撮影ボタンを押すと、動画撮影が終了します。画面の [■] をタッチしても、動画撮影が終了します。
- ISO感度は自動設定されます (📷)。

撮影モードを[●Tv]に設定すると、任意にシャッタースピードを設定して、動画撮影を行うことができます。なお、ISO感度、絞り数値は、標準露出になるように、明るさに応じて自動設定されます。

1. モードダイヤルで〈Tv〉を選ぶ
2. シャッタースピード (1) を設定する



(1)

- 画面を見ながら(●)を回して設定します。
- 設定できるシャッタースピードは、フレームレートにより異なります。

3. ピントを合わせて撮影する

- ●自動露出撮影の手順2、3と同じです。
- ISO感度は自動設定されます (●)。

### ⚠ 注意

- 動画撮影中にシャッタースピードの変更を行うと、露出変化が記録されるため、おすすめできません。
- 動きのある被写体を動画撮影するときは、1/25~1/125秒程度のシャッタースピードをおすすめします。シャッタースピードを速くするほど、被写体の動きが滑らかに再現されなくなります。
- 蛍光灯やLED照明などの光源下で動画撮影を行っているときに、シャッタースピードを変更すると、画面のちらつきが記録されることがあります。
- 設定できるシャッタースピードは、設定した動画記録サイズのフレームレートによって異なります。

## Av 絞り優先AE撮影

撮影モードを [Av] に設定すると、任意に絞り数値を設定して、動画撮影を行うことができます。なお、ISO感度、シャッタースピードは、標準露出になるように、明るさに応じて自動設定されます。

1. モードダイヤルで <Av> を選ぶ
2. 絞り数値 (1) を設定する



- 画面を見ながら <Q> を回して設定します。




3. ピントを合わせて撮影する

- **自動露出撮影**の手順2、3と同じです。
- ISO感度は自動設定されます (☑)。

### 注意

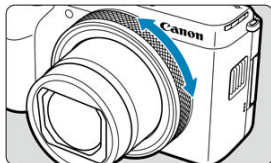
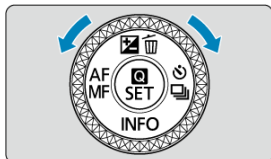
- 動画撮影中に絞り数値の変更を行うと、絞りの駆動による露出変化が記録されるため、おすすめできません。

**【P】 【Tv】 【Av】 モード共通事項**

- 〈〉 ボタンを押すと、露出を固定（AEロック）することができます。AEロックを行ったときは、再度 〈〉 ボタンを押すと、AEロックを解除することができます。
- 〈〉 ボタンを押すと、±3段までの範囲で露出補正を行うことができます。
- 【P】 モードのときは、動画の画像情報（Exif情報）にISO感度、シャッタースピード、絞り数値は記録されません。
- このカメラは、【P】 【Tv】 【Av】 モードで動画を撮影する際、暗い場所でLEDライトが自動的に点灯する機能に対応しています。詳しくは、LEDライトを内蔵したEXスピードライトの使用説明書を参照してください。


任意にシャッタースピード、絞り数値、ISO感度を設定して、動画撮影を行うことができます。

1. モードダイヤルで〈M〉を選ぶ
2. シャッタースピードと絞り数値、ISO感度を設定する



- (1)
  - (2)
  - (3)
- シャッターボタンを半押しして、露出レベル表示を参考に設定します。
  - シャッタースピード (1) は  $\langle \text{1/125} \rangle$ 、絞り数値 (2) は  $\langle \text{F2.8} \rangle$ 、ISO感度 (3) はISO感度をタッチして設定します ( $\langle \text{AUTO} \rangle$ )。
  - 設定できるシャッタースピードは、フレームレートにより異なります ( $\langle \text{AUTO} \rangle$ )。








### 3. ピントを合わせて撮影する

-  自動露出撮影の手順2、3と同じです。

#### 注意

- 動画撮影中にシャッタースピード、絞り数値やISO感度の変更を行うと、露出変化が記録されたり、高ISO感度でノイズが記録されることがあるため、おすすめできません。
- 動きのある被写体を動画撮影するときは、1/25～1/125秒程度のシャッタースピードをおすすめします。シャッタースピードを速くするほど、被写体の動きが滑らかに再現されなくなります。
- 蛍光灯やLED照明などの光源下で動画撮影を行っているときに、シャッタースピードを変更すると、画面のちらつきが記録されることがあります。
- 設定できるシャッタースピードは、設定した動画記録サイズのフレームレートによって異なります。

#### 参考

- ISOオート設定時に、以下の方法で±3段までの範囲で露出補正を行うことができます
  - 露出レベル表示にタッチする
  -  露出補正
- ISOオート設定時に  ボタンを押すと、ISO感度を固定（ロック）することができます。動画撮影中にISO感度を固定したときは、再度  ボタンを押すと、ISO感度の固定を解除することができます。
-  ボタンを押して構図を変えると、 ボタンを押したときとの露出差を露出レベル表示  で確認することができます。
- ISO感度を任意に設定したり、[AUTO]（自動設定）を選ぶこともできます 。

## 静止画撮影

---

- [P: プログラムAE撮影](#)
- [Tv: シャッター優先AE撮影](#)
- [Av: 絞り優先AE撮影](#)
- [M: マニュアル露出撮影](#)
- [長時間露光 \(バルブ\) 撮影](#)

### P: プログラムAE撮影

---

被写体の明るさに応じて、カメラがシャッタースピードと絞り数値を自動的に設定します。

\* 〈P〉はProgram (プログラム) の略です。

\* AEはAuto Exposure (オートエクスポージャー) の略で自動露出のことです。

1. モードダイヤルを〈P〉にする (📷)
2. ピントを合わせる



- AFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。
- ピントが合うとAFフレームが緑色で表示されます (ワンショットAF時)。
- シャッタースピードと絞り数値が自動的に決まります。

3. 表示を確認する

- 露出値の表示が点滅していなければ、標準露出です。

## 4. 撮影する

- 構図を決め、シャッターボタンを全押しします。

### ⚠ 注意

- 遅いシャッタースピードと小さな絞り数値が点滅するときは、被写体が暗すぎます。ISO感度を上げるか、ストロボを使用してください。
- 速いシャッタースピードと大きな絞り数値が点滅するときは、被写体が明るすぎます。ISO感度を下げるか、[📷 : NDフィルター] を設定してください (🔗)。

### 📖 参考

#### 〈P〉と〈A+〉モードの違いについて

- 〈A+〉モードのときは失敗を防ぐために、AFエリアや測光モードなど、多くの機能が自動的に設定され、変更できる機能が限定されています。それに対して〈P〉モードのときは、自動的に設定されるのはシャッタースピードと絞り数値だけで、AFエリアや測光モードなどの機能を自由に設定することができます。

#### プログラムシフトについて

- 〈P〉モードのときは、自動的に設定されたシャッタースピードと絞り数値の組み合わせ（プログラム）を、同じ露出のまま自由に変えることができます。これを「プログラムシフト」といいます。
- プログラムシフトは、シャッターボタンを半押ししてから、希望するシャッタースピード、または絞り数値が表示されるまで (📷) を回します。
- プログラムシフトは、測光タイマーが終了したとき（露出表示が消えたとき）に自動的に解除されます。
- ストロボを使用したときは、プログラムシフトはできません。

## Tv : シャッター優先AE撮影

シャッタースピードを設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが標準露出に必要な絞り数値を自動的に設定します。シャッタースピードを速くすると、動きの速い被写体の瞬間を捉えることができます。シャッタースピードを遅くすると、流動感を表現することができます。

\* 〈Tv〉はTime value（タイムバリュー）の略で時間量のことです。



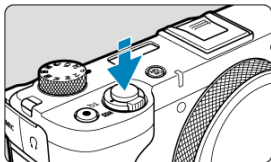
流動感のある写真  
(遅いスピードのイメージ)



動きを止めた写真  
(速いスピードのイメージ)

1. モードダイヤルを〈Tv〉にする (📷)
2. シャッタースピードを設定する
  - 〈1/〉を回して設定します。

### 3. ピントを合わせる



- シャッターボタンを半押しします。
- 絞り数値が自動的に決まります。

### 4. 表示を確認して撮影する

- 絞り数値が点滅していなければ標準露出です。

#### ⚠ 注意

- 小さな絞り数値が点滅するときは、露出アンダー（露出不足）です。絞り数値の点滅が止まるまで **(M)** を回してシャッタースピードを遅くするか、ISO感度を上げます。
- 大きな絞り数値が点滅するときは、露出オーバー（露出過度）です。絞り数値の点滅が止まるまで **(M)** を回してシャッタースピードを速くするか、ISO感度を下げます。

#### 📖 参考

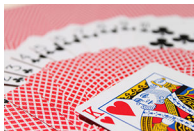
##### シャッタースピードの表示について

- 例えば「0"5」は0.5秒を、「15"」は15秒を表しています。

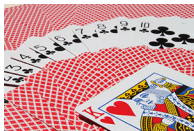
## Av : 絞り優先AE撮影

絞り数値を設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが標準露出に必要なシャッタースピードを自動的に設定します。絞り数値を大きくする（絞りを閉じる）と、ピントの合う範囲が前後に広がります。逆に絞り数値を小さくする（絞りを開く）と、ピントの合う範囲が狭くなります。

\* 〈Av〉はAperture value（アパーチャーバリュー）の略で開口量のことです。



背景をぼかした写真  
(小さい絞り数値のイメージ)



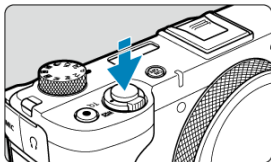
背景にもピントが合った写真  
(大きい絞り数値のイメージ)

1. モードダイヤルを〈Av〉にする (📷)

2. 絞り数値を設定する

- 〈f/〉を回して設定します。

### 3. ピントを合わせる



- シャッターボタンを半押しします。
- シャッタースピードが自動的に決まります。

### 4. 表示を確認して撮影する

- シャッタースピードが点滅していなければ標準露出です。

#### ⚠ 注意

- 遅いシャッタースピードが点滅するときは、露出アンダー（露出不足）です。シャッタースピードの点滅が止まるまで〈M〉を回して絞り数値を小さくする（絞りを開く）か、ISO感度を上げます。
- 速いシャッタースピードが点滅するときは、露出オーバー（露出過度）です。シャッタースピードの点滅が止まるまで〈M〉を回して絞り数値を大きくする（絞りを閉じる）か、ISO感度を下げます。

#### 📖 参考

##### 絞り数値の表示について

- 数値が大きくなるほど、レンズの絞り径は小さくなります。表示される絞り数値はズーム位置によって異なります。

## M: マニュアル露出撮影

自分でシャッタースピードや絞り数値を決めて撮影するときに設定します。露出は、露出レベル表示を参考にしたり、市販の露出計を利用して自分で任意に決めます。

\* 〈M〉はManual（マニュアル）の略です。

### 1. モードダイヤルを〈M〉にする (🔍)

### 2. ISO感度を設定する (🔍)

- ISOオート設定時は、露出補正を行うことができます (🔍)。

### 3. シャッタースピードを設定する

- 〈🔍〉を回して設定します。

### 4. 絞り数値を設定する

- 〈🔍〉を回して設定します。

### 5. ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- 露出レベルマーク [■] で、標準露出からどのくらいずれているか、確認することができます。

### 6. 撮影する

## ISOオート設定時の露出補正

マニュアル露出撮影時にISO感度を [AUTO] に設定したときは、以下の方法で露出補正 (🔍) を行うことができます。

- 露出レベル表示にタッチする

● [📷: 露出補正/AEB設定]

⚠ 注意

- ISOオート設定時は、設定したシャッタースピードと絞り数値に対して標準露出になるようにISO感度が変動するため、意図した露出で撮影できないことがあります。そのときは露出補正を行ってください。
- ISOオート設定時にストロボを使用したときは、露出補正量を設定しても補正は行われません。

📖 参考

- ISOオート設定時に〈✳〉ボタンを押すと、ISO感度を固定（ロック）することができます。
- 〈✳〉ボタンを押して構図を変えると、〈✳〉ボタンを押したときとの露出差を露出レベル表示で確認することができます。
- 〈P〉 〈Tv〉 〈Av〉モードで露出補正 (☞) を行っていたときは、〈M〉モード+ISOオートに変更したときに、設定していた補正量が引き継がれます。

## 長時間露光（バルブ）撮影

シャッターボタンを押している間、シャッターが開いたままになり、シャッターボタンから指を離すと閉じます。夜景や打上げ花火、天体撮影など長時間の露光が必要なときに設定します。

### 1. モードダイヤルを〈M〉にする (📷)

### 2. シャッタースピードを [BULB] にする

- 〈🕒〉を左に回して行くと、[BULB] に設定することができます。

### 3. 絞り数値を設定する

- 〈f/16〉を回して設定します。

### 4. 撮影する

- シャッターボタンを全押ししている間、露光が行われます。
- 画面に露光経過時間が表示されます。

#### ⚠ 注意

- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- 長時間のバルブ撮影を行うと、画像に含まれるノイズが多くなります。
- ISOオート設定時はISO400に設定されます。

#### 📖 参考

- [📷: 長秒時露光のノイズ低減] で長秒露光時に発生するノイズを低減することができます (📷)。
- バルブ撮影を行うときは、三脚の使用をおすすめします。
- バルブ撮影時のリモコンの操作方法については、リモコンの使用説明書を参照してください。

## 撮影

この章では、撮影に関する内容や、メニュー機能の「📷：撮影タブ」に含まれる項目などについて説明しています。

タイトル右の **応用** は、応用撮影ゾーン（〈P〉〈Tv〉〈Av〉〈M〉モード）限定の機能であることを示しています。

動画撮影と静止画撮影は、[静止画撮影／動画撮影切り換えスイッチ](#)で切り換えます。

### ⚠ 注意

- 動画撮影と静止画撮影を切り換えたときは、撮影を行う前にカメラの設定を再確認してください。
- 動画撮影モードでは、静止画は撮影できません。なお、静止画撮影時に動画撮影ボタンを押すと、動画を撮影することができます。

- [メニュー目次：動画撮影](#)
- [メニュー目次：静止画撮影](#)

### 動画撮影

- [動画記録サイズ](#)
- [ハイフレームレート](#)
- [デジタルズーム](#)
- [録音](#)
- [オーディオ形式](#)
- [オーディオ設定](#) **応用**
- [露出補正](#) **応用**
- [動画ISO感度に関する設定](#) **応用**
- [動画オートスローシャッター](#) **応用**
- [NDフィルター](#) **応用**
- [ピクチャースタイル](#) **応用**
- [Canon Log設定](#) **応用**
- [明瞭度](#) **応用**
- [カラーフィルター](#)
- [HDR撮影\(PQ\)](#) **応用**
- [オートライティングオブティマイザ](#) **応用**
- [高輝度側・階調優先](#) **応用**
- [ホワイトバランス](#) **応用**
- [ホワイトバランスの補正](#) **応用**
- [高感度撮影時のノイズ低減](#) **応用**
- [タイムラプス動画](#)

- [タリーランプ](#) **応用**
- [動画セルフタイマー](#)
- [手ブレ補正 \(IS機能\) 設定](#)
- [クイック設定カスタマイズ](#) **応用**
- [動画自動水平補正](#)
- [測光タイマー](#) **応用**
- [タイムコード](#)
- [ゼブラ設定](#) **応用**
- [撮影情報表示設定](#)
- [録像表示](#)
- [自動電源オフ温度](#)
- [温度上昇緩和](#)
- [シャットダウン警告ガイダンス](#)
- [HDMI接続時の表示](#)
- [撮影全般](#)

## 静止画撮影

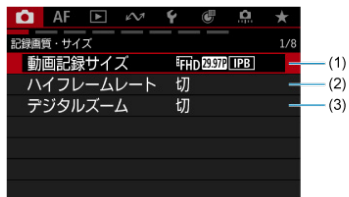
- [静止画記録画質](#)
- [DPRAW設定](#)
- [静止画クロップ/アスペクト](#)
- [露出補正](#) **応用**
- [NDフィルター](#) **応用**
- [AEB撮影](#) **応用**
- [露出を固定して撮る/AEロック撮影](#) **応用**
- [静止画ISO感度に関する設定](#) **応用**
- [外部ストロボ撮影](#) **応用**
- [ストロボ機能の設定](#) **応用**
- [測光モード](#) **応用**
- [ピクチャースタイル](#) **応用**
- [明瞭度](#) **応用**
- [HDR撮影\(PQ\)](#) **応用**
- [オートライティングオブティマイザ](#) **応用**
- [高輝度側・階調優先](#) **応用**
- [色空間](#) **応用**
- [HDRモード](#) **応用**
- [ホワイトバランス](#) **応用**
- [ホワイトバランスの補正](#) **応用**
- [長秒時露光のノイズ低減](#) **応用**
- [高感度撮影時のノイズ低減](#) **応用**

- [フォーカスBKT撮影](#) **応用**
- [シャッター方式](#) **応用**
- [手ブレ補正（IS機能）設定](#)
- [クイック設定カスタマイズ](#) **応用**
- [測光タイマー](#) **応用**
- [撮影情報表示設定](#)
- [表示フレームレート設定](#)
- [鏡像表示](#)
- [自動電源オフ温度](#)
- [撮影画像の確認時間](#)
- [露出Simulation](#) **応用**
- [撮影全般](#)

## メニュー目次：動画撮影

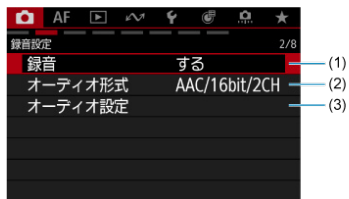
---

### ● 記録画質・サイズ



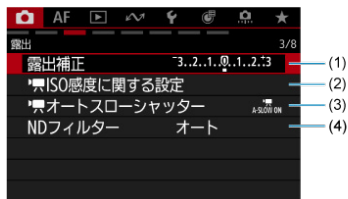
- (1) [動画記録サイズ](#)
- (2) [ハイフレームレート](#)
- (3) [デジタルズーム](#)

### ● 録音設定



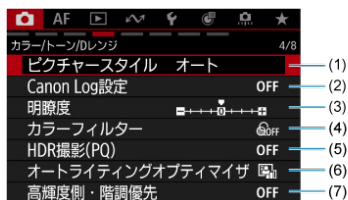
- (1) [録音](#)
- (2) [オーディオ形式](#)
- (3) [オーディオ設定](#) **応用**

## ● 露出



- (1) [露出補正](#) 応用
- (2) [ISO感度に関する設定](#) 応用
- (3) [オートスローシャッター](#) 応用
- (4) [NDフィルター](#) 応用

## ● カラー/トーン/Dレンジ



- (1) [ピクチャースタイル](#) 応用
- (2) [Canon Log設定](#) 応用
- (3) [明瞭度](#) 応用
- (4) [カラーフィルター](#)
- (5) [HDR撮影\(PQ\)](#) 応用
- (6) [オートライティングオブティマイザ](#) 応用
- (7) [高輝度側・階調優先](#) 応用

## ● ホワイトバランス/画質補正



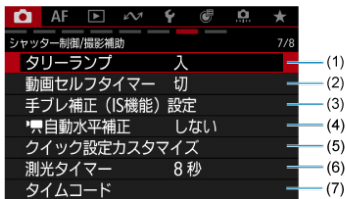
- (1) [ホワイトバランス](#) **応用**
- (2) [MWB画像選択](#) **応用**
- (3) [WB補正](#) **応用**
- (4) [高感度撮影時のノイズ低減](#) **応用**

## ● 各種撮影



- (1) [タイムラプス動画](#)

## ● シャッター制御/撮影補助



- (1) [タリーランプ](#) **応用**
- (2) [動画セルフタイマー](#)
- (3) [手ブレ補正 \(IS機能\) 設定](#)
- (4) [自動水平補正](#)
- (5) [クイック設定カスタマイズ](#) **応用**
- (6) [測光タイマー](#) **応用**
- (7) [タイムコード](#)

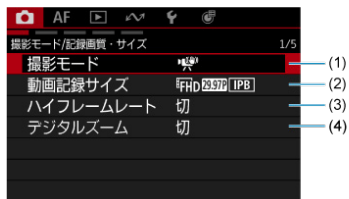
## ● 撮影補助/HDMI



- (1) [ゼブラ設定](#) **応用**
- (2) [撮影情報表示設定](#)
- (3) [鏡像表示](#)
- (4) [自動電源オフ温度](#)
- (5) [温度上昇緩和](#)
- (6) [シャットダウン警告ガイダンス](#)
- (7) [HDMI接続時の表示](#)

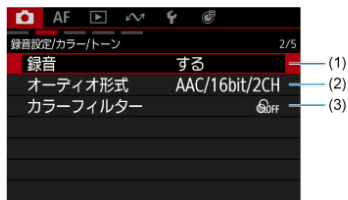
かんたん撮影ゾーン（〔AF〕〈SCN〉〈●〉モード）のときは、以下の画面が表示されます。

### ● 撮影モード/記録画質・サイズ



- (1) [撮影モード](#)
- (2) [動画記録サイズ](#)
- (3) [ハイフレームレート](#)
- (4) [デジタルズーム](#)

### ● 録音設定/カラー/トーン



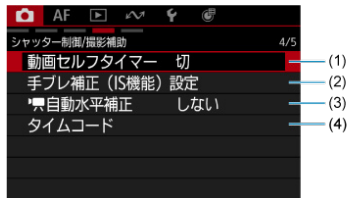
- (1) [録音](#)
- (2) [オーディオ形式](#)
- (3) [カラーフィルター](#)

## ● 各種撮影



(1) [タイムラプス動画](#)

## ● シャッター制御/撮影補助



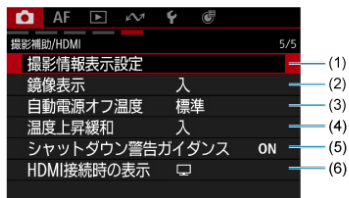
(1) [動画セルフタイマー](#)

(2) [手ブレ補正 \(IS機能\) 設定](#)

(3) [自動水平補正](#)

(4) [タイムコード](#)

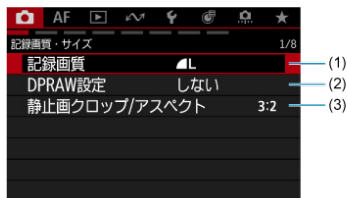
## ● 撮影補助/HDMI



- (1) [撮影情報表示設定](#)
- (2) [鏡像表示](#)
- (3) [自動電源オフ温度](#)
- (4) [温度上昇緩和](#)
- (5) [シャットダウン警告ガイダンス](#)
- (6) [HDMI接続時の表示](#)

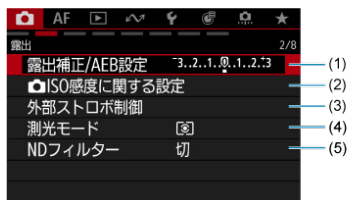
## メニュー目次：静止画撮影

### ● 記録画質・サイズ



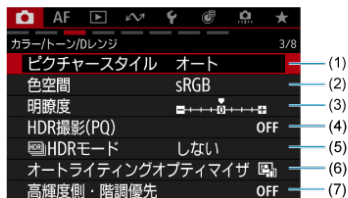
- (1) [記録画質](#)
- (2) [DPRAW設定](#)
- (3) [静止画クロープ/アスペクト](#)

### ● 露出



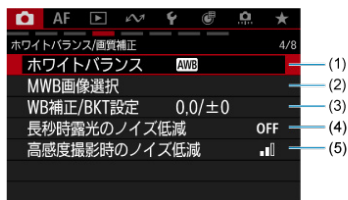
- (1) [露出補正/AEB設定](#) **応用**
- (2) [ISO感度に関する設定](#) **応用**
- (3) [外部ストロボ制御](#) **応用**
- (4) [測光モード](#) **応用**
- (5) [NDフィルター](#) **応用**

## ● カラー/トーン/Dレンジ



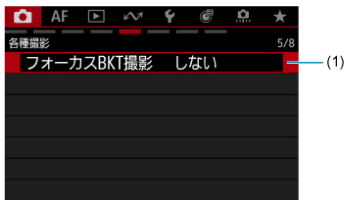
- (1) [ピクチャースタイル](#) 応用
- (2) [色空間](#) 応用
- (3) [明瞭度](#) 応用
- (4) [HDR撮影\(PQ\)](#) 応用
- (5) [HDRモード](#) 応用
- (6) [オートライティング最適マイザ](#) 応用
- (7) [高輝度側・階調優先](#) 応用

## ● ホワイトバランス/画質補正



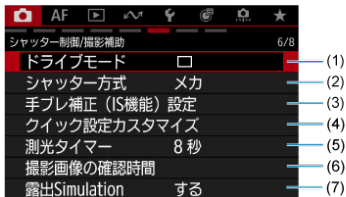
- (1) [ホワイトバランス](#) 応用
- (2) [MWB画像選択](#) 応用
- (3) [WB補正/BKT設定](#) 応用
- (4) [長秒時露光のノイズ低減](#) 応用
- (5) [高感度撮影時のノイズ低減](#) 応用

## ● 各種撮影



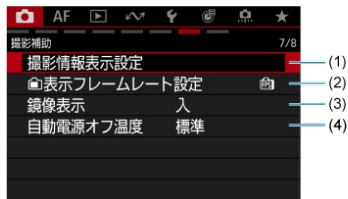
- (1) [フォーカスBKT撮影](#) **応用**

## ● シャッター制御/撮影補助



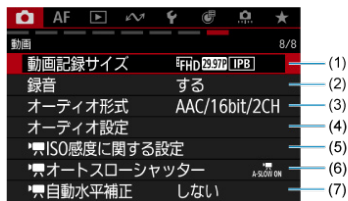
- (1) [ドライブモード](#)  
(2) [シャッター方式](#) **応用**  
(3) [手ブレ補正 \(IS機能\) 設定](#)  
(4) [クイック設定カスタマイズ](#) **応用**  
(5) [測光タイマー](#) **応用**  
(6) [撮影画像の確認時間](#)  
(7) [露出Simulation](#) **応用**

## ● 撮影補助





- (1) [撮影情報表示設定](#)
- (2) [表示フレームレート設定](#)
- (3) [鏡像表示](#)
- (4) [自動電源オフ温度](#)

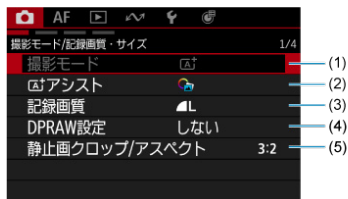
## ● 動画



- (1) [動画記録サイズ](#)
- (2) [録音](#)
- (3) [オーディオ形式](#)
- (4) [オーディオ設定](#) 応用
- (5) [ISO感度に関する設定](#) 応用
- (6) [オートスローシャッター](#) 応用
- (7) [自動水平補正](#)

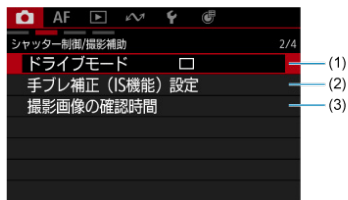
かんたん撮影ゾーン（〈**SCN**〉モード）のときは、以下の画面が表示されま  
す。

### ● 撮影モード/記録画質・サイズ



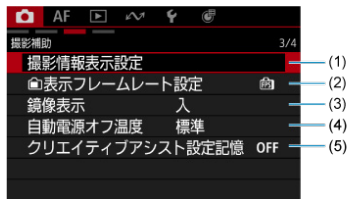
- (1) [撮影モード](#)
- (2) [AFアシスト](#)
- (3) [記録画質](#)
- (4) [DPRAW設定](#)
- (5) [静止画クロップ/アスペクト](#)

### ● シャッター制御/撮影補助



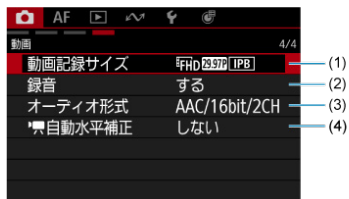
- (1) [ドライブモード](#)
- (2) [手ブレ補正 \(IS機能\) 設定](#)
- (3) [撮影画像の確認時間](#)

## ● 撮影補助



- (1) [撮影情報表示設定](#)
- (2) [表示フレームレート設定](#)
- (3) [鏡像表示](#)
- (4) [自動電源オフ温度](#)
- (5) [クリエイティブアシスト設定記憶](#)

## ● 動画



- (1) [動画記録サイズ](#)
- (2) [録音](#)
- (3) [オーディオ形式](#)
- (4) [自動水平補正](#)



- [撮影範囲](#)
- [4K動画撮影](#)
- [動画が記録できるカード](#)
- [ファイルサイズが4GBを超える動画撮影](#)
- [動画の総記録時間と1分間あたりのファイルサイズの目安](#)
- [撮影時間の制限](#)

[ : **動画記録サイズ**] で、解像度、フレームレート、圧縮方式を設定することができます。  
 なお、フレームレートは、[ : **ビデオ方式**] の設定 () により、自動的に切り換わりません。



	画像サイズ	縦横比
	3840×2160	16 : 9
	3840×2160	16 : 9
	1920×1080	16 : 9

## フレームレート (fps : frames per second)

- **[[119.9P]] 119.9fps** () / **[[59.94P]] 59.94fps** / **[[29.97P]] 29.97fps**  
 テレビの映像方式が「NTSC」地域（北米、日本、韓国、メキシコなど）のときに設定します。
- **[[100.0P]] 100.00fps** () / **[[50.00P]] 50.00fps** / **[[25.00P]] 25.00fps**  
 テレビの映像方式が「PAL」地域（ヨーロッパ、ロシア、中国、オーストラリアなど）のときに設定します。

- **[23.98P] 23.98fps**

主に映画関連で使用します。[🎥：ビデオ方式]を[NTSC]に設定したときに選択できます。

## 圧縮方式

- **[IPB] IPB (標準)**

複数のフレーム単位で効率的に圧縮して記録します。

- **[IPB👉] IPB (軽量)**

IPB (標準)よりもビットレートを低く抑えて記録するため、IPB (標準)よりもファイルサイズが小さく、再生互換性が高くなります。(同じ容量のカードであれば) IPB (標準)よりも撮影できる時間が長くなります。

## 動画記録形式

- **[MP4] MP4**

このカメラで撮影した動画は、すべてMP4形式の動画ファイルとして記録されます (拡張子：「.MP4」)。

### ⚠ 注意

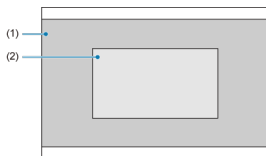
- [🎥：ビデオ方式]の設定を変更したときは、[📷：動画記録サイズ]の再設定を行ってください。
- 4K動画、[FHD 59.94P / 50.00P]で撮影した動画、ハイフレームレート動画などは、他の機器で正常に再生できないことがあります。
- 動画記録サイズの設定などにより、解像感やノイズ感は多少異なります。

### 📖 参考

- カードの性能を発揮させるため、動画撮影を行う前にカメラでカードを初期化することをおすすめします (🔗)。
- HD画質、VGA画質の動画を撮影することはできません。

## 撮影範囲

動画記録サイズの設定により、動画撮影範囲が変わります。






- (1) 4K (3840×2160) / FHD (1920×1080)  
(2) 4K Crop (3840×2160)

### ⚠ 注意

- 動画電子IS機能設定時は (📷)、画面の中央部分がさらにクロップされます。

## 4K動画撮影

---

- 4K動画を撮影するには安定した高速書き込みが可能なカードが必要です。詳しくは、[動画が記録できるカード](#)を参照してください。
- 4K動画撮影時は、処理負荷が高いため、通常の動画撮影時に比べカメラ内部の温度が早く上昇したり、より温度が高くなる場合があります。動画撮影時に白い【】または赤い【】が表示されたときは、カードが熱くなっていることがあるため、動画撮影を休止して、しばらく経ってからカードを取り出してください（すぐにカードを取り出さないでください）。
- 4K画質で撮影した動画から任意のフレームを選んで、JPEG画像（静止画）としてカードに保存することができます（）。

## 動画が記録できるカード

各動画記録サイズで記録できるカードの詳細は、[要求カード性能（動画撮影）](#) [書き込み/読み出し速度] を参照してください。

なお、事前にテスト撮影を行い、設定した動画記録サイズで正しく記録できることを確認してください。

### 注意

- 4K動画撮影を行うときは、撮影前に [🔧 : カード初期化] の [物理フォーマット] でカードを初期化してください (☑)。
- 動画撮影時に書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画が正常に記録できないことがあります。また、動画再生時に読み取り速度が遅いカードを使用すると、動画が正常に再生できないことがあります。
- 動画撮影を行うときは、実際の書き込み速度がビットレートを十分に上回る、高性能なカードを使用してください。
- 正常に動画が記録できないときは、カードを初期化してから使用してください。なお、カードを初期化しても問題が改善しないときは、カードメーカーのホームページなどもあわせて確認してください。

### 参考

- カードの性能を発揮させるため、動画撮影を行う前にカメラでカードを初期化することをおすすめします (☑)。
- カードの書き込み/読み取り速度については、カードメーカーのホームページなどで確認してください。

## ファイルサイズが4GBを超える動画撮影

### ● このカメラで初期化した「SDHCカード」使用時

SDHCカードをこのカメラで初期化すると、FAT32形式でフォーマットされます。FAT32形式でフォーマットされたカードを使用したときは、動画撮影を開始してファイルサイズが4GBを超えると、新しい動画ファイルが自動的に作成されます。なお、再生時は動画ファイルごとの再生になります。動画ファイルを自動で連続再生することはできません。再生が終わったら、続きのファイルを選んで再生してください。

### ● このカメラで初期化した「SDXCカード」使用時

SDXCカードをこのカメラで初期化すると、exFAT形式でフォーマットされます。exFAT形式でフォーマットされたカードを使用したときは、1回の撮影でファイルサイズが4GBを超える場合でも、(ファイルが分割されず)1つの動画ファイルに記録されます(4GBを超える動画ファイルが作成されます)。

### ❗ 注意

- 4GBを超える動画ファイルをパソコンに取り込むときは、カードリーダーを使用してください (📁)。パソコン (OS) の機能を使って画像の取り込みを行うと、4GBを超える動画ファイルが取り込めないことがあります。

## 動画の総記録時間と1分間あたりのファイルサイズの 目安

---

[記録時間、映像ビットレート、ファイルサイズの目安](#)を参照してください。

### ● ハイフレームレート以外の動画撮影時

1回に撮影できる時間は最長6時間です。6時間に達した時点で動画撮影が自動的に終了します。動画撮影ボタンを押すと、動画撮影を再開することができます（新規ファイルとして記録されます）。

### ● ハイフレームレート動画撮影時

1回に撮影できる時間は最長1時間30分です。1時間30分に達した時点で動画撮影が自動的に終了します。動画撮影ボタンを押すと、ハイフレームレート動画撮影を再開することができます（新規ファイルとして記録されます）。

#### ⚠ 注意

- 動画の再生を長時間行ったり、ライブビュー状態を長時間続けたりすると、カメラ内部の温度が上昇して、撮影可能な時間が短くなることがあります。

- [RAW画像](#)
- [記録画質を選ぶときの目安](#)
- [連続撮影可能枚数（バースト枚数）](#)

記録する画素数と画質を選ぶことができます。JPEG画像、HEIF画像の記録画質は、/ //です。RAW画像の記録画質は、**RAW/CRAW**のいずれかを設定することができます。

1. ：記録画質] を選ぶ (🔗)
2. 記録画質を設定する



- RAW画像は〈〉、JPEG/HEIF画像は〈〉〈〉でサイズを選びます。
- 〈〉を押すと設定されます。


## 参考

- HEIF画像は、：HDR撮影(PQ)] を [する] に設定しているときに設定することができます。撮影後に、JPEG画像に変換することができます (🔗)。
- RAW画像とJPEG/HEIF画像の設定を両方 [一] にしたときは、に設定されません。
- RAWとJPEG/HEIFの両方を選んだときは、1回の撮影で設定した記録画質の画像がカードに記録されます。2つの画像は同じ画像番号（拡張子はJPEG：.JPG、HEIF：.HIF、RAW：.CR3）で記録されます。
- **S2**は（ファイン）の画質です。
- 記録画質の読み方は、**RAW**（ロウ）、**CRAW**（コンパクトロウ）、JPEG（ジェイベグ）、HEIF（ヒーフ）、**L**（ラージ）、**M**（ミドル）、**S**（スモール）です。

カードに記録されるRAW画像は、撮像素子から出力されたデータをデジタル変換してそのまま記録した「生（ロウ）データ」で、**RAW**、**CRAW**から選ぶことができます。なお、**CRAW**は**RAW**に比べてファイルサイズが小さいRAW画像です。

RAW画像は、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalで現像処理を行うことができます。使用目的に応じてさまざまな画像調整を行い、その調整結果を反映したJPEG/HEIF画像などを生成することができます。

### 参考

- パソコンでRAW画像を表示するときは、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional（以下DPP）の使用をおすすめします。
- 古いバージョンのDPP Ver.4.xでは、このカメラで撮影したRAW画像の表示や現像、編集などはできません。パソコンに古いバージョンのDPP Ver.4.xがインストールされているときは、キヤノンのホームページから最新のDPPを入手して、アップデート（上書きインストール）してください（）。なお、Ver.3.x以前のDPPでは、このカメラで撮影したRAW画像の表示や現像、編集などはできません。
- 市販のソフトウェアでは、このカメラで撮影したRAW画像を表示できないことがあります。対応状況については、ソフトウェアメーカーにお問い合わせください。

## 記録画質を選ぶときの目安

---

ファイルサイズ、撮影可能枚数、連続撮影可能枚数などについては、[静止画・ファイルサイズ／撮影可能枚数／連続撮影可能枚数](#)を参照してください。

## 連続撮影可能枚数（バースト枚数）

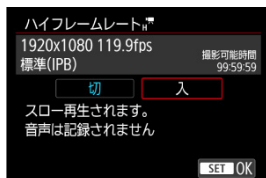


撮影画面の左上の数値で、連続撮影できる枚数の目安を確認することができます。

### 参考

- 連続撮影可能枚数が、「99」と表示されているときは、99枚以上の連続撮影ができます。98枚以下になると、数値が減っていき、内部メモリーがいっぱいになると、モニターに **[BUSY]** が表示され、一時的に撮影ができなくなります。撮影を中断すると数値が増えていきます。撮影した画像がすべてカードに書き込まれると、[静止画・ファイルサイズ／撮影可能枚数／連続撮影可能枚数](#)の表に示した枚数の連続撮影ができるようになります。
- **[📷：記録画質]** や **[📷：ドライブモード]** の設定を変更すると、連続撮影の時間を延長することができます。
  - **[📷：記録画質]** で、**[RAW]** または **[CRAW]** 以外を選択する
  - **[📷：ドライブモード]** で、**[📷]** または **[📷H]** 以外を選択する

ハイフレームレートを [入] に設定すると、119.88fps/100.00fpsの高フレームレートの動画を、29.97fps/25.00fpsの動画ファイルとして記録することができます。



- 音声は記録されません。
- 動画撮影時にタイムコードを表示しているときは、実時間1秒で4秒分カウントアップします。
- ハイフレームレート動画は、29.97fps/25.00fpsの動画ファイルとして記録されるため、再生時は1/4倍速のスローモーションで再生されます。

## ⓘ 注意

### [ハイフレームレート：入] 設定時の注意事項

- [📷：タイムコード] の [カウントアップ] を [フリーラン] に設定したときは (📷)、タイムコードは記録されません。
- 設定を [切] に戻したときは、[📷：動画記録サイズ] の設定を確認してください。
- 蛍光灯やLED照明などの光源下でハイフレームレート動画を撮影すると、画面にちらつきが発生することがあります。
- ハイフレームレート動画撮影を開始したときや終了したときは、映像が一時的に更新されなくなります（一瞬フレームストップ）。外部記録機器でHDMI出力映像を記録するときは注意してください。
- ハイフレームレート動画撮影時に画面に表示される映像のフレームレートは、撮影した動画のフレームレートと異なります。
- HDMI出力映像のフレームレートは、59.94fpsまたは50.00fpsになります。
- 動画の再生を長時間行ったり、映像表示状態を長時間続けたりすると、カメラ内部の温度が上昇して、撮影可能な時間が短くなることがあります。

記録サイズが [FHD 29.97P] / [FHD 23.98P] (NTSC)、または [FHD 25.00P] (PAL) のときに、デジタルズームで約1~10倍の望遠撮影ができます。

## 1. [📷: デジタルズーム] を選ぶ (🔍)

## 2. 項目を選ぶ



- [入] を選び、**(🔍)** を押します。
- **<MENU>** ボタンを押してメニューを終了します。

## 3. デジタルズームを使う



- 画面右下の [W/T] をタッチします。
- デジタルズームバーが表示されます。
- [▲] または **<▲>** を押すと望遠側、[▼] または **<▼>** を押すと広角側にズームします。
- シャッターボタンを半押しすると、[1点AF] (中央固定) でピント合わせが行われます。
- デジタルズームを解除するときは、手順2で [切] を選びます。

## ⚠ 注意

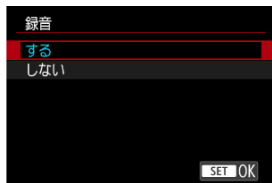
- 三脚の使用をおすすめします。
- ISO感度の上限は ISO12800 です。
- 拡大表示はできません。
- デジタルズームでは、ズームするほど映像が粗くなります。また、ノイズや輝点などが目立つことがあります。
- [ピントが合いにくい撮影条件](#)も参照してください。
- カメラ内部の温度が上昇して、撮影可能時間が短くなる場合があります。
- [📷: 温度上昇緩和] は [切] に固定されます (🔒)。

内蔵のステレオマイク、または外部マイクを使用して、動画撮影を行うことができます。また、録音レベルを任意に調整することもできます。

[📷: 録音] で録音に関する設定を行うことができます。

1. [📷: 録音] を選ぶ (🔗)

2. 項目を選ぶ



- 録音レベルの調整などは、[📷: オーディオ設定] で行います (🔗)。
- [📷] モードのときは [📷: オーディオ設定] を設定できません。この場合は、録音レベルが自動調整されます。

### ⚠ 注意

- 内蔵マイク/外部マイク使用時にWi-Fi(無線通信)機能を使用すると、ノイズが録音されることがあります。録音中は無線通信機能を使用しないことをおすすめします。
- カメラに外部マイクやヘッドフォンを接続するときは、プラグが根元までしっかりと差し込まれているか確認してください。
- 動画撮影中にカメラの操作を行うと、カメラに内蔵されたマイクにより、操作音が一緒に録音されることがあります。その場合、出力プラグを備えた外部マイクを、カメラから遠ざけて使用することで、これらの音を低減できることがあります。
- 外部マイク入力端子に、外部マイク以外は接続しないでください。
- ヘッドフォンで音声を聴きながら、[📷: 録音] の設定を切り換えしないでください。突然大きな音の流れて耳を痛める恐れがあります。

## 参考

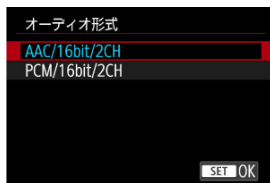
- 内蔵のステレオマイクで録音するときは、ウィンドスクリーンの使用をおすすめします。取り付け方法は[ウィンドスクリーンの取り付け方](#)を参照してください。
- HDMIケーブルでカメラとテレビを接続したときは、音声も出力されます（[録音：しない] 設定時を除く）。なお、テレビから音を出したときにハウリングが起こったときは、カメラをテレビから離したり、テレビの音量を下げてください。
- L/R（左／右）の音量バランスを調整することはできません。
- サンプリング周波数48kHz/16bitで記録されます。

動画撮影の録音で使用するオーディオ形式を選ぶことができます。

---

1. [📷: オーディオ形式] を選ぶ (🔗)


2. 項目を選ぶ



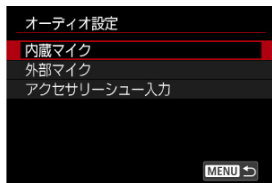
- [音声ノイズ低減](#)
- [録音モード](#)
- [録音レベル](#)
- [ウィンドカット](#)
- [アッテネーター](#)
- [マイクの指向性](#)

動画撮影で使用するマイクの設定を行います。外部マイクを使用する場合は、外部マイクの使用説明書もあわせて参照してください。

---

1. :オーディオ設定] を選ぶ (🔍)

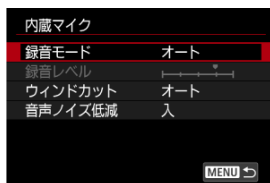
2. 使用する機器を選ぶ



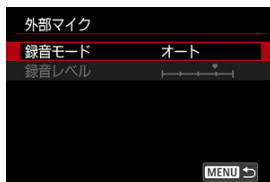
- **内蔵マイク**  
内蔵マイクの設定を行います。
- **外部マイク**  
外部マイク入力端子を使用する外部マイクの設定を行います。
- **アクセサリースュー入力**  
マルチアクセサリースュー対応外部マイクの設定を行います。

### 3. 項目を設定する

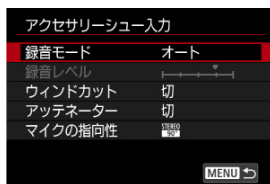
#### [内蔵マイク] 選択時



#### [外部マイク] 選択時



#### [アクセサリースュー入力] 選択時



- 設定項目は、使用するマイクによって異なります。

## 音声ノイズ低減

内蔵マイクでの録音時、定常的なホワイトノイズを低減する機能です。

- **切**

音声ノイズ低減が無効になります。

- **入**

音声ノイズ低減が有効になります。

### ⚠ 注意

- [入] 設定時は、[切] 設定時に比べ、音質が変わる場合があります。
- ホワイトノイズの低減によって、一部のノイズに気づきやすくなる場合があります。
- 音声ノイズ低減の効果や音質の変化は、撮影条件によって異なるため、試し撮りによる事前確認をおすすめします。
- ヘッドフォンから出力される音声のノイズを低減するには、[音声モニタリング] (🔊) を設定してください。

## 録音モード

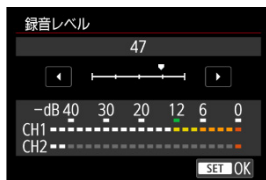


- **オート**  
録音レベルが自動調整されます。音の大きさに応じて、オートレベルコントロール機能が自動的に働きます。
- **マニュアル**  
録音レベルを任意に調整することができます。調整は「録音レベル」で行います。

### 参考

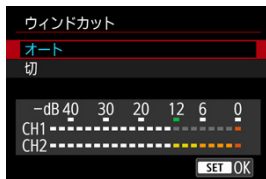
- 画面下部のレベルメーターに録音レベルが表示されます。

## 録音レベル



【録音モード】が【マニュアル】のときに設定することができます。  
レベルメーターを見ながら(⦿)を回すと、録音レベルを調整することができます。音量が大きいときに、レベルメーターの「12」(-12dB)の右側が、時々点灯するように、ピークホールド機能を参考にして調整します。「0」を超えると音が割れます。

## ウィンドカット



内蔵マイクまたはウィンドカットに対応したマルチアクセサリシュー対応の外部マイクを使用するときに設定できます。

【オート】に設定すると、屋外で撮影する際、風の影響により発生する「ボコボコ」という音を低減することができます。なお、ウィンドカット機能が働くと、低い音の一部も低減されます。

## アッテネーター

録音時の音割れを抑制する機能です。マルチアクセサリーシュー対応の外部マイクで設定することができます。詳しくはマルチアクセサリーシュー対応外部マイクの使用説明書を参照してください。

### 参考

- 内蔵マイクまたは外部マイク使用時は、アッテネーターが自動で機能します。マルチアクセサリーシュー対応の外部マイク使用時に、設定を変更することができます。


## マイクの指向性

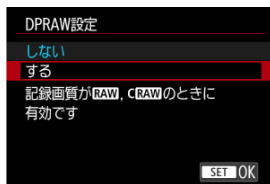
---

指向性切り換え機能を搭載したマルチアクセサリシュー対応の外部マイクで設定することができます。詳しくは指向性切り換え機能を搭載したマルチアクセサリシュー対応外部マイクの使用説明書を参照してください。

DPRAW機能を設定して**RAW**、**CRAW**画像を撮影すると、撮像素子からのデュアルピクセル情報が付加された「特別なRAW画像（DPRAW画像）」として記録されます。これをDPRAW撮影といいます。

EOS用ソフトウェアのDigital Photo ProfessionalでDPRAW画像の現像処理を行う際に、DPRAW画像に記録されたデュアルピクセル情報を利用して、「被写体の奥行き情報に基づく解像感の微調整」「カメラの撮影視点の微調整」「ゴーストの低減」を行うことができます。なお、**撮影条件により効果が異なりますので、DPRAW撮影を行う前に、Digital Photo Professional使用説明書を参照して、DPRAW機能の特徴と現像処理についてご確認ください。**

1. **[ : DPRAW設定]** を選ぶ (🔗)
2. **[する]** を選ぶ



3. **記録画質をRAWまたはCRAWに設定する**

- 記録画質を**RAW**、**RAW** + JPEG、**RAW** + HEIF、**CRAW**、**CRAW** + JPEG、**CRAW** + HEIFのいずれかに設定します。

4. **撮影する**

- デュアルピクセル情報が付加されたRAW画像（DPRAW画像）が記録されます。

## ⓘ 注意

- 電源を入れたときや、オートパワーオフ状態から復帰したときの起動時間が長くなります。
- DPRAW撮影時は、連続撮影速度が遅くなります (📷)。また、連続撮影可能枚数が少なくなります。
- ドライブモードの [📷] [📷H] は選択できません。[📷] [📷H] に設定されているときは、[📷] の設定で撮影されます。
- RAW画像、RAW + JPEG画像またはRAW + HEIF画像を撮影したときは、通常撮影時に比べてややノイズが増えることがあります。
- HDR撮影、フォーカスBKT撮影、電子シャッター、ワンタッチ記録画質切り換えはできません。

## 📖 参考

### DPRAW機能の調整量・補正効果について

- 絞り数値が開放側のときに、調整量・補正効果が上がります。
- 撮影シーンなどによっては、十分な調整量・補正効果が得られないことがあります。
- カメラの姿勢（縦／横）によって調整量・補正効果が変わります。
- 撮影条件によっては、十分な調整量・補正効果が得られないことがあります。

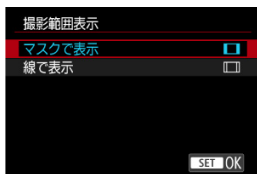
撮影画像のアスペクト（縦横）比を変更した撮影を行うことができます。[1.4倍（クロップ）] では、撮影画面中央部の範囲を使用して、望遠レンズのような効果で撮影することができます。

1. ：静止画クロップ/アスペクト] を選ぶ (🔗)

2. 項目を選ぶ




- [撮影範囲表示] をタッチすると、[1:1] [4:3] [16:19] 設定時の撮影範囲を表示する方法を選ぶことができます。



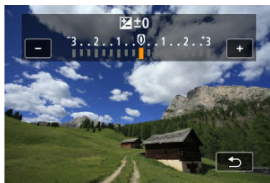
## 参考



- [1:1] [4:3] [16:19] 設定時のRAW 画像は、[3:2] のアスペクト比に、設定したアスペクト比のトリミング情報が付加された状態で記録されます。EOS 用ソフトウェアのDigital Photo Professional での現像で、設定したアスペクト比の画像を生成することができます。

カメラが決めた標準的な露出に対して、明るめ（プラス補正）または、暗め（マイナス補正）にして撮影することができます。  
〈P〉 〈Tv〉 〈Av〉 〈M〉 モードで露出補正を行うことができます。〈M〉モード+ISOオート設定時の露出補正については[M:マニュアル露出](#)を参照してください。



1.  ボタンを押す

2.   で設定する



- メニューの [ : 露出補正] または [ : 露出補正/AEB設定] の画面で設定することもできます。

#### 注意

- [ : オートライティング最適マイザ] () が、[しない] 以外に設定されているときは、暗めにする露出補正（マイナス補正）を行っても、明るく撮影されることがあります。

#### 参考

- 設定した補正量は、電源を切っても記憶されています。

[ISO感度の範囲](#)

[オートの上限](#)

[ISOオートの上限](#)

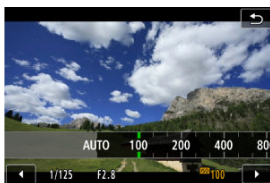
[M] モードのときに、ISO感度を任意に設定することができます。ISOオートを選ぶこともできます。


---

## 1. ISO感度の表示をタッチする



## 2. ISO感度を設定する



-  を回して設定します。
- [AUTO] を選ぶと、ISO感度が自動設定されます。
- ISO感度の設定が [AUTO] のときにシャッターボタンを半押しすると、実際に設定されるISO感度の数値が、撮影画面に表示されます。

## ISO感度を選ぶときの目安

- ISO感度の数値が小さい（感度が低い）ほど、ノイズが少ない画像が撮影できますが、撮影シーンによっては、手ブレや被写体ブレが起きやすくなったり、ピントの合う範囲が狭く（被写界深度が浅く）なることがあります。
- ISO感度の数値が大きい（感度が高い）ほど、暗い場所で撮影できるようになったり、ピントの合う範囲を広く（被写界深度を深く）した撮影できるようになりますが、ノイズが多くなります。

### ⚠ 注意

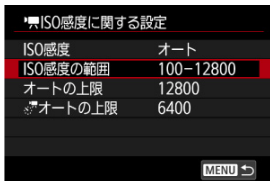
- 高ISO感度、高温、長秒時露光の条件などで撮影すると、画像のノイズ（ザラつき感、輝点、縞など）や色ムラ、色味の変化が目立つことがあります。
- 高ISO感度、高温、長秒時露光の組み合わせなど、ノイズが非常に多くなる条件で撮影したときは、正常な画像が記録できないことがあります。

## ISO感度の範囲

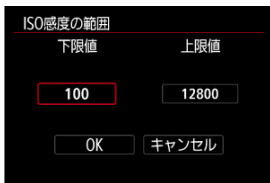
ISO感度の手動設定範囲（下限値／上限値）を設定することができます。

1. [📷: ISO感度に関する設定] を選ぶ (🔍)

2. [ISO感度の範囲] を選ぶ



3. 下限値または上限値を選ぶ



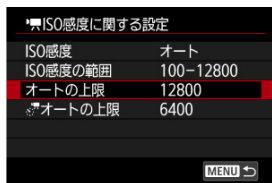
- 下限値または上限値を選び、(🔍) を押します。


## ISOオートの上限

[📷] [Tv] [Av] モード、または [M] モード+ISOオートの設定で動画撮影を行ったときに、自動設定されるISO感度の上限を設定することができます。

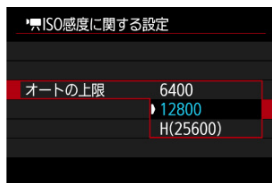
1. [📷: ISO感度に関する設定] を選ぶ (🔍)


## 2. [オートの上限] を選ぶ







- [オートの上限] を選び、 を押します。

## 3. ISO感度を選ぶ



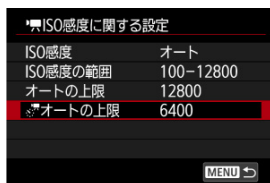
- ISO感度を選び、 を押します。

## オートの上限

[] [] [] モード、または [] モード+ISOオートの設定で4Kタイムラプス/フルHDタイムラプス動画撮影を行ったときに、自動設定されるISO感度の上限を設定することができます。初期状態では上限がISO6400に設定されています。ISO400～12800の範囲で上限を設定することができます。

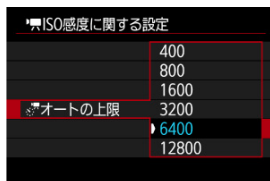
### 1. []: ISO感度に関する設定] を選ぶ ()

## 2. [オートの上限] を選ぶ



- [オートの上限] を選び、 $\langle \text{MENU} \rangle$  を押します。

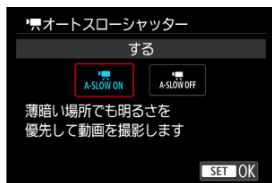
## 3. ISO感度を選ぶ



- ISO感度を選び、 $\langle \text{MENU} \rangle$  を押します。

暗い場所で動画撮影を行ったときに、シャッタースピードを自動的に遅くして、[しない] 設定時よりも明るくノイズを抑えた映像を記録するかどうかを選択することができます。この機能は、撮影モードが [A-SLOW] [A-SLOW] のときに設定できます (機能します)。**[手ブレ補正動画]** では [する] に、**[美肌動画]** では [しない] に固定されます。また、動画記録サイズのフレームレートが、**59.94P**、**50.00P** のときに機能します。

1. [カメラアイコン]: A-SLOW オートスローシャッター] を選ぶ (🔗)
2. 項目を選ぶ



- **しない**  
[する] 設定時よりも被写体のブレが少なく、自然でなめらかな動きが撮影できます。ただし、暗い場所では、[する] 設定時よりも映像が暗くなる場合があります。
- **する**  
暗い場所で動画撮影を行ったときに、シャッタースピードを自動的に 1/30秒 (NTSC)、または 1/25秒 (PAL) まで遅くして、[しない] 設定時よりも明るい映像を撮影することができます。

## 参考

- 暗い場所で動きのある被写体を撮影するときや、尾を引いたような残像が出るときは、[しない] に設定することをおすすめします。

NDフィルターオートのときは撮影シーンに応じて自動で光量を1/8に減少（3段分）させて、適正な明るさにします。【オート】（動画撮影時のみ）以外に【切】【入】を選ぶことができます。

1.  : NDフィルター】を選ぶ（、）


2. 項目を選ぶ



### 注意

- 【入】または【オート】を選んだときは、明るいシーンであってもISO感度が上がりやすくなるため、ノイズが発生することがあります。
- NDは、Neutral Density（ニュートラルデンシティ）の略です。

#### NDフィルターオート注意事項

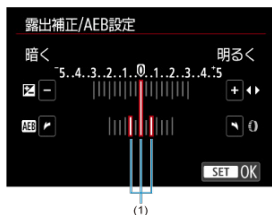
- 動画記録、ライブ配信を行うときは、【オート】に設定していても、開始時のNDフィルターの状態で固定されます。
- 動画撮影中に明るい場所から暗い場所に移動する場合は、あらかじめ【切】に設定しておくことをおすすめします。
- 本製品をWebカメラとして使用するときは、 : NDフィルター】の設定が【切】になります。

自動的にシャッタースピード、絞り数値、ISO感度を変えながら3枚の画像を撮影することができます。

\* AEBはAuto Exposure Bracketing（オートエクスポージャーブラケティング）の略です。

## 1. [📷: 露出補正/AEB設定] を選ぶ (🔗)

## 2. AEBレベルを設定する



- <0> を回してAEBレベル (1) を設定します。
- <◀> <▶> で露出補正量を設定することができます。
- <🔗> を押すと設定されます。
- 露出レベル表示にAEBレベルの指標が表示されます。








## 3. 撮影する

- 設定しているドライブモードに従って、標準露出→マイナス補正→プラス補正の順に撮影されます。
- AEB撮影は自動解除されません。解除するときは、手順2の操作でAEBレベルの表示を消します。

### ⚠ 注意

- [📷: オートライティング最適化] (🔗) が [しない] 以外に設定されていると、AEB撮影による露出補正の効果が小さくなる場合があります。

## 参考

- ドライブモードが  のときは、3回撮影してください。   のときは、シャッターボタンを全押ししたままにすると、3枚連続撮影して自動的に停止します。  のときは、10秒後または2秒後に3枚連続撮影されま  
す。なお、 に設定したときは、設定した枚数の3倍の枚数が連続撮影されま  
す。
- ストロボ使用時、マルチショットノイズ低減機能、HDRモード、フォーカスBKT撮  
影時、クリエイティブフィルター撮影時は、AEB撮影できません。
- 電源を切ると、AEBは解除されます。

## AEロックの効果

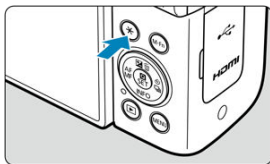
ピントと露出を別々に決めたいときや、同じ露出で何枚も撮影するときに使用します。  
〈\*〉ボタンを押して露出を固定したあと、構図を変えて撮影します。これを「AEロック撮影」といいます。逆光下の撮影などで有効です。

---

### 1. ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- 露出値が表示されます。

### 2. 〈\*〉ボタンを押す





- 画面左下に〔\*〕が表示され、露出が固定（AEロック）されます。



### 3. 構図を決めて撮影する



- AEロックを解除するときは、(★) ボタンを押します。

## AEロックの効果

測光モードの選択	AFフレーム選択	
	自動選択	任意選択
	ピントを合わせたAFフレームを中心に した露出値でAEロック	選択されているAFフレームを中心にし た露出値でAEロック
	画面中央を中心にした露出値でAEロック	

\* [[]] 設定時に、手動ピント合わせ（マニュアルフォーカス）() を行う設定にすると、画面中央を中心にした露出値でAEロックされます。

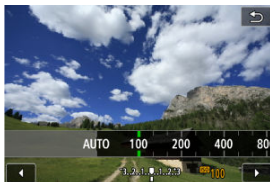
## [ISO感度 \[AUTO\] 時の上限値設定について](#)



ISO感度は、撮影場所の明るさに応じて設定します。かんたん撮影ゾーンのとときは、ISO感度が自動設定されます。

### 1. ISO感度の表示をタッチする



### 2. ISO感度を設定する





-  を回して設定します。
- [AUTO] を選ぶと、ISO感度が自動設定されます。
- ISO感度の設定が [AUTO] のときにシャッターボタンを半押しすると、実際に設定されるISO感度の数値が、撮影画面に表示されます。
-  ボタンを押すと、[AUTO] に設定することができます。

## ISO感度を選ぶときの目安

- ISO感度の数値が小さい（感度が低い）ほど、ノイズが少ない画像が撮影できますが、撮影シーンによっては、手ブレや被写体ブレが起きやすくなったり、ピントの合う範囲が狭く（被写界深度が浅く）なることがあります。
- ISO感度の数値が大きい（感度が高い）ほど、暗い場所で撮影できるようになったり、ピントの合う範囲を広く（被写界深度を深く）したり、ストロボ撮影時に遠くの被写体が撮影できるようになりますが、ノイズが多くなります。

## 参考

-  :  **ISO感度に関する設定** の **ISO感度** の画面で設定することもできます。

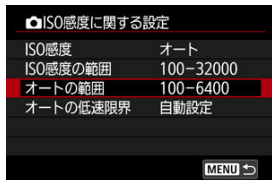
## 注意

- 高ISO感度、高温、長秒時露光の条件などで撮影すると、画像のノイズ（ザラつき感、輝点、縞など）や色ムラ、色味の変化が目立つことがあります。
- 高ISO感度、高温、長秒時露光の組み合わせなど、ノイズが非常に多くなる条件で撮影したときは、正常な画像が記録できないことがあります。
- 高ISO感度で近距離の被写体をストロボ撮影すると、露出オーバーになることがあります。

## ISO感度 [AUTO] 時の上限値設定について

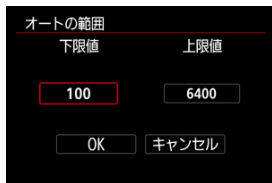
ISO感度 [AUTO] 時に自動設定される感度の上限値を設定することができます。

1. [📷: 📷ISO感度に関する設定] を選ぶ (🔍)
2. [オートの範囲] を選ぶ



- <🔍> を押します。

3. 範囲を選ぶ



- 上限値と下限値を設定します。
- [OK] を選び、<🔍> を押します。


- [EOS用EL/EXスピードライト](#)
- [EL/EX以外のキャノン製スピードライト](#)
- [汎用ストロボ](#)
- [クイックストロボグループ制御](#)

## EOS用EL/EXスピードライト


このカメラは、EL/EXシリーズスピードライト（別売）の機能を使用したストロボ撮影を行うことができます。

操作方法については、EL/EXスピードライトの使用説明書を参照してください。





### ● ストロボ調光補正

ストロボの発光量を調整する（調光補正を行う）ことができます。画面に映像が表示された状態で、〈M-Fn〉ボタンを何度か押してストロボ調光補正の項目を選ぶと、〈〉を回して調光補正量を設定することができます。



### ● FEロック

被写体の任意の部分に適正調光させるストロボ撮影方法です。被写体をモニターの中央に置いて、カメラの〈〉ボタンを押してから、構図を決めて撮影します。

#### ❗ 注意

- ストロボによっては、本カメラに直接取り付けできません。詳しくは[マルチアクセサリシュー](#)を参照してください。
- [ : オートライティングオフティマイザ] () が、[しない] 以外に設定されているときは、暗めにする調光補正（マイナス補正）を行っても、明るく撮影されることがあります。
- ストロボを使用して撮影を行うときは、[ : シャッター方式] を [メカシャッター] に設定してください ()。

## 参考

- 暗い場所でAFでピントが合わせにくいときは、必要に応じてEOS用外部ストロボからストロボ間欠発光方式のAF補助光が投光されます。
-  **外部ストロボ制御** の **ストロボ機能設定** () で調光補正を行うこともできます。
- このカメラは、カメラの電源と、ストロボの電源を連動させる機能に対応していません。詳しくは、この機能に対応したストロボの使用説明書を参照してください。

## EL/EX以外のキヤノン製スピードライト

---

- EZ/E/EG/ML/TLスピードライトをA-TTLまたはTTL自動調光モードに設定して撮影すると、常時フル発光します。  
カメラの撮影モードを〈Av〉〈M〉モードに設定して、絞り数値を変えて撮影してください。
- マニュアル発光機能を搭載したスピードライト使用時は、マニュアル発光モードで撮影してください。

### ● 同調シャッタースピード



小型の汎用ストロボは1/250秒以下で同調します。

スタジオ用の大型ストロボは、小型の汎用ストロボに比べ閃光時間が長く、機種により閃光時間が異なります。1/60～1/30秒程度を目安に、あらかじめストロボが正しく同調するかどうか、確認してから撮影してください。

#### ⚠ 注意

- 他社製の特定カメラ専用のストロボ、およびストロボ用付属品を使用すると、カメラが正常な機能を発揮しないばかりでなく、故障の原因になります。
- 高圧ストロボをマルチアクセサリースューに取り付けて使用しないでください。発光しないことがあります。

## クイックストロボグループ制御

[ : ボタン カスタマイズ] で [クイックストロボグループ制御] を割り当てたボタンを押すことで、ワイヤレス多灯撮影時に撮影画面を見ながら発光グループごとの設定をすることができます。ここでは〈M-Fn〉ボタンに割り当てた場合を例に説明します ( )。

### 1. ストロボの発光モードを〈Gr〉(個別グループ制御)に設定し、ワイヤレス多灯撮影の状態にする

- 詳しくは、ワイヤレス多灯撮影に対応したストロボの使用説明書を参照してください。

### 2. 撮影待機中に〈M-Fn〉ボタンを押す


- 発光グループごとの設定画面が表示されます。
- 〈▲〉〈▼〉を押して設定する発光グループ (A、B、C、D、E) を選びます。
- 〈✳〉ボタンを押して発光モードを設定します。
- 〈◀〉〈▶〉を押して発光量または調光補正量を設定します。

#### 参考

- 〈P〉 〈Tv〉 〈Av〉 〈M〉モードのときに [クイックストロボグループ制御] の設定画面を表示することができます。
- ストロボが〈Gr〉(個別グループ制御)以外の発光モードに設定されているとき、〈M-Fn〉ボタンを押すと [ストロボ機能設定] の画面が表示されます。

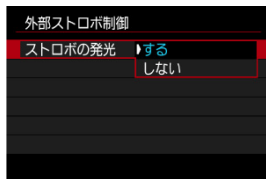
- [ストロボの発光](#)
- [E-TTLテスト](#)
- [E-TTL II調光方式](#)
- [連写時の調光制御](#)
- [スローシンクロ](#)
- [セーフティFE](#)
- [ストロボ機能設定](#)
- [ストロボカスタム機能設定](#)
- [ストロボ機能設定初期化/ストロボカスタム機能一括解除](#)

ストロボ機能設定に対応したEL/EXスピードライトを使用すると、カメラのメニュー画面からストロボの機能を設定することができます。設定を行う前にストロボをカメラに取り付け、ストロボの電源を入れておきます。  
なお、ストロボの機能については、スピードライトの使用説明書を参照してください。

1.  **外部ストロボ制御** を選ぶ (☑)
2. 項目を選ぶ

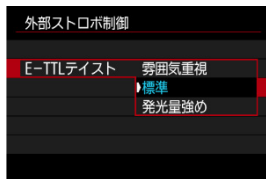
外部ストロボ制御	
ストロボの発光	する
E-TTLテスト	標準
E-TTL II調光方式	評価調光(顔優先)
連写時の調光制御	1コマごとに調光
スローシンクロ	1/250-1/60秒
セーフティFE	する
設定初期化	MENU →

## ストロボの発光



ストロボ撮影を行うときは、**[する]** に設定します。ストロボのAF補助光だけを利用したいときは、**[しない]** に設定します。

## E-TTLテスト



好みに応じてストロボ写真の仕上がり（テスト）を設定することができます。設定によって、環境光とストロボ光の光量比を変更することができます。

- **〔閃光重視〕** は、ストロボ光の比率を下げ、環境光を活かした、より自然な雰囲気重視したライティングを想定したテストです。特に、室内などの暗いシーンでの撮影に効果的です。〈P〉 〈Av〉モードに設定の上、[📷: 外部ストロボ制御] の [スローシンクロ] を [1/250-30秒自動] に設定し、スローシンクロ撮影することをおすすめします。
- **〔発光量強め〕** は、ストロボ光主体のテストです。環境光による被写体や背景の影などを軽減したいときに有効です。

### ⚠ 注意

- **〔閃光重視〕** 設定時、シーンによっては [標準] 設定時との撮影結果に効果の差が得られないことがあります。

## E-TTL II調光方式



- [評価調光(顔優先)] に設定すると、人物の撮影に適した調光を行います。
- [評価調光] に設定すると、連続撮影時の発光を優先した調光を行います。
- [平均調光] に設定すると、測光領域全体を平均的に測光します。

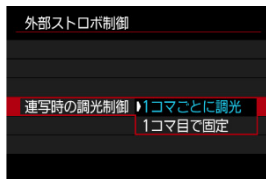
### 参考

- 状況に応じてストロボ調光補正が必要です。

### 注意

- [評価調光(顔優先)] に設定しても、撮影条件や被写体によっては効果が得られないことがあります。

## 連写時の調光制御



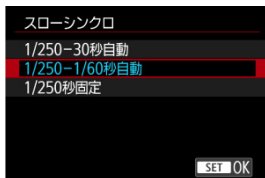
- [1コマごとに調光] に設定すると、撮影するごとに調光を行います。
- [1コマ目で固定] に設定すると、連続撮影する前に1度だけ調光を行います。1枚目の発光量で2枚目以降も撮影されます。構図を変えずに、連続撮影速度を優先して撮影したいときに有効です。

### ⚠ 注意

- 連続撮影中に被写体が動くと、露出が合わない場合があります。

## スローシンクロ

〈P〉 〈Av〉モードでストロボ撮影を行うときのストロボ同調速度を設定することができます。なお、ストロボ同調速度の上限値は、1/250秒になります。



### ● 1/250-30秒自動

明るさに応じてシャッタースピードが1/250～30秒の範囲で自動設定されます。ハイスピードシンクロを行うこともできます。

### ● 1/250-1/60秒自動

明るさに応じてシャッタースピードが1/250～1/60秒の範囲で自動設定されるため、暗い場所でシャッタースピードが自動的に遅くならないようになります。被写体ブレや手ブレを防止したいときに有効です。ただし、被写体はストロボ光により標準露出になりますが、被写体の背景が暗くなることがあります。

### ● 1/250秒固定

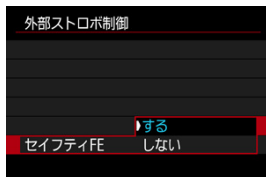
シャッタースピードが1/250秒に固定されるため、[1/250-1/60秒自動]よりも被写体ブレや手ブレを抑えることができます。ただし、暗い場所では[1/250-1/60秒自動]よりも被写体の背景が暗くなります。

### ⚠ 注意

- [1/250秒固定] 設定時は、〈P〉 〈Av〉モードでハイスピードシンクロを行うことはできません。

## セーフティFE

ストロボ発光時に、適正露出が得られないときは、自動的にシャッタースピード、絞り数値、ISO感度が変わって、適正露出で撮影できます。



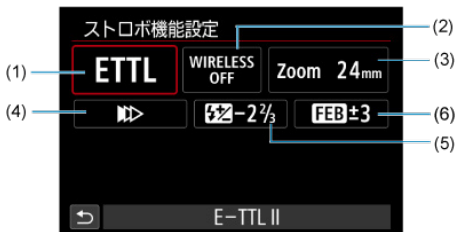
### ⚠ 注意

- シャッターボタンを半押ししたときに表示される数値と異なる設定で撮影されることがあります。

## ストロボ機能設定

画面に表示される内容や設定できる項目、項目の表示位置は、ストロボの機種や設定されている発光モード、ストロボカスタム機能の設定状態などにより異なります。使用するストロボの機能については、スピードライトの使用説明書を参照してください。

### 表示例



- (1) 発光モード
- (2) ワイヤレス機能/  
光量比制御 (RATIO) 機能
- (3) ズーム (照射角)
- (4) シンクロ設定
- (5) 調光補正
- (6) FEB

### 注意

- ストロボ機能設定に対応していないEXスピードライト使用時は、設定できる機能が制限されます。

## 発光モード

撮影目的に応じて発光モードを選択します。



- **[E-TTL II]** は、ストロボの自動露出撮影ができる、EL/EXスピードライトの標準的なモードです。
- **[マニュアル発光]** は、ストロボの **[発光量]** を自分で決めて撮影するモードです。
- その他の発光モードについては、各発光モードに対応したストロボの使用説明書を参照してください。

## ワイヤレス機能



電波通信、または光通信によるワイヤレス多灯ライティング撮影を行うことができます。詳しくは、ワイヤレスストロボ撮影に対応したストロボの使用説明書を参照してください。

## 光量比制御機能 (RATIO)



マクロストロボ使用時に、発光部の光量比を設定することができます。  
詳しくは、光量比制御に対応したマクロストロボの使用説明書を参照してください。

## ズーム (照射角)



ズーム機能を内蔵したストロボ使用時に、発光照射角を設定することができます。

## シンクロ設定



通常は、撮影開始直後にストロボが発光する **先幕シンクロ** に設定します。  
**後幕シンクロ** に設定すると、低速シャッター時に車のライトなどの軌跡を自然な感じで撮影できます。  
**ハイスピード** に設定すると、ストロボ同調最高シャッタースピードよりも速いシャッタースピードで撮影することができます。日中の屋外などで、**Av** モードで絞りを開き、被写体の背景をぼかして撮影したいときに有効です。

### 注意

- 後幕シンクロで撮影するときは、シャッタースピードを1/30秒以下の遅い速度に設定してください。1/40秒以上の速い速度のときは、**後幕シンクロ** に設定していても、自動的に先幕シンクロ撮影になります。

## 調光補正

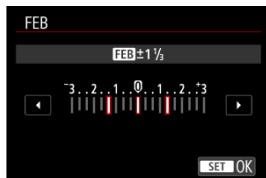


露出補正と同じ感覚で、ストロボの発光量を調整することができます。

### 参考

- ストロボ側で調光補正を設定したときは、カメラ側から調光補正を行うことはできません。なお、同時に設定されているときは、ストロボ側の設定が優先されます。

## FEB

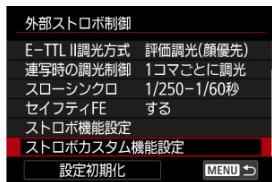


FEB（Flash Exposure Bracketing）機能を搭載した外部ストロボを使用すると、外部ストロボの発光量を自動的に変えながら3枚の撮影を行うことができます。

## ストロボカスタム機能設定

ストロボのカスタム機能については、ストロボの使用説明書を参照してください。

### 1. [ストロボカスタム機能設定] を選ぶ



### 2. 機能を設定する



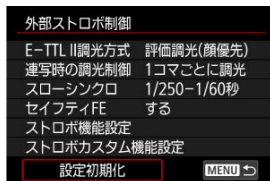
- 番号を選びます。
- 項目を選びます。

#### 注意

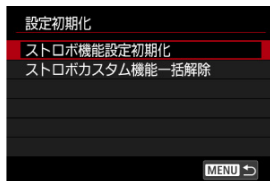
- EL/EXスピードライト使用時に、ストロボカスタム機能の[調光方式]を[1:TTL] (自動調光)に設定したときは、常時フル発光します。
- [外部ストロボ制御]の画面から、外部ストロボのパーソナル機能(P.Fn)の設定・解除はできません。外部ストロボを直接操作して設定してください。

## ストロボ機能設定初期化／ストロボカスタム機能一括解除



### 1. [設定初期化] を選ぶ



### 2. 初期化する内容を選ぶ






- [ストロボ機能設定初期化] [ストロボカスタム機能一括解除] のいずれかを選びます。
- 確認画面で [OK] を選ぶと、ストロボの設定が初期化、またはストロボカスタム機能がすべて解除されます。

被写体の明るさの測り方（測光モード）を選ぶことができます。通常は、評価測光をおすすめします。かんたん撮影ゾーンでは、評価測光に自動設定されます（ : ）モード時は、中央部重点平均測光）。

## 1. [ : 測光モード ] を選ぶ ( )

## 2. 項目を選ぶ



-  : **評価測光**  
逆光撮影を含む一般的な撮影に適しています。撮影シーンに応じてカメラが露出を自動補正します。
-  : **スポット測光**  
被写体の特定の部分を測光するときには有効です。画面にスポット測光範囲が表示されません。
-  : **中央部重点平均測光**  
画面中央部に重点を置いて、画面全体を平均的に測光します。

### 参考

- シャッターボタン半押しでピントが合うと、半押ししている間、露出値が固定（AEロック）されます（[ワンショットAF] 時）。

- [ピクチャースタイルの選択](#)
- [ピクチャースタイルの調整](#)
- [ピクチャースタイルの登録](#)

ピクチャースタイルは、用意された項目を選ぶと効果的な画像特性が得られる機能です。

---

## ピクチャースタイルの選択

1. [📷: ピクチャースタイル] を選ぶ (🔍)

2. スタイルを選ぶ



## 各スタイルの画像特性

- **オート**

撮影シーンに応じて、色あいが自動調整されます。特に自然や屋外シーン、夕景シーンでは、青空、緑、夕景が色鮮やかな写真になります。

### 参考

- [オート] で好みの色あいにならなかったときは、他のスタイルに変更して撮影してください。

- **スタンダード**

鮮やかで、くっきりした写真になります。通常はこの設定でほとんどのシーンに対応できます。

- **ポートレート**

肌色がきれいで、ややくっきりした写真になります。人物をアップで写すときに効果的です。

[設定内容と効果](#)の「色あい」を変えると、肌色を調整することができます。

- **風景**

青空や緑の色が鮮やかで、とてもくっきりした写真になります。印象的な風景を写すときに効果的です。

- **ディテール重視**

被写体の細部の輪郭や繊細な質感の描写に適しています。やや鮮やかな写真になります。

- **ニュートラル**

パソコンでの画像処理に適した設定です。自然な色あいで、メリハリの少ない控えめな写真になります。

- **忠実設定**

パソコンでの画像処理に適した設定です。5200K（色温度）程度の太陽光下で撮影した写真が、測色的に被写体の色とほぼ同じになるように色調整されます。メリハリの少ない控えめな写真になります。

- **モノクロ**

白黒写真になります。

### 注意

- [モノクロ] の設定で撮影したJPEG/HEIF画像を、カラー写真に戻すことはできません。

● **[設定] ユーザー設定1~3**

[ポートレート] や [風景]、ピクチャースタイルファイルなどの基本スタイルを登録し、好みにあわせて調整することができます (設定)。登録されていないときは、[オート] の初期設定と同じ特性で撮影されます。

## 記号の意味

スタイル選択画面の記号は、[シャープネス] の [強さ] [細かさ] [しきい値] や、[コントラスト] などを表しています。数値は、各スタイルに設定されている各項目の設定値を示しています。

ピクチャースタイル	設定値	ピクチャースタイル	設定値
[設定] オート	4, 2, 3, 0, 0, 0	[設定] テイテール重視	4, 1, 1, 0, 0, 0
[設定] スタANDARD	4, 2, 3, 0, 0, 0	[設定] ニュートラル	0, 2, 2, 0, 0, 0
[設定] ポートレート	3, 2, 4, 0, 0, 0	[設定] 忠実設定	0, 2, 2, 0, 0, 0
[設定] 風景	5, 2, 3, 0, 0, 0	[設定] モノクロ	4, 2, 3, 0, N, N
[設定] テイテール重視	4, 1, 1, 0, 0, 0	[設定] ユーザー設定1	オート
[設定] ニュートラル	0, 2, 2, 0, 0, 0	[設定] ユーザー設定2	オート

①	シャープネス		
			強さ
			細かさ
			しきい値
②	コントラスト		
③	色の濃さ		
④	色あい		
⑤	フィルター効果 (モノクロ)		
⑥	調色 (モノクロ)		

### 注意

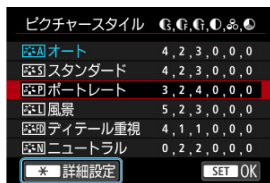
- 動画撮影時、[シャープネス] の [細かさ] [しきい値] は、「\*」と表示されません。また、動画撮影時は [細かさ] [しきい値] は設定できません。

## ピクチャースタイルの調整

各ピクチャースタイルを初期設定から変更（調整）することができます。[モノクロ]の調整については、[ピクチャースタイル モノクロの調整](#)を参照してください。

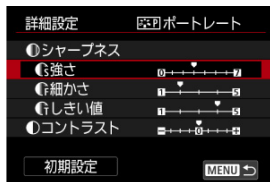
### 1. [ピクチャースタイル] を選ぶ (P)

### 2. スタイルを選ぶ



- 調整するスタイルを選び、〈\*〉ボタンを押します。

### 3. 項目を選ぶ



- 項目を選び、〈P〉を押します。
- 設定内容と効果については、[設定内容と効果](#)を参照してください。

## 4. 効果の度合いを設定する



- 効果の度合いを設定し、**[MENU]**を押します。



- **[MENU]** ボタンを押すと、調整した内容が保存され、スタイル選択画面に戻ります。
- 初期設定から変更した数値が青色で表示されます。

### 参考

- 動画撮影時は **[シャープネス]** の **[細かさ]** **[しきい値]** の設定はできません（項目が表示されません）。
- 手順3で **[初期設定]** を選ぶと、スタイルごとに設定した内容を初期状態に戻すことができます。
- 調整したスタイルで撮影するときは、調整したスタイルを選択してから撮影します。

## 設定内容と効果

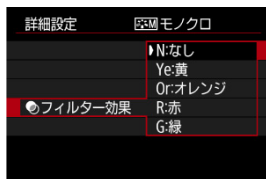
●	シャープネス		
	●	強さ	0：輪郭強調・控えめ      7：輪郭強調・強め
	●	細かさ*1	1：細かい      5：粗い
	●	しきい値*2	1：小さい      5：大きい
●	コントラスト		-4：明暗差・弱      +4：明暗差・強
●	色の濃さ		-4：薄い      +4：濃い
●	色あい		-4：肌色が赤め      +4：肌色が黄色め

\* 1：強調する輪郭線の細かさを示しています。値が小さいほど、より細部が強調されやすくなります。

\* 2：「周囲に比べ、どの程度のコントラスト差があれば輪郭線を強調するか」の設定です。値が小さいほど、コントラスト差が少ない輪郭線が強調されやすくなります。なお、値を小さくするとノイズも強調されやすくなります。

## 📷 モノクロの調整

### ● フィルター効果



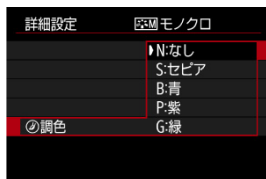
フィルター効果を使うと、同じモノクロ画像でも、白い雲や木々の緑を強調した画像にすることができます。

フィルター	効果例
N:なし	フィルター効果なしの通常の白黒画像になります。
Ye:黄	青空がより自然に再現され、白い雲がはっきりと浮かび上がります。
Or:オレンジ	青空が少し暗くなります。夕日の輝きがいっそう増します。
R:赤	青空がかなり暗くなります。紅葉の葉がはっきりと明るくなります。
G:緑	人物の肌色や唇が落ち着いた感じになります。木々の緑の葉がはっきりと明るくなります。

### 📖 参考

- [コントラスト] をプラス側に設定して撮影すると、フィルター効果がより強調されます。

## 🔍 調色



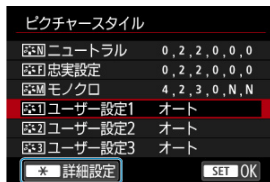
調色を設定して撮影すると、色のついたモノクロ画像にすることができます。より印象的な画像を撮影したいときに有効です。

## ピクチャースタイルの登録

[ポートレート] や [風景] などの基本スタイルを選択し、好みにあわせて調整して、[ユーザー設定1] から [ユーザー設定3] に登録することができます。設定が異なる複数のスタイルを用意しておきたいときに使用します。

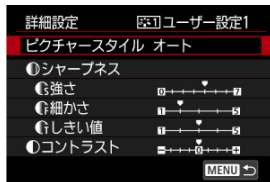
1. [📷:ピクチャースタイル] を選ぶ (🔍)

2. [ユーザー設定] を選ぶ



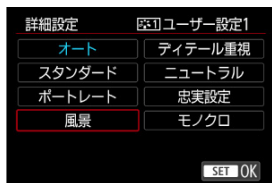
- [ユーザー設定\*] を選び、〈\*〉ボタンを押します。


3. 〈🔍〉を押す



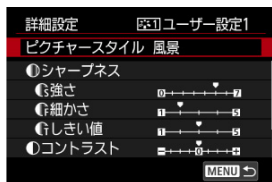
- [ピクチャースタイル] が選ばれた状態で 〈🔍〉を押します。


#### 4. 基本にするスタイルを選ぶ



- 基本にするスタイルを選び、〈〉を押します。

#### 5. 項目を選ぶ



- 項目を選び、〈〉を押します。

## 6. 効果の度合いを設定する



- 効果の度合いを設定し、**MENU** を押します。
- 詳しくは、[ピクチャースタイルの調整](#)を参照してください。

ピクチャースタイル	
<b>0</b> ニュートラル	0, 2, 2, 0, 0, 0
<b>1</b> 忠実設定	0, 2, 2, 0, 0, 0
<b>2</b> モノクロ	4, 2, 3, 0, N, N
<b>3</b> ユーザー設定1	風景
<b>4</b> ユーザー設定2	オート
<b>5</b> ユーザー設定3	オート

\* 詳細設定      SET OK

- **MENU** ボタンを押すと内容が登録され、スタイル選択画面に戻ります。
- **[ユーザー設定\*]** の右に、基本にしたスタイルが表示されます。
- **[ユーザー設定\*]** に登録したスタイルの設定内容が、初期設定から変更されているときは、スタイル名が青色で表示されます。

### 注意

- **[ユーザー設定\*]** にスタイルがすでに登録されているときは、基本にするスタイルを変更すると、登録されているスタイルの設定内容が無効になります。
- **[カメラの初期化]** で **[基本設定]** を選ぶと、**[ユーザー設定\*]** に設定したスタイルと内容が初期化されます。

### 参考

- 登録したスタイルで撮影するときは、登録した **[ユーザー設定\*]** を選択してから撮影します。

[撮影機能の設定](#)

[Canon Logの画質](#)

Canon Logは、撮像素子の特性を最大限に引き出し、動画記録時に広いダイナミックレンジを確保することを目的とした、ポストプロダクション処理を前提にしたガンマ特性です。黒つぶれや白飛びが少なく、シャドウからハイライトまでの情報を映像に取り入れることができます。

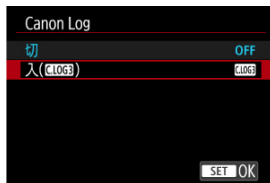
なお、Canon Logで記録した映像は、ルックアップテーブル（LUT）を適用してポストプロダクション処理を行うことができます。LUTデータは、キヤノンのホームページからダウンロードしてください。

1. **[ : Canon Log設定]** を選ぶ (🔍)

2. **[Canon Log]** を選ぶ



3. **[入(CLOG)]** を選ぶ (🔍)

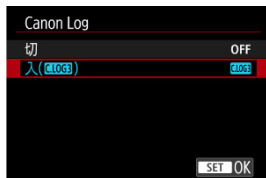


## 4. 各項目の内容を設定する



- ビューアシスト (☑)
- 映像特性 (☑)
- 色空間 (☑)

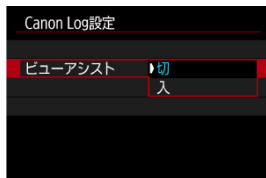
## Canon Log



- **入 (C.LOG3)**

Canon Logで撮影した動画を10bitでカードに記録することができます。また、10bit記録に対応した外部記録機器にも記録することができます。

## ビューアシスト



Canon Logは、広いダイナミックレンジを確保することを目的とした映像特性のため、モニターに表示される映像は、ピクチャースタイル設定時に比べ、低コントラストでやや暗い映像になります。【ビューアシスト】を【入】に設定すると、モニターに表示される映像が見やすい特性で（ビューアシスト）表示され、ディテールなどを確認しやすくなります。

- 【入】に設定しても、カードに記録される映像には影響しません（Canon Logの特性でカードに記録されます）。また、HDMI出力映像は、Canon Logの特性で出力されます（ビューアシストは行われません）。

### 参考

- ビューアシスト表示のときは、情報表示画面に **[VAssist]** が表示されます。
- 【入】設定時は、拡大表示を行ったときも、ビューアシスト表示が行われます。

## 映像特性



必要に応じて調整します。項目（[シャープネス：強さ] [彩度] [色相]）を選び、効果の度合いを設定し、**(M)**を押します。

シャープネス：強さ		0：輪郭強調・控えめ	7：輪郭強調・強め
彩度		-4：低い	+4：高い
色相*	赤色	-4：マゼンタ寄り	+4：黄色寄り
	緑色	-4：黄色寄り	+4：シアン寄り
	青色	-4：シアン寄り	+4：マゼンタ寄り

\* 赤色、緑色、青色を個別に調整することはできません。

## 色空間



カード記録時の色空間を、[BT.709] [BT.2020] [Cinema Gamut] から選ぶことができます。

- HDMI出力の色空間はHDMI接続機器に応じて以下のように変換されて出力されます。

カメラ色空間設定	HDMI接続機器の対応色空間	
	BT.2020対応	BT.2020非対応
BT.709	BT.709	BT.709
BT.2020	BT.2020	BT.709
Cinema Gamut	BT.2020	BT.709

## 撮影機能の設定

---

- ISO感度をISO100～640に手動設定したときは、ダイナミックレンジが狭くなります。
- Canon Log設定時のダイナミックレンジは、ISO800以上で約1600%です。
- ISO100/125/160/200/250/320/400/500/640は、拡張感度です。ISO感度設定時に [L] と表示されます。

## Canon Logの画質

- Canon Log設定時は、被写体条件や撮影条件により、映像に横縞状のノイズが発生することがあります。そのため、事前にテスト撮影を行い、映像を確認してから撮影することをおすすめします。なお、撮影した映像をグレーディング処理する際、特にコントラストを強くすると、ノイズが顕著になることがありますので、ご注意ください。
- Canon Log設定時は、空や白壁などのグラデーションが滑らかに再現されなかったり、露出ムラや色ムラ、ノイズが発生することがあります。
- Canon Log設定時に、高温・高ISOの条件で撮影を続けると、色味が変わることがあります。
- 横縞状のノイズは、「やや暗く平坦な被写体」を撮影したときに発生しやすくなります。なお、このノイズは、ISO800程度の比較的低い感度でも発生することがあります。
- ノイズが目立つときは、やや明るめに撮影を行い、グレーディング処理の際に明るさ調整を行うことをおすすめします。また、ISO800未満で撮影すると、ダイナミックレンジが狭くなりますが、ノイズを軽減できることがあります。

### 注意

#### Canon Log撮影時全般の注意事項

- 「Canon Log」「Canon Log 2」には対応していません。
- Canon Log撮影時は、通常の動画撮影時に比べ、低輝度下の被写体や、明暗差（コントラスト）の少ない被写体に対して、AFでピントが合いにくいことがあります。AFが合わない場合は、絞りを開放側に設定することでピントが合わせやすくなります。
- [📷 : Canon Log設定] の [Canon Log] を [入(C:LOG3)] に設定したときのヒストグラムはビューアシスト表示によって変化するものではありません。ヒストグラムでグレー表示されている領域は、使用されない信号値の目安になります。

### 参考

#### Canon Logで撮影した動画の再生について

- 動画再生時にビューアシスト表示は行われません。

画像エッジ部のコントラスト（明瞭度）を調整することができます。  
マイナス側に設定するとソフトな印象になり、プラス側に設定するとくっきりした印象の画像になります。

1. [📷: 明瞭度] を選ぶ (🔍、🔍)

2. 効果の度合いを設定する



## ⚠ 注意

- 明瞭度を設定すると、明暗差が大きい場合に境界部の周辺が暗くなったり、または明るくなったりすることがあります。
- 設定内容は、静止画撮影時のモニター映像には反映されません。

画面で確認しながら、色調を変えることができます。

1. [📷: カラーフィルター] を選ぶ (🔗)
2. カラーフィルターを選ぶ



フィルター名	フィルターの効果	推奨シーン
StoryTeal&Orange	マットなトーンを基調として、暗部は青緑色、明部は橙色の効果かける	日中でコントラストの強いシーン、ライティングされた部屋など明暗差のあるシーン
StoryMagenta	マットなトーンを基調として、全体的に赤紫色の効果かける	
StoryBlue	マットなトーンを基調として、全体的に青色の効果かける	
PaleTeal&Orange	暗部は青緑色、明部は橙色の効果かける	明暗差があり、橙色や黄色系統の色を含むシーン
RetroGreen	彩度を低くし、全体的に緑色の効果かける	古い建物、街並み
Sepiatone	彩度を低くし、全体的にセピア調の効果かける	
AccentRed	赤系統以外の彩度を低くする	赤系統の色を含むシーン
TastyWarm	彩度を高く、中間調を明るくして、全体的に暖色の効果かける	暖色系の飲食物を含むシーン
TastyCool	彩度を高く、中間調を明るくして、全体的に寒色の効果かける	寒色系の飲食物を含むシーン
BrightAmber	コントラストを低く、暗い雰囲気を保ちながら暗部を明るくして、暖色の効果かける	暖色の光源で照らされた薄暗いシーン
BrightWhite	コントラストを低く、暗い雰囲気を保ちながら暗部を明るくして、寒色の効果かける	
ClearLightBlue	コントラストを低く、暗部を明るくして、全体的に薄い青色の効果かける	明るい夜の街並みや室内
ClearPurple	コントラストを低く、暗部を明るくして、全体的に薄い紫色の効果かける	
ClearAmber	コントラストを低く、暗部を明るくして、全体的に薄い橙色の効果かける	

⚠ 注意

- カラーフィルターによっては、グラデーションが滑らかに再現できなかったり、ノイズが発生することがあります。
- カメラの設定や被写体によっては、意図した色味にならないことがあります。

HDR撮影(PQ)では、ITU-R BT.2100およびSMPTE ST.2084で定義されたPQ規格に準拠したHDR画像を生成します。(実際に表示される画像は、モニター性能に依存します。)

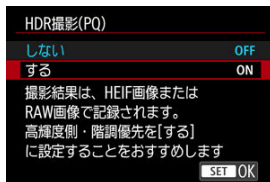
撮影結果は、HEIF画像またはRAW画像で記録されます。

\* 「HDR」はHigh Dynamic Rangeの略です。

\* 「PQ」はPerceptual Quantizationの略です。PQは、HDR画像を表示するための入力信号のガンマカーブのことを指します。

## 1. [📷: HDR撮影(PQ)] を選ぶ (🔗)

## 2. [する] を選ぶ






- 撮影時と再生時に、HDR対応ディスプレイ表示時と印象が近づくように変換された画像がモニターに表示されます。

### ⚠ 注意

- シーンによっては、HDR対応ディスプレイ表示時と印象が異なることがあります。
- [📷: HDR撮影(PQ)] を [する] に設定したときのヒストグラムでグレー表示されている領域は、使用されない信号値の目安になります。
- [📷: HDR撮影(PQ)] を [する] に設定すると、[📷: 📺 表示フレームレート設定] は設定できません。[なめらかさ優先] に設定されます。
- [📷: HDR撮影(PQ)] を [する] にして撮影した画像を、HDR対応ディスプレイで再生するときは、[▶: HDMI HDR出力] を [入] にしてください (🔗)。なお、撮影時のHDR対応ディスプレイでの表示は、[▶: HDMI HDR出力] の設定にかかわらず、HDR画像で行われます。

撮影結果が暗いときや、コントラストが低いときまたは高いときに、明るさ・コントラストを自動的に補正することができます。


1.  : オートライティングオプティマイザ を選ぶ (  ,  )
2. 補正内容を設定する



## 注意

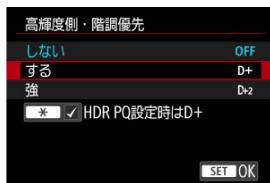
- 撮影条件により、ノイズが増えたり、解像感が変化することがあります。
- オートライティングオプティマイザの効果が強すぎて、好みの明るさにならないときは、**【弱め】** または **【しない】** に設定して撮影してください。
- **【しない】** 以外に設定したときは、露出補正、ストロボ調光補正で露出を暗めに設定しても、明るく撮影されることがあります。設定したとおりの明るさで撮影したいときは、**【しない】** に設定してください。

## 参考

- 手順2で **〈＊〉** ボタンを押して **【マニュアル露出時はOFF】** の **【√】** を外すと、**〈M〉** モードでも **【 : オートライティングオプティマイザ】** が設定できるようになります。

画像のハイライト部分の白とびを緩和することができます。

1. [📷: 高輝度側・階調優先] を選ぶ (🔍、🔍)
2. 内容を設定して撮影する



- [する] を選んだときは、高輝度（ハイライト）側の階調表現性が向上します。グレーからハイライトまでの階調がより滑らかになります。
- [強] 設定時は、撮影シーンによって [する] 設定時よりもさらに白とびを緩和することができます。

#### ⚠ 注意

- ノイズが若干増えることがあります。
- ISO感度の設定範囲がISO200～になります。また、拡張ISO感度は設定できません。
- [強] に設定しても、撮影シーンによっては、思いどおりの効果が得られないことがあります。

#### 📖 参考

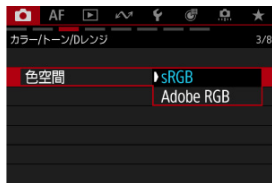
- < \* > ボタンを押してチェックを入れると、[📷: HDR撮影(PQ)] を [する] に設定したときに、[📷: 高輝度側・階調優先] が [する] に固定されます。
- [📷: HDR] HDRモード が [する] のときは、[📷: HDR撮影(PQ)] を [する] に設定しても [📷: 高輝度側・階調優先] は [しない] に設定されます。

## [Adobe RGB](#)

再現できる色の範囲（色域特性）のことを「色空間」といいます。一般的な撮影のときはsRGBをおすすめします。  
かんたん撮影ゾーンのときは、[sRGB] に自動設定されます。

1.  : 色空間] を選ぶ (  )

2. 色空間を設定する



- [sRGB] または [Adobe RGB] を選び、 を押します。

## Adobe RGB




主に商用印刷などの業務用途で使用します。Adobe RGB対応モニターや、DCF 2.0 (Exif 2.21以上) 対応プリンターなどの使用をおすすめします。

### 参考

- 色空間をAdobe RGBに設定して撮影した静止画は、ファイル名の先頭文字が「\_」(アンダーバー) になります。
- ICCプロファイルは付加されません。ICCプロファイルについては、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional使用説明書を参照してください。

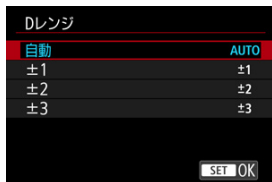
明暗差の大きいシーンで、白とびや黒つぶれが緩和された、階調の広い（ハイダイナミックレンジな）写真を撮影することができます。風景などの静物の撮影に適しています。HDR撮影では、暗部の階調の再現性を高めるため、露出を変えて撮影した3枚の画像（標準露出／露出アンダー／露出オーバー）を合成して、暗部の領域を明るく補正したHDR画像を生成します。HDR画像はHEIFまたはJPEG画質で記録されます。

\* HDRはHigh Dynamic Range（ハイダイナミックレンジ）の略です。

1.  :  HDRモード を選ぶ (🔖)
2.  HDRモード撮影 を [する] に設定する

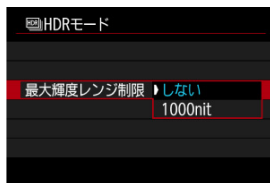


3. [Dレンジ] を設定する



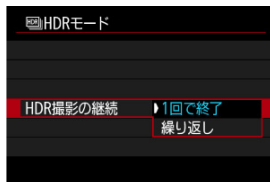
- [自動] を選ぶと、撮影画面全体の明暗差に応じて調整幅が自動設定されます。
- 数値が大きいほどダイナミックレンジが広い写真を撮影することができます。

#### 4. [最大輝度レンジ制限] を設定する ([📷:HDR撮影(PQ)] が [する] のときのみ)



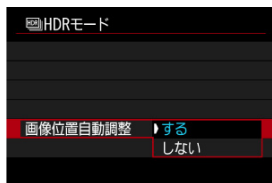
- [しない] を選んだときは、最大輝度レンジは制限されません。撮影画像を、1000nit以上の輝度表示が可能なモニターで確認するときにおすすめします。
- [1000nit] を選んだときは、最大輝度レンジが約1000nitに制限されます。

#### 5. [HDR撮影の継続] を設定する



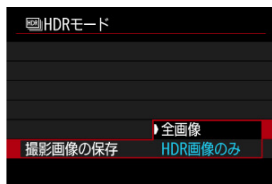
- [1回で終了] を選んだときは、撮影が終了すると、HDR撮影が自動的に解除されます。
- [繰り返し] を選んだときは、手順2で [しない] を選ぶまでHDR撮影が続きます。

## 6. [画像位置自動調整] を設定する



- 手持ち撮影を行うときは [する]、三脚などを使用するときは [しない] を選びます。

## 7. 保存する画像を指定する



- 撮影した3枚の画像と、合成したHDR画像を保存するときは、[全画像] を選びます。
- HDR画像だけを保存するときは、[HDR画像のみ] を選びます。

## 8. 撮影する

- シャッターボタンを全押しすると、3枚連続撮影され、HDR画像がカードに記録されます。

## 注意

- 拡張ISO感度 (H) でHDR撮影を行うことはできません。
- HDR撮影時はストロボは発光しません。
- AEB撮影はできません。
- HDR撮影はシャッタースピードなどを自動的に変えて3枚の画像を撮影します。そのため **(Tv)** **(M)** モードでも、設定したシャッタースピードを基準に、シャッタースピードやISO感度が変化します。
- 手ブレを抑えるため、ISO感度が高く設定されることがあります。
- **[画像位置自動調整]** を **[する]** に設定して手持ち撮影を行うと、画像の周辺部分が無視されトリミングされ、解像感が若干低下します。また、手ブレなどにより画像のズレ量が大きいと、自動位置合わせが行われなくなることがあります。なお、極端に明るい (または暗い) 露出設定で撮影すると、自動位置合わせが適切に行われなくなることがあります。
- **[画像位置自動調整]** を **[しない]** に設定して手持ち撮影を行うと、3枚の画像がズレてHDRの効果が十分に得られないことがあります。そのときは、三脚の使用をおすすめします。
- 格子模様、ストライプ模様のような繰り返しパターンや、画面全体が平坦で単調なときは、自動位置合わせが正常に行われなくなることがあります。
- 空や白壁のようなシーンのグラデーションが滑らかに再現されなかったり、露出ムラや色ムラ、ノイズが発生することがあります。
- 蛍光灯やLED照明などの光源下でHDR撮影を行うと、フリッカーの影響によりHDR画像に色ムラや露出ムラなどが発生することがあります。
- HDR撮影は撮影後に画像を合成してからカードに記録するため、時間がかかります。画像処理中はモニターに **[BUSY]** が表示され、処理が終わるまで次の撮影はできません。
- 電子シャッターでのHDR撮影時は、シャッタースピードの上限が1/8000に設定されます。

## 参考

- RAW画質で撮影したときのHDR画像は次のようになります。
    - **[カメラアイコン] : HDR撮影(PQ) [しない] : JPEG画質**
    - **[カメラアイコン] : HDR撮影(PQ) [する] : HEIF画質**
- なお、RAW+JPEG画質またはRAW+HEIF画質で撮影したときは、HDR画像は設定したJPEG画質またはHEIF画質で記録されます。

- ☑ [ホワイトバランスについて](#)
- ☑ [\[AWB\] オートホワイトバランス](#)
- ☑ [\[👁️\] マニュアルホワイトバランス](#) **応用**
- ☑ [\[K\] 色温度](#)

ホワイトバランス（WB）は、白いものを白く写すための機能です。通常はオート [AWB]（曇り気優先）、または [AWBW]（ホワイト優先）で適切なホワイトバランスが得られます。オートで自然な色あいにならないときは、光源別にホワイトバランスを選択したり、白い被写体を撮影して手動で設定します。

かんたん撮影ゾーンの場合は、[AWB]（曇り気優先）に自動設定されます。（◀▶）モードのときは [AWBW]（ホワイト優先）

1. [📷: ホワイトバランス] を選ぶ (☑、☑)
2. 項目を選ぶ



- ◀ (🔄) を回してホワイトバランスの項目を選びます。

## 参考

- [AWB] [AWBW] の設定方法については、[\[AWB\] オートホワイトバランス](#)を参照してください。

(約)

表示	モード	色温度 (K : ケルビン)
	<a href="#">オート (雰囲気優先)</a>	3000~7000
	<a href="#">オート (ホワイト優先)</a>	
	太陽光	5200
	日陰	7000
	くもり、薄暮、夕やけ空	6000
	白熱電球	3200
	白色蛍光灯	4000
	ストロボ使用	自動設定*
	<a href="#">マニュアル</a>	2000~10000
	<a href="#">色温度</a>	2500~10000

\* 色温度情報通信機能を備えたストロボ使用時。それ以外は約6000K固定

## ホワイトバランスについて

---

人間の目には、照明する光が変化しても、白い被写体は白に見えるという順応性があります。カメラでは、照明光の色温度に応じて色の基準となる白を決め、ソフトウェア的に色あいを調整することで、自然な色あいで撮影することができます。

## 【AWB】オートホワイトバランス

【AWB】（雰囲気優先）では、白熱電球（タングステン光）下などで撮影したときに、その場の雰囲気を重視してやや赤みがかった写真になります。

【AWBW】（ホワイト優先）を選ぶと、赤みの少ない写真にすることができます。

1. 【📷: ホワイトバランス】を選ぶ (🔍、🔍)

2. 【AWB】を選ぶ



- 【AWB】を選んだ状態で (🔍) ボタンを押します。

3. 項目を選ぶ



### 📢 注意

#### 【AWBW】（ホワイト優先）設定時の注意事項

- 赤みのある被写体の色が薄くなることがあります。
- 画面内に複数の光源が含まれるときは、赤みの少ない写真にならないことがあります。
- ストロボ使用時は【AWB】（雰囲気優先）と同じ色あいになります。


## 【📷】 マニュアルホワイトバランス

マニュアルホワイトバランス（MWB）は、撮影場所の光源にあわせてホワイトバランスを設定するときに使用します。必ず撮影する場所の光源下で一連の操作を行ってください。

### カード内の画像から登録する場合

#### 1. 白い被写体を撮影する



- 画面全体に白い無地の被写体がくるようにします。
- 手動ピント合わせ（マニュアルフォーカス）（) に設定して、白い被写体が標準露出になるように撮影します。
- ホワイトバランスはどの設定でも構いません。

#### ⚠ 注意

- 撮影した画像の露出が、標準露出から大きく外れていると、正確なホワイトバランスが設定されないことがあります。
- ピクチャースタイルを【モノクロ】に設定して撮影した画像、トリミングした画像、他のカメラで撮影した画像、クリエイティブフィルター画像は、選択できません。

#### 2. [📷: MWB画像選択] を選ぶ (, )

### 3. ホワイトバランスデータを取り込む




- 手順1で撮影した画像を〈◀〉〈▶〉で選び、〈OK〉を押します。
- [OK] を選ぶとデータが取り込まれます。

### 4. [📷: ホワイトバランス] を選ぶ (🔍、🔍)



### 5. [📷] を選ぶ



## 画像を撮影して登録する場合



1.  を押す
2. ホワイトバランスを選ぶ



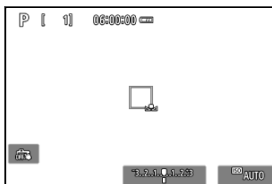
-   を押して選びます。

3. [画像を撮影して登録] を選ぶ

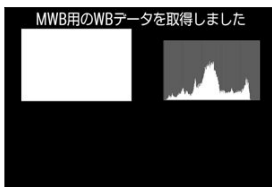


-  を回して [] を選び、 ボタンを押します。

## 4. 白い被写体を撮影する



- 画面全体に白い無地の被写体がくるようにします。
- 手動ピント合わせ（マニュアルフォーカス）（☑）に設定して、白い被写体が標準露出になるように撮影します。
- カメラにMWBデータが登録されます。



### ⚠ 注意

- 撮影した画像の露出が、標準露出から大きく外れていると、正確なホワイトバランスが設定されないことがあります。

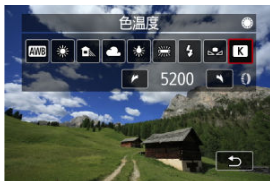
### 📖 参考

- 白い被写体の代わりに、市販のグレーチャートや18%標準反射板を撮影する方法もあります。

## 【K】色温度

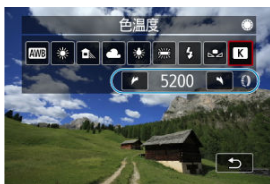
ホワイトバランスの色温度を数値で設定することができます。

1. [📷: ホワイトバランス] を選ぶ (🔍、🔍)
2. 色温度を選ぶ



- 【K】 を選びます。

3. 色温度を設定する



- 〈🔍〉を回して色温度を設定し、〈🔍〉を押します。

### 📖 参考

- 人工光源の色温度を設定するときは、必要に応じてWB補正（マゼンタ/グリーン寄りの補正）を行ってください。
- 市販のカラーメーターで測定した色温度を【K】に設定するときは、事前にテスト撮影を行い、カメラとカラーメーター間の誤差を補正した数値を設定してください。

[ホワイトバランス補正](#)

[ホワイトバランスを自動的に変えて撮る](#)

設定しているホワイトバランスを補正することができます。この機能を使うと、市販の色温度変換フィルターや、色補正用フィルターと同じような効果を得ることができます。

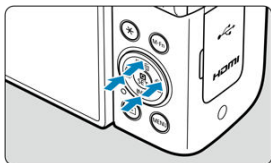
---

## ホワイトバランス補正

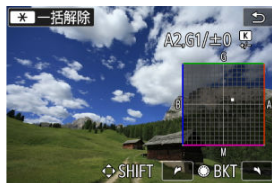
---

1.  : WB補正/BKT設定] を選ぶ (🔍、🔍)

## 2. ホワイトバランスを補正する



設定例：A2, G1



- 〈〉を押して画面上の「■」を移動します。
- Bはブルー、Aはアンバー、Mはマゼンタ、Gはグリーンの意味です。移動方向寄りの色に補正されます。
- 画面右上に、補正方向と補正量が表示されます。
- 〈〉ボタンを押すと、[：WB補正/BKT設定] の設定を一括解除することができます。
- 〈〉を押すと設定が終了します。

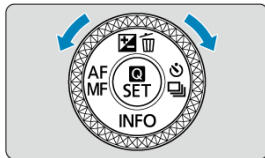
### 参考


- ブルー／アンバー方向の1段は、色温度変換フィルターの約5ミレッドに相当します（ミレッド：色温度変換フィルターの濃度を表すときなどに使用される色温度の単位）。

## ホワイトバランスを自動的に変えて撮る

ホワイトバランスブラケティング (WB-BKT) 機能で、1回の撮影で色あいの異なる3枚の画像を記録することができます。




### 補正幅を設定する



- **ホワイトバランス補正**の手順2で〈〉を回すと、画面上の「■」が「■ ■ ■」(3点)に変わります。  
右に回すとB/A方向、左に回すとM/G方向のブラケティングになります。

### B/A方向±3段のとき



- 画面右上に、ブラケティング方向と補正幅が表示されます。
- 〈〉ボタンを押すと [  : WB補正/BKT設定 ] の設定を一括解除することができます。
- 〈〉を押すと設定が終了します。

### ⚠ 注意

- WBブラケティング撮影時は、連続撮影可能枚数が少なくなります。
- 1回の撮影で3枚の画像を記録するため、通常の撮影よりもカードに画像を記録する時間が長くなります。

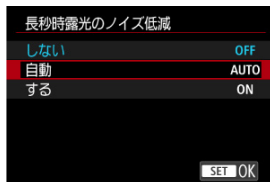
## 参考

- ①基準ホワイトバランス ②ブルー (B) 寄り ③アンバー (A) 寄り、または ①基準ホワイトバランス ②マゼンタ (M) 寄り ③グリーン (G) 寄りの順に画像が記録されます。
- WB補正やAEB撮影と組み合わせることができます。AEB撮影と組み合わせたときは、合計9枚の画像が記録されます。
- WBブラケットング設定時は、ホワイトバランスのマークが点滅します。
- 「**BKT**」はBracketing : ブラケットングの略です。

露光時間1秒以上で撮影した画像に対して、長秒時露光特有のノイズ（輝点、縞）を低減することができます。

1. [📷: 長秒時露光のノイズ低減] を選ぶ (🔗)

2. 低減内容を設定する



● 自動

露光時間1秒以上で撮影した画像に対し、長秒時露光特有のノイズが検出された場合に自動低減処理が行われます。通常はこの設定で十分な効果が得られます。

● する

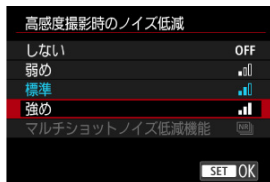
露光時間1秒以上で撮影した画像に対し、常に低減処理が行われます。[自動]で検出できないノイズがあったときに[する]で撮影すると、ノイズを低減できることがあります。

❗ 注意

- [自動] [する] 設定時は、撮影後、ノイズ低減処理のために露光時間と同じ時間が必要となることがあります。
- [しない] [自動] 設定時よりも [する] 設定時の方が、画像のザラつきが多くなる場合があります。
- ノイズ低減処理中は、[BUSY] が表示され、処理が終了するまで撮影画面は表示されません（次の撮影はできません）。

画像に発生するノイズを低減することができます。特に高ISO感度撮影時に有効です。低ISO感度撮影時は、低輝度部（暗部）のノイズをさらに低減することができます。

1. [📷: 高感度撮影時のノイズ低減] を選ぶ (🔍、📷)
2. レベルを設定する



- **弱め、標準、強め**  
設定の強さに応じて、ノイズ低減処理が行われます。
- **マルチショットノイズ低減機能**  
[強め] よりも高画質なノイズ低減処理が行われます。1回の撮影で4枚連続撮影し、自動的に画像の位置を合わせながら合成を行い、1枚のJPEG画像が記録されます。  
なお、記録画質がRAW、RAW + JPEGに設定されているときは、[マルチショットノイズ低減機能] は設定できません。

## ⓘ 注意

### マルチショットノイズ低減機能設定時の注意事項

- 手ブレなどにより画像のズレ量が大いときは、ノイズ低減効果が小さくなる場合があります。
- 手持ち撮影のときは手ブレに注意してください。三脚の使用をおすすめします。
- 動いている被写体を撮影すると、被写体の動きが残像のように写ることがあります。
- 格子模様、ストライプ模様のような繰り返しパターンや、画面全体が平坦で単調なときは、自動位置合わせが正常に行われないことがあります。
- 4枚連続撮影中に被写体の明るさが変化したときは、画像に露出ムラが発生することがあります。
- 撮影後にノイズ低減処理と画像合成を行ってからカードに記録するため、時間がかかります。画像処理中は**[BUSY]**が表示され、処理が終わるまで次の撮影はできません。
- AEB撮影、WBブラケット撮影、RAW、RAW+JPEG、長秒時露光のノイズ低減、HDRモード、フォーカスBKT撮影、HDR PQ設定、クリエイティブフィルター撮影時は、**[マルチショットノイズ低減機能]**は設定できません。
- ストロボ撮影はできません。ただし、EOS用外部ストロボのAF補助光は、**[AF：AF補助光の投光]**の設定に応じて投光されます。
- 記録画質をRAW、RAW+JPEGに設定すると自動的に**[標準]**に切り換わります。
- 電源オフ、バッテリー交換、カード交換、撮影モードをかんたん撮影ゾーンに変更したり、動画撮影への切り換えを行うと、自動的に**[標準]**に切り換わります。

## タイムラプス動画撮影可能時間の目安について

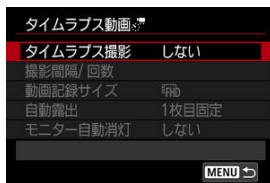
一定間隔で撮影した静止画を自動でつなぎ合わせて、4K動画またはフルHD動画にすることができます。この機能を使うと、撮影開始から終了までの被写体の変化を、コマ送りのようにして短時間にまとめることができます。景色の変化、植物の成長、星の動きなどの定点観測に効果的です。

タイムラプス動画は、4K撮影時： $\text{4K } 29.97\text{P } \text{[ALL-I]}$  (NTSC) /  $\text{4K } 25.00\text{P } \text{[ALL-I]}$  (PAL)、フルHD撮影時： $\text{FHD } 29.97\text{P } \text{[ALL-I]}$  (NTSC) /  $\text{FHD } 25.00\text{P } \text{[ALL-I]}$  (PAL) の設定で、ともにMP4形式で記録されます。

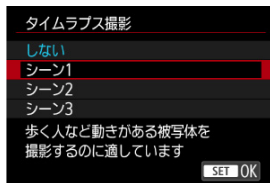
なお、フレームレートは、 $\text{[P:ビデオ方式]}$  の設定 () により自動的に切り換わります。

1.  $\text{[CAMERA:タイムラプス動画]}$  を選ぶ ()

2.  $\text{[タイムラプス撮影]}$  を選ぶ

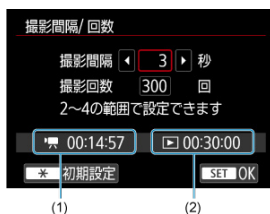


3. シーンを選ぶ



- 撮影シーンに応じて、シーンを選びます。
- 撮影間隔と回数を自由に設定して撮影したいときは  $\text{[カスタム]}$  を選びます。

## 4. 撮影間隔を設定する



- [撮影間隔/回数] を選びます。
- [撮影間隔] (秒) を選びます。◀▶ で数値を設定し (⊕) を押します。
- (1) 撮影所要時間、(2) 再生時間を参考にして設定します。

### [カスタム] 設定時

- [撮影間隔] (分:秒) を選びます。
- (⊕) を押して (◀) の状態にします。
- ◀▶ で数値を設定し (⊕) を押します (◀▶ の状態に戻ります)。
- [OK] を選ぶと設定されます。

## 5. 撮影回数を設定する



- [撮影回数] を選びます。〈◀〉〈▶〉で数値を設定し〈⊕〉を押します。
- 撮影所要時間と再生時間を参考にして設定します。

### [カスタム] 設定時

- 項目（桁）を選びます。
- 〈⊕〉を押して〈⊙〉の状態にします。
- 〈▲〉〈▼〉で数値を設定し〈⊕〉を押します（〈□〉の状態に戻ります）。
- 再生時間が赤く表示されていないことを確認します。
- [OK] を選ぶと設定されます。

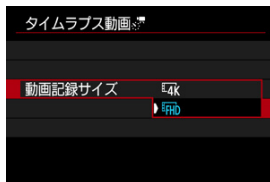
### ⓘ 注意

- 設定した撮影回数でカードの容量が不足するときは、再生時間が赤く表示されます。そのまま撮影することはできませんが、カードの残量がなくなった時点で撮影が終了します。
- SDHCカードでは、設定した[撮影回数]でファイルサイズが4GBを超えると、再生時間が赤く表示されます。そのまま撮影を行ったときは、ファイルサイズが4GBに達した時点で、タイムラプス動画撮影が終了します。

## 参考

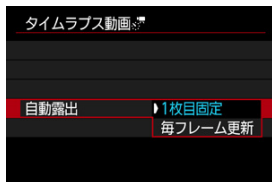
- [シーン\*] 設定時は、各シーンに適切な撮影ができるように、設定できる撮影間隔/回数が限定されています。
- タイムラプス動画が記録できるカードについては、[要求カード性能 \(動画撮影\) \[書き込み/読み出し速度\]](#) を参照してください。
- 撮影回数を3600回に設定したときは、NTSC設定時：約2分、PAL設定時：約2分24秒のタイムラプス動画になります。

## 6. 動画記録サイズを選ぶ



- **4K (3840 × 2160)**  
4K画質で記録されます。画面の横縦比は**16:9**です。  
フレームレートはNTSC: 29.97fps (**29.97P**) / PAL: 25.00fps (**25.00P**)、  
圧縮方式はALL-I (**ALL-I**)、動画記録形式はMP4 (**MP4**) で記録されま  
す。
- **FHD (1920 × 1080)**  
フルハイビジョン (Full HD) 画質で記録されます。画面の横縦比は  
**16:9**です。  
フレームレートはNTSC: 29.97fps (**29.97P**) / PAL: 25.00fps (**25.00P**)、  
圧縮方式はALL-I (**ALL-I**)、動画記録形式はMP4 (**MP4**) で記録されま  
す。

## 7. [自動露出] を設定する



### ● 1枚目固定

1枚目を撮影するときに測光が行われ、明るさに応じて露出が自動的に決まります。2枚目以降は1枚目と同じ露出で撮影されます。また、撮影に関する設定も、1枚目と同じ設定で撮影されます。

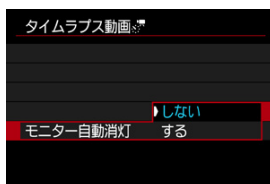
### ● 毎フレーム更新

2枚目以降も毎回測光が行われ、そのときの明るさに応じて露出が自動的に決まります。なお、ピクチャースタイル、ホワイトバランスなどの機能が、[オート] に設定されているときは、2枚目以降も1枚ごとに自動更新されます。

### ⚠ 注意

- [撮影間隔] が3秒以下で、[自動露出] が [毎フレーム更新] に設定されているときに、1フレーム前と明るさが大きく異なるときは、設定した間隔で撮影が行われないことがあります。
- [自動露出] を [毎フレーム更新] に設定して撮影したときは、撮影モードにより、タイムラプス動画の画像情報 (Exif情報) に、ISO感度、シャッタースピード、絞り数値が記録されないことがあります。

## 8. [モニター自動消灯] を設定する

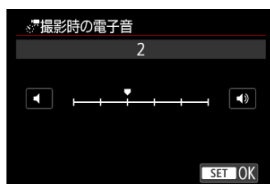


- **しない**  
タイムラプス動画撮影中も、映像が表示されます（撮影のときだけ画面が消灯します）。撮影開始から約30分経過すると、画面が消灯します。
- **する**  
撮影開始から約10秒経過すると、画面が消灯します。

### 参考

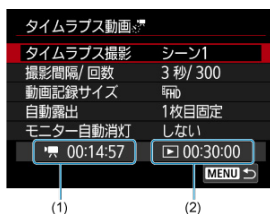
- タイムラプス動画撮影中に〈INFO〉ボタンを押すと、画面を点灯／消灯することができます。

## 9. 電子音を設定する



- [撮影時の電子音] を選びます。
- [0] に設定すると、撮影が行われるときに電子音が鳴らなくなります。

## 10. 設定内容を確認する



### (1) 撮影所要時間

撮影間隔、撮影回数をもとに撮影に必要な時間が表示されます。なお、24時間を超えるときは、「\*\*\*日」で表示されます。

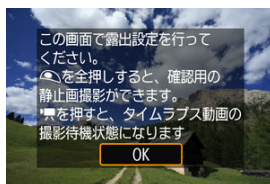
### (2) 再生時間

一定間隔で撮影した静止画から4K動画、またはフルHD動画を生成したときに、動画として記録される時間です（＝動画再生に必要な時間）。

## 11. メニューを終了する

- 〈MENU〉ボタンを押してメニュー画面を消します。

## 12. メッセージを確認する



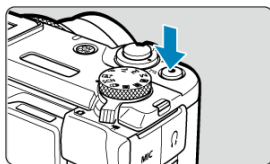
- メッセージを確認して [OK] を選びます。

## 13. テスト撮影する



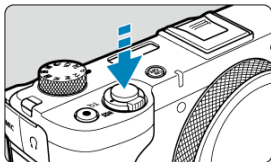
- 〈INFO〉ボタンを押して、画面に表示される「撮影所要時間 (1)」「撮影間隔 (2)」を再確認します。
- 露出や撮影機能の設定を行い、ピントを合わせます。
- シャッターボタンを全押しすると、テスト撮影が行われ、カードに画像（静止画）が記録されます。
- 撮影結果を確認し、問題がなければ次の手順に進みます。
- もう一度テスト撮影するときは、この手順を繰り返します。

## 14. 動画撮影ボタンを押す



- タイムラプス動画の撮影準備状態になります。
- 手順13に戻る時は、もう一度動画撮影ボタンを押します。

## 15. タイムラプス動画を撮影する



- シャッターボタンを全押しすると、タイムラプス動画撮影が始まります。
- タイムラプス動画撮影中は、AFは行われません。
- タイムラプス動画撮影中は、画面右上に「●REC」が表示されます。
- 設定した回数の撮影が終わると、タイムラプス動画撮影が終了します。
- タイムラプス動画撮影を解除するときは、[タイムラプス撮影] を [しない] に設定します。

## ① 注意

- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けしないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- インターフェースケーブルでパソコンと接続しているときや、HDMIケーブルを接続しているときは、**[📷：タイムラプス動画]** で **[しない]** 以外を選ぶことはできません。
- 動画サーボAFは機能しません。
- シャッタースピードが1/30秒以下のときは、映像の露出が適切に表示されない（実際の撮影結果と異なる）ことがあります。
- タイムラプス動画撮影中は、ズーム操作を行わないでください。ピントがぼけたり、露出が変化したりすることがあります。
- フリッカー光源下でタイムラプス動画撮影を行うと、画面に強いちらつきが発生したり、横縞（ノイズ）や露出ムラが記録されることがあります。
- タイムラプス動画撮影時に表示される映像と、実際の撮影結果は異なることがあります（フリッカーによるちらつきや、高ISO感度撮影時のノイズなど）。
- 暗い撮影条件下でタイムラプス動画撮影を行ったときは、撮影中に表示される映像と、実際の撮影結果が異なることがあります。
- タイムラプス動画撮影中にカメラを左右に動かしたり（パンニング）、動きのある被写体を撮影すると、像が強くゆがんで写ることがあります。
- タイムラプス動画撮影中は、オートパワーオフは機能しません。また、撮影機能やメニュー機能の設定、画像再生などの操作はできません。
- タイムラプス動画に音声は記録されません。
- シャッタースピードが撮影間隔と近いときは、撮影が行われないことがあります。
- 次の撮影が行われるタイミングで撮影できないときは、その回の撮影がキャンセルされます。そのため、生成される動画の記録時間が短くなることがあります。
- 撮影機能の設定やカードの性能などにより、カードに記録する時間が撮影間隔よりも長いときは、設定した間隔で撮影できないことがあります。
- 撮影画像は静止画としては記録されません。1枚だけ撮影したあと、撮影を中止しても動画ファイルとして記録されます。
- カメラとパソコンをインターフェースケーブルで接続して使用するときは、**[📷：タイムラプス動画]** を **[しない]** に設定してください。**[しない]** 以外を選択しているときは、パソコンと通信できません。
- タイムラプス動画撮影中は、レンズの手ブレ補正機能は作動しません。
- 電源を切ると、タイムラプス動画撮影が終了し、設定が **[しない]** になります。
- ストロボを使用しても発光しません。
- 次の操作を行うと、タイムラプス動画の撮影準備状態が解除され、設定が **[しない]** になります。
  - **[🔍：カメラの初期化]** の **[基本設定]** を選んだとき
  - モードダイヤルを操作したとき
- 白い **[📷]** (📷) が表示されている状態で、タイムラプス動画撮影を開始すると、タイムラプス動画の画質が低下することがあります。白い **[📷]** が消えてから（カメラ内部の温度が下がってから）撮影開始することをおすすめします。

## 参考

- 三脚の使用をおすすめします。
- 事前にテスト撮影することをおすすめします。
- 映像の視野率は、4K/フルHDタイムラプス動画撮影時ともに約100%です。
- タイムラプス動画撮影を開始したあと、途中で中止するときは、動画撮影ボタンを押します。そのときは、中止したときまでのタイムラプス動画がカードに記録されます。
- 撮影所要時間が24時間超～48時間以下のときは2日と表示されます。3日以上のおきも同じように、24時間単位の基準で表示されます。
- タイムラプス動画の「再生時間」が1秒未満でも、動画ファイルが生成されます。そのとき再生時間は「00'00"」と表示されます。

## 参考

- **ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1使用時**
  - あらかじめ、BR-E1とペアリングを行ってください (🔗)。

カメラの状態/ リモコン設定	〈●〉「すぐに撮影」 〈2〉「2秒後撮影」	〈📹〉「動画撮影」
撮影待機状態	動画撮影時シャッターボタンの機能の設定による	撮影開始
タイムラプス動画撮影中		撮影終了

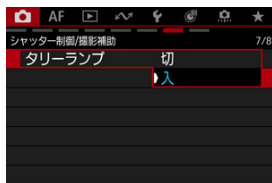
## タイムラプス動画撮影可能時間の目安について

タイムラプス動画撮影ができる時間（撮影開始からバッテリー切れまで）の目安については、[記録時間](#)、[映像ビットレート](#)、[ファイルサイズの目安](#)を参照してください。

タリーランプの点灯または点滅により、カメラの状態を確認することができます。

1. [📷: タリーランプ] を選ぶ (🔍)

2. 項目を選ぶ



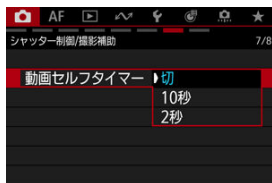
- [入] のときは、タリーランプが以下のように点灯または点滅します。

点灯時	動画撮影中
点滅時 (高速)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● バッテリー残量表示が点滅表示になった</li> <li>● カードの容量不足などにより、動画撮影ができない</li> <li>● 高温下や長時間の動画撮影などにより、カメラ内部の温度が上昇した</li> </ul>
点滅時 (低速)	動画撮影可能な時間が6分未満になった

セルフタイマーを使って動画撮影を開始することができます。

## 1. [📷: 動画セルフタイマー] を選ぶ (🔍)

## 2. 項目を選ぶ



## 3. 撮影する

- 動画撮影ボタンを押すか、[●] にタッチすると、画面に撮影開始までの秒数が表示され、電子音が鳴ります。

### 📖 参考

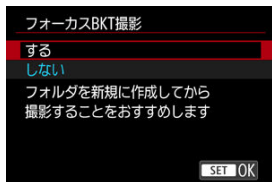
- セルフタイマー撮影を途中で中止するときは、モニターにタッチするか、(📷) を押します。

フォーカスBKT\*撮影は、1回のリリースで自動的にピント位置を変えながら連続撮影を行う機能です。撮影した画像から広い範囲でピントの合った画像を生成することができます。また、深度合成機能のあるEOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalなどを使用して画像を合成することもできます。

\* 「BKT」はBracketing（ブラケティング）の略です。

## 1. [📷: フォーカスBKT撮影] を選ぶ (🔍)

## 2. [フォーカスBKT撮影] を設定する



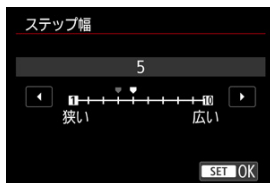
- [する] を選びます。


## 3. [撮影回数] を設定する



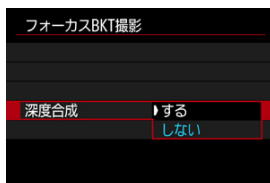
- 1度に撮影する回数（枚数）を設定します。
- [2] ～ [500] 回の範囲で設定することができます。

#### 4. [ステップ幅] を設定する














- ピントを移動する幅を設定します。ピントの移動幅は撮影時の絞り数値に応じて自動で調整されます。  
なお、絞り数値を大きくすると、ピントの移動幅が大きくなるため、同じステップ幅と撮影回数で設定で、より広い範囲のフォーカスブラケット撮影が行われます。
- 設定が終わったら、〈〉を押します。

#### 5. [深度合成] を設定する

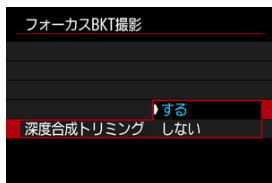


- [する] を選択すると、カメラで深度合成を行います。深度合成された画像が保存されます。
- [しない] を選択すると、深度合成を行いません。撮影した画像だけ保存されます。

#### 注意

- 深度合成された画像はJPEGで保存されます。
- 記録画質に  M /  M /  S1 /  S1/S2 は設定できません。  M /  M /  S1 設定時は  L、 M /  S1 設定時は  L に設定が変更されます。

## 6. [深度合成トリミング] を設定する



- [する] を選択すると、合成処理の画像位置合わせ時に画角が不足していたときに、不足した画角をカットするように画像をクロップし、合成します。
- [しない] を選択すると、画像をクロップせずに合成します。その場合、画角が不足した領域については黒枠を付与して画像を保存します。必要に応じてトリミングなどを行ってください。

## 7. 撮影する

- 撮影した画像を新規フォルダに保存するときは、画面の [ ] をタッチし、[OK] を選びます。
- ピントを合わせたい範囲の近距離側にピントを合わせ、シャッターボタンを全押しします。
- 撮影が開始されたら、シャッターボタンから指を離します。
- 無限遠側にピント位置を移動しながら連続撮影が行われます。
- 設定した枚数になったとき、またはピント位置が無限遠に達すると、撮影は終了します。
- 撮影を中止するときは、シャッターボタンを再度全押しします。

## 注意

- フォーカスブラケット撮影は、三脚を使用して、静止した被写体を撮影する機能です。
- 目的とする画角より広めに撮影することをおすすめします。深度合成後は必要に応じてトリミングしてください。
- 適切な【ステップ幅】は被写体により異なります。【ステップ幅】が適切でないときは、合成した画像ムラが生じたり、撮影枚数が多くなり撮影の終了までに時間がかかることがあります。事前にテスト撮影を行って【ステップ幅】の目安を確認しておくことをおすすめします。
- ストロボ撮影はできません。
- フリッカー光源下では、画像にムラが発生することがあります。そのときは、シャッター速度を遅くすることで緩和されることがあります。
- 手動ピント合わせ（マニュアルフォーカス）(M) に設定しているときは、フォーカスブラケット機能は使用できません。
- 撮影を中止したときは、最後の画像の露出が不完全になります。Digital Photo Professionalで画像を合成するときは、最後に撮影された画像を使用しないでください。
- 深度合成処理中にカード/バッテリー収納部ふたを開けたり、電池残量がなくなったりすると、合成処理がキャンセルされます。キャンセル時は合成画像は保存されません。
- 格子模様、ストライプ模様のような繰り返しパターンや、画面全体が平坦で単調な画像は、深度合成に失敗することがあります。
- 複数枚の画像を撮影する際、ピント合わせは手前から奥へ向かって順に行ってください。
- 複数枚の画像を撮影する際に、ピントの移動幅を大きくしすぎると、深度合成した画像にムラが発生したり、合成が失敗したりすることがあります。
- 深度合成は、静止した被写体の画像の合成を前提としています。そのため、動いている被写体を撮影した画像では、上手く合成できないことがあります。
- 画像内に複数の被写体がある場合、被写体間の距離が離れているなど、被写体の配置状態によっては深度合成が失敗することがあります。
- 深度合成は、撮影した画像の中から最適な画像を選択して合成を行います。撮影した画像がすべて合成されるわけではありません。

## 参考

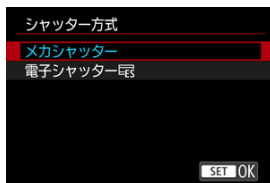
- 三脚、ワイヤレスリモートコントローラー（別売/M)などの使用をおすすめします。
- 絞り数値を、F5.6～F11の範囲で設定して撮影することをおすすめします。
- シャッター速度、絞り数値、ISO感度などは1枚目の条件で固定されます。
- 電源を切ると、[M: フォーカスBKT撮影] が [しない] になります。

シャッター方式を選ぶことができます。

---

## 1. [📷: シャッター方式] を選ぶ (🔍)

## 2. 項目を選ぶ



### ● メカシャッター

撮影時にメカシャッターが作動します。  
外部ストロボ撮影時に選択します。

### ● 電子シャッター

最高シャッタースピードをメカシャッターよりも速く設定できます。

- [📷: ドライブモード] を [📷] または [📷] に設定したときは、撮影時画面外周に白枠が表示されます。
- シャッター作動時は電子音が鳴ります。なお、電子音は [🔊: 電子音] [🔊: 音量] で切ることができます。

## ⓘ 注意

- 連続撮影中にズーム操作を行うと、露出が変化することがあります。

### 【電子シャッター $\frac{1}{250}$ 】設定時の注意事項

- 撮影条件により、連続撮影速度が低下することがあります。
- 動きの速い被写体を撮影すると、被写体が歪んで写ることがあります。
- 〈P〉（プログラムAE）、〈Tv〉（シャッター優先AE）で絞り数値が変化する場合は、標準露出で撮影されないことがあります。
- 撮影条件により、フォーカス駆動音や、絞りの駆動音がすることがあります。
- 電子シャッター撮影中に他のカメラのストロボが発光したときや、蛍光灯などのフリッカー光源下で電子シャッター撮影を行ったときは、画面に光の帯や、明暗差による縞が記録されることがあります。
- フリッカー光源下では、モニターに縞が見えることがあります。
- [📷:ドライブモード] を [📷] に設定しても、[📷H] での撮影になります。



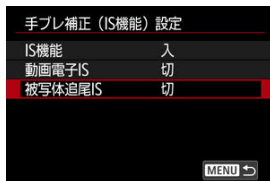
手ブレ補正機能（IS機能）を使用して、動画撮影時または静止画撮影時の手ブレを低減することができます。動画撮影時と静止画撮影時で、使用できる機能が異なります。

---

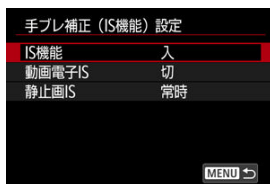
1. : 手ブレ補正（IS機能）設定] を選ぶ (🔗、🔗)

## 2. 項目を選んで設定する

### 動画撮影時



### 静止画撮影時



- IS機能（動画/静止画）  
カメラの手ブレ補正機能を使用した手ブレ補正を行います。
- 動画電子IS（動画）  
電子式手ブレ補正機能を使用した手ブレ補正を行います。  
[入] (👉) では手ブレ補正時に映像がやや拡大されます。  
[強] (👉) では [入] よりも大きな手ブレを補正することができます。映像がさらに拡大されます。  
[切] (👎) では動画電子ISによる手ブレ補正は行われません。
- 被写体追尾IS（動画）  
[入] (👉) にすると、画面内の被写体の位置を安定させながら、手ブレ補正を行います。  
追尾する被写体にタッチすると、追尾フレーム（ロック状態）[👉] が表示され、被写体追尾ISが開始されます。  
[画面中央] では、追尾中の被写体を、画面の中央付近に保持するような補正を行います。  
[選択位置] では、被写体をタッチしたときの位置に保持するような補正を行います。
- 静止画IS（静止画）  
[常時] を選ぶと、常に手ブレ補正が機能します。[撮影時のみ] を選ぶと、撮影される瞬間のみ手ブレ補正が機能します。

## 注意

### 動画電子IS

- 動画記録サイズの設定により、動画電子ISの手ブレ補正効果が小さくなる場合があります。
- 画角が広い（広角な）ほど手ブレ補正効果は大きくなり、画角が狭い（望遠な）ほど、手ブレ補正効果は小さくなります。
- 三脚使用時は「切」に設定することをおすすめします。
- 被写体や撮影条件によっては、動画電子ISの効果により、被写体のブレが目立つ（被写体が一瞬ボケたように見える）ことがあります。
- 映像が拡大されるため、映像が粗くなります。また、ノイズや輝点などが目立つことがあります。
- フレームレートの設定が119.88fps/100.00fpsのときに、最短撮影距離付近で撮影すると、動画電子ISによる手ブレ補正効果が十分に得られないことがあります。


### 被写体追尾IS

- 追尾する被写体の選択方法については、「ボタンでトラッキング」(👉)と「検出する被写体」(👉)を参照してください。
- 追尾対象のロックが解除されたときは、再度被写体を追尾対象としてロックしてください。
- 次のような被写体や撮影条件のときは、被写体の追尾が適切に行われなことがあります。
  - 明暗差（コントラスト）が極端に低い被写体
  - 暗い場所にある被写体
  - 強い逆光状態、または光の反射が強い被写体
  - 追尾対象となりうる被写体が画面内に2つ以上あるとき
  - 追尾対象の被写体またはその一部が隠れているとき
  - 被写体の大きさに変動があるとき
  - 被写体の色や明るさに変化があるとき
  - 姿勢が変わる頻度が多い被写体
  - カメラの動かし方が速すぎる／遅すぎるとき
  - 被写体の動きにカメラの動かし方があっていないとき
  - レンズの焦点距離が長いとき
- 被写体の位置を安定させる効果は、画角が広くなる（広角側）ほど高くなり、画角が狭くなる（望遠側）ほど低くなります。
- 映像が拡大されるため映像が粗くなります。また、ノイズや輝点などが目立つことがあります。

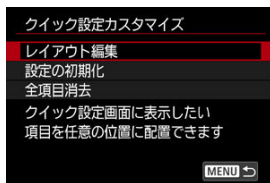
## 参考

- 被写体追尾IS機能を使用するときは、追尾中の被写体が以下の場所に保持されるように、カメラをなめらかに動かして撮影することをおすすめします。  
[画面中央] 設定時：画面の中央部付近  
[選択位置] 設定時：タッチしたときの位置

クイック設定で表示する項目や並び順のカスタマイズができます。




1. : クイック設定カスタマイズ] を選ぶ (🔍、🔍)

2. [レイアウト編集] を選ぶ







3. 削除する項目を選ぶ



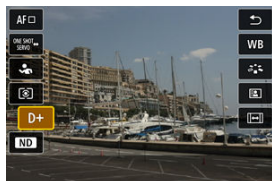
- クイック設定に表示されている項目にはチェックが付いています。
-  または  で、削除する項目を選び、 を押します。




## 4. 追加する項目を選ぶ

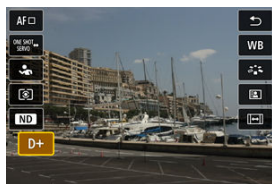





- 〈〉または〈〉で、追加する項目を選び、〈〉を押します。
- 〈〉ボタンを押すと並び順を変更することができます。

## 5. 並び順を変更する

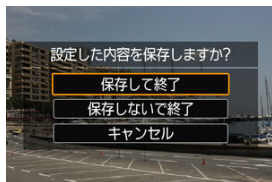


- 〈〉〈〉を押して並び順を変更する項目を選び、〈〉を押します。




- 〈〉〈〉を押して並び順を変更し、〈〉を押します。
- 〈MENU〉ボタンを押すと設定が終了します。

## 6. [保存して終了] を選ぶ

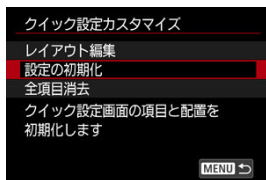



## 7. 確認する



- 〈〉を押して設定した内容を確認します。

## クイック設定画面の初期化/全項目消去



- [設定の初期化] を選ぶと、クイック設定画面の項目と配置が初期状態に戻ります。
- [全項目消去] を選ぶと、配置されている項目がすべて削除され、〈〉を押してもクイック設定画面が表示されなくなります。

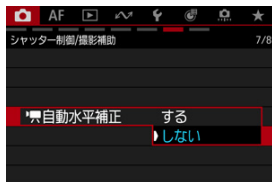
動画を撮影するときに、画面を水平に保つように補正します。設定すると、画面に表示される範囲が変わり被写体が大きくなる場合があります。

## ⚠ 注意

- [📷: 手ブレ補正 (IS機能) 設定] を [切] に設定してください。

1. [📷: 📷自動水平補正] を選ぶ (🔗)

2. 項目を選ぶ



シャッターボタンを半押ししたときなどに自動的に作動する「測光タイマー」の作動時間（露出値の表示時間）を設定することができます。

---

1. [📷: 測光タイマー] を選ぶ (🔍, 📷)
2. 時間を設定する

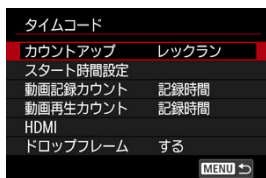




- [カウントアップ](#)
- [スタート時間設定](#)
- [動画記録カウント](#)
- [動画再生カウント](#)
- [HDMI](#)
- [ドロップフレーム](#)

タイムコードとは、動画撮影時に映像に同期して自動的に記録される時間軸のことです。「時/分/秒/フレーム」の単位で常時記録されます。主に撮影した動画を編集するときにご利用します。

[ : タイムコード] でタイムコードを設定することができます。



## 注意

- 撮影した動画をこのカメラ以外で再生したときは、タイムコードが適切に表示されないことがあります。

## カウントアップ

- **レックラン**

動画撮影しているときだけ、タイムコードのカウントが進みます。撮影した動画ファイルの順でタイムコードが連続します。

- **フリーラン**

動画撮影をしていないときも、タイムコードのカウントが進みます。

### ⚠ 注意

- [フリーラン] 設定時、ハイフレームレート動画にはタイムコードは付加されません。
- [フリーラン] 設定時に時刻/エリア/サマータイムの設定を変更すると (🔄)、タイムコードに影響が生じます。

## スタート時間設定

---

タイムコードの起点（スタート時間）を設定することができます。

- **手動入力設定**

「時：分：秒：フレーム」を任意に設定することができます。

- **リセット**

[手動入力設定] [カメラ時間に設定] で設定した時間がリセットされ、「00:00:00.」または「00:00:00:」になります。

- **カメラ時間に設定**

カメラに設定されている「時：分：秒」に設定されます。「フレーム」は「00」に設定されます。

## 動画記録カウント

動画撮影画面に表示する内容を選ぶことができます。

- **記録時間**

撮影待機状態では、撮影可能時間が表示されます。また、撮影状態では撮影開始からの経過時間が表示されます (1)。

- **タイムコード**

動画撮影時にタイムコードが表示されます (2)。



## 動画再生カウント

動画再生画面に表示する内容を選ぶことができます。

- **記録時間**  
動画再生時に撮影時間または再生時間が表示されます。
- **タイムコード**  
動画再生時にタイムコードが表示されます。



### 参考

- タイムコードは、[動画記録カウント] の設定に関わらず、動画ファイルに常時記録されます（ハイレームレート動画 + [フリーラン] 設定時を除く）。
- [📷 : タイムコード] の [動画再生カウント] と [▶ : 動画再生カウント] は、設定が連動して切り換わります。
- 動画撮影時、および動画再生中は、「フレーム」は表示されません。

### ● タイムコード

HDMI出力時の映像にタイムコードを付加することができます。

#### ● 切

HDMI出力映像にタイムコードは付加されません。

#### ● 入

HDMI出力映像にタイムコードが付加されます。[入] に設定すると、[記録コマンド] が表示されます。

### ● 記録コマンド

HDMI出力した映像を外部記録機器に記録する際に、カメラの動画撮影開始/停止と、外部記録機器の記録を同期させることができます。

#### ● 切

外部記録機器側で記録開始/停止を行います。

#### ● 入

動画撮影開始/停止と外部記録機器の記録が同期します。

### ❗ 注意

- ハイフレームレート動画撮影時に、[📷:タイムコード] の [カウントアップ] を [フリーラン] に設定してHDMI出力を行ったときは、HDMI出力映像にタイムコードは付加されません。
- 使用する外部記録機器が [タイムコード] [記録コマンド] に対応しているかどうかについては、外部記録機器メーカーに確認してください。
- [タイムコード] を [切] に設定していても、外部記録機器側の仕様により、映像にタイムコードが付加されることがあります。HDMI入力時のタイムコードの仕様については、外部記録機器メーカーに確認してください。

## ドロップフレーム

フレームレートの設定が、**119.9P** (119.9fps)、**59.94P** (59.94fps)、**29.97P** (29.97fps) のときに、タイムコードでフレームをカウントすると、実際の時間とタイムコードで差が生じます。[する] 設定時はこの差が自動的に補正されます。

- **する (DF)**

タイムコードを間引く補正が自動的に行われます (DF : ドロップフレーム)。

タイムコードは次のように表示されます。

00:00:00. (再生時 : 00:00:00.00)

- **しない (NDF)**

補正は行われません (NDF : ノンドロップフレーム)。

タイムコードは次のように表示されます。

00:00:00: (再生時 : 00:00:00:00)



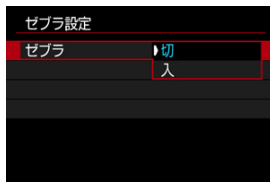
### 参考

- フレームレートが**23.98P** (23.98fps) 設定時、および [**📺 : ビデオ方式**] が [**PAL**] に設定されているときは、[**ドロップフレーム**] の項目は表示されません。

動画記録中や動画モード待機中、設定輝度の箇所・周辺に、露出調整の目安となる縞模様を表示させることができます。

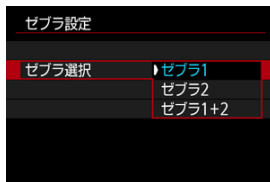
1. **[📷:ゼブラ設定]** を選ぶ (🔗)

2. **[ゼブラ]** を選ぶ



- **[入]** を選びます。

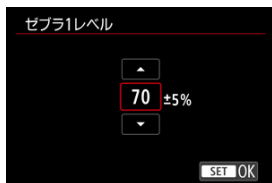
3. **[ゼブラ選択]** を選ぶ



- **[ゼブラ1]** を選ぶと、設定輝度値の周辺範囲を左上から右下の斜線表示します。
- **[ゼブラ2]** を選ぶと、設定輝度値以上の範囲を左下から右上の斜線表示します。
- **[ゼブラ1+2]** を選ぶと、**[ゼブラ1]**、**[ゼブラ2]** の両方を表示します。**[ゼブラ1]** と **[ゼブラ2]** の表示領域が重なる場合は、**[ゼブラ1]** を優先して表示します。

## 4. レベルを設定する

### ゼブラ1レベル



### ゼブラ2レベル



- 〈▲〉〈▼〉で設定します。

#### 参考

- HDR-PQ設定時、最大輝度値は100%にはなりません。なお、[📷：高輝度側・階調優先] や [📷：ピクチャースタイル] の設定により最大輝度値は異なります。
- [ゼブラ選択] を設定するときには、ゼブラ表示されるレベルを事前に確認することをおすすめします。

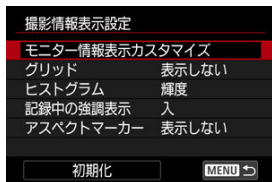


- [モニター情報表示カスタマイズ](#)
- [グリッド](#)
- [ヒストグラム](#)
- [カードの空き容量 \(%\) 表示](#)
- [記録中の強調表示](#)
- [アスペクトマーカー](#)
- [設定の初期化](#)

撮影時にモニターに表示する画面や情報などをカスタマイズすることができます。

## モニター情報表示カスタマイズ

1. [📷: 撮影情報表示設定] を選ぶ (🔍、🔍)
2. [モニター情報表示カスタマイズ] を選ぶ



### 3. 画面を選ぶ



- 〈▲〉〈▼〉を押してモニターに表示する画面を選びます。
- 非表示にする画面は、〈⊗〉を押して [✓] を外します。
- 〈\*〉ボタンを押すと画面の編集ができます。

### 4. 画面を編集する

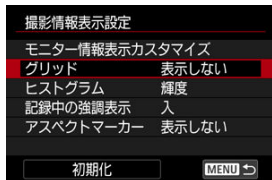


- 〈▲〉〈▼〉を押してモニターに表示する項目を選びます。
- 非表示にする項目は、〈⊗〉を押して [✓] を外します。
- [OK] を選ぶと設定されます。

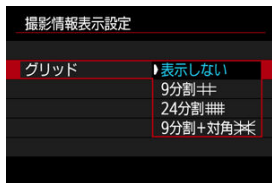
## グリッド

モニターにグリッドを表示することができます。

1. [📷: 撮影情報表示設定] を選ぶ (🔍、🔍)
2. [グリッド] を選ぶ



3. 項目を選ぶ



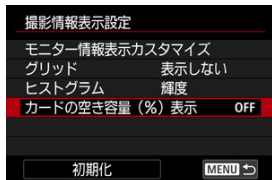




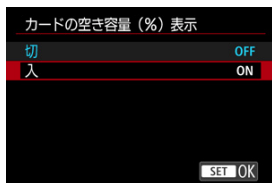
カードの空き容量を画面上に表示することができます。

1. [📷: 撮影情報表示設定] を選ぶ (🔗)

2. [カードの空き容量 (%) 表示] を選ぶ



3. [入] を選ぶ



### 📖 参考

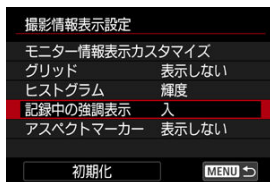
- 静止画撮影時およびカードへの書き込み時は、空き容量ではなく撮影可能枚数が表示されます。

## 記録中の強調表示

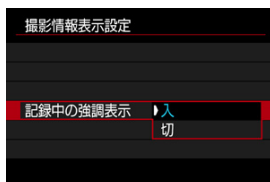
モニターに、動画撮影中であることを示す強調枠を表示させることができます。

1. [📷: 撮影情報表示設定] を選ぶ (🔍、🔍)

2. [記録中の強調表示] を選ぶ



3. 項目を選ぶ



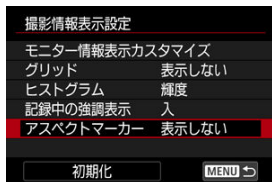
- 入  
動画撮影中は、画面外周に赤色の強調枠が点灯して表示されます。
- 切  
強調枠の表示は行われません。

## アスペクトマーカー

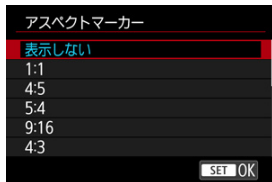
動画撮影後の編集で画像のアスペクト比を変更する場合に、撮影時から編集後の画角を意識できるよう、動画撮影画面（撮影待機状態および動画撮影中）にアスペクトマーカーを表示させることができます。

1. [📷: 撮影情報表示設定] を選ぶ (🔍、🔍)

2. [アスペクトマーカー] を選ぶ



3. 項目を選ぶ



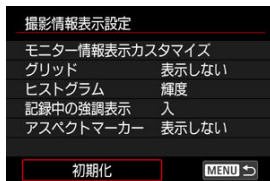
- 表示内容を選びます。

### 📖 参考

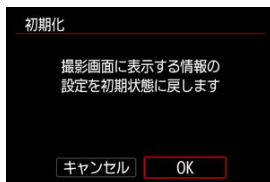
- 動画再生時には表示されません（撮影した動画にアスペクトマーカー情報は付加されません）。

1. [📷: 撮影情報表示設定] を選ぶ (🔍、🔍)

2. [初期化] を選ぶ



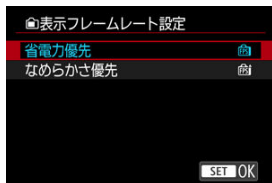
3. [OK] を選ぶ



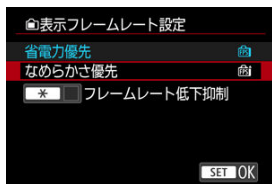
静止画撮影時の撮影画面について、表示フレームレートを設定することができます。省電力を優先するか、高フレームレートを優先するかを選びます。

1. [📷: 📁 表示フレームレート設定] を選ぶ (🔍)

2. 項目を選ぶ



[なめらかさ優先] 設定時



- 〈★〉ボタンを押してチェックを付けると、暗い場所でもフレームレートの低下を抑えた撮影画面を表示することができます。

**!** 注意

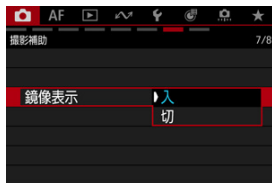
- [フレームレート低下抑制] で撮影画面表示を行う場合、暗い場所で以下の現象が発生することがあります。
  - バッテリーが早く消耗する
  - 撮影可能枚数が少なくなる
  - 表示される画像の輝度が低くなる
  - AFが合いにくくなる
  - 測光の精度が低下する
  - 被写体検出の精度が低下する

モニターを被写体側（レンズ側）に向けて撮影を行う際に、映像を鏡像表示（左右反転）させることができます。

---

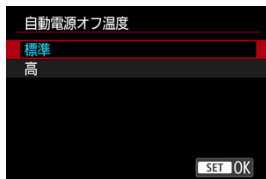
1. [📷: 鏡像表示] を選ぶ (🔍、🔍)

2. [入] を選ぶ



- [切] を選ぶと、モニターを被写体側に向けても鏡像表示は行われません。

カメラ本体が高温になったときに自動でカメラの電源オフを行う温度上限を設定することができます。標準より高く設定すると、動作制限を一部解除して撮影可能時間を延長できます。



[高] にすると、温度上限が標準よりも高く設定されます。

### ⚠ 注意

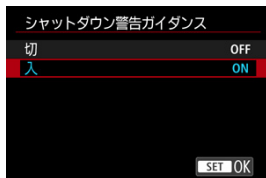
- [📷: 自動電源オフ温度] を [高] に設定すると、カメラ本体、およびカードがより高温になることがあります。
  - カメラ本体が高温になると、画面に [⚠] が表示されます。
  - 低温やけどなどの原因になる可能性がありますので、手持ちで撮影することは避けて、三脚などのご使用をおすすめします。
  - 撮影直後はカードに触れないでください。カードが高温になり、やけどの原因となることがあります。温度が下がってからカードを取り出してください。




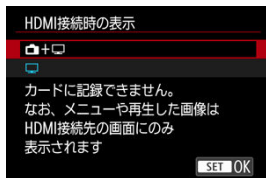
[入] にすると消費電力を抑え、撮影待機状態のカメラ内部の温度上昇を抑えます。これにより動画の撮影時間が長くなることがあります。

### ⚠ 注意

- 撮影待機状態と動画撮影中の画面で、画質の差がでることがあります。
- 動画撮影を開始したときに、映像が一瞬更新されない（フレームストップ）ことがあります。
- [📷:デジタルズーム] を [切] 以外に設定した場合、[📷:温度上昇緩和] は [切] に固定されます (🔒)。



[ : シャットダウン警告ガイダンス] で [切] を選ぶと、カメラの起動時や設定を変更したときなどに表示されるガイダンスを、非表示にすることができます (🔒)。



外部記録機器でHDMI出力映像を記録するための機能です。[📷: 動画記録サイズ] の設定に応じて出力されます。

なお、初期状態では[📺] に設定されています。

- 📷+📺

映像をカメラの画面に表示しながら、HDMI出力による映像表示を行うことができます。画像再生やメニュー表示を行ったときは、HDMI出力先に画像やメニューが表示され、カメラの画面には表示されません。

- 📺

HDMI出力を行ったときは、カメラの画面が消灯します（何も表示されません）。HDMI出力した映像に撮影情報やAFフレームなどが表示されますが、外部記録機器に接続した外部モニターなどを見ながら〔INFO〕ボタンを押すと、情報なし出力を行うことができます。

外部記録機器に映像を記録するときは、外部モニターなどで撮影情報やAFフレームなどが表示されていない（情報なし出力が行われている）ことを確認してから記録してください。

### ⚠ 注意

- [📷: HDMI接続時の表示] を [📷+📺] に設定した場合、カードに記録できません。なお、メニューや再生した画像はHDMI接続先の画面にのみ表示されます。
- HDMI出力時の解像度、フレームレートは動画記録サイズに連動して変わります。

## ? HDMI出力を長時間行いたい

30分以上連続してHDMI出力を行うときは、[📷+📺] を選び、[🔋: 節電] の [オートパワーオフ] を [しない] に設定してください (🔗)。なお、[モニターオフ] で設定した時間が経過すると、カメラのモニターが消灯しますが、HDMI出力は継続します。


## 注意

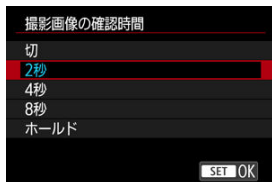
- 情報表示なしのHDMI出力を行ったときは、カード残量やバッテリー残量、内部温度上昇 (🔒) などの警告は、HDMI出力先の画面に表示されません。
- HDMI出力中に、動画記録サイズやフレームレートを切り換えると、次の画像が表示されるまでに時間がかかることがあります。
- HDMI出力映像に情報が表示されることがあるため、外部記録機器で映像を記録しているときは、操作を行わないことをおすすめします。
- カメラで撮影した動画と、HDMI出力を外部記録機器で記録した映像の明るさと色味は、閲覧する環境により異なって見えることがあります。

## 参考


- 〈INFO〉ボタンを押すと、表示される情報を切り換えることができます。
- HDMI出力映像にタイムコードを付加することができます (🔒)。
- HDMI出力時に音声も出力されます (〔録音：しない〕設定時を除く)。

撮影直後に、撮影画像を表示したままにするときは【ホールド】、撮影画像を表示しないようにするときは【切】に設定します。

1. ：撮影画像の確認時間】を選ぶ (🔗)
2. 項目を選ぶ



### 参考

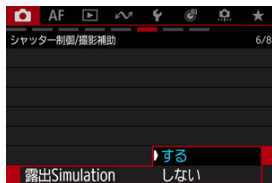
- 【ホールド】に設定すると、：節電】の【モニターオフ】で設定した時間まで画像が表示されます。

露出Simulation（シミュレーション）は、実際の撮影結果（露出）に近い明るさや、被写界深度をシミュレートして映像を表示する機能です。

---

1. [📷: 露出Simulation] を選ぶ (🔖)

2. 項目を選ぶ



● **する**

実際の撮影結果（露出）に近い明るさで表示されます。露出補正を行うと、補正量に応じて映像の明るさが変わります。

● **しない**


映像が見やすいように、標準的な明るさで表示されます。露出補正を行っても、標準的な明るさで表示されます。

- [情報表示について](#)
- [動画撮影全般の注意事項](#)
- [静止画撮影全般の注意事項](#)

## 情報表示について

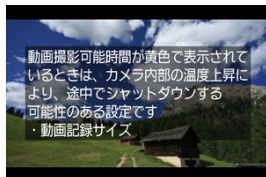
撮影画面に表示されるアイコン（マーク）については、[情報表示](#)を参照してください。

### ⚠ 注意

- 動画撮影可能時間の表示は目安です。
- 動画撮影中に、カメラ内部の温度が上昇して、赤い  が表示されたときは、撮影開始前に表示される動画撮影可能時間より前に撮影が終了することがあります (🔗)。

### 動画撮影前のガイダンス表示

カメラの起動時や設定を変更したときなどに、ガイダンスが表示されることがあります。



このガイダンスは、現在の設定で動画を撮影すると、撮影中にカメラ内部の温度が上昇し、さらに撮影を続けると自動的にカメラの電源が切れる可能性があることを示しています。動画を長時間撮影するときは、ガイダンスに表示された設定（動画記録サイズやデジタルズームなど）を変更し、ガイダンスが表示されない状態で撮影することをおすすめします。設定を変更せずに撮影するときは、動画撮影中のインジケータ表示に注意してください。

#### 参考

- 本ガイダンスを表示させたくないときは、[📷: シャットダウン警告ガイダンス] を [切] に設定します (☑)。

### 撮影中のインジケータ表示

動画および静止画の撮影中にカメラ内部の温度が上昇し始めると、10段階のインジケータ(1)が表示されます。



さらにカメラ内部の温度が上昇すると、目盛が右に増えていきます。目盛が増える時間は撮影状況によって異なります。1~7番目の目盛は白色で表示されますが、8番目から色が変わります。



9番目のオレンジ色の目盛まで達した状態で撮影を続けると、[REC] が赤色で点滅します。アイコンの点滅表示は、まもなくカメラの電源が自動的に切れることを意味しています。



アイコンが点滅している状態で撮影を続けると、メッセージが表示され、カメラの電源が自動的に切れます。

### ● 撮影を続けるときは

設定を変更せずに撮影を続けるときは、一旦カメラの電源を切り、カメラ内部の温度が下がるまでお待ちください。ただし、このときは撮影を再開するとカメラの温度は再度上昇します。

## 注意

### 動画撮影時共通注意事項

- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- 湿気の多いところで動画を撮影すると、カメラレンズ内部に結露が発生することがあります。  
結露を防ぐには、**[ファンの回転速度]**を中速以上に設定したり (⊗)、動画の解像度やフレームレートを低めに設定してください。結露が発生したときは、カメラの電源を切り水滴が消えるまで待つてから、撮影を再開してください。
- 細かいパターンの被写体を撮影すると、モアレや偽色が発生することがあります。
- **[AWB]** **[AWBw]** の設定で動画撮影中に、ISO感度や絞り数値が変わると、ホワイトバランスが変化することがあります。
- 蛍光灯やLED照明などの光源下で動画を撮影すると、画面にちらつきが発生することがあります。
- 動画撮影中にズーム操作を行うときは、テスト撮影をおすすめします。ズーム操作を行うと、露出変化やレンズの作動音が記録されたり、録音される音量が不安定になったり、ピントがズレることがあります。
- 絞り数値が大きいときは、ピントが合うまでに時間がかかったり、適切なピント合わせができないことがあります。
- 動画撮影中にAFを行うと、「一時的にピントが大きくぼける」「動画の明るさが変化して記録される」「動画が一瞬停止して記録される」「レンズの作動音が記録される」などの現象が起こることがあります。
- カメラに内蔵されたマイクを指などでふさがないようにしてください。
- 動画撮影中にHDMIケーブルの接続や取り外しを行うと、動画撮影が終了します。
- 必要に応じて [静止画撮影全般の注意事項](#)もお読みください。
- Wi-Fi接続した状態で動画撮影すると、カメラの温度が上昇することがあります。手持ち撮影せず、三脚を使用するなどしてください。

## 記録と画質について

- 極端に明るい光源が画面内にあると、明るい部分が黒くぼくつぶれたように表示されることがあります。動画撮影時は、表示された映像とほぼ同じ状態で記録されます。
- 高ISO感度、高温、遅いシャッタースピード、暗い場所などの条件で撮影すると、映像にノイズや色ムラが発生することがあります。動画撮影時は、表示された映像とほぼ同じ状態で記録されます。
- 撮影した動画を他の機器などで再生すると、画質や音質が悪くなったり、(MP4形式に対応していても)再生できないことがあります。
- 書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画撮影中に画面の右側にインジケータが表示されることがあります。インジケータは、カードにまだ書き込まれていないデータ量(内蔵メモリーの空き容量)を表し、遅いカードほど、段階が早く上がっていきます。インジケータ(1)がフルになると、動画撮影が自動的に停止します。



(1)

- 書き込み速度が速いカードは、インジケータが表示されないか、表示されても段階はほとんど上がりません。そのため、事前にテスト撮影を行うことで、動画撮影に適したカードかどうかを判断することができます。
- インジケータがフルになって動画撮影が自動的に終了したときは、映像の終端付近の音声は正常に記録されないことがあります。
- カードの(記憶領域の断片化により)書き込み速度が低下してインジケータが表示されるようになったときは、カードの初期化を行うと、書き込み速度が改善することがあります。

## 参考

### 動画撮影時共通事項

- 1回撮影するたびに、カードに新たな動画ファイルが作成されます。
- ミニジャック(Φ3.5mm)に対応したマイクであれば、ほとんどの外部マイクが使用できます。
- 外部マイクを接続すると、外部マイクが優先されます。

### ⚠ 注意

- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。

### 画質について

- 高ISO感度で撮影すると、ノイズ（輝点、縞など）が目立つことがあります。
- 高温下で撮影すると、ノイズや色ムラが発生することがあります。
- 撮影を長時間継続すると、カメラ内部の温度が上昇して、画質が低下することがあります。撮影しないときは、こまめに電源を切ってください。
- カメラ内部の温度が上昇した状態で長秒時露光を行うと、画質が低下することがあります。撮影を一旦終了し、数分間経ってから撮影してください。

### カメラ内部の温度上昇に伴う、白い【0】表示について

- 撮影を長時間行ったり、高温下で撮影を行うと、カメラ内部の温度が上昇し、白い【0】が表示されます。
- 白い【0】は、静止画の画質が低下することを示しています。このため、カメラ内部の温度が下がるまで、撮影を一時休止することをおすすめします。
- 白い【0】が表示されたときは、高ISO感度を使用せず、低ISO感度での撮影をおすすめします。
- 高温下で撮影を長時間行くと、白い【0】または赤い【0】が表示されるタイミングが早くなります。撮影しないときは、こまめに電源を切ってください。
- 白い【0】が表示されていないなくても、カメラ内部の温度が上昇している状態で、高ISO感度撮影、長秒時露光を行うと、画質が低下することがあります。

### カメラの温度上昇に伴う、インジケータ表示について

- カメラの温度が上昇し始めると、【0】が表示されます。インジケータの動作については、[撮影中のインジケータ表示](#)を参照してください。

## 映像について

- 低輝度、高輝度条件下では、映像が撮影結果に近い明るさで表示されないことがあります。
- ISO感度を低く設定しても、暗い場所では映像にノイズが多く表示されることがありますが、撮影を行うとノイズの少ない画質で撮影されます（映像と撮影した画像の画質は異なります）。
- 表示中に光源（照明光）が変化すると、画面がちらつくことがあります。そのときは、撮影を一旦終了し、撮影する光源下で撮影を再開してください。
- カメラの向きを変えると、映像が一瞬適切な明るさで表示されないことがあります。適切な明るさに安定するのを待ってから撮影してください。
- 極端に明るい光源が画面内にあると、明るい部分が黒っぽくつぶれたように表示されることがあります。ただし、撮影すると、その部分は明るい状態で正しく記録されます。
- 暗い場所で [**🔦**：モニターの明るさ] を明るい設定にすると、映像にノイズや色ムラが発生することがあります。ただし、このノイズや色ムラは撮影画像には記録されません。
- 映像を拡大表示すると、シャープネスが実際の設定よりも強かかっているように見えます。



## 参考

- 映像の視野率は約100%（記録画質JPEG 設定時）です。
- カメラを操作しない状態が続くと、[**🔦**：節電] の [モニターオフ] の設定時間で画面が消え、[オートパワーオフ] の設定時間で電源が切れます (🔘)。
- 市販のHDMIケーブルを使用すると、映像をテレビに表示することができます (🔘)。ただし、音声は出力されません。

## AF／ドライブ

---

この章では、AF、ドライブモードに関する内容や、メニュー機能の「**AF**: AFタブ」に含まれる項目などについて説明しています。

タイトル右の **応用** は、応用撮影ゾーン（〈P〉〈Tv〉〈Av〉〈M〉モード）限定の機能であることを示しています。

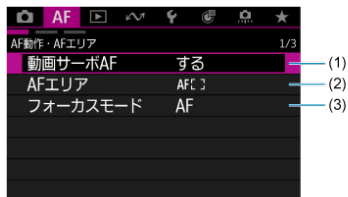
### 参考

- 〈AF〉はAuto Focus（オートフォーカス）の略で自動ピント合わせのことです。  
〈MF〉はManual Focus（マニュアルフォーカス）の略で手動ピント合わせのことです。
- [メニュー目次：AFタブ（動画撮影）](#)
- [メニュー目次：AFタブ（静止画撮影）](#)
- [AF動作](#) **応用**
- [動画サーボAF](#)
- [AFエリアの選択](#) **応用**
- [プリAF](#)
- [AF補助光の投光](#)
- [AFエリアの限定](#) **応用**
- [手動ピント合わせ（マニュアルフォーカス）](#)
- [ドライブモードの選択](#)
- [セルフタイマー撮影](#)
- [リモコン撮影](#)
- [ゾーンAFフレームのサイズを変更する](#)

## メニュー目次：AFタブ（動画撮影）

---

### ● AF動作・AFエリア



- (1) [動画サーボAF](#)
- (2) [AFエリア](#)
- (3) [フォーカスモード](#)

### ● 被写体検出



- (1) [検出する被写体](#)
- (2) [瞳検出](#)

## ● AF各種設定



- (1) [レビュー用AF](#)  応用
- (2) [動画サーボAF時のAF速度](#)  応用
- (3) [AFエリアの限定](#)  応用
- (4) [MFピーキング設定](#)

## メニュー目次：AFタブ（静止画撮影）

### ● AF動作・AFエリア



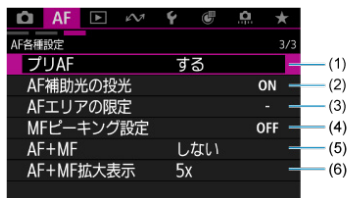
- (1) [AF動作](#) **応用**
- (2) [動画サーボAF](#)
- (3) [AFエリア](#)
- (4) [サーボAF中の全域トラッキング](#) **応用**
- (5) [フォーカスモード](#)

### ● 被写体検出



- (1) [検出する被写体](#)
- (2) [瞳検出](#)

## ● AF各種設定

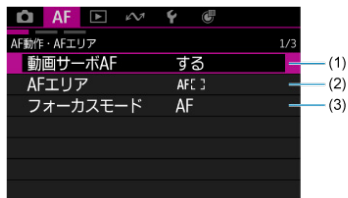


- (1) [プリAF](#)
- (2) [AF補助光の投光](#)
- (3) [AFエリアの限定](#) 応用
- (4) [MFピーキング設定](#)
- (5) [AF+MF](#)
- (6) [AF+MF拡大表示](#)

かんたん撮影ゾーン（〔AF+]〈SCN〉〈M〉モード）のときは、以下の画面が表示されます。

なお、撮影モードによって、選択できるメニューは異なります。

### ● AF動作・AFエリア



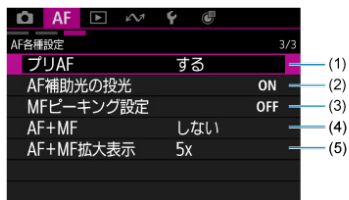
- (1) [動画サーボAF](#)
- (2) [AFエリア](#)
- (3) [フォーカスモード](#)

### ● 被写体検出



- (1) [検出する被写体](#)
- (2) [瞳検出](#)

## ● AF各種設定



- (1) [プリAF](#)
- (2) [AF補助光の投光](#)
- (3) [MFピーキング設定](#)
- (4) [AF+MF](#)
- (5) [AF+MF拡大表示](#)

- [止まっている被写体を撮る：ワンショットAF](#)
- [動いている被写体を撮る：サーボAF](#)
- [AFモードを自動的に切り換える：AIフォーカスAF](#)

撮影状況や被写体にあわせて、AFの作動特性を選ぶことができます。

---

1. **[AF：フォーカスモード]** を **[AF]** に設定する (🔗)
2. **[AF：AF動作]** を選ぶ (🔗)
3. 項目を選ぶ



#### 参考

- ピントが合わないとAFフレームが黄色になります。ワンショットAF時は、構図を変えて再度ピント合わせを行うか、[ピントが合いにくい撮影条件](#)を参照してください。

## 止まっている被写体を撮る：ワンショットAF

止まっている被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しすると、1回だけピント合わせを行います。

- 被写体にピントが合うと、AFフレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。
- シャッターボタンを半押ししている間、ピントが固定され、構図を変えて撮影することができます。

### 参考

- [P: 電子音] を [切] に設定すると、ピントが合ったときに電子音が鳴らないようになります。
- 画面にタッチして、ピントを合わせたい位置にAFフレームを移動できます。

## フォーカスロック撮影

固定したAFフレームでワンショットAFを行い、ピント位置を保持した状態で構図を変えて行う撮影を「フォーカスロック撮影」といいます。シャッターボタンの半押しでピント合わせを行う場合の操作は下記の通りです。

1. 固定したAFフレームを、ピントを合わせたい被写体に向けてシャッターボタンを半押しする



2. 合焦してAFフレームが緑色で表示されたら、シャッターボタンを半押ししたまま構図を調整する



### 3. シャッターボタンを全押しして撮影する

## 動いている被写体を撮る：サーボAF

動いている被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押ししている間、被写体にピントを合わせ続けます。

- 被写体にピントが合うと、AFフレームが青色に変わります。ピントが合うと、電子音が「ピピッ」と鳴ります。
- 露出は撮影の瞬間に決まります。

### ⚠ 注意

- 絞り数値が大きい場合や、被写体との距離、被写体の動く速さによっては、適切なピント合わせができないことがあります。
- 止まっている被写体に対して、サーボAFの動作が不安定な場合は、ワンショットAFで撮影することをおすすめします。

## AFモードを自動的に切り換える : AIフォーカスAF

---



シャッターボタンを半押ししている間や、連続撮影している間、被写体の状態に応じて、カメラがAFモードを自動的に [ワンショットAF] から [サーボAF] へと切り換えます。



### [動画サーボAF時のAF速度](#)

撮影時に被写体に対して常にピントを合わせ続ける機能です。

---

1. 静止画撮影／動画撮影切り換えスイッチを〈〉にする
2. [AF: 動画サーボAF] を選ぶ ()

### 3. [する] を選ぶ



#### ● する

- シャッターボタンを半押ししなくても、被写体に対して常にピントを合わせ続けます。
- 狙った位置でピントを止めたいときは、画面左下の [SERVO AF] をタッチすると、動画サーボAFを一時的に停止することができます。



- 動画サーボAF が停止しているときに、〈MENU〉ボタンや〈▶〉ボタンを押したり、AF エリアを変更するなどの操作を行ったあと、動画撮影に戻ると、動画サーボAF が再開します。
- #### ● しない
- シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせが行われます。

## ⚠ 注意

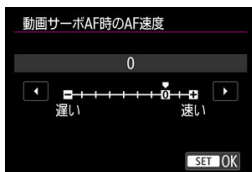
### 【動画サーボAF：する】設定時の注意事項

- **ピントが合いにくい撮影条件**
  - 速い速度で近づくと、または遠ざかる被写体
  - 近距離で動いている被写体
  - 絞り数値が大きいとき
  - [ピントが合いにくい撮影条件](#)も参照してください。
- 常にAFが作動してバッテリーを消耗するため、動画撮影できる時間 (🔋) が短くなります。
- ズーム操作中は、動画サーボAF が一時停止します。
- 動画撮影中に被写体が近づいたり／遠ざかったり、カメラを上下／左右に動かすと (パンニング)、映像が一瞬伸縮 (像倍率変化) して記録されることがあります。

## 動画サーボAF時のAF速度

動画サーボAFのAF速度を設定することができます。

1. **【AF：動画サーボAF時のAF速度】** を選ぶ (🔍)
2. **設定する**



- 作画意図に合わせてAF速度 (ピント送り) を、標準の速さ (0) から遅い方向に7段階 (-1~-7)、速い方向に2段階 (+1,+2) の調整を行うことができます。

## ⚠ 注意

- この機能は **【AF：動画サーボAF設定】** の **【動画サーボAF】** が **【する】** のときに機能します。

[AF: レビュー用AF] を [入] にすると、カメラの近くにあるものにピントを合わせて撮影することができます。商品などのレビュー撮影に適しています。

1. [AF: レビュー用AF] を選ぶ (🔍)

2. 項目を選ぶ



⚠ 注意

- 追尾フレームは表示されません。
- シャッターボタン半押しや〈AF-ON〉ボタンを押しても、ピント合わせは行われません。
- 被写体を選択することはできません。



- [AFエリア](#)
- [AFエリアの選択](#)
- [トラッキング \(全域\)](#)
- [ボタンでトラッキング](#)
- [フォーカスモード](#)
- [検出する被写体](#)
- [瞳検出](#)
- [AFフレームを任意設定する](#)
- [AF撮影のヒント](#)
- [ヒントが合いにくい撮影条件](#)
- [AF範囲](#)

ここではAFエリアの動作について説明します。

### ☐: スポット1点AF



1点AFよりも狭い範囲でピント合わせを行います。

### □: 1点AF



1つのAFフレーム [□] でピント合わせを行います。

## [1]: フレキシブルゾーンAF1

初期状態では、正方形のゾーンAFフレームが設定されています。



## [2]: フレキシブルゾーンAF2

初期状態では、縦長のゾーンAFフレームが設定されています。



### [3]: フレキシブルゾーンAF3

初期状態では、横長のゾーンAFフレームが設定されています。



フレキシブルゾーンAF1、フレキシブルゾーンAF2、フレキシブルゾーンAF3では、ゾーンAFフレームのサイズを自由に設定できます (27)。  
AF範囲が広い「ゾーンAFフレーム」で自動選択AFを行うため、1点AFよりも被写体を捉えやすく、動きのある被写体を撮影するときに有効です。  
最も近距離の被写体に限らず、動いている被写体や人の顔、動物の顔、被写体距離などのさまざまな条件によってピント合わせの領域を決定します。  
シャッターボタンを半押しすると、ピントが合ったAFフレームは [□] で表示されます。

### [ ]: 全域AF



フレキシブルゾーンAFよりもさらにAF範囲が広い「全域AFフレーム」で自動選択AFを行うため、1点AFやフレキシブルゾーンAFよりも被写体を捉えやすく、動きのある被写体を撮影するときに有効です。  
最も近距離の被写体に限らず、動いている被写体や人の顔、動物の顔、被写体距離などのさまざまな条件によってピント合わせの領域を決定します。  
シャッターボタンを半押しすると、ピントが合ったAFフレームは [□] で表示されます。

## AFエリアの選択

撮影状況や被写体にあわせて、AFエリアを選ぶことができます。

1. [AF: AFエリア] を選ぶ (☑、☑)
2. AFエリアを選ぶ

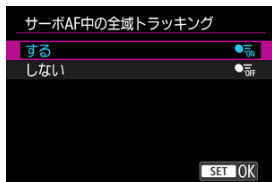


## トラッキング（全域）

サーボAFを行ったとき（[AF：AF動作]が[サーボAF]設定時にシャッターボタンを半押ししたとき）に、画面全域で被写体を追尾する動作に切り換わるかどうかを設定することができます。



### 1. [AF：サーボAF中の全域トラッキング] を選ぶ (Ⓜ)

### 2. 項目を選ぶ



- **する**  
シャッターボタンを半押しすると、AFエリアが全域AFとなり、画面全域で被写体を追尾する動作に切り換わります。
- **しない**  
シャッターボタンを半押し／全押ししたときに、AFフレーム内でのみ被写体を追尾します。

## ボタンでトラッキング

[ : ボタン カスタマイズ] で [全域トラッキングの開始/停止] と [AFフレーム選択] を割り当てたボタンを押すことで被写体を追尾フレーム [] で追尾することができます。ここでは [全域トラッキングの開始/停止] を <✳> ボタンに、[AFフレーム選択] を <M-Fn> ボタン割り当てた場合を例に説明します ()。



### 1. 追尾フレームを確認する



- カメラを被写体に向けると、追尾フレームが表示されます。[AF: AFエリア] で [全域AF] 以外を選んでいるときは、AFフレームを被写体に合わせます。
- フレキシブルゾーンAFのときは、設定されているゾーンAFフレームが表示されます。

### 2. <✳> ボタンを押す



- 追尾フレームが [] に変わり、その被写体を追尾対象としてロックし、画面内で被写体が動いても追尾します。もう一度 <✳> ボタンを押すと、追尾を解除できます。
- 検出可能な対象が複数あるときは、<M-Fn> ボタンを押すと追尾フレームが [] に変わり、<◀> <▶> でピントを合わせたい被写体を選ぶことができます。
- トラッキングを開始すると、設定しているAFエリアによらず画面全域で追尾が行われます。

### 3. 撮影する

#### 参考

- 撮影待機中にトラッキングを停止すると、AFエリアとAFフレームの位置はトラッキングする前の状態に戻ります。
- シャッターボタンを半押し/全押ししているときにトラッキングを停止すると、AFエリアはトラッキングする前の状態に戻りますが、AFフレームの位置は停止時の追尾フレームの中心になります（[サーボAF]時）。

## フォーカスモード

ピント合わせの方法を設定することができます。

### 1. [AF: フォーカスモード] を選ぶ (📷、📷)

### 2. 項目を選ぶ



- **AF**  
オートフォーカスで動作します。
- **MF**  
マニュアルフォーカスで動作します。

#### 📷 参考

- 撮影画面で (AF MF) を押して [AF] [MF] を切り換えることもできます。

## ピントを微調整する

ワンショットAFでの合焦後に、ピントを調整することができます。

### 1. [AF: AF+MF] で [する] を選ぶ (📷)

### 2. ピントを合わせる

- シャッターを半押ししてピントを合わせ、シャッターボタンの半押しを続けます。

### 3. ピントを調整する



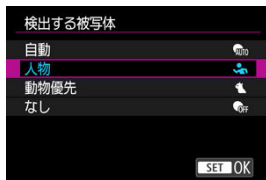
- 〈**Q**〉を操作します。
- [**AF**: **AF+MF拡大表示**] で [**5x**] または [**10x**] を選ぶと、ピントの微調整時の画面が5倍、または10倍に拡大されます。

#### 参考

- 正確なピント合わせを行うには、三脚などでカメラを固定することをおすすめします。
- シャッターボタンを半押しすると、最もピントが合う位置に微調整されます。

## 検出する被写体

追尾する主被写体の自動選択条件を設定することができます。



- **自動**  
カメラが追尾する主被写体を自動で選択します。
- **人物**  
人物の顔・頭部を追尾する主被写体として優先します。  
人物の顔・頭部を検出できない場合は、人物の胴体を検出し追尾を行います。人物の胴体も検出できない場合は、人物の体の一部で追尾する場合があります。
- **動物優先**  
動物（犬、猫）および人物を検出し、追尾する主被写体として動物の検出結果を優先します。  
動物は顔または全身が検出され、顔が検出されれば顔に追尾フレームが表示されます。動物の顔または全身を検出できない場合は、動物の体の一部で追尾する場合があります。
- **なし**  
被写体検出を行わず、構図からカメラが主被写体を自動選択します。  
追尾フレームは表示されません。

## 注意

- 次のような場合は、被写体を検出できないことがあります。また、被写体の目の左右が正しく優先されないことがあります。
  - 被写体が極端に小さい／大きい
  - 被写体が明るすぎる／暗すぎる
  - 被写体の一部が隠れている
  - 被写体と背景の見分けがつきにくい
  - 雨や雪、土埃などにより被写体が不鮮明
- 人物の姿勢やウェアの色や形状によっては検出できないことがあります。また、人物以外の被写体に枠が表示される場合があります。
- 犬、猫の種類や色、形状や姿勢によっては検出できないことがあります。また、類似した動物や、動物以外に枠が表示される場合があります。
- 人物／動物を〔自動〕の設定で撮影するとき、意図しない被写体に追尾フレームが表示される場合は、それぞれに適した設定に変更することをおすすめします。

## 参考

- シャッターボタンを半押しして被写体を選択するときは、下記の被写体を選択できます。該当する被写体がない場合は、〔AF: 検出する被写体〕の設定に関わらず物体を追尾します。
  - **自動、人物**  
人物、動物  
(〔人物〕で、動物が選択できるのはサーボAF時のみです。)
  - **動物優先**  
動物、人物
- 設定したAFエリアのみでAFを行いたい場合は、〔AF: サーボAF中の全域トラッキング〕を〔しない〕、〔AF: 検出する被写体〕を〔なし〕に設定してください。

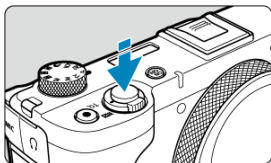
## ピントを合わせる被写体を任意で選択する

### 1. 追尾フレームを確認する



- カメラを被写体に向けます。[AF:AFエリア]で[全域AF]以外を選んでいるときは画面にAFフレーム（またはゾーンAFフレーム）が表示されます。その場合は、AFフレームを被写体に合わせます。
- 被写体を検知すると、追尾フレーム [ ] が表示されます。
- 追尾フレーム [ ] は、AFフレームと離れているときは、灰色で表示されます（状況によっては、離れているときでも灰色表示にならない場合もあります）。
- 現在追尾している被写体がAFフレームに近づくとき、AFフレームの外でも追尾フレームが白色（アクティブフレーム）に変わり、被写体として選ぶことができます。

## 2. ピントを合わせて撮影する



- シャッターボタンを半押しすると、ピントが合った追尾フレーム（ワンショットAF時：緑色、サーボAF時：青色）が表示され、「ピピッ」と電子音が鳴ります。ピントが合わないときは、追尾フレームが黄色で表示されます。

### 参考

- [AF: AFエリア] を [全域AF] に設定時、画面をタッチして被写体を任意選択したときは、追尾フレームが [ ] に変わり、その被写体を追尾対象としてロックし、画面全域で被写体を追尾します。
- 追尾のロックを解除したいときは、[OFF] をタッチします。
- AFフレームが追尾フレーム [ ] に重なっていない状態で、シャッターボタンを半押しすると、白色（アクティブフレーム）の枠でピント合わせが行われます。
- 被写体が人の場合、ピント合わせを行う [ ] が、顔全体ではなく、顔の部分にだけ表示されることがあります。
- 追尾フレームは被写体により大きさが変化します。

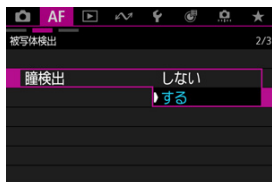
### 注意

- ピントが大きく外れていると顔を検知できません。顔が検知できる位置まで手でピントを動かしてから (☑)、AFを行ってください。
- 画面の端のほうにある顔や被写体に対してはAFできないことがあります。被写体が中央または中央寄りになるように構図を変えて撮影してください。

人の目、動物の目にピントが合うように撮影することができます。

### 1. [AF: 瞳検出] を選ぶ (☑、☑)

### 2. 項目を選ぶ



### 3. 被写体にカメラを向ける



- 目の周囲にAFフレームが表示されます。
- [AF: AFエリア] が [全域AF] のときに画面をタッチして目を選ぶことができます。
- 選んだ目が検出できなくなった場合は、ピントを合わせる目はカメラが自動的に選びます。
- [AF: AFエリア] が [全域AF] のときに、[⏪] が表示されるときは、[AF: 瞳検出] の設定に応じて <◀> <▶> でピントを合わせた目を選ぶことができます。

### 4. 撮影する

⚠ 注意

- 撮影シーンや被写体によっては、被写体の目が正しく検出されないことがあります。
- **[AF: 検出する被写体]** を **[なし]** にしたときは、目は検出されません。

## AFフレームを任意設定する

AFフレーム（ゾーンAFフレーム）を任意設定することができます。ここでは、フレキシブルゾーンAF1設定時の画面を例に説明します。

### 1. AFフレームを確認する



(1)

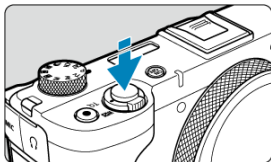
- AFフレーム (1) が表示されます。

### 2. AFフレームを移動する



- ピントを合わせたい位置にタッチして、AFフレームを移動します。
- [戻る] にタッチするとAFフレームが画面中央に戻ります。

### 3. ピントを合わせて撮影する



- AFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。



- ピントが合うとAFフレームの色が変わり（ワンショットAF時：緑色、サーボAF時：青色）、「ピピッ」と電子音が鳴ります。
- ピントが合わないときは、AFフレームが黄色に変わります。

#### ⚠ 注意

- フレキシブルゾーンAFで、サーボAFに設定したときは、ピント合わせを行うAFフレーム [□] が被写体に追従して移動しますが、被写体が小さいときなど、撮影条件によっては追従しないことがあります。
- 外側寄りのAFフレームを選択しているときは、ピントが合いにくいことがあります。そのときは、中央のAFフレームを選択してください。

## AF撮影のヒント

---

- ピントが合った状態でも、シャッターボタンを半押しすると、もう一度ピント合わせが行われます。
- AFの前後で、映像の明るさが変わることがあります。
- 被写体や撮影条件により、ピント合わせに時間がかかったり、連続撮影速度が低下することがあります。
- 撮影中に光源（照明光）が変化すると、画面がちらついてピントが合いにくいことがあります。そのときは、電源を入れ直し、撮影する光源下でAFを行ってください。
- AFでピントが合わないときは、手動でピント合わせを行ってください (M/AF-ON)。
- 画面の端のほうにある被写体を撮影したときに、わずかにピントがズれているときは、被写体（またはAFフレーム/ゾーンAFフレーム）を画面の中央寄りにして、再度ピント合わせを行ってから撮影してください。

## ピントが合いにくい撮影条件

- 青空、単色の平面、画面上で被写体が白とびや黒つぶれしているときなど、明暗差（コントラスト）のない被写体
- 暗い場所にある被写体
- 縞模様など、水平方向のコントラストしかない被写体
- 繰り返し模様の被写体（例：ビルの窓やパソコンのキーボードなど）
- 細い線、被写体の輪郭部分
- 明るさや色、パターンが変化する光源
- 夜景など、点状の光源
- 蛍光灯やLED照明などの光源下で、映像がちらついている場合（フリッカー）
- 被写体が極端に小さい場合
- 画面の端のほうにある被写体
- 強い逆光状態、または光の反射が強い被写体（例：反射光の強い車のボディなど）
- 近くと遠くにある被写体が、AFフレームの中に入っている場合（例：おりの中の動物など）
- 手ブレや被写体ブレで、AFフレーム内の被写体が揺れ動いて、静止しない場合
- 大きくピントがぼけた状態からAFを行った場合
- 特殊効果フィルターを使用している場合
- AF中に画面にノイズ（輝点、縞など）が表示されている場合

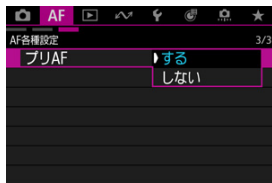
## AF範囲

---

アスペクト比や動画記録サイズ、動画電子ISなどの設定によって、AF可能な範囲は変わります。

被写体に対しておおまかにピントを合わせ続ける機能です。シャッターボタンを半押ししたときに素早くピントが合います。

1. [AF:プリAF] を選ぶ (🔍)
2. [する] を選ぶ



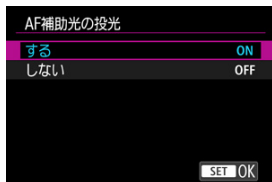
## ⚠ 注意

- [する] 設定時は、常にAFが動作してバッテリーを消耗するため、撮影可能枚数が少なくなります。

カメラまたは外部ストロボから、AF補助光の投光を行うかどうかを設定することができます。

### 1. [AF : AF補助光の投光] を選ぶ (🔗)

### 2. 項目を選ぶ



- [ON] する  
必要に応じてAF補助光が投光されます。
- [OFF] しない  
AF補助光は投光されません。AF補助光を投光したくないときに設定します。

#### ⚠ 注意

- 外部ストロボのカスタム機能の [AF : AF補助光の投光] が [しない] に設定されているときは、外部ストロボからAF補助光は投光されません。

選択可能なAFエリアを限定することができます。AFエリアについては、[AFエリア](#)を参照してください。

1. [AF : AFエリアの限定] を選ぶ (📷、📷)

2. 限定するAFエリアを選び、<📷>を押す



- [✓] の付いた項目が、選択可能なAFエリアになります。
- 設定確定後、[OK] を選びます。

#### ⚠ 注意

- すべての項目の [✓] を外すことはできません。

#### 📖 参考

- 設定内容が、初期状態から変更されているときは、[AF : AFエリアの限定] の右端に [\*] が表示されます。



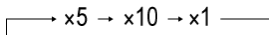
## ☑ MFピーキング設定（輪郭強調）

AFでピント合わせができないときは、映像を拡大表示して、手動でピントを合わせることができます。

### 1. 〈AF MF〉 ボタンを押して [MF] に設定する

### 2. 映像を拡大する

- 〈M-Fn〉 ボタンを押すと、次のように画面が切り換わります。



### 3. 拡大位置を移動する

- 画面をタッチして、ピントを合わせたい位置に移動します。

### 4. 手動でピントを合わせる

- 映像を見ながら、〈▲〉〈▼〉を押してピントを合わせます。

#### 参考

- 拡大表示中は露出が固定されます。
- 手動ピント合わせのときも、タッチシャッターで撮影することができます。

## MFピーキング設定（輪郭強調）

ピントが合った被写体の輪郭を色つきの強調表示にすることでピント合わせをやすくすることができます。また、輪郭の検出感度（レベル）や輪郭の色を変えることもできます。

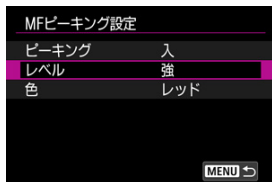
### 1. [AF: MFピーキング設定] を選ぶ (📷、📷)

### 2. [ピーキング] を選ぶ



- [入] を選びます。

### 3. [レベル]、[色] を設定する



- 必要に応じて設定します。

#### ⚠ 注意

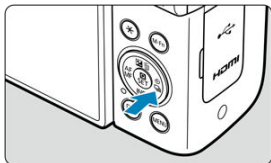
- 拡大表示中、ピーキング表示は行われません。
- HDMI出力時、HDMI出力先にピーキング表示は行われません。なお、[📷: HDMI接続時の表示] で [📷+📺] を設定しているときは、カメラの画面にはピーキングが表示されます。
- 高ISO感度設定時（特に拡張ISO感度設定時など）は、MFピーキングが分かりにくい場合があります。必要に応じてISO感度を下げるか、[ピーキング] を [切] に設定してください。

 参考

- モニターに表示される輪郭は、撮影画像には記録されません。

撮影シーンや被写体に応じてドライブモードを選びます。

## 1. < [ ] > ボタンを押す (6)



- 画面に映像が表示された状態で、< [ ] > ボタンを押します。

## 2. ドライブモードの項目を選ぶ



- < [ ] > を回して、ドライブモードの項目を選びます。

- **[ ] 1枚撮影**

シャッターボタンを全押しすると、1枚だけ撮影します。

- **[ ] 高速連続撮影+**

シャッターボタンを全押しすると、押している間、[ ] : シャッター方式 の設定に応じて以下の連続撮影を行うことができます。

- [メカシャッター] のとき：最高約15コマ/秒
- [電子シャッター] のとき：最高約30コマ/秒

● [C/H] 高速連続撮影

シャッターボタンを全押しすると、押ししている間、[C/H : シャッター方式] の設定に応じて以下の連続撮影を行うことができます。

- [メカシャッター] のとき：最高約8.2コマ/秒
- [電子シャッター] のとき：最高約16コマ/秒

● [C/L] 低速連続撮影

シャッターボタンを全押しすると、押ししている間、[C/L : シャッター方式] の設定に応じて以下の連続撮影を行うことができます。

- [メカシャッター] のとき：最高約3.0コマ/秒
- [電子シャッター] のとき：最高約5.0コマ/秒

● [C/10] セルフタイマー：10秒 (C)

● [C/2] セルフタイマー：2秒 (C)

● [C/C] セルフタイマー：連続撮影 (C)

! 注意

- [メカシャッター] で [C/H] に設定したときに、連続撮影速度が約15コマ/秒となる条件は以下の通りです。
    - 常温 (+23°C)
    - 以下のいずれかの電源を使用
      - フル充電したLP-E17
      - USB電源アダプター (別売)
    - シャッタースピード：1/1000秒以上
    - ストロボ撮影：なし
  - [電子シャッター] が [C/H] に設定されたときに、連続撮影速度が約30コマ/秒となる条件は以下の通りです。
    - シャッタースピード：1/30秒以上
- なお、以下の設定または連続撮影中の操作によっては、連続撮影速度が約30コマ/秒以下となることがあります。
- 撮影モードが〈P〉〈Tv〉モードで絞り数値が変化する設定の場合
  - サーボAFによりフォーカス位置が変化した場合
- サーボAF時は、被写体条件などにより、連続撮影速度が低下することがあります。
  - フリッカー光源下で撮影を行うと、連続撮影速度が遅くなります。
  - 連続撮影中に内部メモリーがいっぱいになると、一時的に撮影ができなくなるため (C)、連続撮影速度が途中から遅くなることがあります。

セルフタイマーは記念撮影などに使用します。

## 1. ボタンを押す (06)

- 画面に映像が表示された状態で、 ボタンを押します。

## 2. ドライブモードの項目を選ぶ



- を回して、セルフタイマーを選びます。

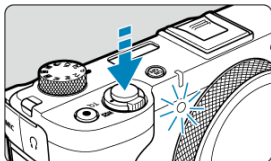
: 10秒後に撮影

: 2秒後に撮影

: 10秒後に設定枚数を連続撮影\*

\* を押して、 で撮影する枚数 (2~10) を設定します。

## 3. 撮影する



- ピントを合わせ、シャッターボタンを全押しします。
- セルフタイマーランプと電子音、モニターに表示される秒数の減算表示で作動を確認することができます。
- 撮影の約2秒前にセルフタイマーランプの点滅が速くなり、電子音が速く鳴ります。

## ⓘ 注意

- [📷] のときは、記録画質や外部ストロボ使用などの撮影条件により、連続撮影の間隔が長くなることがあります。

## 📖 参考

- [📷] は、三脚を使用した静物撮影や長秒時露光などで、撮影を開始する際、カメラから手を離しておきたいとき（カメラブレ防止）などに使用します。
- セルフタイマー撮影した画像は、その場で再生して (🔍)、ピントや露出を確認することをおすすめします。
- 自分一人だけをセルフタイマーで写すときは、自分が入る位置とほぼ同じ距離にあるものにフォーカスロックして撮影します (🔒)。
- セルフタイマー撮影を開始したあと、途中で中止するときは、モニターをタッチするか、(🛑) を押します。
- リモコン撮影ができる状態に設定されているときは、オートパワーオフまでの時間が長くなることがあります。



## [ワイヤレスリモートコントローラー BR-E2/BR-E1](#)

「ワイヤレスリモートコントローラー」（別売/Bluetooth接続）を使用したリモコン撮影を行うことができます。

## ワイヤレスリモートコントローラー BR-E2/BR-E1

カメラから最大約5m離れてリモコン撮影を行うことができます。

最初にカメラとワイヤレスリモートコントローラーのペアリングを行ってください (🔗)。操作方法については、ワイヤレスリモートコントローラーの使用説明書を参照してください。

### 参考

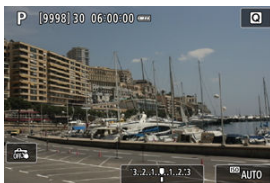
- リモコン撮影ができる状態に設定されているときは、オートパワーオフまでの時間が長くなることがあります。
- 動画撮影時にワイヤレスリモートコントローラーを使用することもできます。

# ゾーンAFフレームのサイズを変更する



フレキシブルゾーンAF1、フレキシブルゾーンAF2、およびフレキシブルゾーンAF3で表示される、ゾーンAFフレームのサイズを変更します。

## 1. 撮影画面で **[Q]** をタッチする



## 2. サイズを変更するフレキシブルゾーンを選び、**[MENU]** をタッチする




## 3. **[< >]** でサイズを変更する



- **[SET]** をタッチして決定します。
- **[M-Fn]** をタッチすると、初期設定に戻ります。

## 再生

この章では、撮影した画像（静止画／動画）を再生する方法や、メニュー機能の「：再生タブ」に含まれる項目など、再生に関連する内容について説明しています。

タイトル右の **応用** は、応用撮影ゾーン（〈P〉〈Tv〉〈Av〉〈M〉モード）限定の機能であることを示しています。

### ❗ 注意

- 他カメラで撮影した画像や、このカメラで撮影したあと、パソコンなどで画像を加工したり、ファイル名を変更した画像は、カメラで正常に表示／設定できないことがあります。
- 再生機能に使用できない画像が表示されることがあります。

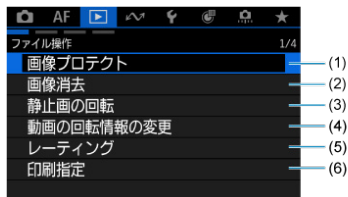
- [メニュー目次：再生タブ](#)
- [画像の再生](#)
- [画像の拡大表示](#)
- [インデックス表示（複数画像の表示）](#)
- [動画の再生](#)
- [動画の前後部分のカット](#)
- [4K動画からのフレームの切り出し](#)
- [テレビで見る](#)
- [画像プロテクト](#)
- [画像消去](#)
- [静止画の回転](#)
- [動画の回転情報の変更](#)
- [レーティング](#)
- [印刷指定／DPOF](#)
- [RAW現像](#) **応用**
- [クリエイティブアシスト](#)
- [クイック設定からのRAW現像](#) **応用**
- [再生時クリエイティブフィルター](#)
- [JPEG/HEIF画像のリサイズ](#)
- [JPEG/HEIF画像のトリミング](#)
- [HEIF画像をJPEG画像に変換](#) **応用**
- [スライドショー](#)
- [画像検索の条件設定](#)
- [前回の画像から再生](#)
- [再生する情報の設定](#)
- [ハイライト警告表示](#)

- [再生時のグリッド](#)
- [動画再生カウント](#)
- [HDMI HDR出力](#)

## メニュー目次：再生タブ

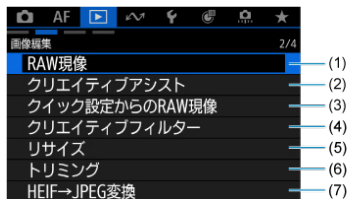
---

### ● ファイル操作



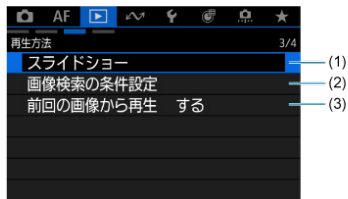
- (1) [画像プロテクト](#)
- (2) [画像消去](#)
- (3) [静止画の回転](#)
- (4) [動画の回転情報の変更](#)
- (5) [レーティング](#)
- (6) [印刷指定](#)

### ● 画像編集



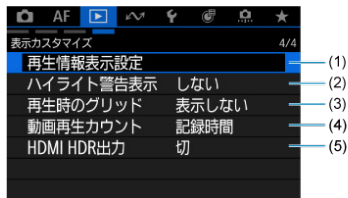
- (1) [RAW現像](#) **応用**
- (2) [クリエイティブアシスト](#)
- (3) [クイック設定からのRAW現像](#) **応用**
- (4) [クリエイティブフィルター](#)
- (5) [リサイズ](#)
- (6) [トリミング](#)
- (7) [HEIF→JPEG変換](#) **応用**

## ● 再生方法



- (1) [スライドショー](#)
- (2) [画像検索の条件設定](#)
- (3) [前回の画像から再生](#)

## ● 表示カスタマイズ



- (1) [再生情報表示設定](#)
- (2) [ハイライト警告表示](#)
- (3) [再生時のグリッド](#)
- (4) [動画再生カウント](#)
- (5) [HDMI HDR出力](#)

# 画像の再生

- [1枚表示](#)
- [撮影情報表示](#)
- [タッチ再生](#)

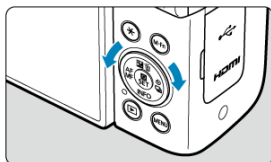
## 1枚表示

### 1. 画像を再生する

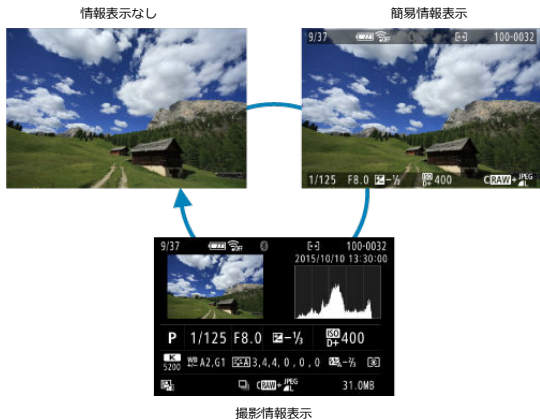


- 〈▶〉 ボタンを押します。
- 最後に撮影した画像、または最後に再生した画像が表示されます。

### 2. 画像を選ぶ



- 〈○〉を左に回すと、最後に撮影した画像から新しい順に画像が表示されます。右に回すと、古い画像から順に新しい画像が表示されます。
- 〈INFO〉ボタンを押すたびに、表示形式が切り換わります。



### 3. 再生を終了する

- 〈▶〉 ボタンを押すと再生が終了し、撮影準備状態に戻ります。

#### 参考

- [📷: 静止画クropp/アスペクト] を [1:1] [4:3] [16:9] に設定して (📏) 撮影したRAW画像は、再生したときに撮影範囲を示す線が表示されます。
- [▶: 画像検索の条件設定] で検索条件が設定されているときは (🔍), 絞り込まれた画像だけが表示されます。

## 撮影情報表示

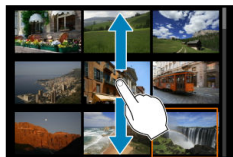
---

撮影情報表示の画面 (📷) が表示されている状態で〈INFO〉ボタンを押すと、表示される情報が切り換わります。なお、表示する情報は、[▶ : 再生情報表示設定] で任意に設定することができます (📷)。

## タッチ再生

カメラのモニターは、タッチ機能を備えています。スマートフォンなどと同じように、指で操作することができます。〈▶〉ボタンを押して画像を再生した状態で操作します。

### 画像送り



### ジャンプ表示



### インデックス表示



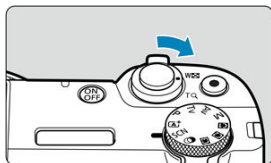
## 拡大表示



### 参考

- 画面を指1本で素早く2回触れても（ダブルタップ）拡大表示ができます。





### 1. 画像を拡大する



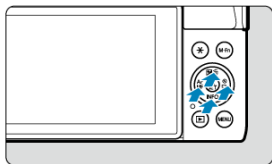
- 画像を再生した状態でズームレバーを〈Q〉側に押します。






(1)

- 拡大表示になります。画面右下に拡大位置 (1) が表示されます。
- ズームレバーを〈Q〉側に押すたびに拡大します。
- ズームレバーを〈〉側に押すたびに縮小します。さらにズームレバーを〈〉側に押すと、インデックス表示 () になります。
- 「**画像消去**」を選ぶと、表示中の画像を消去できます ()。

## 2. 表示位置を移動する

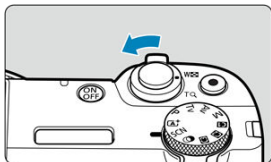


- 〈〉を押した方向に表示位置が移動します。
- 〈〉ボタンを押すか、[MENU ] をタッチすると、拡大表示が終了します。

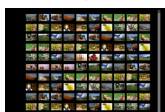
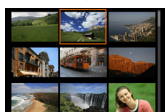
## インデックス表示（複数画像表示）

---

### 1. インデックス表示にする



- 画像を再生した状態でズームレバーを操作します。
- 選択されている画像にオレンジ色の枠が付きます。ズームレバーを〈〉側に押すと、1枚→4枚→9枚→36枚→100枚表示になります。ズームレバーを〈Q〉側に押すと、100枚→36枚→9枚→4枚→1枚表示になります。



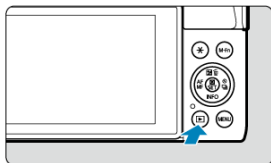
## 2. 画像を選ぶ



- 〈◀▶〉を押してオレンジ色の枠を移動させ、画像を選びます。
- インデックス表示の状態で〈Ⓜ〉を押すと、選んだ画像が1枚表示されます。

# 動画の再生

## 1. 画像を再生する

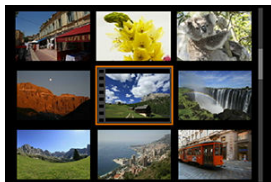


- 〈▶〉 ボタンを押します。

## 2. 動画を選ぶ



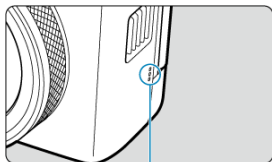
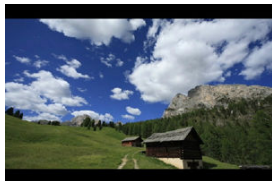
- 〈○〉 を回して再生する動画を選びます。
- 1枚表示のときに、画面左上に [SET] が表示されている画像が動画です。






- インデックス表示のときは、画面左側に縦帯の付いた画像が動画です。インデックス表示からは再生できませんので、〈○〉 を押して1枚表示にします。

### 3. 1枚表示の状態で を押す

### 4. を選ぶ



(1)

- 動画再生が始まります。音がスピーカー（1）から再生されます。
- 再生中に  を押すと、再生が一時停止し、動画再生パネルが表示されます。もう一度押すと再開します。
-   を押すと、再生中でも音量を調整することができます。

## 動画再生パネル



項目	再生内容
◀ 前スキップ	◀ を押すたびに約1秒戻します。◀ を押し続けると早戻しします。
◀◀ フレーム戻し	◀◀ を左に回すたびに1コマ戻します。
▶▶ 再生	▶▶ を押すたびに再生/一時停止を繰り返します。
▶▶▶ フレーム送り	▶▶▶ を右に回すたびに1コマ送ります。
▶▶▶▶ 次スキップ	▶▶▶▶ を押すたびに約1秒送ります。▶▶▶▶ を押し続けると早送りします。
▬	再生位置
hh:mm:ss	再生時間 (hh : 時、mm : 分、ss : 秒 / 【動画再生カウント : 記録時間】 設定時)
hh:mm:ss.ff (DF) hh:mm:ss:ff (NDF)	タイムコード (hh : 時、mm : 分、ss : 秒、ff : フレーム / 【動画再生カウント : タイムコード】 設定時)
🔊 音量	▲ ▼ を押すと、スピーカー (🔊) の音量を調整することができます。
✳️	✳️ ボタンを押すと、次の画面に進みます (🔍)。
MENU ↶	MENU ボタンを押すと、1枚表示に戻ります。



前の画面と異なる項目のみ説明します。

項目	再生内容
編集	編集画面を表示します (🔗)。
スロー再生	を回すとスロー再生の速さを変えることができます。画面右上に速さの割合が表示されます。
フレーム切り出し	4K動画再生時に選択することができます。画面に表示しているフレームを切り出して、静止画 (JPEG画像/HEIF画像) として保存することができます (🔗)。
	ボタンを押すと、前の画面に戻ります。

#### 注意

- カメラをテレビに接続して動画を再生するときは (🔗)、テレビ側で音量の調整を行ってください (◀▶) を押しても音量は変わりません。
- カードの読み取り速度が遅いとき、動画ファイル内のフレームが壊れているときは、動画再生が終了することがあります。

## 動画の前後部分のカット

撮影した動画の前後部分を約1秒単位で削除することができます。

### 1. 動画を再生して一時停止させる



- 動画再生パネルが表示されます。

### 2. <⌂> ボタンを押して、[⌂<] を選ぶ



### 3. 削除する範囲を指定する



- [ ] (前部を削除) か、[ ] (後部を削除) を選びます。



- <◀> <▶> を押すと、フレームが送られます。<⌂> を回すと1フレームずつ送られます。
- 削除する範囲が決まったら、<⊞> を押します。画面下部に線で表示された範囲が残ります。

### 4. 編集内容を確認する



- [▶] を選ぶと、編集した動画が再生されます。
- 削除する範囲を変更するときは、手順3の操作を行います。
- 編集を中止するときは、<MENU> ボタンを押します。

## 5. 保存する



- [ ] (1) を選びます。
- 保存画面が表示されます。
- 別のファイルとして保存するときは [新規保存]、編集前の動画を残さないときは [上書き保存] を選びます。  
[ ] (2) を選ぶと、圧縮して別のファイルで保存します。4K動画はフルHD動画に変換して圧縮されます。
- 確認画面で [OK] を選ぶと、編集した動画が保存され、再生画面に戻ります。

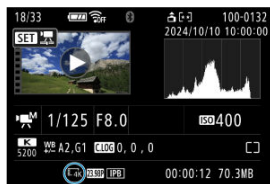
### 注意


- 約1秒単位 (画面下部に [✂] が表示される位置) で削除されるため、実際にカットされる位置が指定した位置と異なることがあります。
- 他のカメラで撮影した動画はこのカメラで編集できません。
- カメラとパソコンを接続しているときは編集できません。
- 下記の動画は、圧縮して新規保存はできません。
  - [📷: HDR撮影(PQ)] を [する] に設定して撮影した動画
  - 動画記録サイズが **FHD 29.97P** (NTSC) / **FHD 25.00P** (PAL) / **FHD 23.98P** (NTSC) の動画
- バッテリーの残量が少ない場合は、動画の圧縮が行われないことがあります。バッテリーを充電してください。

# 4K動画からのフレームの切り出し

4K動画から任意のフレームを選び、静止画（JPEG画像、HEIF画像）として保存することができます。この機能を「フレーム切り出し」といいます。

## 1. 4K動画を選ぶ



- 〈〉を回して選びます。
- 撮影情報表示の画面（）で [4k] と表示されている画像が4K動画です。
- インデックス表示のときは、〈〉を押して1枚表示にします。

## 2. 1枚表示の状態で〈〉を押す

## 3. [] を選ぶ



- 動画再生が始まります。

## 4. 〈〉を押して、動画を一時停止させる

- 動画再生パネルが表示されます。

## 5. 切り出すフレームを選ぶ



- 動画再生パネルを操作して、静止画として切り出したいフレームを選びます。
- 動画再生パネルの操作方法は、[動画再生パネル](#)を参照してください。

## 6. <⌘> ボタンを押して、[ ] を選ぶ



## 7. 保存する



- [OK] を選ぶと、画面に表示されているフレームが静止画 (JPEG画像) として保存されます。  
[📷 : HDR撮影(PQ)] を [する] に設定して撮影した動画からフレームを切り出した場合は、HEIF画像で保存されます。
- 保存先のフォルダと画像番号を確認します。

## 8. 表示する画像を選ぶ

- [元の動画] または [切り出した静止画] を選びます。

### ⚠ 注意

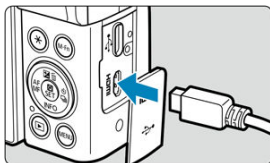
- 下記の4K動画からは、フレームを切り出すことはできません。
  - 他のカメラで撮影した動画
- カメラとパソコンを接続しているときはフレーム切り出しできません。

## テレビで見る

カメラとテレビを市販のHDMIケーブルで接続して、撮影した静止画や動画をテレビで見ることができます。

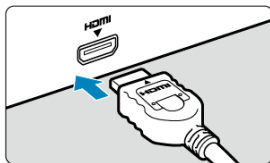
なお、テレビに映像が表示されないときは、[📺：ビデオ方式]の[NTSC][PAL]の設定を確認してください（テレビが対応している方式に合わせてください）。

### 1. HDMIケーブルをカメラに接続する



- HDMIケーブルを、カメラの〈HDMI〉端子に差し込みます。

### 2. テレビにHDMIケーブルを接続する

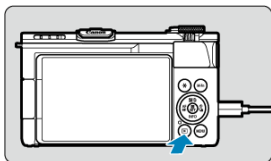


- HDMIケーブルを、テレビのHDMI入力端子に接続します。

### 3. テレビの電源を入れ、テレビの入力切り換えて接続した端子を選ぶ

### 4. カメラの電源を入れる

## 5. <▶> ボタンを押す



- 画像がテレビに表示されます (カメラのモニターには何も表示されません)。
- 接続したテレビに合わせて、自動的に最適な解像度で画像が表示されます。

### ⚠ 注意

- 動画再生時の音量はテレビ側で調整します。カメラ側から音量の調整はできません。
- ケーブルの取り付け/取り外しを行うときは、カメラとテレビの電源を切った状態で行ってください。
- 使用するテレビにより、表示内容の一部が欠けて表示されることがあります。
- 他の機器からの出力をカメラの <HDMI> 端子に入力しないでください。故障の原因になります。
- テレビとの相性により、映像が表示されないことがあります。
- 映像が再生されるまでに時間がかかることがあります。この現象が気になるときは、[🔊 : HDMI出力解像度] を [1080p] に設定してください (🔊)。
- カメラとテレビを接続したときは、画面にタッチして操作することはできません。

## 画像プロテクト

- [1枚ずつプロテクト](#)
- [範囲を指定してプロテクト](#)
- [フォルダ内/カード内全画像プロテクト](#)

大切な画像を誤って消去しないように、プロテクト（保護）することができます。

### 注意

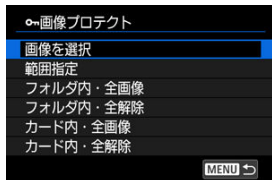
- カードを初期化すると 、プロテクトされた画像も消去されます。

### 参考

- プロテクトした画像は、カメラの消去機能で消去できません。画像を消去するときは、プロテクトを解除してください。
- 必要な画像をプロテクトしてから全画像消去  を行うと、プロテクトした画像以外はすべて消去されます。不要な画像を一度にまとめて消去するときに便利です。

## 1枚ずつプロテクト

1. : 画像プロテクト を選ぶ
2. : 画像を選択 を選ぶ







### 3. プロテクトする画像を選ぶ


- 〈〉を回してプロテクトする画像を選びます。

### 4. プロテクトする



- 〈〉を押すと画像がプロテクトされ、画面の上に [] (1) が表示されます。
- もう一度 〈〉を押すと、プロテクトが解除され [] が消えます。
- 他にプロテクトしたい画像があるときは、手順3、4を繰り返します。

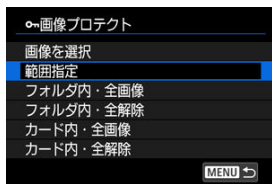
#### 参考

- 画像再生時に 〈〉を押して、クイック設定画面から画像をプロテクトすることができます。

## 範囲を指定してプロテクト

インデックス表示された画像を見ながら、プロテクトする範囲（始点／終点）を指定して、まとめてプロテクトすることができます。

### 1. 【範囲指定】を選ぶ



- [ ] : 画像プロテクト】の【範囲指定】を選びます。

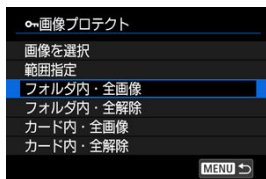
### 2. 範囲を指定する



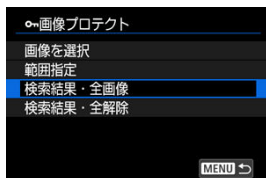
- 始めの画像（始点）を選びます。
- 続けて終わりの画像（終点）を選びます。指定した範囲の画像がプロテクトされ、[ ] が表示されます。
- 他にプロテクトしたい画像があるときは、手順2を繰り返します。

## フォルダ内／カード内全画像プロテクト

フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめてプロテクトすることができます。



- [ ]: 画像プロテクト] で [フォルダ内・全画像] または [カード内・全画像] を選ぶと、その中のすべての画像がプロテクトされます。
- 解除するときは [フォルダ内・全解除] または [カード内・全解除] を選びます。
- [ ]: 画像検索の条件設定] で検索条件が設定されているときは (☑)、表示される内容が [検索結果・全画像] [検索結果・全解除] に変わります。



- [検索結果・全画像] を選ぶと、検索条件で絞り込まれたすべての画像がプロテクトされます。
- [検索結果・全解除] を選ぶと、絞り込まれた画像のプロテクトがすべて解除されます。

## 画像消去


- [1枚ずつ消去](#)
- [チェック \[✓\] を付けてまとめて消去](#)
- [範囲を指定して消去](#)
- [フォルダ内／カード内全画像消去](#)

不要な画像を1枚ずつ選んで消去したり、まとめて消去することができます。なお、プロテクト (🔒) をかけた画像は消去されません。

### ⚠ 注意


- 消去した画像は復元できません。十分に確認してから消去してください。また、大切な画像は、誤って消去しないようプロテクトをかけてください。

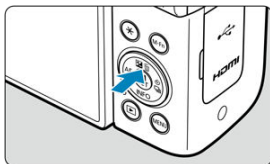
## 1枚ずつ消去

1.  ボタンを押す

2. 消去する画像を選ぶ

-  を回して消去する画像を選びます。

3.  ボタンを押す



## 4. 消去する

JPEG画像／HEIF画像／RAW画像／動画



- 「消去」を選びます。

RAW+JPEG画像／RAW+HEIF画像



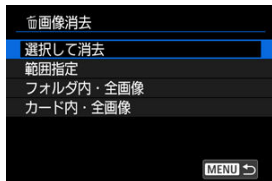
- 項目を選びます。
- ドライブモードを [連] [連H] [連J] に設定して撮影した画像を再生しているときは、「この画像を含む連写画像全てを消去」を選ぶと連続撮影された画像がまとめて消去されます。

## チェック [✓] を付けてまとめて消去

消去したい画像にチェックを付けて、まとめて消去することができます。

### 1. [▶: 画像消去] を選ぶ (Ⓜ)

### 2. [選択して消去] を選ぶ

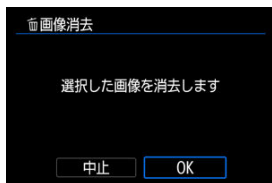


### 3. 画像を選ぶ



- 〈○〉を回して消去する画像を選び、〈Ⓜ〉を押します。
- 他に消去したい画像があるときは、手順3を繰り返します。
- 〈MENU〉ボタンを押します。

## 4. 消去する

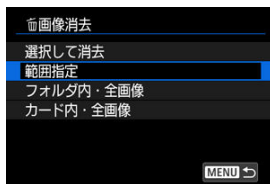


- [OK] を選びます。

## 範囲を指定して消去

インデックス表示された画像を見ながら、消去する範囲（始点／終点）を指定して、まとめて消去することができます。

### 1. [範囲指定] を選ぶ



- [ ] : 画像消去 の [範囲指定] を選びます。

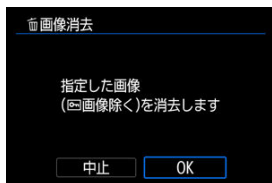
### 2. 範囲を指定する



- 始めの画像（始点）を選びます。
- 続けて終わりの画像（終点）を選びます。始点から終点までの範囲の画像に [✓] が表示されます。
- 他に消去したい画像があるときは、手順2を繰り返します。

### 3. <MENU> ボタンを押す

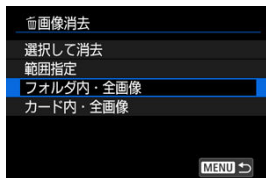
## 4. 消去する



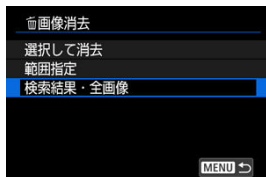
- [OK] を選びます。

## フォルダ内／カード内全画像消去

フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめて消去することができます。



- [ ]: 画像消去] で [フォルダ内・全画像] または [カード内・全画像] を選ぶと、その中のすべての画像が消去されます。
- [ ]: 画像検索の条件設定] で検索条件が設定されているときは (🔍)、表示される内容が [検索結果・全画像] に変わります。



- [検索結果・全画像] を選ぶと、検索条件で絞り込まれたすべての画像が消去されます。

### 📖 参考

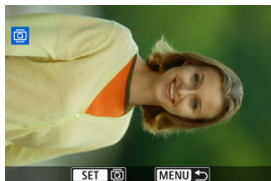
- プロテクトがかけられた画像を含め、すべての画像を消去したいときは、カード初期化を行います (🔄)。

## 静止画の回転

画像が表示される向きを変えたいときは、この方法で回転させることができます。

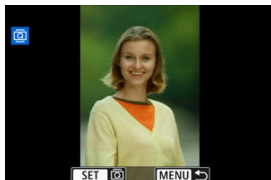
### 1. [ ] : 静止画の回転] を選ぶ ( )

### 2. 回転させる画像を選ぶ



- <img alt="directional pad icon" data-bbox="275 448 315 463"/> を回して画像を選びます。

### 3. 回転させる



- <img alt="OK button icon" data-bbox="275 716 315 731"/> を押すたびに、時計方向に回転 (90°→270°→0°) します。
- 他に回転したい画像があるときは、手順2、3を繰り返します。

#### 参考

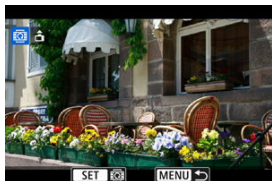
- [ ] : 縦位置画像回転表示] を [する ] ( ) に設定して撮影すると、この機能で画像を回転させる必要がなくなります。
- 回転した画像が再生時に回転した向きで表示されないときは、[ ] : 縦位置画像回転表示] を [する ] に設定します。
- 動画は回転できません。

## 動画の回転情報の変更

動画再生時の回転情報（上の向きの情報）を手動で書き換えることができます。

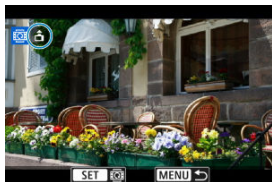
### 1. [▶] : 動画の回転情報の変更] を選ぶ (Ⓢ)

### 2. 動画を選ぶ



- 〈○〉を回して回転情報を変更する動画を選びます。

### 3. 回転情報を変更する



- 画面左上に表示されるカメラと▲を見ながら、〈Ⓢ〉を押して、上の向きを設定します。〈Ⓢ〉を押すたびに [▲] → [▼] → [▶] の順に動画の回転情報が書き換わります。

#### ⚠ 注意

- カメラ、HDMI映像出力先で動画を再生したときは、[📍] : 縦位置情報の付加 (Ⓢ) の設定に関わらず、横位置で再生されます。
- 他のカメラで撮影した動画は、動画の回転情報の書き換えはできません。

# レーティング

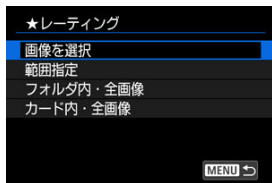
- ☑ [1枚ずつレーティング](#)
- ☑ [範囲を指定してレーティング](#)
- ☑ [フォルダ内/カード内全画像レーティング](#)

撮影した画像に、5種類のお気に入りマーク ([★]/[☆]/[☆☆]/[☆☆☆]/[☆☆☆☆]) を付加することができます。この機能を「レーティング」といいます。

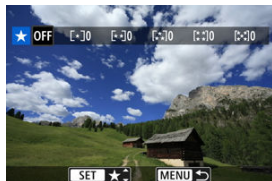
\* レーティングは「評価」や「等級」などの意味です。

## 1枚ずつレーティング

1. [ ] : レーティング] を選ぶ ( )
2. [画像を選択] を選ぶ







3. レーティングする画像を選ぶ



- ( ) を回してレーティングする画像を選びます。

## 4. レーティングを設定する

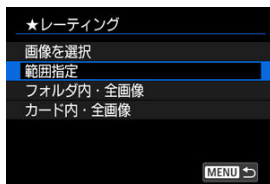


- 〈〉を押すと、図の位置に青い枠が表示されます。
- 〈〉〈〉でお気に入りマークを選び、〈〉を押します。
- お気に入りマークを付けると、そのマークの横にある数値がカウントされます。
- 他にレーティングを行いたい画像があるときは、手順3、4を繰り返します。

## 範囲を指定してレーティング

インデックス表示された画像を見ながら、レーティングする範囲（始点／終点）を指定して、まとめてレーティングすることができます。

### 1. 「範囲指定」を選ぶ



- [ ] : 「レーティング」の「範囲指定」を選びます。

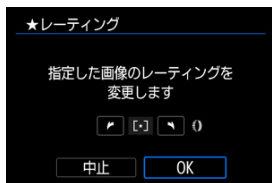
### 2. 範囲を指定する



- 始めの画像（始点）を選びます。
- 続けて終わりの画像（終点）を選びます。始点から終点までの範囲の画像に [✓] が表示されます。
- 他に指定したい画像があるときは、手順2を繰り返します。

### 3. 〈MENU〉 ボタンを押す

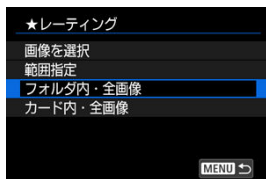
## 4. レーティングを設定する



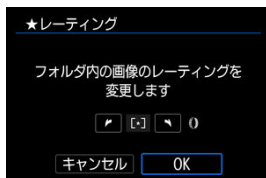
- 〈○〉でお気に入りマークを選び、[OK]を選びます。  
指定した範囲の画像に対して、まとめて（同一の）レーティングが行われます。

## フォルダ内/カード内全画像レーティング

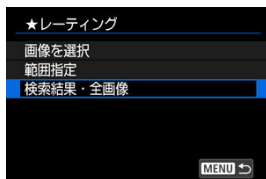
フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめてレーティングすることができます。



- [ ] : レーティング] で [フォルダ内・全画像] または [カード内・全画像] を選ぶと、その中のすべての画像がレーティングされます。



- [ ] (0) でレーティングを選び、[OK] を選びます。
- レーティングを行わないときや、解除するときは [OFF] を選びます。
- [ ] : 画像検索の条件設定] で検索条件が設定されているときは (0), 表示される内容が [検索結果・全画像] に変わります。



- [検索結果・全画像] を選ぶと、検索条件で絞り込まれたすべての画像が、指定した内容でレーティングされます。

## 参考

- お気に入りマークの横に表示される数値が1000（枚）を超えると「###」と表示されます。
- [▶]：画像検索の条件設定 [🔍]：📁での画像送り] で、特定のお気に入りマークを付けた画像だけを表示することができます。

## 印刷指定／DPOF

---

[印刷内容の設定](#)

[印刷する画像の指定](#)


カードに記録されている画像の中から、印刷したい画像と印刷枚数などを指定することができるDPOF (Digital Print Order Format) 機能に対応しています。複数の画像を一度に印刷したいときや、写真店に印刷注文する際に使います。

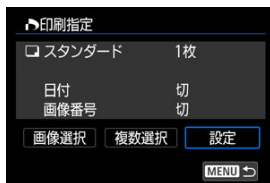
印刷タイプや日付、画像番号の入／切といった印刷内容の設定を行います。この設定は、印刷指定したすべての画像に対して、一律に適用されます（1画像ごとに別々の設定はできません）。

---

### 印刷内容の設定




---

1.  : 印刷指定] を選ぶ (☑)
2. [設定] を選ぶ

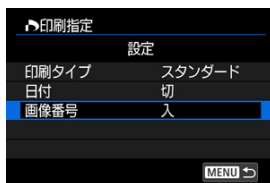


### 3. 項目の内容を設定する

- [印刷タイプ] [日付] [画像番号] の内容を設定します。

印刷タイプ		スタンダード	用紙1枚に1画像を印刷します。
		インデックス	用紙1枚に縮小画像を複数印刷します。
		両方	スタンダードとインデックスの両方を印刷します。
日付	入	[入] にすると、撮影画像に記録されている日付情報を入れて印刷します。	
	切		
画像番号	入	[入] にすると、画像番号を付けて印刷します。	
	切		

### 4. 設定を終了する

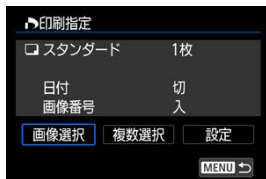


- 〈MENU〉 ボタンを押します。
- 次に印刷指定画面の [画像選択] [複数選択] で、印刷する画像を指定します。

## ⓘ 注意

- 画像サイズが大きい画像を [インデックス] [両方] の設定で印刷すると (☑)、プリンターにより、インデックス印刷が行われないことがあります。そのときは、画像をリサイズしてから (☑) インデックス印刷を行ってください。
- [日付] [画像番号] を [入] にしても、印刷タイプの設定やプリンターにより、印刷されないことがあります。
- [インデックス] に設定したときは、[日付] と [画像番号] を同時に [入] にできません。
- 印刷するときは、印刷指定を行ったカードを使用してください。画像データだけをカードから抜き出して印刷すると、指定した内容で印刷できません。
- DPOFに対応したプリンターの機種や、写真店の機器により、指定内容が反映されないことがあります。プリンターの場合は、プリンターの使用説明書を参照してください。写真店の場合は、事前にお店に確認してください。
- 他のカメラで印刷指定した画像を、このカメラに入れて再度印刷指定しないでください。印刷指定されている内容が、意図せずすべて書き換えられることがあります。また、画像の種類により、印刷指定できないことがあります。

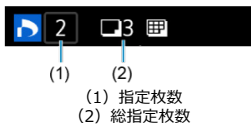
### 画像選択






画像を1枚ずつ選んで指定します。

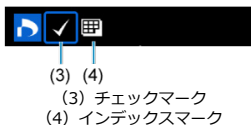
〈MENU〉ボタンを押すと、指定した内容がカードに保存されます。

#### ● スタンダード／両方



〈〉を押すと、表示されている画像が1枚印刷指定されます。続けて〈〉〈〉を押すと、枚数を最大99枚に設定することができます。

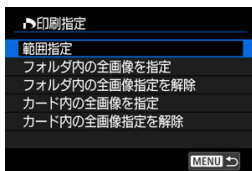
#### ● インデックス



〈〉を押して [✓] を付けた画像が、インデックス印刷用の画像として指定されます。

## 複数選択

### ● 範囲指定



[**複数選択**] の [**範囲指定**] を選びます。始めの画像（始点）と終わりの画像（終点）を選ぶと、始点から終点までの範囲の画像に [✓] が表示され、1画像1枚で印刷指定されます。

### ● フォルダ内の全画像

[**フォルダ内の全画像を指定**] を選び、フォルダを選択すると、フォルダ内のすべての画像が、1画像1枚で印刷指定されます。

[**フォルダ内の全画像指定を解除**] を選び、フォルダを選択すると、フォルダ内の印刷指定がすべて解除されます。

### ● カード内の全画像

[**カード内の全画像を指定**] を選ぶと、カードに記録されているすべての画像が、1画像1枚で印刷指定されます。

[**カード内の全画像指定を解除**] を選ぶと、カード内の印刷指定がすべて解除されます。

[**▶**] : **画像検索の条件設定** で検索条件が設定されているときは (☑)、[**複数選択**] を選んだときに、表示される内容が [**検索結果の全画像を指定**] [**検索結果の全画像の指定解除**] に変わります。

### ● 検索結果の全画像

[**検索結果の全画像を指定**] を選ぶと、検索条件で絞り込まれたすべての画像が、1画像1枚で印刷指定されます。

[**検索結果の全画像の指定解除**] を選ぶと、絞り込まれた画像の印刷指定がすべて解除されます。

#### ⚠ 注意

- RAW/HEIF画像と動画は印刷指定できません。また、[**複数選択**] でまとめて印刷指定を行っても、RAW/HEIF画像と動画は指定されません。

[拡大表示](#)

[アスペクト比を設定した画像の現像](#)

[現像処理の項目](#)

**RAW**または**CRAW**で撮影した画像をカメラで現像して、JPEG画像やHEIF画像を作ることができます。RAW画像はそのままなので、条件を変えて現像したJPEG画像やHEIF画像を作ることができます。

RAW画像はEOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalで現像処理を行うこともできます。

**!** 注意

- 拡張ISO感度（H）で撮影した**RAW**、**CRAW**はHEIFに現像できません。

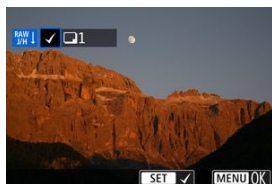
## 1. : RAW現像] を選ぶ (🔗)

## 2. 項目を選び、画像を選択する



- RAW現像を行う画像をまとめて選択（指定）することができます。

### 画像を選択



- 〈〉を回して現像する画像を選び、〈〉を押します。
- 〈MENU〉ボタンを押します。

### 範囲指定



- 最初の画像（始点）を選びます。
- 続けて終わりの画像（終点）を選びます。始点から終点までの範囲の画像に〔✓〕が表示されます。
- 他に現像したい画像があるときは、この手順を繰り返します。
- 〈MENU〉ボタンを押します。

### 3. 現像条件を設定する

#### 撮影時の設定で現像

- 撮影を行ったときの画像設定の条件で現像されます。
- [📷 : HDR撮影(PQ)] を [する] に設定して撮影した画像はHEIFに、  
[しない] に設定して撮影した画像はJPEGに現像されます。

#### 細かく設定してJPEGに現像／細かく設定してHEIFに現像



- <⬅️> で項目を選びます。
- <🌀> <🕒> を回すと、設定が切り換わります。
- <🔍> を押すと、機能の設定画面が表示されます。
- <👉> ボタンを押すと、確認画面が表示され、[OK] を選ぶと設定内容がリセットされます。

#### 比較画面について

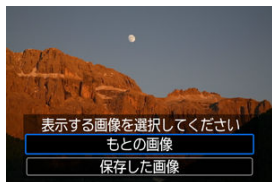
- <✖️> ボタンを押して <🕒> を回すと、[変更後] と [撮影時設定] を切り換えることができます。
- [変更後] のときは、撮影時の設定から変更した項目がオレンジ色で表示されます。
- <MENU> ボタンを押すと、現像条件の設定画面に戻ります。

## 4. 保存する



- [細かく設定してJPEGに現像] [細かく設定してHEIFに現像] のときは [⌘] (保存) を選びます。
- 内容を確認し、[OK] を選びます。
- 他に現像したい画像があるときは [はい] を選びます。

## 5. 表示する画像を選ぶ



- [もとの画像] または [保存した画像] を選びます。
- 選択した画像が表示されます。

## 拡大表示

---

〔細かく設定してJPEGに現像〕〔細かく設定してHEIFに現像〕を選んだあと、表示された画面でズームレバーを〈Q〉側に押すと、画像を拡大することができます。〈⬇️⬆️〉で拡大表示位置を変えることができます。


ズームレバーを〈⬆️⬇️〉側に押すと、拡大表示が終了します。

## アスペクト比を設定した画像の現像


---

[📷 : 静止画ク롭/アスペクト] (🔘) を [1:1 (アスペクト)] [4:3 (アスペクト)] [16:9 (アスペクト)] に設定して撮影したRAW画像を現像したときは、設定したアスペクト比のJPEG画像やHEIF画像が作られます。


## 現像処理の項目

-  ±0 明るさ補正

1/3段ステップ±1段の範囲で明るさを補正することができます。

-  ホワイトバランス (🔗)

ホワイトバランスを選ぶことができます。[AWB]を選んだときは、[オート(雰囲気優先)] [オート(ホワイト優先)]を選ぶことができます。[K]を選んだときは、色温度を設定することができます。

-  ピクチャースタイル (🔗)

ピクチャースタイルを選ぶことができます。シャープネス、コントラストなどの調整を行うことができます。

\* [細かく設定してHEIFに現像] 設定時は [A] [1] [2] [3] は選択できません。

-  ±0 明瞭度 (🔗)

明瞭度を、-4~+4の範囲で変更することができます。

\* [細かく設定してHEIFに現像] 設定時は選択できません。

-  オートライティング最適マイザ (🔗)

オートライティング最適マイザの内容を設定します。

-  高感度撮影時のノイズ低減 (🔗)

ノイズ低減処理の内容を設定することができます。効果が分かりにくいときは、拡大表示 (🔗) で確認してください。

-  記録画質 (🔗)

JPEG画像、HEIF画像は生成する際の記録画質を設定することができます。

-  sRGB 色空間 (🔗)

sRGBとAdobe RGBが選択できます。カメラのモニターはAdobe RGBに対応していないため、どちらを選んでも画像の見えかたはほとんど変わりません。

\* [細かく設定してHEIFに現像] 設定時は [HDR PQ] が表示されますが、選択はできません。

⚠ 注意

- カメラで行うRAW現像の結果と、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalで行うRAW現像の結果は、完全には同じにはなりません。
- **[明るさ補正]**を行ったときは、補正効果とともにノイズや縞などが強調されることがあります。

# クリエイティブアシスト

---

RAW画像を現像して、好みの効果をつけたJPEG画像を作成することができます。

---

1. [ ]: クリエイティブアシスト] を選ぶ ( )


2. 画像を選ぶ




- < ) を回して現像する画像を選び、< ) を押します。

### 3. 効果を選ぶ






- 〈〉で効果を選びます。



- [プリセット] を選んで 〈〉を押すと、[VIVID] や [SOFT] など、用意された設定から効果を選ぶことができます。なお、[AUTO1] [AUTO2] [AUTO3] は、画像の状態からカメラが判断したおすすめの効果です。



- [明るさ] [コントラスト] などは、〈〉を押して 〈〉で効果を選びます。
- 調整が終了したら 〈〉を押します。



- **【リセット】** を押すと、確認画面が表示され、**【OK】** を選ぶと設定内容がリセットされます。
- **〈＊〉** ボタンを押して効果を確定します。

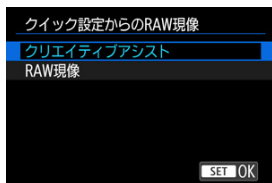
#### 4. **【OK】** を選んで保存する



クイック設定画面から行うRAW現像の種類を選ぶことができます。

1. [▶: クイック設定からのRAW現像] を選ぶ (🔗)

2. 項目を選ぶ



● クリエイティブアシスト



好みの効果を付けたRAW現像ができます (🔗)。

● RAW現像



条件を設定したRAW現像ができます (🔗)。

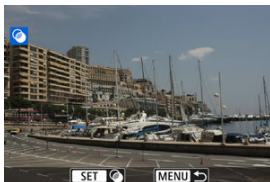
# 再生時クリエイティブフィルター

## ☑ 各クリエイティブフィルターの特徴

撮影した静止画に、ラフモノクロ/ソフトフォーカス/魚眼風/油彩風/水彩風/トイカメラ風/ジオラマ風のフィルター処理を行い、別画像として保存することができます。

1. [▶]: クリエイティブフィルター] を選ぶ (☑)

2. 画像を選ぶ



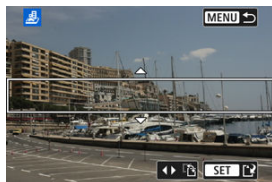
- ◀(⦿) を回して画像を選び、◀(⦿) を押します。
- タッチ再生で、インデックス表示にして選ぶことができます (☑)。

3. フィルター効果を選ぶ (☑)



- ◀(⦿) で効果を選び、◀(⦿) を押します。

## 4. フィルター効果を調整する



- フィルター効果を調整し、**[SET]** を押します。
- **[ジオラマ風]** は、はっきり見せたい部分（白枠）を移動させることができます。
  - **[ZOOM]** をタッチすると、ジオラマ枠の縦／横を切り換えることができます。また、ジオラマ枠が横向きの場合は **[LEFT]** **[RIGHT]**、縦向きの場合は **[UP]** **[DOWN]** を押しても、ジオラマ枠の縦／横を切り換えることができます。
  - **[CIRCLE]** または **[DIAMOND]** で、ジオラマ枠が移動します。
  - **[SET]** を押すと、ジオラマ枠の位置が確定します。

## 5. 保存する



- **[OK]** を選びます。
- 表示される保存先のフォルダと画像番号を確認して **[OK]** を選びます。
- 他にフィルター処理を行いたい画像があるときは、手順2～5を繰り返します。

 参考

- RAW画像は選択できません。なお、RAW + JPEGで撮影した画像は、JPEG画像を使ってフィルター処理を行い、保存します。
- タイムラプス動画の試し撮りの静止画には、再生時クリエイティブフィルターは適用できません。

## 各クリエイティブフィルターの特徴

### ● ラフモノクロ

ざらついた感じの白黒写真になります。コントラストを調整することで、白黒の感じを変えることができます。

### ● ソフトフォーカス

やわらかい感じの写真になります。ぼかし具合を調整することで、やわらかさの感じを変えることができます。

### ● 魚眼風

魚眼レンズで撮影したような効果が得られます。タル型にゆがんだ写真になります。なお、フィルター効果のレベルによって、画像周辺のカットされる領域が変わります。また、フィルター効果により画面中央が拡大されるため、記録画素数によっては、画面中央の解像感が低下することがありますので、手順4でフィルター効果が反映された画像を確認しながら設定してください。

### ● 油彩風

油絵のような写真で、被写体の立体感が強調されます。効果を調整することで、コントラストや彩度を変えることができます。なお、空や白壁のようなシーンのグラデーションが滑らかに再現されなかったり、ムラやノイズが発生することがあります。

### ● 水彩風

水彩画のような写真で、やわらかい感じの色になります。効果を調整することで、色の濃度を変えることができます。なお、夜景や暗い撮影シーンのグラデーションが滑らかに再現されなかったり、ムラやノイズが発生することがあります。

### ● トイカメラ風

トイカメラ（おもちゃのカメラ）で撮影したような独特の色調で、画面の四隅が暗い写真になります。色調によって、色の感じを変えることができます。

### ● ジオラマ風

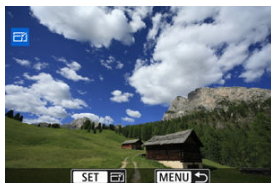
ジオラマ（ミニチュア模型）風の写真になります。はっきり見せたい部分（ジオラマ枠）を移動する場合は手順4 (📍) を参照してください。

# JPEG/HEIF画像のリサイズ

撮影したJPEG画像、HEIF画像の画素数を少なくして、別画像として保存することができます。リサイズは、**S2**以外の**L**、**M**、**S1**のJPEG/HEIF（RAW+JPEG/RAW+HEIFも含む）で撮影した画像で行うことができます。**S2**、RAWで撮影した画像や4K動画から切り出した画像は、リサイズできません。

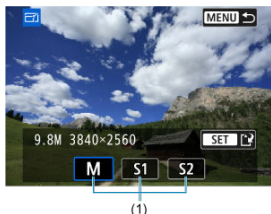
## 1. [ ] : リサイズ] を選ぶ ( )

## 2. 画像を選ぶ



- ( ) を回してリサイズする画像を選びます。

## 3. 画像サイズを選ぶ



- ( ) を押すと、画像サイズが表示されます。
- リサイズする画像サイズ (1) を選びます。

## 4. 保存する



- [OK] を選ぶと、リサイズされた画像が保存されます。
- 保存先のフォルダと画像番号を確認して [OK] を選びます。
- 他にリサイズしたい画像があるときは、手順2~4を繰り返します。

## JPEG/HEIF画像のトリミング

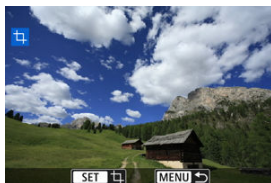
---

撮影したJPEG画像、HEIF画像を部分的に切り抜いて、別画像として保存することができます。RAWで撮影した画像や、4K動画から切り出した画像は、トリミングできません。

---

1. [ ] : トリミング] を選ぶ ( )

2. 画像を選ぶ



- ( ) を回してトリミングする画像を選びます。
- ( ) を押すと、トリミング枠が表示されます。

### 3. トリミング枠の設定を行う



- 枠で囲まれた範囲が切り抜かれます。
- **枠の大きさを変える**  
ズームレバーを〈Q〉側に押すと、枠の大きさが変わります。枠を小さくするほど拡大してトリミングされます。
- **傾きを補正する**  
±10°の範囲で傾きを補正することができます。〈⊙〉を回して [⊞] を選び、〈⊞〉を押します。画面に表示されるグリッドで傾きを確認しながら、〈⊙〉を回す (0.1°単位)、または画面左上に表示された左右の矢印にタッチして (0.5°単位)、傾きを補正します。補正が終わったら 〈⊞〉を押します。
- **枠のアスペクト比と縦横を変える**  
〈⊙〉を回して [⊞] を選びます。〈⊞〉を押すたびに、枠のアスペクト比が変わります。
- **枠を移動する**  
〈▲〉〈▼〉〈◀〉〈▶〉を押すと、枠が上下左右に移動します。




### 4. トリミング範囲を確認する



- 〈⊙〉を回して [⊞] を選び、〈⊞〉を押します。トリミングされる範囲が表示されます。

## 5. 保存する



- 〈〉を回して [] を選び、〈〉を押します。
- [**OK**] を選ぶと、トリミングされた画像が保存されます。
- 保存先のフォルダと画像番号を確認して [**OK**] を選びます。
- 他にトリミングしたい画像があるときは、手順2～5を繰り返します。

### 注意

- 傾き補正の角度によっては、トリミング枠の位置や大きさが変わることがあります。
- トリミング保存した画像を再度トリミングしたり、リサイズすることはできません。

HDR設定で撮影したHEIF画像を、JPEG画像に変換して保存することができます。

- [1枚ずつ変換](#)
- [範囲を指定して変換](#)

#### ⚠ 注意

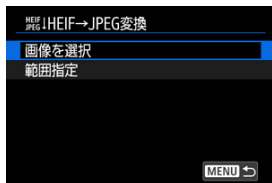
- シーンによっては、元画像と変換した画像を比べたときに、印象が異なることがあります。
- トリミング保存した画像、4K動画からフレーム切り出した画像は変換できません。

#### 📖 参考

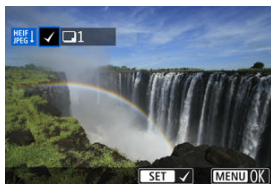
- JPEGに変換したことがあるHEIF画像は、[JPEG↓]が表示されます。



## 1枚ずつ変換

1. [▶ : HEIF→JPEG変換] を選ぶ (🔗)
2. [画像を選択] を選ぶ



### 3. 画像を選ぶ



- 〈〉を回してJPEGに変換するHEIF画像を選び、〈〉を押します。
- 他に指定したい画像があるときは、手順3を繰り返します。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、JPEGに変換処理されます。

### 4. 保存する



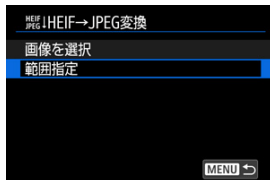
- [OK] を選ぶと、JPEG画像が保存されます。
- 他に交換したい画像があるときは [はい] を選びます。

### 5. 表示する画像を選択する

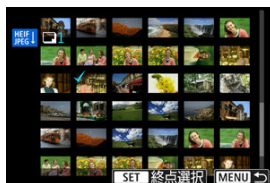


- [もとの画像] または [保存した画像] を選びます。
- 選択した画像が表示されます。

### 1. [範囲指定] を選ぶ



### 2. 範囲を指定する



- 最初の画像（始点）を選びます。
- 続けて終わりの画像（終点）を選びます。始点から終点までの範囲の画像に [✓] が表示されます。
- 他に指定したい画像があるときは、手順2を繰り返します。

### 3. 〈MENU〉 ボタンを押す

## 4. 保存する



- [OK] を選ぶと、JPEG画像が保存されます。
- 他に交換したい画像があるときは [[はい]] を選びます。

## 5. 表示する画像を選択する



- [もとの画像] または [保存した画像] を選びます。
- 選択した画像が表示されます。

# スライドショー

---

カードに記録されている画像を自動で連続再生することができます。

---

## 1. 再生する画像を指定する

- カード内の全画像を再生するときは、手順2に進みます。
- スライドショーで再生する画像を指定したいときは、[▶: 画像検索の条件設定] で絞り込みます (🔍)。

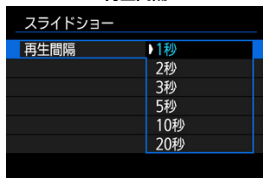
## 2. [▶: スライドショー] を選ぶ (🔍)

## 3. 再生内容を設定する

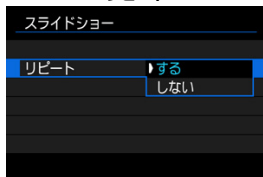


- [設定] を選びます。

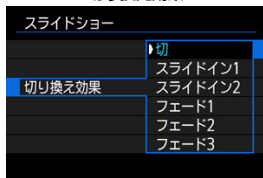
### 再生間隔



### リピート



### 切り換え効果



- 静止画の [再生間隔] と [リピート] (繰り返し再生)、[切り換え効果] (画像を切り換える際の演出効果) を設定します。
- 設定が終わったら、〈MENU〉ボタンを押します。

## 4. スライドショーを開始する



- [スタート] を選びます。
- [画像読み込み中...] が表示されたあと、スライドショーが始まります。

## 5. スライドショーを終了する

- 〈MENU〉 ボタンを押すと、スライドショーが終了し、設定画面に戻ります。

### 参考

- 一時停止したいときは〈⏸〉を押します。一時停止中は画面左上に [||] が表示されます。再度〈⏸〉を押すと再開します。
- 静止画を自動再生しているときに〈INFO〉ボタンを押すと、表示形式を切り換えることができます (📷)。
- 動画再生中に〈▲〉〈▼〉を押すと、音量を調整することができます。
- 自動再生中、または一時停止中に〈⏪〉を回すと、画像が切り換わります。
- 自動再生中にオートパワーオフは機能しません。
- 画像により表示時間が異なることがあります。

## 画像検索の条件設定

### 検索条件の解除

再生する画像を条件で絞り込むことができます。検索条件を設定して画像を再生すると、条件に該当する画像だけが表示されます。なお、画像の絞り込みを行った状態で、プロテクト、レーティング、スライドショー、消去などを行うこともできます。

1. [▶] : 画像検索の条件設定] を選ぶ (🔍)
2. 検索条件を設定する



(1)

- <⌚> を回して項目を選びます。
- <◀> <▶> で内容を設定します。
- 項目の左端に [✓] (1) が付きます (検索条件として指定されます)。
- 項目を選び <🔍> を押すと、[✓] が消えます (指定が解除されます)。
- 設定が終わったら、<MENU> ボタンを押します。

項目	内容
★ レーティング	選択した (レーティング) 条件の画像を表示します。
🕒 日付	選択した撮影日の画像を表示します。
📁 フォルダ	選択したフォルダ内にある画像を表示します。
🔒 プロテクト	選択した (プロテクト) 条件の画像を表示します。
📁 ファイルの種類1	選択した種類の画像ファイルを表示します。
📁 ファイルの種類2	選択した種類の画像ファイルを表示します。

### 3. 検索条件を確定する



- 表示されるメッセージを確認し、[OK] を選びます。検索条件が設定されます。

### 4. 検索した画像を表示する




(2)

- <▶> ボタンを押します。  
検索条件に該当する（絞り込まれた）画像だけが再生されます。  
絞り込まれた状態で画像が表示されているときは、画面の外側に黄色い枠（2）が付きます。

#### ⚠ 注意

- 設定した検索条件に該当する画像がないときは、手順2で <⏹> を押せません。

## 参考

- 電源やカード、画像編集、画像の追加や削除などに関連した操作を行うと、検索条件の設定が解除されることがあります。
-  : **画像検索の条件設定** の画面を表示しているときは、オートパワーオフまでの時間が延長されることがあります。

## 検索条件の解除

---

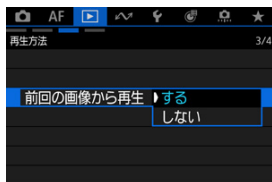
手順2の画面で **(✖)** ボタンを押すと、すべての検索条件が解除されます。

## 前回の画像から再生

---

1. [▶: 前回の画像から再生] を選ぶ (🔗)

2. 項目を選ぶ



- [する] を選んで画像を再生すると、前回再生したときに最後に表示されていた画像が最初に表示されます（撮影を行ったときを除く）。
- [しない] を選んで電源を入れ直すと、最新の画像が最初に表示されま



## 再生する情報の設定

---

### [ヒストグラム](#)




画像の再生時に表示する画面と、表示する内容（情報）を任意に設定することができます。

---

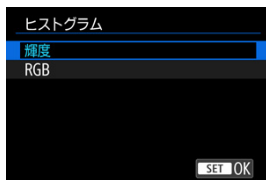
1.  : 再生情報表示設定] を選ぶ (  )

2. 表示する画面の番号に [✓] を付ける



-  を回して番号を選びます。
-  を押すと [✓] が外れます。もう一度押すと、[✓] が付きます。
- この手順を繰り返して、表示する画面の番号に [✓] を付け、[OK] を選びます。
- 画像を再生して、 ボタンを押したときに、設定した内容が表示されます。

## ヒストグラム



ヒストグラムは、各階調の信号量を表示するものです。露出レベルの傾向と全体の階調を確認できる輝度表示と、色の飽和と階調を確認できるRGB表示があります。[▶]:再生情報表示設定]の画面の左下に[✱]が表示されているときに、<✱>ボタンを押すと、表示するヒストグラムを切り換えることができます。

## ● 【輝度】 表示

このヒストグラムは、横軸に明るさ（左：暗、右：明）、縦軸に明るさごとの画素数を積み上げたグラフで、画像の輝度分布を表しています。画面の中の「暗い成分」ほどグラフの左寄りに積み上げられ、「明るい成分」ほどグラフの右寄りに積み上げられて表示されます。横軸の左端に積み上げられた成分は黒くつぶれ、右端に積み上げられた成分は白くとびます（ハイライト）。その他の成分は階調が再現されます。再生画像とそのヒストグラムを見ることで、露出レベルの傾向と全体の階調を確認することができます。

ヒストグラム例



暗い成分が多い



普通の明るさ



明るい成分が多い

## ● 【RGB】 表示

このヒストグラムは、横軸に色の明るさ（左：暗、右：明）、縦軸に色の明るさごとの画素数を積み上げたグラフで、R（赤）／G（緑）／B（青）別に色の輝度分布を表しています。画面の中の「暗く薄い色」ほどグラフの左寄りに積み上げられ、「明るく濃い色」ほどグラフの右寄りに積み上げられます。横軸の左端に積み上げられた成分は色の情報がなく、右端に積み上げられた色は飽和して階調がありません。RGBのヒストグラムを見ることで、色の飽和と階調の状態や、ホワイトバランスの傾向を確認することができます。

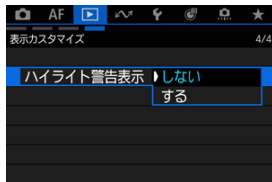
# ハイライト警告表示

---

再生画面に、露出オーバーで白とびした部分を点滅表示することができます。階調を再現させたい部分が点滅しているときは、露出をマイナス補正して、もう一度撮影すると良い結果が得られます。

---

1. [▶]: ハイライト警告表示] を選ぶ (📷)
2. [する] を選ぶ

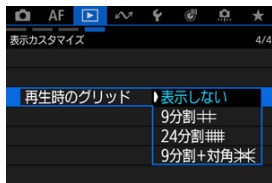


## 再生時のグリッド

静止画を1枚表示するときに、再生画像に重ねてグリッド（格子線）を表示することができます。撮影画像の水平／垂直の傾きや、構図を確認するときに便利です。

1. [再生時のグリッド] を選ぶ (☑)

2. 項目を選ぶ



### 参考

- パノラマ画像を表示するとき、[再生時のグリッド] を [表示しない] 以外に設定している場合は、水平線1本と垂直線1本のグリッドを表示します。

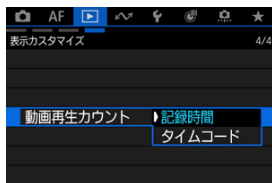


# 動画再生カウント

動画再生画面に表示する内容を選ぶことができます。

1. [▶: 動画再生カウント] を選ぶ (🔗)

2. 項目を選ぶ



## ● 記録時間

動画再生時に撮影時間または再生時間が表示されます。



## ● タイムコード

動画再生時にタイムコードが表示されます。



## 参考

- タイムコードは、[動画記録カウント] の設定に関わらず、動画ファイルに常時記録されます（ハイフレームレート動画 + [フリーラン] 設定時を除く）。
- [📷: タイムコード] の [動画再生カウント] と [▶: 動画再生カウント] は、設定が連動して切り換わります。
- 動画撮影時、および動画再生中は、「フレーム」は表示されません。

## HDMI HDR出力

---

HDR対応テレビにカメラをつないで、RAW画像やHEIF画像をHDR表示で見ることができます。

---

1. [ ] : HDMI HDR出力] を選ぶ ( )
2. [入] を選ぶ



### 参考

- HDR対応テレビの設定が、HDR入力になっていることを確認してください。お使いになるテレビの入力の切り換え方法は、テレビの使用説明書を参照してください。
- お使いのテレビによっては、思いどおりの効果で表示されないことがあります。
- HDRテレビに表示しているときは、一部の情報が表示されないことがあります。

この章では、通信機能を使用した画像の送信や、リモート撮影などを行う方法について説明しています。

### ⚠ 注意

#### 必ずお読みください

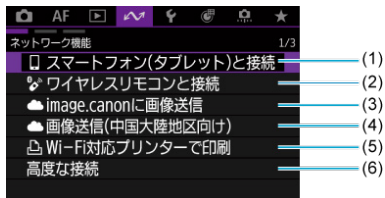
- このカメラを使用するために、誤った無線通信の設定を行った結果生じた損害に対して、弊社では補償できませんので、あらかじめご了承ください。また、このカメラを使用した結果生じた損害に対しても、弊社では補償できませんので、併せてご了承ください。  
無線通信機能を使用する際には、お客様の責任と判断で必要なセキュリティーを設定してご使用ください。不正侵入等によって生じた損害に対して、弊社では補償できませんので、あらかじめご了承ください。
- 本機は電気通信事業者の通信回線に直接接続することができません。本機をインターネットに接続する場合は、必ずルーター等を経由し接続してください。

- [メニュー目次：通信機能タブ](#)
- [スマートフォン（タブレット）と接続](#)
- [ワイヤレスリモコンと接続](#)
- [image.canonに画像送信](#)
- [画像送信\(中国大陸地区向け\)](#)
- [ライブ配信](#)
- [プリンターとWi-Fi接続](#)
- [通信機能の基本設定](#)
- [2回目以降のWi-Fi/Bluetooth接続](#)
- [接続先の機器の編集／削除](#)
- [機内モード](#)
- [Wi-Fi設定](#)
- [Bluetooth設定](#)
- [カメラの名前](#)
- [GPSの設定](#)
- [エラー内容の表示](#)
- [エラー表示の対応](#)
- [USB接続アプリの選択](#)
- [通信の設定初期化](#)
- [仮想キーボードの操作方法](#)
- [無線通信機能での注意事項](#)
- [セキュリティーについて](#)
- [ネットワークの設定を確認する](#)

- [無線通信機能の接続状態](#)

## メニュー目次：通信機能タブ（静止画撮影）

### ● ネットワーク機能



- (1) [スマートフォン\(タブレット\)と接続](#)
- (2) [ワイヤレスリモコンと接続](#)
- (3) [image.canonに画像送信](#)
- (4) [画像送信\(中国大陸地区向け\)](#)
- (5) [Wi-Fi対応プリンターで印刷](#)
- (6) [高度な接続](#)

#### ⓘ 注意

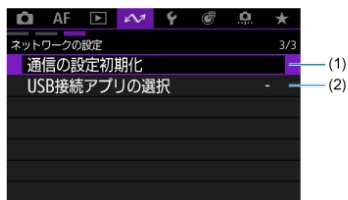
- 中国大陸地区にお住まいの方は、[ワイヤレスリモコンと接続]を、中国大陸地区以外にお住まいの方は、[ワイヤレスリモコンと接続]をimage.canonに画像送信を選んでください。

## ● ネットワーク機能



- (1) [機内モード](#)
- (2) [Wi-Fi設定](#)
- (3) [Bluetooth設定](#)
- (4) [カメラの名前](#)
- (5) [GPSの設定](#)
- (6) [エラー内容の表示](#)

## ● ネットワークの設定



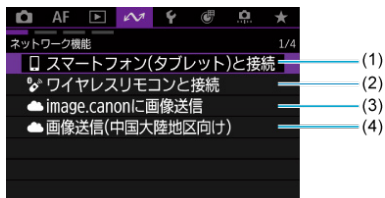
- (1) [通信の設定初期化](#)
- (2) [USB接続アプリの選択](#)

### ⚠ 注意

- インターフェースケーブルでカメラとパソコンなどを接続しているときは、設定できないメニュー項目があります。
- Wi-Fi接続中は、カメラのオートパワーオフ機能は働きません。

## メニュー目次：通信機能タブ（動画撮影）

### ● ネットワーク機能



- (1) [スマートフォン\(タブレット\)と接続](#)
- (2) [ワイヤレスリモコンと接続](#)
- (3) [image.canonに画像送信](#)
- (4) [画像送信\(中国大陸地区向け\)](#)

#### ⓘ 注意

- 中国大陸地区にお住まいの方は、[ネットワーク機能]：[画像送信(中国大陸地区向け)] を、中国大陸地区以外にお住まいの方は、[ネットワーク機能]：[image.canonに画像送信] を選んでください。

### ● ネットワーク機能



- (1) [ライブ配信](#)
- (2) [Live Switcher Mobileで配信](#)
- (3) [Wi-Fi対応プリンターで印刷](#)
- (4) [高度な接続](#)

## ● ネットワーク機能



- (1) [機内モード](#)
- (2) [Wi-Fi設定](#)
- (3) [Bluetooth設定](#)
- (4) [カメラの名前](#)
- (5) [GPSの設定](#)
- (6) [エラー内容の表示](#)

## ● ネットワークの設定



- (1) [通信の設定初期化](#)
- (2) [USB接続アプリの選択](#)

### ⚠ 注意

- インターフェースケーブルでカメラとパソコンなどを接続しているときは、設定できないメニュー項目があります。
- Wi-Fi接続中は、カメラのオートパワーオフ機能は働きません。

## スマートフォン（タブレット）と接続

---

- ☑ [スマートフォンの準備](#)
- ☑ [Bluetooth機能を使ってスマートフォンとWi-Fi接続する](#)
- ☑ [Camera Connectの主な機能](#)
- ☑ [電源オフ中のカメラとのWi-Fi接続](#)
- ☑ [\[高度な接続\] で接続する](#)
- ☑ [撮影時にスマートフォンへ自動転送](#)
- ☑ [カメラからスマートフォンへ画像を送信](#)

カメラとスマートフォンをBluetooth接続して、以下のことができます。

- スマートフォンのみの操作によるWi-Fi接続 (☑)
- 電源オフ中のカメラとのWi-Fi接続 (☑)
- スマートフォンで取得した位置情報の画像への付加 (☑)
- スマートフォンをリモコンにしたカメラの操作 (☑)

また、カメラとスマートフォンをWi-Fi接続して、以下のことができます。

- スマートフォンでのカメラ内の画像の閲覧および保存 (☑)
- スマートフォンでのカメラのリモート操作 (☑)
- カメラからスマートフォンへの画像の送信 (☑)

---

### 参考

- Bluetoothを使わず、スマートフォンと高度なWi-Fi接続をすることもできます (☑)

### スマートフォンのBluetooth機能とWi-Fi機能をONにする

スマートフォンの設定画面で、Bluetooth機能とWi-Fi機能をONにしておきます。なお、スマートフォンのBluetooth機能設定画面では、カメラとのペアリングはできません。

### スマートフォンにCamera Connectをインストールする

AndroidまたはiOSがインストールされたスマートフォンに、専用アプリケーションのCamera Connect（無料）をインストールします。

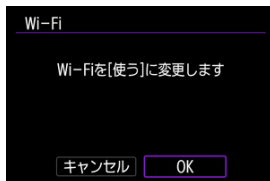
- スマートフォンのOSは、最新のバージョンをお使いください。
- Camera Connectは、Google PlayまたはApp Storeからインストールすることができます。Google PlayまたはApp Storeは、スマートフォンとのペアリング時やWi-Fi接続時に表示されるQRコードからもアクセスできます。

#### 参考

- Camera Connectが対応しているOSのバージョンについては、Camera Connectのダウンロードサイトでご確認ください。
- カメラのファームウェアアップデートやCamera Connect、Android、iOSなどのバージョンアップにより、本書の記載と実際の画面例などが異なることがあります。

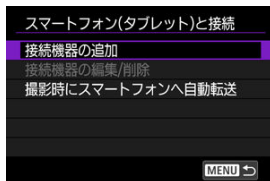
## Bluetooth機能を使ってスマートフォンとWi-Fi接続する

1. [Wi-Fi: スマートフォン(タブレット)と接続] を選ぶ (☑)
2. [OK] を選ぶ



- すでに [Wi-Fi設定] が [使う] になっているときは、この画面は表示されません。

3. [接続機器の追加] を選ぶ



- 撮影時にスマートフォンへ画像を自動転送するときは、[撮影時にスマートフォンへ自動転送] を設定します (☑)。

## 4. [OK] を選ぶ

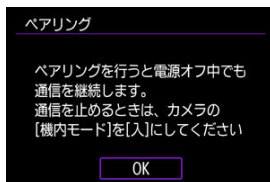


- すでに [Bluetooth設定] が [使う] になっているときは、この画面は表示されません。

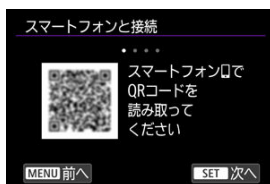




- すでに他の機器とBluetooth接続されているときは、メッセージが表示されます。[OK] を選ぶと、現在のBluetooth接続が切断されます。

## 5. <Ⓜ> を押す



## 6. ペアリングを開始する



- 〈〉を押してペアリングを開始します。
- Camera Connectのインストールが済んでいないときは、画面のQRコードをスマートフォンで読み取り、Google PlayまたはApp StoreにアクセスしてCamera Connectをインストールしてから、〈〉を押してペアリングを開始します。

## 7. Camera Connectを起動する


- アプリの指示に従って、ペアリングするカメラを選びます。

## 8. Bluetooth接続を確立する




- スマートフォンにメッセージが表示されたら、スマートフォンを操作します。

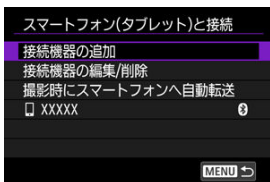


- 〈〉を押します。

## 9. 接続を完了する



- 〈〉を押します。



- 接続した機器の名前が表示されます。

### ⚠ 注意

- 2台以上の機器と同時にBluetooth接続することはできません。Bluetooth接続するスマートフォンを切り換えるときは、[2回目以降のWi-Fi/Bluetooth接続](#)を参照してください。
- Bluetooth接続中は、カメラの電源を切った状態、あるいはオートパワーオフの状態でもバッテリーを消費するため、カメラを使用するときにバッテリーの残量が少なくなっていることがあります。

### ペアリングできないとき

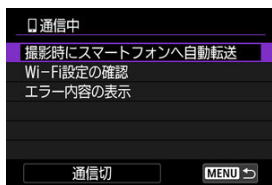
- スマートフォン側に、前回ペアリングしたときのカメラの登録が残っていると、ペアリングすることができません。スマートフォンのBluetooth設定画面で、前回ペアリングしたカメラの登録を解除してから、ペアリングをやり直してください。

## 10. Camera Connectの機能をタッチする

- Camera Connectの機能については[Camera Connectの主な機能](#)を参照してください。
- Camera Connectの機能をタッチすると、Wi-Fi接続が開始されます。

## 11. Wi-Fi接続完了を確認する

- Wi-Fi接続が完了すると、カメラの画面が撮影待機状態に切り換わります。
- [Wi-Fi] : [スマートフォン(タブレット)と接続] を選ぶと、カメラのモニターに [通信中] 画面が表示されます (図)。

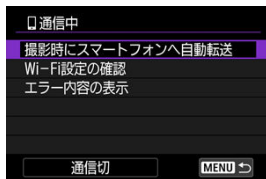


- Wi-Fi接続できないときは、カメラの [セキュリティ] を [WPA2] に設定してください (図)。

これでスマートフォンとのWi-Fi接続は完了です。

- Wi-Fi接続を終了するときは、[通信中] 画面で [通信切] を選びます。
- Wi-Fi接続を終了するとBluetooth接続に切り換わります。
- 再接続するときは、Camera Connectを起動し、使用したい機能をタッチします。

## 【通信中】画面について



- **撮影時にスマートフォンへ自動転送**  
撮影した画像をスマートフォンに自動送信することができます (📷)。
- **Wi-Fi設定の確認**  
Wi-Fi接続の設定内容を確認できます。
- **エラー内容の表示**  
Wi-Fi接続でエラーが発生したときに、エラー内容を確認できます (📷)。
- **通信切**  
Wi-Fi接続を終了します。

### カメラ内の画像一覧

- 画像の閲覧、削除、レーティングを行うことができます。
- スマートフォンに画像を保存することができます。
- RAW画像に効果を付けてスマートフォンに保存することができます ([クリエイティブアシスト](#))。

### リモートライブビュー撮影

- スマートフォンでライブビュー映像を見ながらリモート撮影することができます。

### 撮影自動転送

- 撮影画像の自動送信時 (☑) のカメラやアプリケーションの設定を変更することができます。

### Bluetoothリモートコントローラー

- Bluetooth接続中のスマートフォンをリモコンにして、カメラの操作を行うことができます。なお、Wi-Fi接続中は使用できません。
- Bluetoothリモートコントローラーの使用中は、カメラのオートパワーオフ機能は働きません。

### カメラ設定



- カメラの設定を変更することができます。

#### 参考

- ほかの機能については、Camera Connectのメイン画面から確認することができます。

## 電源オフ中のカメラとのWi-Fi接続

カメラとスマートフォンがBluetooth接続中であれば、カメラの電源が切れている状態でも、スマートフォンを操作し、カメラ内の画像の閲覧などができます。

電源オフ中にカメラとのWi-Fi/Bluetooth接続を行いたくないときは、[ : 機内モード] を [入] に設定するか、[ : Bluetooth設定] を [使わない] に設定してください。



### 注意

- 無線通信の設定を初期化したり、スマートフォンの接続情報を消去すると、本機能は使用できなくなります。

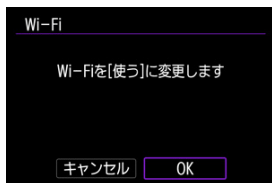
## 【高度な接続】で接続する

カメラとスマートフォンを直接Wi-Fi接続して、Camera Connectでカメラを操作することができます。

### スマートフォン(タブレット)と接続

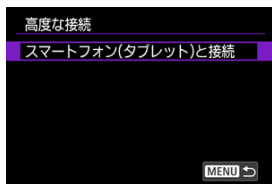
1. [高度な接続] を選ぶ (🔗)

2. [OK] を選ぶ

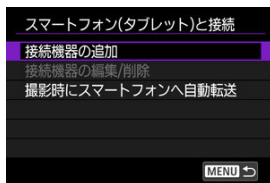


- すでに [高度な接続: Wi-Fi設定] が [使う] になっているときは、この画面は表示されません。

3. [スマートフォン(タブレット)と接続] を選ぶ



#### 4. [接続機器の追加] を選ぶ

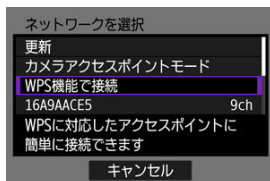


#### 5. アクセスポイントの検索を開始する



- スマートフォンにCamera Connectをインストール済みのおときは、**☑**を押して検索を開始します。
- Camera Connectのインストールが済んでいないときは、画面のQRコードをスマートフォンで読み取り、Google PlayまたはApp StoreにアクセスしてCamera Connectをインストールしてから、**☑**を押して検索を開始します。

#### 6. Wi-Fi接続する



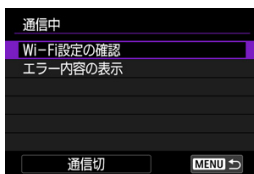
- 通信機能の設定については、[通信機能の基本設定](#)を参照してください。

7. Camera Connectを起動して、カメラ名をタッチする

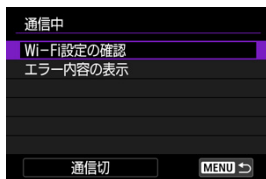
8. [OK] を選ぶ



- カメラのモニターに [通信中] 画面が表示されます (📶)。



## 【通信中】画面について



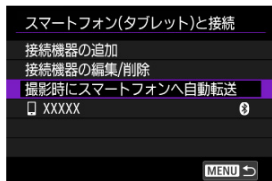
- **Wi-Fi設定の確認**  
Wi-Fi接続の設定内容を確認できます。
- **エラー内容の表示**  
Wi-Fi接続でエラーが発生したときに、エラー内容を確認できます (🔗)。
- **通信切**  
Wi-Fi接続を終了します。

## 撮影時にスマートフォンへ自動転送

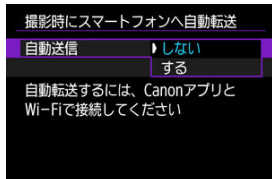
撮影しながらスマートフォンに画像を自動送信することができます。カメラとスマートフォンのWi-Fi接続を終了してから行います。

1. [Wi-Fi: □スマートフォン(タブレット)と接続] を選ぶ (📶)

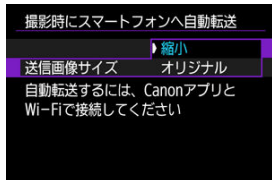
2. [撮影時にスマートフォンへ自動転送] を選ぶ



3. [自動送信] で [する] を選ぶ



4. [送信画像サイズ] を設定する



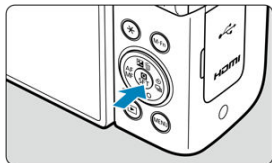
## カメラからスマートフォンへ画像を送信

カメラとスマートフォンがWi-Fi接続された状態で、カメラを操作してスマートフォンへ画像を送信することができます。

### 1. 画像を再生する



### 2. <M/AF-ON>を押す






### 3. [スマートフォンへ画像を送信]を選ぶ



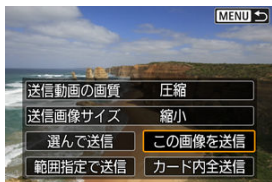
- Bluetooth接続中にこの操作を行ったときは、Wi-Fi接続を促すメッセージが表示されます。<M/AF-ON>を押した後、Camera Connectの機能をタッチしてWi-Fi接続された状態にしてから、もう一度手順1からやり直してください。

## 4. 画像を選ぶ



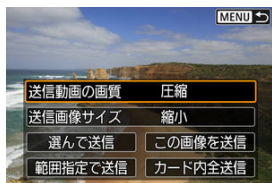
- 〈〉を回して送信する画像を選び、〈〉を押します。
- タッチ再生で、インデックス表示にして選ぶことができます ()。

## 5. 〈〉を押す



## 送信動画の画質を設定する

### 1. [送信動画の画質] を選ぶ



- 送信する動画の画質を選ぶことができます。

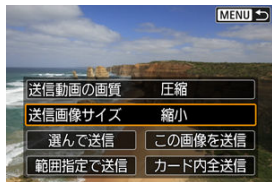


#### 参考

- 複数動画を送信するときは、送信前の確認画面でも[送信動画の画質]を変更できます。
- 動画を圧縮するときは、同時に送信する動画がすべて圧縮されます。ただし、下記の動画は圧縮されません。
  - 動画記録サイズが **FHD 29.97P** (NTSC) / **FHD 25.00P** (PAL) / **FHD 23.98P** (NTSC) の動画

## 送信画像のサイズを設定する

### 1. [送信画像サイズ] を選ぶ



- 送信する画像サイズを選ぶことができます。

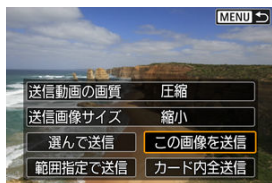



#### 参考

- 複数画像を送信するときは、送信前の確認画面でも [送信画像サイズ] を変更できます。
- 静止画を縮小するときは、同時に送信する静止画がすべて縮小されます。ただし、S2サイズの静止画は縮小されません。

## 表示中の画像を送信する

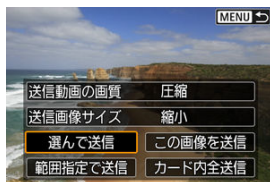
### 1. 「この画像を送信」を選ぶ



- 「この画像を送信」を選んだ状態で  を押すと、すぐに画像が送信されます。




## 画像を選んで送信する

### 1. 「選んで送信」を選ぶ



### 2. 送信する画像を選ぶ

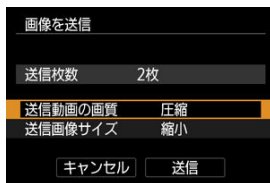


- 〈〉を回して送信する画像を選び、〈〉を押します。
- ズームレバーを〈〉側に押すと、3枚表示にして選ぶことができます。1枚表示に戻すときは、ズームレバーを〈Q〉側に押します。

### 3. 〈MENU〉ボタンを押す

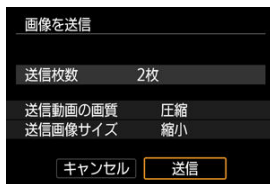
- メッセージが表示されたら、[OK] を選びます。

## 4. 項目を選ぶ



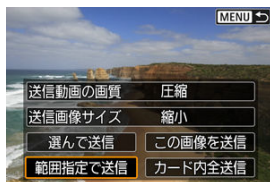
- [送信動画の画質] (📷) および [送信画像サイズ] (📷) を変更することができます。

## 5. [送信] を選ぶ



## 範囲を選んで送信する

### 1. 「範囲指定で送信」を選ぶ



### 2. 範囲を指定する

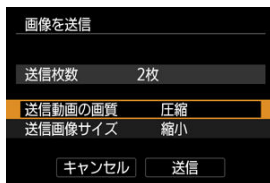


- 始めの画像（始点）を選びます。
- 続けて終わりの画像（終点）を選びます。始点から終点までの範囲の画像に [✓] が表示されます。
- 指定を解除するときは、この操作を繰り返します。
- ズームレバーを操作すると、インデックス表示の枚数を変えることができます (Ⓞ)。

### 3. 〈MENU〉 ボタンを押す

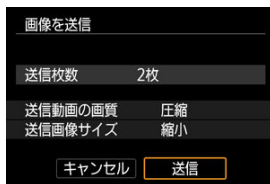
- メッセージが表示されたら、[OK] を選びます。

## 4. 項目を選ぶ



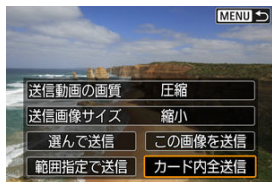
- [送信動画の画質] (👉) および [送信画像サイズ] (👉) を変更することができます。

## 5. [送信] を選ぶ

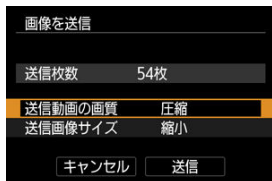


## カード内の画像をすべて送信する

### 1. [カード内全送信] を選ぶ

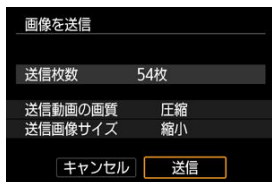


### 2. 項目を選ぶ



- [送信動画の画質] (🔗) および [送信画像サイズ] (🔗) を変更することができます。

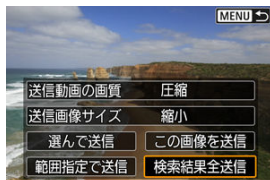
### 3. [送信] を選ぶ



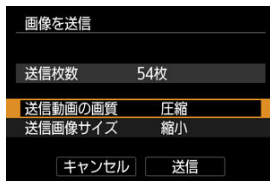
## 検索された画像を送信する

[▶]: 画像検索の条件設定] で検索条件が設定された画像をまとめて送信します。[▶]: 画像検索の条件設定] については、[画像検索の条件設定](#)を参照してください。

### 1. [検索結果全送信] を選ぶ

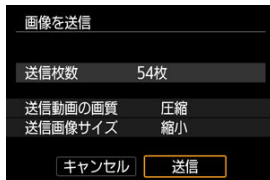


### 2. 項目を選ぶ



- [送信動画の画質] (🔍) および [送信画像サイズ] (🔍) を変更することができます。

### 3. [送信] を選ぶ



## 画像の送信の終了



- 画像の送信画面で〈MENU〉ボタンを押します。
- Wi-Fi接続を終了するときは、[通信中]画面で[通信切]を選びます。

### ⚠ 注意

- 画像送信の操作中は、カメラのシャッターボタンを押しても撮影できません。

### 📖 参考

- 画像の送信中に[キャンセル]を選ぶと、送信をキャンセルすることができます。
- 一度に999ファイルまで選択できます。
- Wi-Fi接続中は、スマートフォンの節電機能をオフにしておくことをおすすめします。
- カメラの電源にバッテリーを使用するときは、フル充電してから使用してください。

## ワイヤレスリモコンと接続

---

[接続情報の削除](#)

[接続情報を使って再接続する](#)

ワイヤレスリモートコントローラー（別売/)とBluetooth接続して、ワイヤレスでリモコン撮影することができます。

---


1. [: ワイヤレスリモコンと接続] を選ぶ ()

2. [接続機器の追加] を選ぶ



### 3. [OK] を選ぶ

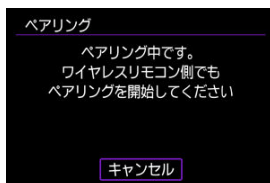



- すでに [  : Bluetooth設定 ] が [ 使う ] になっているときは、この画面は表示されません。



- すでに他の機器とBluetooth接続されているときは、メッセージが表示されます。[OK] を選ぶと、現在のBluetooth接続が切断されます。

### 4. ペアリングする



- 上記の画面が表示されたら、ワイヤレスリモートコントローラーの〈1〉ボタンと〈2〉ボタン（または〈W〉ボタンと〈T〉ボタン）を同時に3秒以上押します。
- 「\*\*\*\*（ワイヤレスリモートコントローラーの個別名称）と接続しました」が表示されたら、〈  〉を押します。



## 5. リモコン撮影できるように設定する

- このあとの操作は、ワイヤレスリモートコントローラーの使用説明書を参照してください。

### 注意

- カメラがオートパワーオフのときも、Bluetooth接続中はカメラのバッテリーが消耗します。

### 参考

- Bluetooth機能を使わないときは、[ : Bluetooth設定] を [使わない] に設定することをおすすめします ( )。

## 接続情報の削除

接続情報を削除することができます。Bluetooth接続中のワイヤレスリモートコントローラーはペアリングが解除されます。

1. [ワイヤレスリモコンと接続] を選ぶ (🔗)
2. [接続情報の削除] を選ぶ



3. [OK] を選ぶ



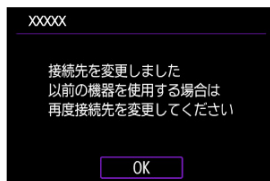
## 接続情報を使って再接続する

他の機器とBluetooth接続しているとき、接続情報を使って再接続できます。

1. [ワイヤレスリモコンと接続] を選ぶ (Ⓜ)
2. 機器を選ぶ



3. <Ⓜ> を押す

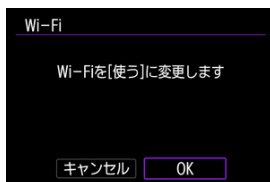


## image.canonに画像送信

カメラをimage.canonに接続して、カメラから直接画像を送信します。

- インターネットに接続できるスマートフォンおよびブラウザが必要です。
- image.canonのサービスの使い方、対応している国/地域などは image.canon サイト (<https://image.canon/>) を確認してください。
- プロバイダーとの接続料金、およびプロバイダーのアクセスポイントへの通信料金は、別途かかります。

1. [Wi-Fi : image.canonに画像送信] を選ぶ (📶)
2. [OK] を選ぶ



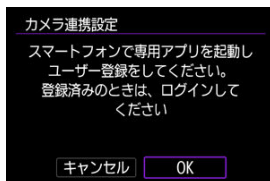
- すでに [Wi-Fi設定] が [使う] になっているときは、この画面は表示されません。

3. [接続] を選ぶ



- 専用アプリのインストールが済んでいない場合は、[インストール] を選んでください。

#### 4. [OK] を選ぶ

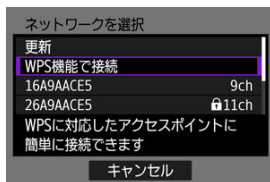


#### 5. 専用アプリでQRコードを読み取る



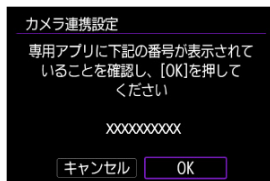
- [OK] を選びます。

#### 6. Wi-Fi接続する



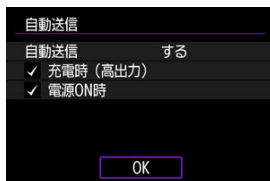
- 通信機能の設定については、[通信機能の基本設定](#)を参照してください。


#### 7. 専用アプリに番号が表示されていることを確認する



- [OK] を選びます。


## 8. 自動送信を設定する



- [充電時（高出力）] は、カメラの電源がオフの状態では、USB接続をして充電を行うとき、自動送信を開始します。なお、バッテリーの残量が少なければ、しばらく充電した後、自動送信を開始します。
- [電源ON時] は、カメラの電源を入れたとき、自動送信を開始します。
- [OK] を選択し、を押します。

## 9. 設定を完了する



- を押します。

### 参考

- [  ] が [  ] になります。



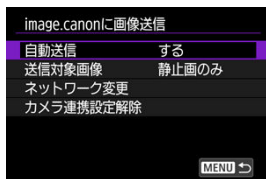
## 10. 専用アプリを確認する

- 専用アプリに機種名が登録されていることを確認します。

 **参考**

- 送信された画像は、オリジナルの画像サイズで30日間、容量無制限でimage.canonに保管されます。

## [image.canonに画像送信] 画面について



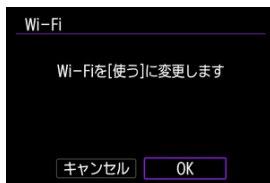
- **自動送信**  
自動送信の設定を変更できます。
- **送信対象画像**  
送信する画像の対象を選ぶことができます。
- **ネットワーク変更**  
Wi-Fi接続の設定を変更できます。
- **カメラ連携設定解除**  
カメラ連携の設定を解除できます。

## 画像送信(中国大陸地区向け)

中国大陸地区にお住まいのお客様は、Canon Photo Upload Serviceに対応したネットワークサービスに静止画や動画を送信することができます。

- インターネットに接続できるスマートフォンおよびブラウザが必要です。
- Canon Photo Upload Serviceの使い方、対応している国/地域などは、Canon Photo Upload Serviceのサイト (<http://ciu.canon.com.cn/>) を確認してください。
- プロバイダーとの接続料金、およびプロバイダーのアクセスポイントへの通信料金は、別途かかります。

1. [Wi-Fi : 画像送信(中国大陸地区向け)] を選ぶ (☑)
2. [OK] を選ぶ



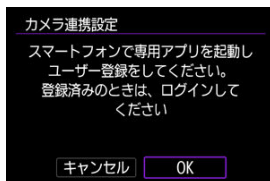
- すでに [Wi-Fi設定] が [使う] になっているときは、この画面は表示されません。

3. [接続] を選ぶ



- 専用アプリのインストールが済んでいない場合は、[インストール] を選んでください。

#### 4. [OK] を選ぶ

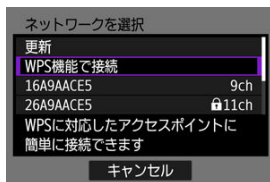


#### 5. 専用アプリでQRコードを読み取る



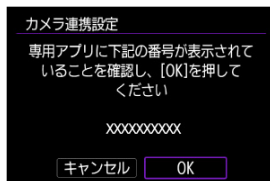
- [OK] を選びます。

#### 6. Wi-Fi接続する



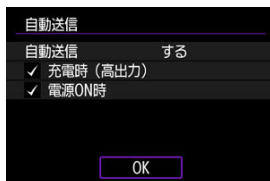
- 通信機能の設定については、[通信機能の基本設定](#)を参照してください。


#### 7. 専用アプリに番号が表示されていることを確認する



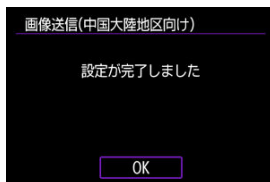
- [OK] を選びます。


## 8. 自動送信を設定する



- [充電時 (高出力)] は、カメラの電源がオフの状態、USB接続をして充電を行うとき、自動送信を開始します。なお、バッテリーの残量が少なければ、しばらく充電した後、自動送信を開始します。
- [電源ON時] は、カメラの電源を入れたとき、自動送信を開始します。
- [OK] を選択し、を押します。

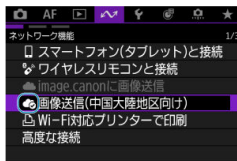
## 9. 設定を完了する



- を押します。

### 参考

- [] が [] になります。



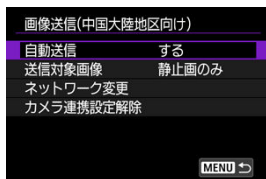
## 10. 専用アプリを確認する

- 専用アプリに機種名が登録されていることを確認します。

 参考

- 送信された画像は、オリジナルの画像サイズで45日間、容量無制限でCanon Photo Upload Serviceに保管されます。

## 【画像送信(中国大陸地区向け)】画面について



- **自動送信**  
自動送信の設定を変更できます。
- **送信対象画像**  
送信する画像の対象を選ぶことができます。
- **ネットワーク変更**  
Wi-Fi接続の設定を変更できます。
- **カメラ連携設定解除**  
カメラ連携の設定を解除できます。

## ライブ配信

---

☑ [カメラとスマートフォンをBluetooth接続する](#)

☑ [ライブ配信の設定](#)

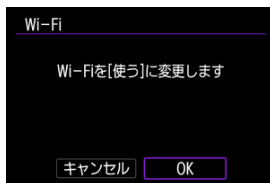
カメラから映像をストリーミングでライブ配信することができます。  
あらかじめ、配信先のサービスの、ライブ配信に必要な要件や利用規約を確認してください。

---

### カメラとスマートフォンをBluetooth接続する

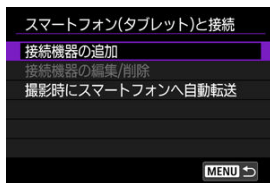
---

1. スマートフォンを準備する (📱)
2. [📶: 📱スマートフォン(タブレット)と接続] を選ぶ (📱)
3. [OK] を選ぶ



- すでに [📶: Wi-Fi設定] が [使う] になっているときは、この画面は表示されません。

#### 4. [接続機器の追加] を選ぶ

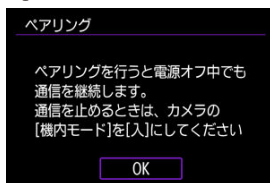


#### 5. [OK] を選ぶ





- すでにBluetooth設定が【使う】になっているときは、この画面は表示されません。

#### 6. <Ⓜ>を押す



## 7. ペアリングを開始する




- 〈〉を押してペアリングを開始します。
- Camera Connectのインストールが済んでいないときは、画面のQRコードをスマートフォンで読み取り、Google PlayまたはApp StoreにアクセスしてCamera Connectをインストールしてから、〈〉を押してペアリングを開始します。

## 8. Camera Connectを起動する

- アプリケーションの指示に従って、ペアリングするカメラを選びます。


## 9. Bluetooth接続を確立する

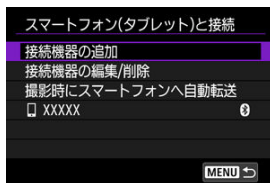


- 〈〉を押します。

## 10. 接続を完了する

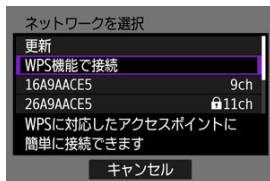


- 〈〉を押します。
- スマートフォンにメッセージが表示されたら、スマートフォンを操作します。



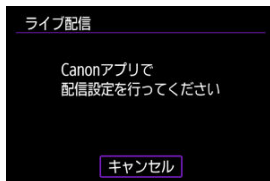
- 接続した機器の名前が表示されます。
- 〈MENU〉ボタンを押します。

1. 動画撮影にする (📷)
2. [📺: 📺ライブ配信] を選ぶ (📺)
3. Wi-Fi接続する



- 通信機能の設定については、[通信機能の基本設定](#)を参照してください。

4. Camera Connectで配信設定を行う



- 利用したいライブ配信プラットフォームを選択し、設定します。
- 配信先を選択する画面で、配信先のURLを入力することができます。
- 通信環境に応じて、配信画質を設定します。

## 5. 配信する

- 撮影待機画面に、[STBY] が表示されます。
- ライブ配信の開始と終了は、Camera Connectで行います。カメラの動画撮影ボタンでも配信を開始または終了することができます。

### ⚠ 注意

- ライブ配信のときは、通信環境によって映像および音声にノイズが発生することがあります。そのため、事前にテスト撮影を行い、映像および音声を確認してから撮影することをおすすめします。
- 映像および音声にノイズや途切れが発生する場合、以下をお試しください。改善することがあります。
  - カメラとアクセスポイント（無線ルーター、テザリングスマートフォンなど）の距離を近づける、配置を変更する、人や遮蔽物が間に入らないよう設置する
  - 室内で使用する場合、アクセスポイントとカメラは同じ部屋に設置する
  - 2.4GHz帯の周波数を使用する電子レンジやコードレス電話機などの機器から離して設置する
- 外部マイク使用時にノイズが気になるときは、外部マイクを外部マイク入力端子側に配置して、できるだけカメラから遠ざけてください。
- Camera Connectで、3.5Mbpsの配信画質を選択すると、通信環境によっては6Mbpsより安定した動画配信ができますが、画質は低下します。
- ライブ配信のときは、カメラが高温になります。手持ち撮影せず、スタンドや三脚を使用するなどしてください。
- 第三者が提供するサービスについて、キヤノンはいかなる責任も負いかねます。あらかじめご了承ください。
- ライブ配信のときは、カードに映像は記録されません（ただしカメラにカードを入れておく必要があります）。
- ライブ配信のときは、事前にテスト配信を行い、映像の表示方向や傾きを確認して、カメラの姿勢を調整してください。
- [無線通信機能での注意事項](#)をお読みください。

## Live Switcher Mobileで配信

---

[カメラとスマートフォンをWi-Fi 接続する](#)

[接続機器の編集／削除](#)

[接続情報を使って再接続する](#)

スマートフォンとWi-Fi接続し、Live Switcher Mobileを使ってライブ配信するときを選びます。

あらかじめ、配信先のサービスの、ライブ配信に必要な要件や利用規約を確認してください。

---

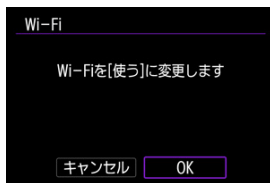
### カメラとスマートフォンをWi-Fi 接続する

---

1. 動画撮影にする (📷)

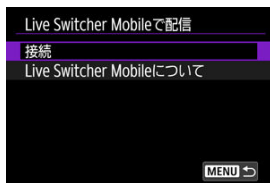
2. [📷] :  Live Switcher Mobileで配信 を選ぶ (📷)

3. [OK] を選ぶ



- すでに [📷] : **Wi-Fi設定** が [使う] になっているときは、この画面は表示されません。

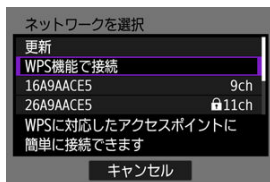
#### 4. 【接続】を選ぶ



#### 5. 【接続機器の追加】を選ぶ

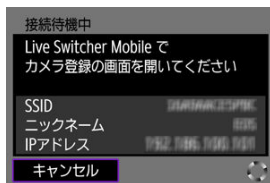


#### 6. 通信機能を設定する



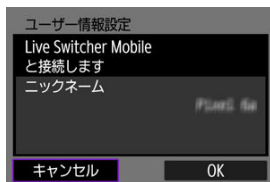
- 通信機能の設定については、[通信機能の基本設定](#)を参照してください。

## 7. SSIDを確認する



- Live Switcher Mobileで、接続するカメラを選択します。

## 8. [OK] を選ぶ



## 9. Live Switcher Mobileで配信設定を行う

## ⓘ 注意

- 長時間カメラを使用するときは、USB給電または家庭用電源アクセサリ（別売）の使用をおすすめします。
- 給電中もバッテリー残量が減ることがあります。撮影中にバッテリー残量が不足しないよう、フル充電したバッテリーを使用してください。
- ライブ配信のときは、通信環境によって映像および音声にノイズが発生することがあります。そのため、事前にテスト撮影を行い、映像および音声を確認してから撮影することをおすすめします。
- 映像及び音声にノイズや途切れが発生する場合、以下をお試しください。改善することがあります。
  - カメラとアクセスポイント（無線ルーター、テザリングスマートフォンなど）の距離を近づける、配置を変更する、人や遮蔽物が間に入らないよう設置する
  - 室内で使用する場合、アクセスポイントとカメラは同じ部屋に設置する
  - 2.4GHz帯の周波数を使用する電子レンジやコードレス電話機などの機器から離して設置する
- 外部マイク使用時にノイズが気になるときは、外部マイクを外部マイク入力端子側に配置して、できるだけカメラから遠ざけてください。
- ライブ配信のときは、カメラが高温になります。手持ち撮影せず、スタンドや三脚を使用するなどしてください。
- ライブ配信のときは、カードに映像は記録されません。
- 第三者が提供するサービスについて、キヤノンはいかなる責任も負いかねます。あらかじめご了承ください。
- ライブ配信のときは、事前にテスト配信を行い、映像の表示方向や傾きを確認して、カメラの姿勢を調整してください。
- [無線通信機能での注意事項](#)をお読みください。

1. [📶: □Live Switcher Mobileで配信] を選ぶ (🔗)

2. [接続] を選ぶ



3. [接続機器の編集/削除] を選ぶ



4. 接続機器を選ぶ



## 5. 項目を選ぶ



### ニックネームの変更

ニックネーム（接続機器の名前）を変更することができます。

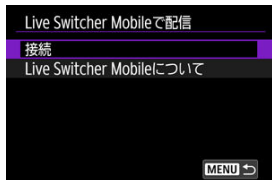
### 接続情報の削除

接続情報を削除することができます。

## 接続情報を使って再接続する

接続情報を使って再接続できます。

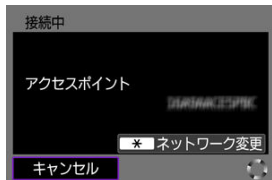
1. [📶] : [Live Switcher Mobileで配信] を選ぶ (🔗)
2. [接続] を選ぶ



3. 機器を選ぶ



4. アクセスポイントを確認する



- ネットワークを変更する場合は、〈INFO〉ボタンを押します。通信機能の設定については、[通信機能の基本設定](#)を参照してください。

## 5. Live Switcher Mobileを起動する

# プリンターとWi-Fi接続

☑ [画像の印刷](#)

☑ [印刷の設定](#)

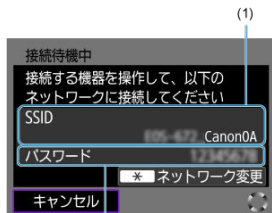
ここでは、カメラとWi-Fi印刷可能なプリンターを直接Wi-Fi接続して画像を印刷する方法について説明しています。プリンターの操作方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。


1. [  Wi-Fi対応プリンターで印刷 ] を選ぶ (  )

2. [ 接続機器の追加 ] を選ぶ



3. SSID (ネットワーク名) とパスワードを確認する



- カメラのモニターに表示されているSSID (1) とパスワード (2) を確認します。
- アクセスポイントを使用してWi-Fi接続する場合は、 ボタンを押します。
- 通信機能の設定については、[こちら](#)を参照してください。

## 4. プリンターを操作する

- お使いのプリンターのWi-Fiに関する設定メニューから、確認したSSIDを選びます。
- パスワード欄には、手順3で確認したパスワードを入力します。
- Wi-Fi接続できないときは、カメラの【セキュリティ】を【WPA2】に設定してください (🔒)。

## 5. プリンターを選ぶ



- 検出されたプリンターの一覧から、Wi-Fi接続するプリンターを選びます。
- 接続したいプリンターが表示されない場合、【再検索】を選択することで表示されることがあります。

### 1枚ずつ印刷

#### 1. 印刷する画像を選ぶ



- 〈○〉を回して、印刷する画像を選び、〈Ⓜ〉を押します。
- ズームレバーを操作すると、インデックス表示にして選ぶことができます。

#### 2. [この画像を印刷] を選ぶ



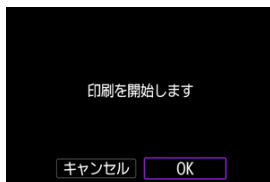
### 3. 印刷内容を設定する



- 印刷の設定方法は、[印刷の設定](#)を参照してください。
- [印刷] を選び、[OK] を選ぶと印刷が始まります。

### 4. [印刷] を選ぶ

### 5. 印刷する



- [OK] を選ぶと印刷が始まります。

## 画像を指定して印刷

### 1. を押す



### 2. [印刷指定] を選ぶ



### 3. 印刷内容を設定する



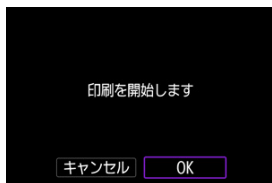
- 設定方法は、[印刷指定/DPOF](#)を参照してください。

### 4. [印刷] を選ぶ

- [印刷] は、画像が選択され、印刷できる状態になっていないと選択できません。

## 5. [用紙設定] の内容を設定する (🔗)

## 6. 印刷する



- [OK] を選ぶと印刷が始まります。

### ⚠ 注意

- プリンターとWi-Fi接続中は撮影できません。
- RAW画像、HEIF画像および動画は印刷できません。
- 印刷するときは、必ず用紙サイズの設定を行ってください。
- プリンターの機種により、画像番号が印刷できないことがあります。
- [フチあり] にすると、プリンターの機種により、日付がフチにかかることがあります。
- 日付の背景が明るいときや、日付がフチにかかるときは、プリンターの機種により、日付が薄く印刷されることがあります。

### 📖 参考

- フル充電したバッテリーを使用してください。
- 印刷する画像のファイルサイズや記録画質により、[印刷] を選んでから実際に印刷が始まるまで、しばらく時間がかかることがあります。
- 印刷を途中で中止するときは、[中止] が表示されている間に (⏏) を押して [OK] を選びます。
- [印刷指定] で印刷するときに、途中で印刷を中止してから残りの画像を印刷するときは、[再開] を選びます。ただし、次のときは印刷の再開はできません。
  - 再開する前に印刷指定の内容を変更したり、指定した画像を削除したとき
  - インデックス設定時、再開する前に用紙設定を変更したとき
- 印刷中に問題が発生したときは、[注意事項](#)を参照してください。

## 印刷の設定

使用するプリンターによって表示される内容や、設定できる内容が異なります。また、設定そのものがないことがあります。詳しくは、プリンターの使用説明書を参照してください。

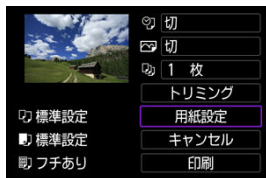
### 印刷設定画面



- (1) 日付や画像番号の印刷を設定します (☑)
- (2) 印刷効果を設定します (☑)
- (3) 印刷枚数を設定します (☑)
- (4) 印刷範囲を設定します (☑)
- (5) 用紙のサイズ、タイプとレイアウトを設定します (☑、☑、☑)
- (6) 画像の選択画面に戻ります
- (7) 印刷を開始します
- (8) 設定されている用紙のサイズ、タイプ、レイアウトの情報が表示されます

\* プリンターの機種により、一部の設定項目が選択できないことがあります。

## 用紙設定



- [用紙設定] を選びます。

## [用紙] 用紙サイズの設定



- プリンターにセットされている用紙のサイズを選びます。

## [🔍] 用紙タイプの設定



- プリンターにセットされている用紙のタイプを選びます。

## [🔍] レイアウトの設定

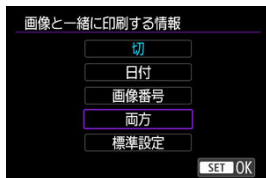


- 印刷レイアウトを選びます。

### ! 注意

- 用紙の縦横比と、画像のアスペクト比が異なる条件でフチなし印刷を行うと、大きくトリミングされることがあります。また、解像度が低く印刷されることがあります。


## [🔍] 日付／画像番号印刷の設定



- [🔍] を選びます。
- 印刷内容を選びます。

## 【】 印刷効果（イメージオプティマイズ）の設定




-  を選びます。
- 印刷効果を選びます。

### ! 注意

- ISO感度「H」で撮影した画像の撮影情報を印刷すると、ISO感度が適切な値で印刷されないことがあります。
- 印刷効果などの選択肢にある【標準設定】は、プリンターメーカーが独自に設定する印刷内容のことです。【標準設定】の内容は、プリンターの使用説明書を参照してください。

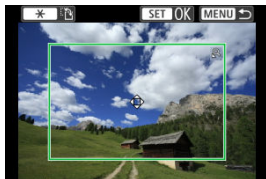
## 【】 印刷枚数の設定



-  を選びます。
- 印刷枚数を選びます。

## トリミング（印刷範囲）の設定

トリミングの設定は、印刷する直前に行ってください。トリミングを行ったあとで印刷設定の内容を変更すると、再設定が必要になることがあります。



### 1. 印刷設定画面で「トリミング」を選ぶ

### 2. トリミング枠の大きさ、位置、縦横を設定する

- 枠で囲まれた範囲が印刷されます。枠の形状（縦横比）は、[用紙設定]の設定で変わります。

#### 枠の大きさを変える

ズームレバーを操作すると、枠の大きさが変わります。

#### 枠を移動する

〈▲〉〈▼〉〈◀〉〈▶〉を押すと、枠が上下左右に移動します。

#### 枠の縦/横を切り換える

〈★〉ボタンを押すと、枠が縦長、横長に変わります。

### 3. 〈⊗〉を押してトリミングを終了する

- 印刷設定画面の左上で印刷範囲を確認できます。

#### ⓘ 注意

- プリンターの機種により、枠のとおり印刷されないことがあります。
- 枠を小さくするほど解像度が低く印刷されます。

### プリンターエラー発生時の操作について

- プリンターに関するエラー（インク切れ、用紙切れなど）を解決したあと、[続行]を選んでも印刷が再開されないときは、プリンター側を操作してください。印刷の再開方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

### エラーメッセージについて

- 印刷中に問題が発生したときは、カメラのモニターにエラーメッセージが表示されます。問題を解決してから再度印刷してください。プリンターの問題解決方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

### 用紙エラー

- 用紙が正しくセットされていることを確認してください。

### インクエラー

- インク残量や、インク吸収体の状態を確認してください。

### ハードウェアエラー

- 用紙、インク以外の問題が発生していないか確認してください。

### ファイルエラー

- 選択した画像は印刷できません。別のカメラで撮影した画像や、パソコンに取り込んで加工した画像は、印刷できないことがあります。

## 通信機能の基本設定

---

- [アクセスポイントの種類を確認する](#)
- [WPS（PBC方式）で接続する場合](#)
- [WPS（PIN方式）で接続する場合](#)
- [検出したネットワークに手動で接続する場合](#)
- [ネットワークに手動で接続する場合](#)
- [カメラアクセスポイントモードで接続する場合](#)
- [IPアドレスを設定する](#)

## アクセスポイントの種類を確認する

アクセスポイントを使用して接続するときは、お使いのアクセスポイントが、Wi-Fi機器同士を簡単に接続することができるWPS\*に対応しているか確認してください。お使いのアクセスポイントがWPSに対応しているか分からないときは、アクセスポイントの使用説明書などを参照して確認してください。

\* Wi-Fi Protected Setup (ワイファイ プロテクトド セットアップ) の略

### ● WPSに対応している場合

下記の2種類の接続方法が選択できます。WPS (PBC方式)の方が簡単に接続できます。

- WPS (PBC方式) で接続する場合 (🔗)
- WPS (PIN方式) で接続する場合 (🔗)

### ● WPSに対応していない場合

- 検出したネットワークに手動で接続する場合 (🔗)
- ネットワークに手動で接続する場合 (🔗)

## アクセスポイントの暗号化について

認証方式と暗号方式については[認証方式とデータ暗号化方式](#)を参照してください。

### ⚠ 注意

- アクセスポイントのステルス機能を有効にしていると、接続できない場合があります。ステルス機能を無効にしてください。
- ネットワーク管理者がいるネットワークに接続するときは、ネットワーク管理者に設定の詳細をお問い合わせください。

### 📖 参考

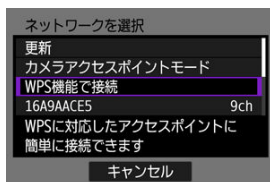
- お使いのネットワークでMACアドレスのフィルタリングをしているときは、アクセスポイントに本機のMACアドレスを登録してください。MACアドレスは[MACアドレス]画面で確認できます (🔗)。

## WPS (PBC方式) で接続する場合

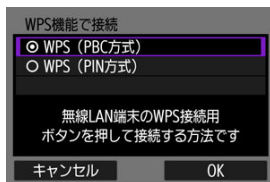
この項では、[アクセスポイントの種類を確認する](#)からの続きを説明しています。  
WPSに対応したアクセスポイント使用時の接続方法です。PBC方式（プッシュボタン接続方式）では、アクセスポイントのWPS用ボタンを押すことで、カメラとアクセスポイントを簡単に接続することができます。

- 周囲に複数のアクセスポイントが稼働していると、うまく接続できないことがあります。このような場合は、**[WPS (PIN方式)]** で接続してください。
- アクセスポイントに付いているWPS用ボタンの場所を、あらかじめ確認しておいてください。
- 接続開始から完了まで1分程度かかる場合があります。

### 1. [ネットワークを選択] 画面で [WPS機能で接続] を選ぶ

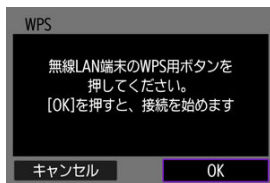


### 2. [WPS (PBC方式)] を選ぶ



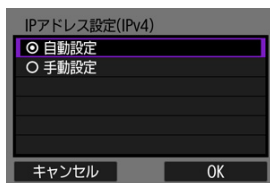
- **[OK]** を選びます。

### 3. アクセスポイントに接続する



- アクセスポイントのWPS用ボタンを押します。ボタンの場所とボタンを押す時間は、アクセスポイントの使用説明書を参照してください。
- [OK] を選ぶと、アクセスポイントとの接続を開始します。
- アクセスポイントとの接続が完了すると、次の画面に進みます。

### 4. IPアドレスを設定する



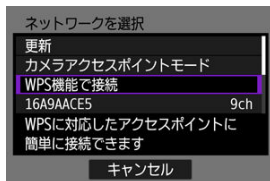
- [IPアドレスを設定する](#)に進んでください。

## WPS（PIN方式）で接続する場合

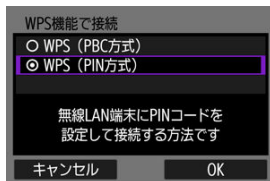
この項では、[アクセスポイントの種類を確認する](#)からの続きを説明しています。  
WPSに対応したアクセスポイント使用時の接続方法です。PIN方式（ピンコード接続方式）では、カメラが指定する8桁の識別番号をアクセスポイントに設定して接続します。

- 周囲に複数のアクセスポイントが稼動している状況でも、共通の識別番号で比較的確実に接続することができます。
- 接続開始から完了まで1分程度かかる場合があります。

### 1. [ネットワークを選択] 画面で [WPS機能で接続] を選ぶ

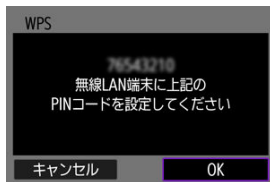


### 2. [WPS（PIN方式）] を選ぶ



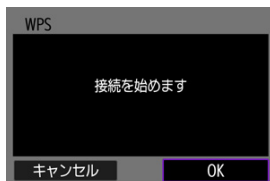
- [OK] を選びます。

### 3. PINコードを設定する



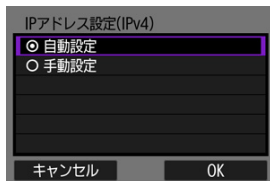
- カメラのモニターに表示される8桁のPINコードをアクセスポイントに設定します。
- アクセスポイントへのPINコードの入力方法は、アクセスポイントの使用説明書を参照してください。
- PINコードを設定したら [OK] を選びます。

### 4. アクセスポイントに接続する



- [OK] を選ぶと、アクセスポイントとの接続を開始します。
- アクセスポイントとの接続が完了すると、次の画面に進みます。

### 5. IPアドレスを設定する



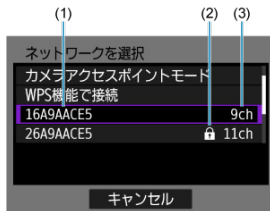
- [IPアドレスを設定する](#)に進んでください。


## 検出したネットワークに手動で接続する場合

この項では、[アクセスポイントの種類を確認する](#)からの続きを説明しています。近くで稼働中のアクセスポイントの一覧から、接続するアクセスポイントのSSID（またはESS-ID）を選んで接続します。

### アクセスポイントを選ぶ

#### 1. [ネットワークを選択] 画面でアクセスポイントを選ぶ



- (1) SSIDを表示
  - (2) アクセスポイントが暗号化されているときはアイコンを表示
  - (3) 使用しているチャンネルを表示
-  で、アクセスポイントの一覧から接続するアクセスポイントを選びます。

#### 参考

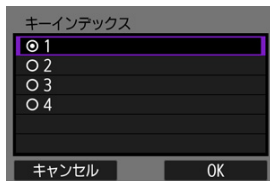
##### [更新] について

- [更新] は、手順1の画面をスクロールすると表示されます。
- [更新] を選ぶと、アクセスポイントを再検索します。

## アクセスポイントの暗号キーを入力する

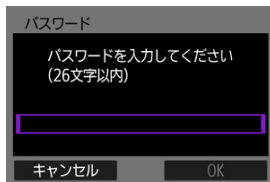
- アクセスポイントに設定されている暗号キー（パスワード）を入力します。設定されている暗号キーについては、アクセスポイントの使用説明書を参照してください。
- 下記の手順2～3で表示される画面は、アクセスポイントに設定されている認証方式と暗号方式によって異なります。
- 手順2～3が表示されずに、**[IPアドレス設定]**画面が表示されたときは、[IPアドレスを設定する](#)に進んでください。

### 2. キーインデックスを選ぶ



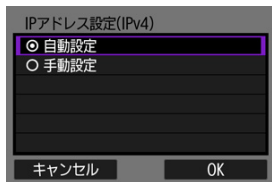
- **[キーインデックス]**画面は、アクセスポイントの暗号方式がWEPのときに表示されます。
- アクセスポイントに設定されているキーインデックスの番号を選びます。
- **[OK]**を選びます。

### 3. 暗号キーを入力する



- **<Ⓜ>**を押して仮想キーボード (**Ⓜ**)を表示し、暗号キーを入力します。
- **[OK]**を選ぶと、アクセスポイントとの接続を開始します。
- アクセスポイントとの接続が完了すると、次の画面に進みます。

## 4. IPアドレスを設定する



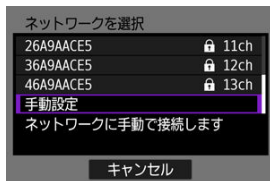
- [IPアドレスを設定する](#)に進んでください。

## ネットワークに手動で接続する場合

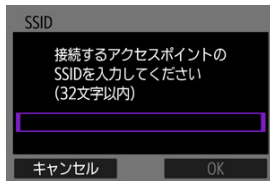
この項では、[アクセスポイントの種類を確認する](#)からの続きを説明しています。  
接続するアクセスポイントのSSID（またはESS-ID）を入力して接続します。



### SSIDを入力する

#### 1. [ネットワークを選択] 画面で [手動設定] を選ぶ



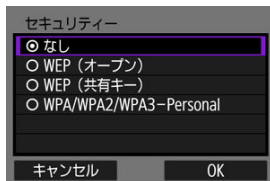
#### 2. SSID (ネットワーク名) を入力する



- 〈〉を押して仮想キーボード () を表示し、SSIDを入力します。
- [OK] を選びます。

## アクセスポイントの認証方式を設定する

### 3. セキュリティーを選ぶ

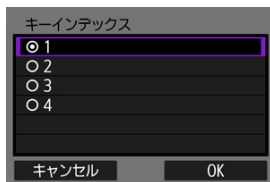


- 項目を選んで **[OK]** を選ぶと、次の画面に進みます。

## アクセスポイントの暗号キーを入力する

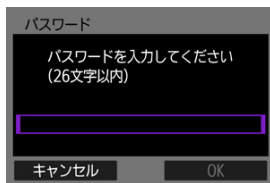
- アクセスポイントに設定されている暗号キー（パスワード）を入力します。設定されている暗号キーについては、アクセスポイントの使用説明書を参照してください。
- 下記の手順4～5で表示される画面は、アクセスポイントに設定されている認証方式と暗号方式によって異なります。
- 手順4～5が表示されずに、**[IPアドレス設定]** 画面が表示されたときは、[IPアドレスを設定する](#)に進んでください。



### 4. キーインデックスを選ぶ



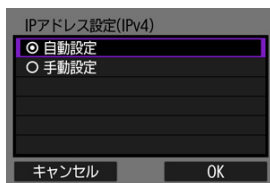
- アクセスポイントに設定されているキーインデックスの番号を選びます。
- **[OK]** を選びます。

## 5. 暗号キーを入力する



-  を押して仮想キーボード  を表示し、暗号キーを入力します。
- [OK] を選ぶと、アクセスポイントとの接続を開始します。
- アクセスポイントとの接続が完了すると、次の画面に進みます。

## 6. IPアドレスを設定する



- [IPアドレスを設定する](#) に進んでください。

## カメラアクセスポイントモードで接続する場合

カメラアクセスポイントモードは、アクセスポイントを使用せず、カメラと各機器を直接Wi-Fiで接続する接続方法です。以下の2種類の接続方法が選択できます。

### ❗ 注意

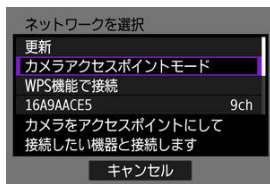
- プリンターの機種によって、カメラアクセスポイントに接続できない場合があります。  
カメラアクセスポイントに接続できないときは、以下の方法で接続できる場合があります。
  - アクセスポイントを使用してWi-Fi接続する
  - プリンター側でアクセスポイントを起動する

## 簡単接続で接続

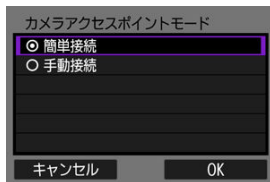
カメラアクセスポイントモードのネットワーク設定を自動で行います。

- 接続する機器の操作については、各機器の使用説明書を参照してください。

### 1. [ネットワークを選択] 画面で [カメラアクセスポイントモード] を選ぶ

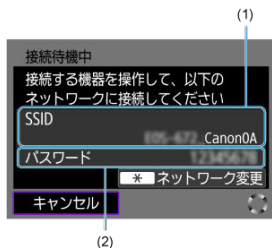


### 2. [簡単接続] を選ぶ



- [OK] を選びます。

### 3. 接続する機器を操作してカメラに接続する



(1) SSID (ネットワーク名)

(2) 暗号キー (パスワード)

- 接続する機器のWi-Fi機能で、カメラのモニターに表示された内容に従って、SSID (ネットワーク名) を選び、パスワードを入力します。

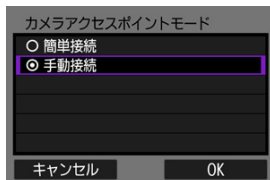
### 4. 接続する機器に応じて接続設定を行う

- Wi-Fi接続できないときは、カメラの [セキュリティ] を [WPA2] に設定してください (🔒)。

## 手動接続で接続

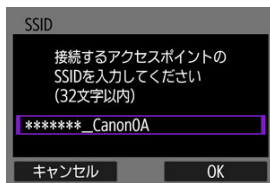
カメラアクセスポイントモードのネットワーク設定を手動で行います。表示される画面に従って、カメラの [SSID]、[チャンネル設定]、[暗号化の設定] を設定します。



### 1. [手動接続] を選ぶ



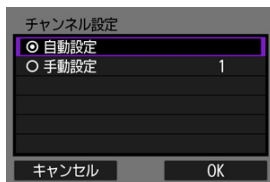
- [OK] を選びます。

### 2. SSID (ネットワーク名) を入力する



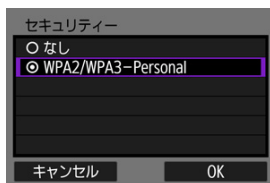
- 〈〉を押して仮想キーボード () を表示し、SSIDを入力します。入力したら〈MENU〉ボタンを押します。
- [OK] を選びます。

### 3. チャンネル設定を選ぶ



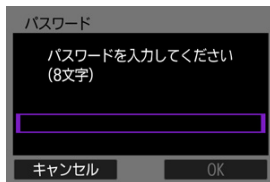
- 手動で設定するときは、[手動設定] を選び、(1) で設定します。
- [OK] を選ぶと、次の画面に進みます。



### 4. セキュリティーを選ぶ



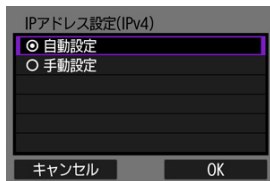
- [OK] を選ぶと、次の画面に進みます。
- [なし] を選択したときは、[IPアドレス設定(IPv4)] 画面が表示されます (📄)。
- 接続先とカメラで、同じ暗号方式を設定してください。認証方式と暗号方式については[認証方式とデータ暗号化方式](#)を参照してください。


## 5. パスワードを入力する



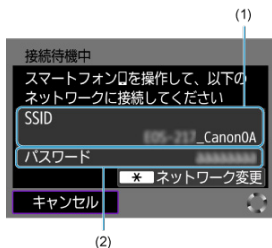
-  を押して仮想キーボード  を表示し、パスワードを入力します。

## 6. [自動設定] を選ぶ



- [OK] を選びます。
- [自動設定] でエラーが表示されたときは、IPアドレスを手動で設定してください 。

## 7. 接続する機器を操作してカメラに接続する



(1) SSID (ネットワーク名)

(2) 暗号キー (パスワード)

## 8. 通信機能に応じて接続設定を行う

- Wi-Fi接続できないときは、カメラの [セキュリティ] を [WPA2] に設定してください (🔒)。

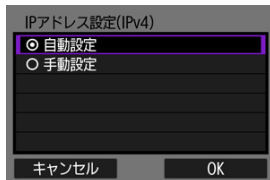
## IPアドレスを設定する

IPアドレスの設定方法を選択し、カメラにIPアドレスを設定します。

### IPアドレスを自動で設定する場合

IPアドレス設定を自動で行います。

#### 1. [自動設定] を選ぶ



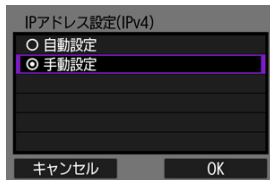
- [OK] を選びます。
- [自動設定] でエラーが表示されたときは、IPアドレスを手動で設定してください (🔗)。

#### 2. 接続する機器に応じて接続設定を行う

## IPアドレスを手動で設定する場合

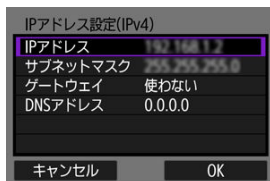
IPアドレス設定を手動で行います。なお、表示される項目は通信機能によって異なります。

### 1. [手動設定] を選ぶ

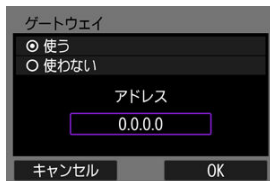


- [OK] を選ぶと、次の画面に進みます。

### 2. 設定する項目を選ぶ



- 表示される項目は通信機能によって異なります。
- 項目を選ぶと、数値の入力画面が表示されます。



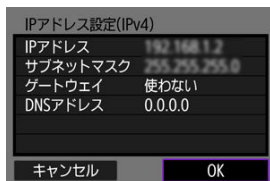
- ゲートウェイを使う場合は、[使う] を選んでから [アドレス] を選びます。

### 3. 数値を入力する



- 〈〉で上側の入力場所を選び、〈〉で入力する数値を選びます。〈〉を押すと選んだ数値が入力されます。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、入力を確定して手順2の画面に戻ります。

### 4. [OK] を選ぶ



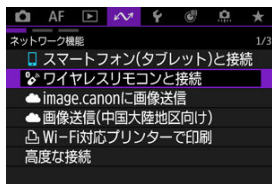
- 必要な項目の設定が完了したら [OK] を選びます。
- 設定する内容が分からない場合は、[ネットワークの設定を確認する](#)を参照するか、ネットワーク管理者などに問い合わせてください。

### 5. 接続する機器に応じて接続設定を行う

## 2回目以降のWi-Fi/Bluetooth接続

一度Wi-Fi接続またはBluetooth接続した機器は、接続設定がカメラに登録されます。登録された接続設定を利用して、同じ機器に再接続することができます。

### 1. 項目を選ぶ



### 2. 接続する機器を選ぶ



- 表示された履歴から、接続する項目を選びます。

#### 参考

- 通信機能全体で、接続設定を10個まで登録することができます。

### 3. 画面の指示に従ってカメラと機器を接続する

## 接続先の機器の編集／削除

☑ [ニックネームの変更](#)

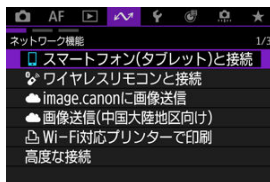
☑ [接続情報の削除](#)

接続設定の変更や削除は、Wi-Fi接続を終了してから行います。

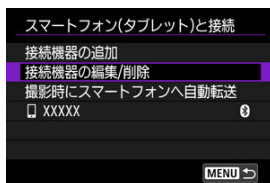
### ニックネームの変更

ニックネーム（接続設定の名前）を変更することができます。

#### 1. 項目を選ぶ



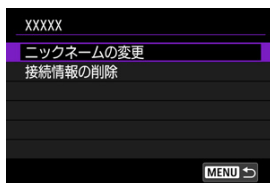
#### 2. [接続機器の編集/削除] を選ぶ



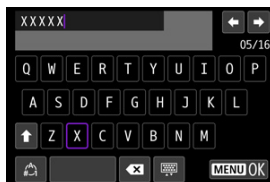
### 3. 接続機器を選ぶ



### 4. [ニックネームの変更] を選ぶ



### 5. ニックネームを変更する

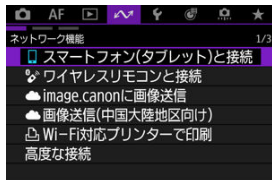


- 仮想キーボード (📄) を操作し、ニックネームを入力します。

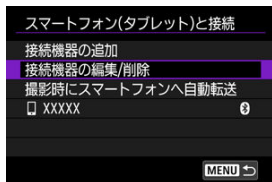
### 6. <MENU> ボタンを押す

- メッセージが表示されたら、[OK] を選びます。

### 1. 項目を選ぶ



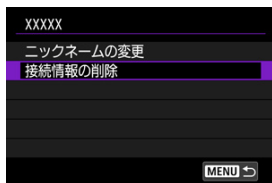
### 2. [接続機器の編集/削除] を選ぶ



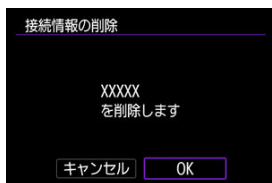
### 3. 削除する接続機器を選ぶ



4. [接続情報の削除] を選ぶ



5. [OK] を選ぶ



## 機内モード

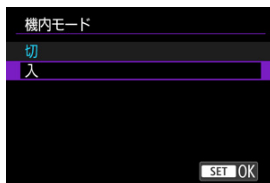
---

Wi-Fi機能、Bluetooth機能を一時的にオフにすることができます。

---

1. [機内モード] を選ぶ (🔍)

2. [入] に設定する



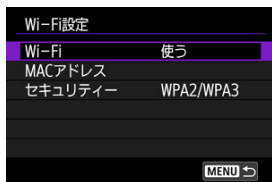
- 画面に [↑] が表示されます。

### 参考

- 静止画撮影時や動画撮影時、再生時は、表示設定によって [↑] が表示されないこともあります。表示されないときは、〈INFO〉ボタンを何度か押して詳細情報表示の画面にします。

1. [🏠 : Wi-Fi設定] を選ぶ (🔗)

2. 項目を選ぶ



● **Wi-Fi**

飛行機内や病院内などで、電子機器や無線機器の使用が禁止されているときは、[使わない] に設定してください。

● **MACアドレス**

カメラのMACアドレスの確認ができます。



● **セキュリティ**

カメラアクセスポイントモードで接続するときのセキュリティを選択します。

🚫 **注意**

**動画の転送について**

- 動画は1ファイルあたりの容量が大きく、Wi-Fiでは大容量ファイルの送信に時間がかかります。[無線通信機能での注意事項](#)の記載内容を参考にして、各機器がアクセスポイントや本機と安定して通信できる環境を構築しておいてください。

1. [Bluetooth設定] を選ぶ (🔗)

2. 項目を選ぶ



- **Bluetooth**  
Bluetooth機能を使わないときは [使わない] を選びます。
- **Bluetoothアドレス**  
カメラのBluetoothアドレスを確認できます。
- **接続先の名称**  
ペアリングした機器の名前や通信状態を確認できます。

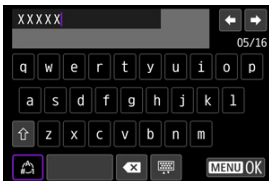
## カメラの名前

---

スマートフォンやカメラで表示される、このカメラの名前を変更することができます。

1. [📷 : カメラの名前] を選ぶ (👉)

2. カメラの名前を変更する



- 仮想キーボード (👉) を操作し、カメラの名前を入力します。

3. <MENU> ボタンを押す

- メッセージが表示されたら、[OK] を選びます。

## GPSの設定

---

[スマートフォン連携](#)

[GPS情報の表示](#)

### スマートフォン連携

---

スマートフォンを使用して、位置情報を画像に付加することができます。  
スマートフォンに専用アプリケーションのCamera Connectをインストール (📎) してから設定を行ってください。

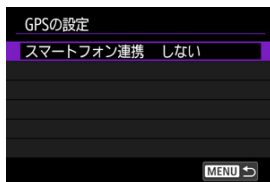
1. スマートフォンの位置情報機能をオンにする

2. Bluetooth接続する

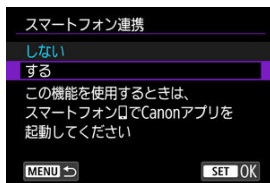
- Camera Connectを起動して、カメラとスマートフォンをBluetooth接続してください。

3. [🏠 : GPSの設定] を選ぶ (📎)

4. [スマートフォン連携] を選ぶ



## 5. 「する」を選ぶ



## 6. 撮影する

- スマートフォンが取得した位置情報が画像に付加されます。

## GPS情報の表示

静止画撮影画面 (📷) または動画撮影画面 (📹) のGPS接続表示で、スマートフォンからの位置情報の取得の状態を確認することができます。

- グレー：位置情報機能がオフの状態
- 点滅：位置情報が取得できない状態
- 点灯：位置情報を取得済

### 撮影時に位置情報を画像に付加する

GPSアイコンが点灯中に撮影すると、位置情報が画像に付加されます。

### 画像に付加される位置情報について

撮影情報表示の画面 (📷) で、撮影した画像に付加された位置情報を確認することができます。



- (1) 緯度
- (2) 経度
- (3) 標高
- (4) 協定世界時

## 注意

- スマートフォンによる位置情報の取得は、カメラとスマートフォンがBluetooth接続しているときのみに行われます。
- 方位情報は取得されません。
- 移動条件やスマートフォンの状態によって、取得される位置情報が正確でない場合があります。
- 電源を入れてから、スマートフォンの位置情報を取得するまでに、時間がかかることがあります。
- 以下の操作を行うと、位置情報が取得できなくなります。
  - ワイヤレスリモコンとBluetooth接続する
  - カメラの電源を切る
  - Camera Connectを終了する
  - スマートフォンの位置情報機能をオフにする
- 以下の状態になると、位置情報が取得できなくなります。
  - カメラの電源が切れる
  - Bluetooth接続が終了する
  - スマートフォンのバッテリーの残量が少なくなる

## 参考

- 協定世界時（UTC: Coordinated Universal Time）は、グリニッジ標準時とほぼ同じ時刻です。
- 動画撮影のときは、撮影開始時の情報が付加されます。

## エラー内容の表示

---

カメラに発生している無線通信機能のエラー内容を表示することができます。




---

### 1. [⌵: エラー内容の表示] を選ぶ (☑)

- 発生しているエラーの内容が表示されます。
- エラーの詳細については、[エラー表示の対応](#)を参照してください。

## エラー表示の対応


エラーが発生したときは、下記のいずれかの方法でエラー内容を表示してください。その後、この章の対応例を参考にしてエラーの原因を取り除いてください。

- [ : エラー内容の表示] を選ぶ。
- [ 通信中] 画面の [ エラー内容の表示] を選ぶ。

下記のエラー番号をクリックすると該当の項目にジャンプします。

<a href="#">11</a>	<a href="#">12</a>							
<a href="#">21</a>	<a href="#">22</a>	<a href="#">23</a>						
<a href="#">61</a>	<a href="#">64</a>	<a href="#">65</a>						
<a href="#">91</a>								
<a href="#">121</a>	<a href="#">125</a>	<a href="#">127</a>						
<a href="#">130</a>	<a href="#">131</a>	<a href="#">132</a>	<a href="#">133</a>	<a href="#">134</a>	<a href="#">135</a>	<a href="#">136</a>	<a href="#">137</a>	
<a href="#">141</a>	<a href="#">142</a>							
<a href="#">161</a>								
<a href="#">171</a>	<a href="#">172</a>	<a href="#">173</a>						

### 参考

- エラーが発生したときは、 [ : エラー内容の表示] の右側に [Err\*\*] と表示されます。カメラの電源を切ると表示されなくなります。

## 11：接続先が見つかりません

- [Wi-Fi: スマートフォン(タブレット)と接続] の場合、Camera Connectは起動していますか？
  - Camera Connectから接続操作を行ってください (🔗)。
- カメラとアクセスポイントで、同じ認証用の暗号キーを設定していますか？
  - 暗号化の認証方式が [オープン] の設定で、暗号キーを間違えると、このエラーになります。  
大文字、小文字の使い分けも確認して、正しい認証用の暗号キーをカメラに設定してください (🔗)。

## 12：接続先が見つかりません

- 接続先の機器やアクセスポイントの電源は入っていますか？
  - 接続先の機器やアクセスポイントの電源を入れて、しばらくお待ちください。それでも接続できないときは、再度接続操作を行ってください。

## 21：DHCPサーバーからアドレスが割り当てられていません

### カメラの確認内容

- カメラの設定がIPアドレス [自動設定] になっています。この設定で間違いありませんか？
  - DHCPサーバーを使用していない場合は、カメラをIPアドレス [手動設定] にして設定を行ってください (🔗)。

### DHCPサーバーの確認内容

- DHCPサーバーの電源は入っていますか？
  - DHCPサーバーの電源を入れてください。
- DHCPサーバーから割り当てられるアドレスに余裕はありますか？
  - DHCPサーバーが割り振るアドレスを増やしてください。
  - DHCPサーバーからアドレスが割り振られている端末を、ネットワークから外して減らしてください。
- DHCPサーバーは正常に機能していますか？
  - DHCPサーバーの設定を確認して、DHCPサーバーとして正常に機能しているか確認してください。
  - ネットワーク管理者がいるときは、DHCPサーバーを使用できる状態にするよう依頼してください。

### カメラの確認内容

- カメラに設定しているDNSサーバーのIPアドレスは合っていますか？
  - 使用するDNSサーバーと同じIPアドレスをカメラに設定してください (🔗、🔗)。

### DNSサーバーの確認内容

- DNSサーバーの電源は入っていますか？
  - DNSサーバーの電源を入れてください。
- DNSサーバーにIPアドレスと、そのアドレスに対応する名前を正しく設定していますか？
  - DNSサーバーにIPアドレスと、そのアドレスに対応する名前を正しく設定してください。
- DNSサーバーは正常に機能していますか？
  - DNSサーバーの設定を確認して、DNSサーバーとして正常に機能しているか確認してください。
  - ネットワーク管理者がいるときは、DNSサーバーを使用できる状態にするよう依頼してください。

### ネットワーク全体の確認内容

- 接続しようとしているネットワークに、ゲートウェイ機能を持つルーターなどが使用されていませんか？
  - ネットワーク管理者がいるときは、ネットワークのゲートウェイアドレスを聞いて、その内容をカメラに設定してください (🔗、🔗)。
  - カメラを含むネットワーク機器すべてに、ゲートウェイアドレスを正しく設定してください。

## 23 : ネットワーク上に同じIPアドレスの機器が存在します

- カメラと同じネットワークに接続している機器が、カメラと同じIPアドレスを使用していないですか？
  - カメラのIPアドレスを変更して、同じネットワークに接続している機器とIPアドレスが重複しないようにしてください。または、IPアドレスが重複している他の機器のIPアドレスを変更してください。
  - DHCPサーバーを使用するネットワーク環境で、カメラがIPアドレス [手動設定] の設定になっているときは、IPアドレス [自動設定] の設定にしてください (🔗)。

### 参考

#### エラー20番台の対応について

- エラー21～23が表示された場合は、以下の確認も行ってください。  
**カメラとアクセスポイントで、同じ認証用のパスワードを設定していますか？**
  - 暗号化の認証方式が [オープン] の設定で、パスワードを間違えるとこのエラーになります。大文字、小文字の使い分けも確認して、正しい認証用のパスワードをカメラに設定してください (🔗)。

## 61 : 同じSSIDの無線LANネットワークが見つかりません

- アクセスポイントのアンテナとカメラの間に、見通しをさえぎる障害物はありませんか？
  - アクセスポイントのアンテナを、カメラからよく見える場所に移動させてください。

### カメラの確認内容

- カメラにアクセスポイントと同じSSIDを設定していますか？
  - アクセスポイントのSSIDを確認して、同じSSIDをカメラに設定してください (🔗)。

### アクセスポイントの確認内容

- アクセスポイントの電源は入っていますか？
  - アクセスポイントの電源を入れてください。
- MACアドレスでフィルタリングしている場合、使用しているカメラのMACアドレスをアクセスポイントに登録していますか？
  - 使用しているカメラのMACアドレスをアクセスポイントに登録してください。MACアドレスは [MACアドレス] 画面で確認できます (🔗)。

## 64：無線LAN端末に接続できません

- カメラとアクセスポイントで、同じ暗号化方式を設定していますか？
  - 暗号化方式については、[認証方式とデータ暗号化方式](#)を参照してください。
- MACアドレスでフィルタリングしている場合、使用しているカメラのMACアドレスをアクセスポイントに登録していますか？
  - 使用しているカメラのMACアドレスをアクセスポイントに登録してください。  
MACアドレスは [MACアドレス] 画面で確認できます (🔍)。

## 65：無線LANの接続が切れました

- アクセスポイントのアンテナとカメラの間に、見通しをさえぎる障害物はありませんか？
  - アクセスポイントのアンテナを、カメラからよく見える場所に移動させてください。
- 何らかの理由で、無線LANの接続が切れ、再接続できない状態になっています。
  - アクセスポイントにほかの端末からのアクセスが集中している場合や、電子レンジなどが近くで使用されている場合 (IEEE 802.11b/g/n (2.4GHz帯))、雨天や高温湿度などの影響が考えられます。

## 91：その他のエラー

- エラー11～65以外の異常が発生しました。
  - カメラの電源を入れ直してください。

## 121：サーバーの空き容量が不足しています

- 送信先Webサーバーの空き容量が不足しています。
  - Webサーバー内の不要な画像を削除し、Webサーバーの空き容量を確認してから再度送信してください。

## 125：ネットワークの設定を確認してください

- ネットワークが接続されていますか？
  - ネットワークの接続状態を確認してください。

## 127：エラーが発生しました

- Webサービスの接続中に、エラー121～126以外の異常が発生しました。
  - Wi-Fi接続をやり直してください。

**130 : サーバーが混みあっています  
しばらくたってからもう一度実行してください**

- Webサービスに一時的に負荷が集中しています。
  - しばらくしてからWi-Fi接続をやり直してください。

**131 : もう一度実行してください**

- WebサービスのWi-Fi接続でエラーが発生しました。
  - Wi-Fi接続をやり直してください。

**132 : サーバーでエラーが発生しました  
しばらくしてから実行してください**

- Webサービスがメンテナンス中です。
  - しばらくしてからWi-Fi接続をやり直してください。

**133 : Webサービスにログインできません**

- Webサービスのログインでエラーが発生しました。
  - 設定を確認してください。
  - しばらくしてからWi-Fi接続をやり直してください。

**134 : 日付/時刻を正しく設定してください**

- 日付/時刻/エリアが正しく設定されていません。
  - [📍 : 日付/時刻/エリア] の設定を確認してください。

**135 : Webサービスの設定が変更されています**

- Webサービスの設定が変更されています。
  - 設定を確認してください。

**136 : カメラに表示されたQRコードを専用アプリで正しく読み取れませんでした。カメラ連携設定をやり直してください**

- スマートフォンでQRコードが正しく読み取れていません。
  - カメラ連携設定をやり直し、新しくカメラに表示されるQRコードを読み取ってください。

### 137:カメラに表示されたQRコードの有効期限が切れました。カメラ連携設定をやり直してください

- **表示されたQRコードの有効期限が切れています。**
  - カメラ連携設定をやり直し、新しくカメラに表示されるQRコードを読み取ってください。

### 141:プリンターは処理中です。もう一度接続してください

- **プリンターが印刷中ではありませんか？**
  - 印刷が終わってからWi-Fi接続をやり直してください。
- **プリンターにほかのカメラがWi-Fi接続していませんか？**
  - ほかのカメラのWi-Fi接続を終了してから、Wi-Fi接続をやり直してください。

### 142:プリンター情報の取得に失敗しました。もう一度接続してください

- **プリンターの電源は入っていますか？**
  - プリンターの電源を入れてから、Wi-Fi接続をやり直してください。

### 161:エラーが発生しました

- **ライブ配信時にエラーが発生しました。**
  - ライブ配信の配信設定を見直してください。
  - ライブ配信をやり直してください。

### 171:エラーが発生しました

- **Live Switcher Mobile配信時にエラーが発生しました。**
  - Live Switcher Mobileの配信設定を見直してください。
  - Live Switcher Mobileをやり直してください。

### 172:エラーが発生しました

- **Live Switcher Mobile接続時にエラーが発生しました。**
  - Live Switcher Mobileの配信設定を見直してください。
  - Live Switcher Mobileをやり直してください。

### 173:エラーが発生しました

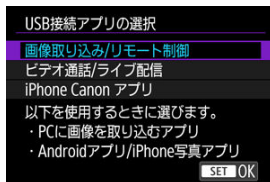
- **Live Switcher Mobile送信時にエラーが発生しました。**
  - Live Switcher Mobileの配信設定を見直してください。
  - Live Switcher Mobileをやり直してください。

# USB接続アプリの選択

カメラとスマートフォンやパソコンをインターフェースケーブルで接続し、画像を転送したり、スマートフォンやパソコンに取り込むことができます。

## 1. [設定] : USB接続アプリの選択] を選ぶ (設定)

## 2. 項目を選ぶ

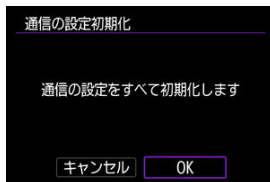


- **画像取り込み/リモート制御**  
Android版専用アプリケーションやiOSの写真アプリケーションを使用するときを選びます。
- **ビデオ通話/ライブ配信**  
パソコンと接続して、UVC/UAC対応のアプリケーションを使用するときを選びます。  
[ビデオ通話/ライブ配信]を選んだあと、インターフェースケーブルでパソコンと接続し、アプリケーションを起動します。  
出力する映像の解像度とフレームレートは、2K (1920×1080)、30fpsとなります。
- **iPhone Canon アプリ**  
iPhoneのアプリケーションを使用するときを選びます。  
カメラとスマートフォンの接続には専用のケーブルが必要です。詳しくは、キヤノンのホームページを参照してください。

## 通信の設定初期化

無線通信の設定をすべて削除します。カメラを貸与したり譲渡したときに、無線通信の設定情報が流出することを防ぐことができます。

1. [🔒: 通信の設定初期化] を選ぶ (🔒)
2. [OK] を選ぶ



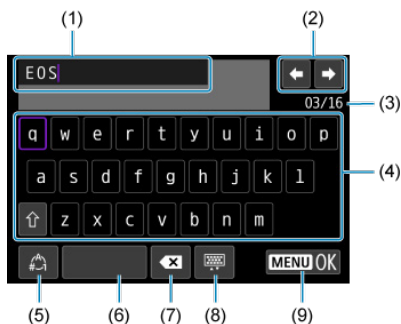
### ⚠ 注意

- カメラとスマートフォンをペアリングしていたときは、スマートフォンのBluetooth設定画面で、無線通信の設定を初期化したカメラの登録を解除してください。





### 📖 参考

- [🔒: カメラの初期化] の [基本以外の設定] [通信の設定] で無線通信の設定をすべて削除できます。

## 仮想キーボードの操作方法



- (1) 文字を入力するエリア（入力エリア）
- (2) 入力エリアでのカーソルの移動
- (3) 入力した文字数／入力できる文字数
- (4) キーボード
- (5) 入力モードの切り換え
- (6) スペース
- (7) 入力エリアでの文字の削除
- (8) キーボードの種類の変更
- (9) 入力の終了

- (1) は  で移動します。
- (2)、(4) ~ (8) は   で移動します。
- 入力する文字の決定や、入力モードの切り換えなどを行うときは  を押します。

## 無線通信機能での注意事項

---

- ☑ [カメラとスマートフォンとの距離について](#)
- ☑ [アクセスポイントの設置場所について](#)
- ☑ [近くにある電子機器について](#)
- ☑ [カメラを複数使うときの注意](#)

無線通信機能使用時に「通信速度が遅くなる」、「接続が途切れる」などの現象が起きたときは、下記の例を参考にして対応してみてください。

---

## カメラとスマートフォンとの距離について

---

カメラとスマートフォンが離れすぎていると、Bluetooth接続は可能でもWi-Fi接続ができないことがあります。その場合は、カメラとスマートフォンを近づけてWi-Fi接続を行ってください。

## アクセスポイントの設置場所について

---

- 室内で使用する場合、カメラを使用している部屋に設置してください。
- カメラとの間に、人や遮蔽物が入らない場所に設置してください。

## 近くにある電子機器について

---

下記の電子機器の影響でWi-Fiの通信速度が遅くなるときは、電子機器の使用をやめるか、機器から離れた場所で通信を行ってください。

- カメラのIEEE 802.11b/g/nは、2.4GHz帯の電波を使用してWi-Fiの通信を行っています。そのため、同じ周波数帯を使用するBluetooth機器や電子レンジ、コードレス電話機、マイク、スマートフォン、他のカメラなどを使うとWi-Fiの通信速度が遅くなります。

## カメラを複数使うときの注意

---

- 1つのアクセスポイントに複数のカメラをWi-Fi接続するときは、カメラのIPアドレスが重複しないよう注意してください。
- 1つのアクセスポイントに複数のカメラをWi-Fi接続すると、通信速度が遅くなります。
- IEEE 802.11b/g/n (2.4GHz帯) のアクセスポイントが複数あるときは、電波干渉を少なくするために、Wi-Fiのチャンネルを、「1/6/11」、「2/7」、「3/8」というように5チャンネル分、間を開けてください。

## セキュリティーについて

カメラをネットワークに接続する際は、セキュリティーで保護されたネットワーク環境でご利用ください。

カメラの設定は初期状態のまま使用することをおすすめします。

カメラをネットワークに接続する際は、意図しない第三者からの不正アクセスやサイバー攻撃のリスクがあります。外部ネットワークからのアクセスが不要な場合は、物理的・論理的に遮断し、特定のデバイスのみがアクセスできるように設定してください。また、Wi-Fi（無線LAN）は、悪意ある第三者が電波を傍受することで、通信内容を盗み見られる恐れがあります。

外部ネットワークへのアクセスが必要な場合は、外部からのアクセスを遮断できるVPN（仮想プライベートネットワーク）の利用など、安全に通信できる方法を導入することが重要です。Wi-Fiは、セキュリティーで保護された環境でご利用ください。暗号化はAESの利用をおすすめします。

特に、下記機能ではカメラとの通信においてプロトコル暗号化に対応していないため、セキュリティーで保護されたネットワーク環境でご利用ください。

- Content Transfer Professional
- Camera Connect
- EOS Utility

### ⚠ 注意

- ネットワークのセキュリティー上の問題により発生した直接、間接の損害については、弊社は一切の責任を負いかねます。
- カメラは電気通信事業者（移动通信会社、固定通信会社、インターネットプロバイダーなど）の通信回線（公衆無線LANを含む）に直接接続することができません。カメラをインターネットに接続する場合は、必ずルーターなどを経由して接続してください。

## ネットワークの設定を確認する

---

### Windowsの場合

Windowsの [コマンドプロンプト] を開き、`ipconfig /all` と入力して〈Enter〉キーを押します。

パソコンに割り当てられているIPアドレスのほかに、サブネットマスク、ゲートウェイ、DNSサーバーの情報が表示されます。

### macOSの場合

macOSの [ターミナル] を開き、`ifconfig -a` と入力して〈Return〉キーを押します。[enX] (Xは数字) 項目 [inet] の `***.***.***.***` がパソコンに割り当てられているIPアドレスです。

[ターミナル] については、macOSのヘルプを参照してください。

なお、[IPアドレスを手動で設定する場合](#)でカメラに割り当てるIPアドレスを設定するときは、パソコンやほかのネットワーク接続機器とIPアドレスが重複しないよう、一番右側の数字を変えて設定します。

例) 192.168.1.10

## 無線通信機能の接続状態

モニターで、無線通信機能の接続状態を確認することができます。

動画撮影時の情報表示画面



静止画再生時の情報表示画面



- (1)Wi-Fi機能
- (2)電波強度
- (3)Bluetooth機能

## Wi-Fi機能／電波強度の表示

通信状態		モニター	
		Wi-Fi機能	電波強度
未接続	Wi-Fi：使わない		消灯
	Wi-Fi：使う		
接続開始		 (点滅)	
接続中			
送信中			
接続エラー		 (点滅)	

## Bluetooth機能の表示

Bluetooth機能	接続状態	モニター
[使わない] 以外	Bluetooth接続中	
	Bluetooth未接続	
[使わない]	Bluetooth未接続	非表示

## 機能設定

---

この章では、メニュー機能の「📁：機能設定タブ」の項目について説明しています。  
タイトル右の **応用** は、応用撮影ゾーン（〈P〉〈Tv〉〈Av〉〈M〉モード）限定の機能であることを示しています。

- [メニュー目次：機能設定タブ](#)
- [フォルダの設定](#)
- [画像番号](#)
- [カード初期化](#)
- [縦位置画像回転表示](#)
- [動画縦位置情報の付加](#)
- [日付／時刻／エリア](#)
- [言語](#)
- [単位](#)
- [ビデオ方式](#)
- [機能ガイド](#)
- [電子音](#)
- [音量](#)
- [ヘッドフォン](#)
- [モニターの明るさ](#)
- [暗所表示](#)
- [メニュー画面の拡大](#)
- [起動画面](#)
- [HDMI出力解像度](#)
- [冷却ファン設定](#)
- [レンズ収納時間](#)
- [パスワードの管理](#)
- [節電](#)
- [カメラの初期化](#) **応用**
- [カスタム撮影モード（C1-C3）](#) **応用**
- [バッテリー情報](#)
- [著作権情報](#) **応用**
- [その他の情報](#)

## メニュー目次：機能設定タブ

### ● ファイル・カード設定



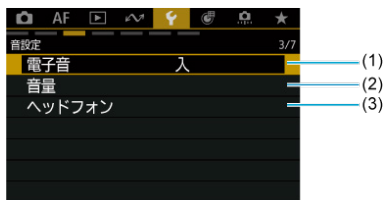
- (1) [フォルダ選択](#)
  - [フォルダの作成](#)
- (2) [画像番号](#)
- (3) [カード初期化](#)
- (4) [縦位置画像回転表示](#)
- (5) [縦位置情報の付加](#)

### ● 国・地域/ガイダンス



- (1) [日付/時刻/エリア](#)
- (2) [言語](#)
- (3) [単位](#)
- (4) [ビデオ方式](#)
- (5) [機能ガイド](#)

## ● 音設定



- (1) [電子音](#)
- (2) [音量](#)
- (3) [ヘッドフォン](#)

## ● 表示カスタマイズ



- (1) [モニターの明るさ](#)
- (2) [暗所表示](#)
- (3) [メニュー画面の拡大](#)
- (4) [起動画面](#)
- (5) [HDMI出力解像度](#)

## ● 各種設定



- (1) [冷却ファン設定](#)
- (2) [レンズ収納時間](#)
- (3) [パスワードの管理](#)
- (4) [節電](#)

## ● 初期化/一括設定



- (1) [カメラの初期化](#) **応用**
- (2) [カスタム撮影モード \(C1-C3\)](#) **応用**

## ● 各種情報



- (1) [バッテリー情報](#)
- (2) [著作権情報](#) **応用**
- (3) [ログの表示](#)
- (4) [マニュアル/ソフトウェアURL](#)
- (5) [マニュアルURL\(中国大陸地区向け\)](#)
- (6) [認証マーク表示](#) **応用**
- (7) [ファームウェア](#)

## フォルダの設定

---

[フォルダの作成](#)

[フォルダの選択](#)

画像を保存するフォルダを任意に作成／選択することができます。

---

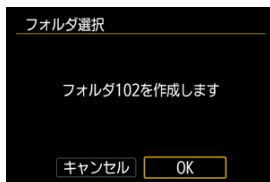
### フォルダの作成

---

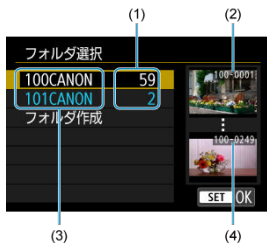
1. [F:フォルダ選択] を選ぶ (F)
2. [フォルダ作成] を選ぶ



3. [OK] を選ぶ



## フォルダの選択



- (1) フォルダ内画像数
- (2) 最小番号画像
- (3) フォルダ名
- (4) 最大番号画像

- フォルダ選択画面でフォルダを選びます。
- 撮影画像は選択したフォルダに記録されます。

### 参考

#### フォルダについて

- 1つのフォルダには、画像が最大9999枚保存されます（画像番号0001～9999）。フォルダ内の画像がいっぱいになると、番号が1つ繰り上がったフォルダが自動的に作成されます。また、強制リセット (☑) を行ったときもフォルダが自動的に作成されます。フォルダは100～999まで作成することができます。

#### パソコンを使ったフォルダ作成

- カードを開いたところに「DCIM」という名前のフォルダを作ります。次にDCIMフォルダを開いたところに、画像を記録するフォルダを必要な数だけ作ります。フォルダ名は、「100ABC\_D」のように、必ず100～999までの3桁の番号に続けて、5文字の英数字を付けます。使用できる文字は、半角アルファベットA～Z（大文字、小文字混在可）、半角の「\_」（アンダーバー）、および数字です。スペースは使用できません。また、同じフォルダ番号（例：100ABC\_D、100W\_XYZ）を付けたときは、カメラがフォルダを認識できません。

## 画像番号

---

[通し番号](#)

[オートリセット](#)

[強制リセット](#)

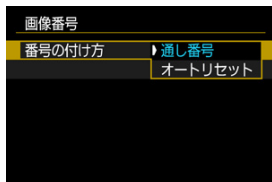
撮影した画像には0001~9999の順で画像番号が付けられ、1つのフォルダに保存されます。画像番号は、用途に応じて付け方を変えることができます。

(例)  
**IMG\_0001.JPG**  
|  
(1)  
(1) 画像番号

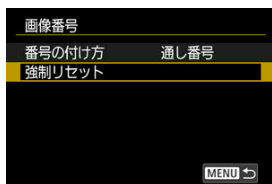
---

1. [: 画像番号] を選ぶ ()

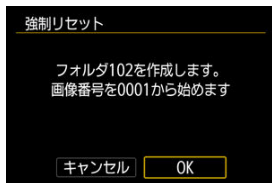
## 2. 項目を設定する



- [番号の付け方] を選びます。
- [通し番号] [オートリセット] のいずれかを選びます。



- 画像番号をリセットしたいときは、[強制リセット] を選びます (🔗)。



- [OK] を選ぶと、新しいフォルダが作成され、画像番号が0001から始まります。

### ⚠ 注意

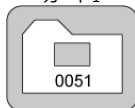
- フォルダ番号999のフォルダに画像番号9999の画像が保存されると、カードに空き容量があっても撮影できなくなります。カードの交換を促すメッセージが表示されますので、新しいカードに交換してください。

### カード交換やフォルダ作成を行っても連番で保存したいとき

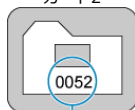
カード交換やフォルダ作成を行っても、画像番号9999の画像ができるまで、連続した番号が付けられ、保存されます。複数のカード、またはフォルダにまたがった0001～9999までの画像を、パソコンで1つのフォルダにまとめて保存したいときなどに有効です。ただし、交換したカードや、作成したフォルダにすでに画像が入っているときは、その画像に付けられた番号の続き番号になることがあります。画像を通し番号で保存したいときは、初期化したカードを使用してください。

#### カードを交換した場合

カード1



カード2

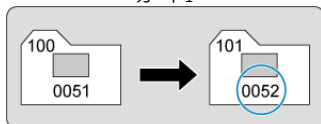


(1)

(1) 続きの画像番号

#### フォルダを作成した場合

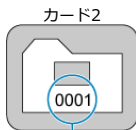
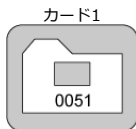
カード1



### カード交換やフォルダ作成で、画像番号を0001にしたいとき

カード交換やフォルダ作成を行うと、画像番号0001から順に番号が付けられ、保存されます。カード単位、またはフォルダ単位で画像を分類したいときなどに有効です。ただし、交換したカードや、作成したフォルダにすでに画像が入っているときは、その画像に付けられた番号の続き番号になることがあります。0001から順に保存したいときは、初期化したカードを使用してください。

#### カードを交換した場合

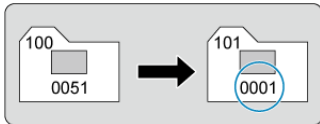


(1)

(1) 画像番号リセット

#### フォルダを作成した場合

カード1



### 任意に画像番号を0001にしたり、新しいフォルダで画像番号0001から撮影したいとき

この操作を行うと、自動的に新しいフォルダが作られ、そのフォルダに画像番号0001から順に番号が付けられ、保存されます。  
前の日に撮影した画像と、今日撮影する画像を別々のフォルダに保存したいときなどに有効です。

## カード初期化

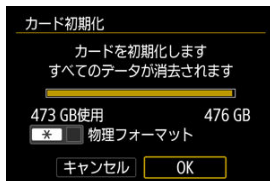
新しく買ったカードや、他のカメラ、パソコンで初期化したカードは、このカメラで初期化（フォーマット）してください。

### ❗ 注意

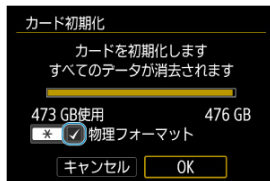
- カードを初期化すると、カードに記録されている内容は、画像だけでなくすべて消去されます。プロテクトをかけた画像も消去されますので、記録内容を十分に確認してから初期化してください。必要なデータは、初期化する前に必ずパソコンなどに保存してください。

1. [🔧 : カード初期化] を選ぶ (🔍)

2. 初期化する



- [OK] を選びます。



- 物理フォーマットを行うときは、〈★〉ボタンを押して、[物理フォーマット] の横に [✓] が付いた状態で [OK] を選びます。

## ☀ カードの初期化が必要な場合

- 新しく買ってきたカードを使うとき
- 他のカメラやパソコンで初期化したカードを使うとき
- 画像やデータでカードがいっぱいになったとき
- カードに関するエラーが表示されたとき (🔍)

### 物理フォーマット

- 物理フォーマットは、カードへの書き込み/読み取り速度が遅くなったと感じたときや、データを完全に消去するときなどに行います。
- 物理フォーマットは、カード内の全記憶領域に渡って初期化を行うため、通常のカード初期化よりも時間がかかります。
- 物理フォーマット中に「キャンセル」を選ぶと、初期化を中止することができます。中止した場合でも、通常の初期化は完了しているため、カードはそのまま問題なく使用できます。

### カード初期化時のファイルフォーマットについて

- SDカードはFAT12形式またはFAT16形式、SDHCカードはFAT32形式、SDXCカードはexFAT形式でフォーマットされます。
- exFAT形式でフォーマットされたカードを使用して動画撮影を行ったときは、1回の撮影でファイルサイズが4GBを超える場合でも、(ファイルが分割されず) 1つの動画ファイルに記録されます (4GBを超える動画ファイルが作成されます)。

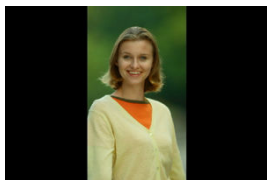
#### 🚫 注意

- このカメラで初期化したSDXCカードは、他のカメラでは使用できないことがあります。また、exFAT形式でフォーマットされたカードは、パソコンのOSやカードリーダーによっては、正しく認識されないことがあります。
- カード内のデータは、初期化や削除では完全には消去されません。譲渡・廃棄するときは、注意してください。カードを廃棄するときは、カードを破壊するなどして個人情報の流出を防いでください。

#### 📖 参考

- カード初期化画面に表示されるカードの総容量は、カードに表記されている容量よりも少なくなることがあります。
- 本機器はMicrosoftからライセンスされたexFAT技術を搭載しています。

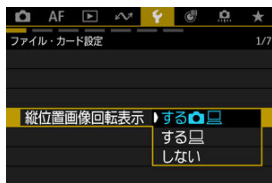
## 縦位置画像回転表示



縦位置で撮影した画像を再生または表示するときの自動回転の設定を変更することができます。

1. [📷：縦位置画像回転表示] を選ぶ (🔍)

2. 項目を選ぶ



- **する📷🖨️**  
カメラでの再生とパソコンでの表示で自動回転表示を行います。
- **する🖨️**  
パソコンでの表示で自動回転表示を行います。
- **しない**  
自動回転しません。

### 🚫 注意

- [しない] で撮影した画像は、[する] に設定して再生しても、自動回転表示は行われません。

 参考

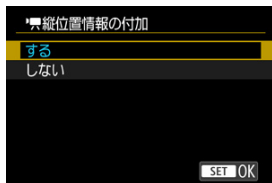
- カメラを上や下に向けて撮影すると、自動回転表示が正しく行われなかったりすることがあります。
- パソコンの画面で自動回転表示しないときは、EOS用ソフトウェアの使用をおすすめします。

## 動画縦位置情報の付加

カメラを縦位置にして撮影した動画を、スマートフォンなどで再生したときに、動画が撮影したときと同じ向き（縦位置）で再生されるように、撮影時に回転情報（上の向きの情報）を自動付加するかどうかを設定できます。

1. [📷: 縦位置情報の付加] を選ぶ (🔍)

2. 項目を選ぶ



- **する**  
スマートフォンなどで動画を再生したときに、撮影したときと同じ向きで再生されます。
- **しない**  
スマートフォンなどで動画を再生したときは、撮影したときの向きに関わらず、横位置で再生されます。

### ⚠ 注意

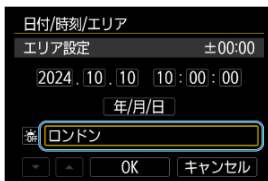
- カメラ、HDMI映像出力先で動画を再生したときは、設定に関わらず、横位置で再生されます。

## 日付／時刻／エリア

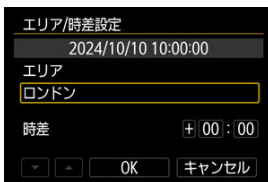
初めて電源を入れたときや、日付／時刻／エリアの設定が解除されているときは、以下の操作手順に従ってエリア（地域）から設定してください。  
エリアから設定しておくことで、エリア設定を変更するだけで、そのエリアの日付／時刻に変更されます。  
撮影画像には撮影日時の情報が付加されますので、必ず設定してください。

### 1. [📍：日付/時刻/エリア] を選ぶ (📍)

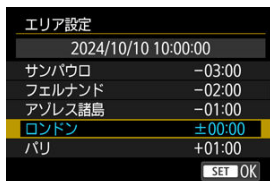
### 2. エリアを設定する



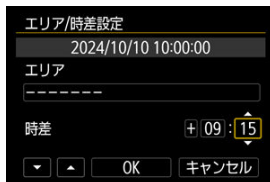
- <📍> で [エリア設定] を選び、<📍> を押します。



- <📍> を押します。

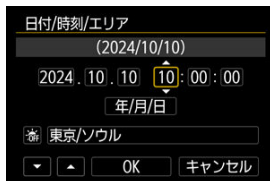


- <▲><▼> でエリアを選び、<⊗> を押します。
- 該当するエリアがないときは、<MENU> ボタンを押して [時差] (協定世界時との時差) で設定します。



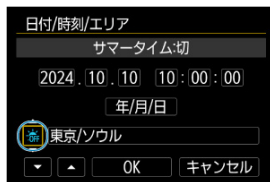
- <◀><▶> で [時差] の項目 (+-/時/分) を選び、<⊗> を押します。
- <▲><▼> で設定し、<⊗> を押します。
- エリア/時差の設定が終わったら、[OK] を選びます。

### 3. 日付/時刻を設定する



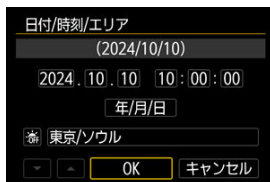
- <◀><▶> で項目を選び、<⊗> を押します。
- <▲><▼> で設定し、<⊗> を押します。

## 4. サマータイムを設定する



- 必要に応じて設定します。
- [☀️] または [🌑] を選び、(⏪) を押します。
- サマータイムを [🌑] にすると、手順3で設定した時刻が1時間進みます。[☀️] にするとサマータイムが解除され、1時間戻ります。

## 5. 設定を終了する



- [OK] を選びます。

### ⚠️ 注意

- カメラからバッテリーを取り出して保管したときや、カメラのバッテリー残量がなくなったとき、カメラを氷点下に長時間放置したときは、日付/時刻/エリアの設定が解除されることがあります。そのときは再度設定してください。
- [エリア/時差設定] の内容を変更したときは、日付/時刻が正しく設定されているか確認してください。

### 📖 参考

- [📷: 日付/時刻/エリア] の画面を表示しているときは、オートパワーオフまでの時間が延長されることがあります。

1. [🗣️ : 言語🗣️] を選ぶ (🔍)
2. 言語を設定する



# 単位

---

ズーム操作時やマニュアルフォーカス撮影時に表示される距離指標の単位を、[m/cm] から [ft/in]（フィート/インチ）に変えることができます。

---

1. [📏: 単位] を選ぶ (🔍)
2. 項目を選ぶ



## ビデオ方式

---

テレビの映像方式を設定します。この設定に応じて、動画撮影時に選択できるフレームレートが変わります。

---

1. [📷: ビデオ方式] を選ぶ (🔍)

2. 項目を選ぶ



- **NTSC**

テレビの映像方式が「NTSC」地域（北米、日本、韓国、メキシコなど）のときに設定します。

- **PAL**

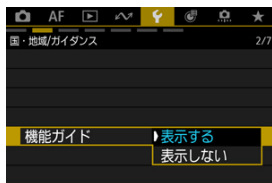
テレビの映像方式が「PAL」地域（ヨーロッパ、ロシア、中国、オーストラリアなど）のときに設定します。

# 機能ガイド

クイック設定時に、機能・項目の簡単な説明（機能ガイド）を表示することができます。

1. [🔔: 機能ガイド] を選ぶ (🔔)

2. 項目を選ぶ



画面例



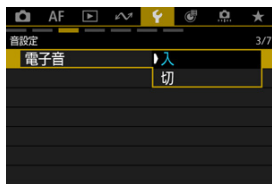
(1) 機能ガイド

## 参考

- 説明の表示中に、説明をタッチしたり、操作を続けると説明は消えます。

1. [🔔: 電子音] を選ぶ (🔗)

2. 項目を選ぶ



- 入  
合焦時、タッチ操作時などに電子音を出します。
- 切  
電子音を消します。

## 📖 参考

- タッチ音の初期設定は音量 [0] に設定されています (🔗)。

# 音量

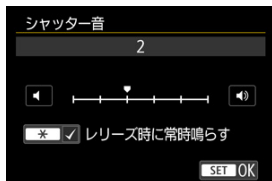
カメラの各種動作音の音量を変えられます。

## 1. [🔊: 音量] を選ぶ (🔍)

## 2. 項目を選ぶ



## 3. 音量を調整する



- <◀><▶> で音量を調節し、<🔍> を押します。

### 📖 参考

- [シャッター音] の設定画面で、[リリース時に常時鳴らす] にチェックを付けると、[📷: シャッター方式] の設定にかかわらず、シャッター作動時に電子音が鳴ります。

# ヘッドフォン

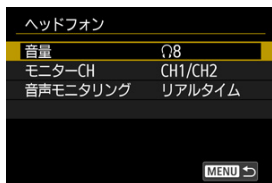
---

- ☑ [音量](#)
- ☑ [モニターCH](#)
- ☑ [音声モニタリング](#)

## 音量

---

1. [F:ヘッドフォン] を選ぶ (F)
2. [音量] を選ぶ



3. 音量を調節する

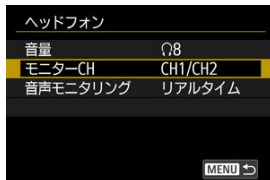


- ◂(◂) を回して音量を調節し、◂(◂) を押します。

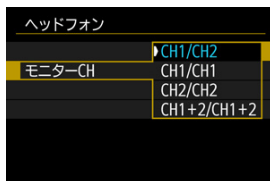
 参考

- [ : 録音] が [しない] 以外、 [ : ハイフレームレート] が [切] のときは、内蔵マイクまたは外部マイクからの音をヘッドフォンで確認することができます。

### 1. [モニターCH] を選ぶ



### 2. 出力音声 (L/R) の組み合わせを選ぶ

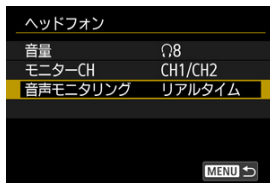


- [CH1+2] は、CH1とCH2のミックスした信号であることを示します。

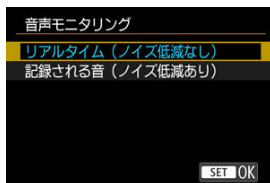
## 音声モニタリング

動画記録時に、ヘッドフォンから出力される音声を選択できます。記録される音声のノイズを低減するには、**[音声ノイズ低減]** (🔇) を設定してください。

### 1. [音声モニタリング] を選ぶ



### 2. 項目を選ぶ



- **リアルタイム (ノイズ低減なし)**  
ノイズ低減処理をせず音声が出力されます。
- **記録される音 (ノイズ低減あり)**  
ノイズ低減処理をして音声が出力されます。

#### ⚠ 注意

- **[記録される音 (ノイズ低減あり)]** を選択したときは、映像に対して音声若干遅延して出力されます。ただし、記録される動画に音声の遅延はありません。

## モニターの明るさ

1. [☑: モニターの明るさ] を選ぶ (☑)
2. 調整する



- グレーチャートを参考にして〈◀〉〈▶〉でモニターの明るさを調整し、〈☑〉を押します。効果はモニターで確認してください。

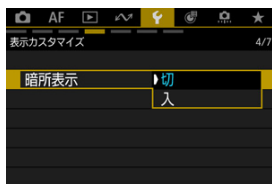
### 参考

- 撮影した画像の露出を確認するときは、ヒストグラム (☑) で確認することをおすすめします。

## 暗所表示

画面に表示される情報やメニュー画面の色を、暗いところで撮影するときに適した色に変えられます。

1. [👁️：暗所表示] を選ぶ (🔗)
2. 項目を選ぶ



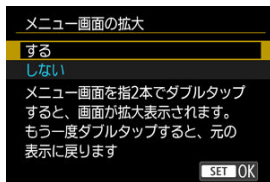
### 📱 参考

- 撮影画面や再生表示で1枚表示のときに〈▼〉を1秒以上押し続けたままにすると、[👁️：暗所表示] を [切] に戻せます。

## メニュー画面の拡大

指2本で、メニュー画面をダブルタップすると、メニュー画面を拡大して表示することができます。再度、ダブルタップすると元の表示サイズに戻ります。

1. [🔍:メニュー画面の拡大] を選ぶ (🔍)
2. [する] を選ぶ



### ⚠ 注意

- 拡大表示した状態で、メニュー機能の設定を行うときは操作部材で操作してください。タッチして操作することはできません。

## 起動画面

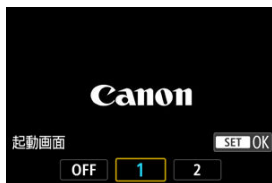
---

電源を入れたときの起動画面の表示を設定できます。

---

1. [P: 起動画面] を選ぶ (Ⓢ)

2. 項目を選ぶ



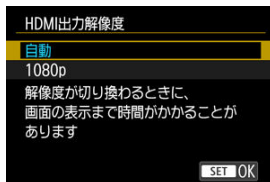
- 項目を選び (Ⓢ) を押します。

# HDMI出力解像度

カメラとテレビや外部記録機器などを、HDMIケーブルで接続して映像を出力するときに、解像度を設定することができます。

1. [🔧 : HDMI出力解像度] を選ぶ (🔍)

2. 項目を選ぶ



- **自動**  
接続したテレビに合わせて、自動的に最適な解像度で画像が表示されます。
- **1080p**  
1080pの解像度で出力します。解像度が切り換わる時の表示や時間が気になるときに選びます。

# 冷却ファン設定

冷却ファンを回転させて、本機内部の熱を排出することができます。

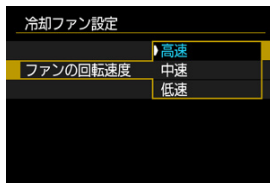
## 1. [🔊: 冷却ファン設定] を選ぶ (🔍)

## 2. [ファン] を選ぶ



- **オート**  
本機の内部温度に応じて、冷却ファンが自動的に回転します。内部温度が上がると冷却ファンの回転速度は速くなり、内部温度が下がると遅くなります。  
撮影中は、冷却ファンの動作音が録音されることがあります。
- **入**  
常に [ファンの回転速度] で設定した速度で回転します。
- **切**  
回転しません。

## 3. [ファンの回転速度] を選ぶ



- 設定の速度に応じて、ファンが回転します。  
ファンの回転速度が速くなると、記録される動作音は大きくなります。

## 注意

- 冷却ファンの回転中は、排気口から暖かい空気が排出されます。
- 吸気口や排気口を手指やテープなどでふさがないように注意してください。

## 参考

- 高温下など撮影環境によっては、[オート] にしてもファンが停止しないことがあります。

## レンズ収納時間

---

撮影状態から〈▶〉ボタンを押して約1分経過すると、安全のためレンズが収納されます。  
〈▶〉ボタンを押すとすぐにレンズが収納されるようにしたいときは、収納時間を [0秒] に設定します。

---

1. [🔧: レンズ収納時間] を選ぶ (🔗)

2. 項目を選ぶ



## パスワードの管理

---

カメラの電源スイッチを〈ON〉にしたときや、オートパワーオフから復帰したときに入力するパスワードを管理します。カメラ起動時のパスワード設定方法については、[パスワードを設定する](#)を参照してください。

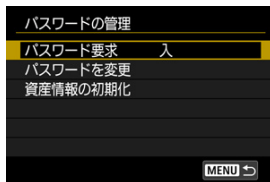
- [パスワード要求](#)
- [パスワードを変更する](#)
- [資産情報を初期化する](#)

### パスワード要求

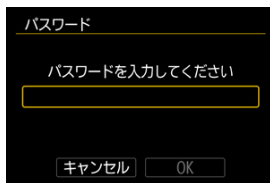
---

カメラの電源スイッチを〈ON〉にしたときや、オートパワーオフから復帰したときに、パスワードを要求するかどうかを設定できます。

1. [🔑:パスワードの管理] を選ぶ (🔑)
2. [パスワード要求] を選ぶ



### 3. 初回起動時に設定したパスワードを入力する



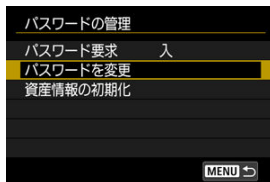
### 4. 項目を選ぶ



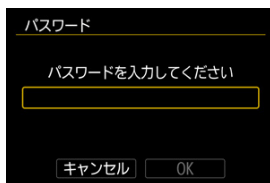
## パスワードを変更する

カメラの電源スイッチを〈ON〉にしたときや、オートパワーオフから復帰したときに入力するパスワードを変更します。

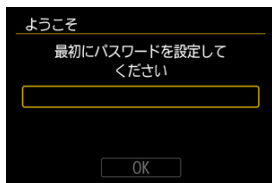
### 1. [パスワードを変更] を選ぶ



### 2. 初回起動時に設定したパスワードを入力する

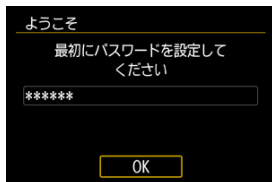


### 3. 新しいパスワードを入力する

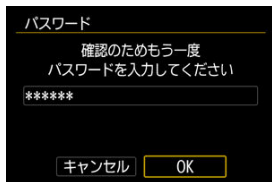


- 6桁の数字を入力し、[OK] を押します。

### 4. [OK] を選ぶ



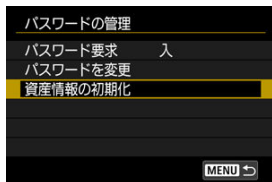
### 5. もう一度パスワードを入力し、[OK] を選ぶ



## 資産情報を初期化する

撮影機能やメニュー機能の設定とパスワードを初期状態に戻すことができます。

### 1. [資産情報の初期化] を選ぶ



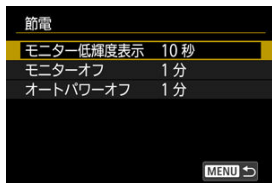
### 2. [OK] を選ぶ

## 節電

カメラを操作しない状態でモニターが暗くなるまでの時間（モニター低輝度表示）、モニターが暗くなってから画面が消えるまでの時間（モニターオフ）、カメラの電源が切れるまでの時間（オートパワーオフ）を変えることができます。

### 1. [⚡: 節電] を選ぶ (🔍)

### 2. 項目を選ぶ



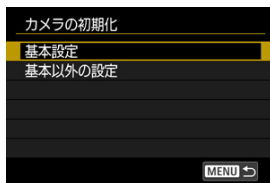
#### 📖 参考

- [モニター低輝度表示] と [モニターオフ] は撮影画面の表示時に機能します。メニューや再生画面の表示時は機能しません。
- メニューや再生画面の表示時は、[モニター低輝度表示] [モニターオフ] [オートパワーオフ] の設定時間後にカメラの電源が切れます。
- [モニターオフ] と [オートパワーオフ] を [しない] に設定していても、液晶を保護するため、モニターが暗くなってから30分後に画面の表示が消えます（カメラの電源は切れません）。
- 静止画撮影待機時、低輝度表示になると、モニターに表示される映像のフレームレートは低下します。

撮影機能やメニュー機能の設定を初期状態に戻すことができます。

## 1. [📷: カメラの初期化] を選ぶ (🔍)

## 2. 項目を選ぶ



- **基本設定**  
カメラの撮影機能や、メニュー機能の設定内容を初期状態に戻します。
- **基本以外の設定**  
選択した項目の設定内容を初期化することができます。

## 3. 初期化する

- 確認画面で **[OK]** を選びます。

### ❗ 注意

- 撮像素子が宇宙線などの影響を受けると、撮影画像や撮影画面に「輝点」が生じることがあります。そのときは、**[基本設定]** を選んだ状態で、① <▶> を押しながら <MENU> ボタンを押すか、② <📷> を押して **[OK]** を選ぶと、輝点の発生が改善することがあります (②のときはカメラの設定が初期状態になります)。

[登録内容の自動更新](#)

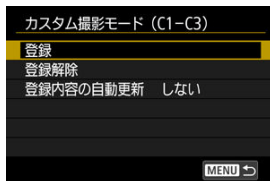
[カスタム撮影モードの登録解除](#)

撮影機能やメニュー機能、カスタム機能など、現在カメラに設定されている内容を、撮影モードの〈C1〉～〈C3〉にカスタム撮影モードとして登録することができます。静止画撮影時、動画撮影時のそれぞれに登録することができます。

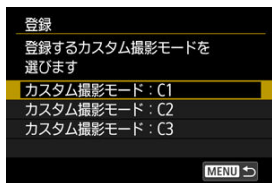
---

1. [F: カスタム撮影モード (C1-C3)] を選ぶ (F)

2. [登録] を選ぶ



### 3. 登録する



- 登録するカスタム撮影モードを選び、[登録]の画面で[OK]を選びます。
- カメラの設定内容がカスタム撮影モードのC\*に登録されます。
- 静止画撮影時は、登録された撮影モードがカスタム撮影モードのアイコンに反映されます（例 [C1<sub>IV</sub>] [C2<sub>AV</sub>] [C3<sub>M</sub>]）。
- 動画撮影時は、カスタム撮影モードのアイコンが [C1<sub>IV</sub>] [C2<sub>AV</sub>] [C3<sub>M</sub>] に変わります。

#### 登録内容の自動更新

カスタム撮影モードで撮影しているときに、設定変更した内容を登録内容に自動反映することができます（自動更新）。自動更新するときは、手順2で [登録内容の自動更新] を [する] に設定します。

## カスタム撮影モードの登録解除

手順2で【登録解除】を選ぶと、各モードの設定内容を、登録を行う前の初期状態に戻すことができます。

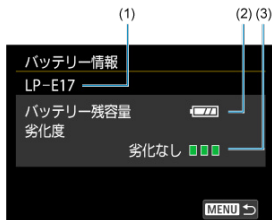
### 参考

- カスタム撮影モードのときも、撮影機能やメニュー機能などの設定を変更することができます。

## バッテリー情報

使用しているバッテリーの状態を画面で確認することができます。

### 1. [🔋: バッテリー情報] を選ぶ (🔍)



- (1) 使用しているバッテリーの型式が表示されます。
- (2) バッテリー残量 (🔋) が表示されます。
- (3) バッテリーの劣化状態が3段階で表示されます。

■ ■ ■ (緑) : 劣化していません

■ ■ □ (緑) : 少し劣化しています

■ □ □ (赤) : バッテリーの買い換えをおすすめします

#### ⚠ 注意

- キヤノン純正のバッテリーパック LP-E17のご使用をおすすめします。純正品以外のバッテリーを使用すると、カメラ本来の性能を発揮できない恐れや、故障の原因になることがあります。

#### 📖 参考

- バッテリー通信エラーに関するメッセージが表示されたときは、メッセージに従って操作してください。

[著作権情報の確認](#)

[著作権情報の消去](#)

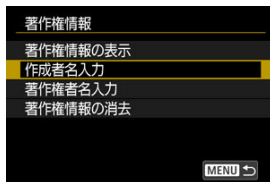
著作権情報の設定を行うと、その内容がExif（イグジフ）情報として画像に記録されます。

**!** 注意

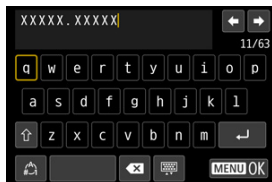
- 入力した作成者名または著作権者名が長いときは、**[著作権情報の表示]** を選んだ際に、入力した文字の一部が表示されないことがあります。





1. [**🔍**: 著作権情報] を選ぶ (🔍)

2. 項目を選ぶ



### 3. 文字を入力する



- 〈〉で文字を選び、〈〉を押すと入力されます。
- [] を選ぶと、入力モードが切り換わります。
- [] を選ぶと、1文字消去されます。

### 4. 設定を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押して [OK] を選びます。

## 著作権情報の確認



手順2で [著作権情報の表示] を選ぶと、入力した [作成者] [著作権者] の情報を確認することができます。

## 著作権情報の消去

---

手順2で **著作権情報の消去** を選ぶと、**作成者** **著作権者** の情報が消去されます。

## その他の情報

---

### ● ログの表示

[🔍: ログの表示] を選ぶと、パスワード変更やネットワーク情報変更などの履歴を確認できます。

### ● マニュアル/ソフトウェアURL、マニュアルURL(中国大陸地区向け)

[🔍: マニュアル/ソフトウェアURL] または [🔍: マニュアルURL(中国大陸地区向け)] を選んで (📄) 表示されるQRコードをスマートフォンで読み取り、使用説明書をダウンロードすることができます。また、表示されるURLのWebサイトにパソコンでアクセスして、ソフトウェアをダウンロードすることができます。

中国大陸地区からアクセスする場合は、[🔍: マニュアルURL(中国大陸地区向け)] を選択してください。

### ● 認証マーク表示 **応用**

[🔍: 認証マーク表示] を選ぶと (🔍), このカメラが対応している認証マークの一部を確認できます。また、その他の認証マークは、カメラ本体、カメラが入っていた箱にも表記されています。

### ● ファームウェア

このカメラまたは使用中のレンズなどの対応アクセサリーのファームウェアをアップデートするときに使用します。

[🌐 image.canonに画像送信] などインターネットに接続する機能が設定されていて、インターネットに接続可能なとき、キヤノンのサーバーに最新ファームウェアがあれば、🔍アイコンおよび [🔍: ファームウェア] に「\*」マークが表示されます。[🔍: ファームウェア] を選び、画面の指示に従って、ファームウェアをアップデートすることができます。[📶: Wi-Fi設定] の [Wi-Fi] を [使わない] にしたとき、または接続先を切り換えたときは「\*」マークは消えます。

なお、カメラのファームウェアのアップデートは、Camera Connectからもできます (📄)。

## 操作カスタマイズ

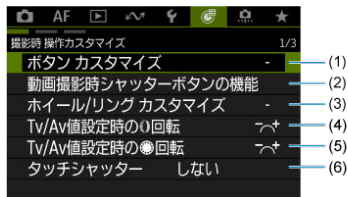
---

よく使う機能を、自分が操作しやすいボタンやダイヤルに割り当てることができます。

- [メニュー目次：操作カスタマイズ機能タブ](#)
- [操作カスタマイズで変更できる内容](#)

## メニュー目次：操作カスタマイズ機能タブ

### ● 撮影時 操作カスタマイズ



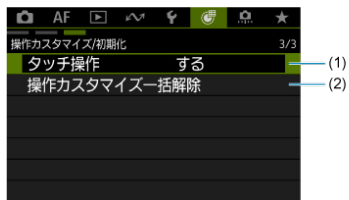
- (1) [ボタン カスタマイズ](#) **応用**
- (2) [動画撮影時シャッターボタンの機能](#)
- (3) [ホイール/リング カスタマイズ](#) **応用**
- (4) [Tv/Av値設定時の0回転](#) **応用**
- (5) [Tv/Av値設定時の回転](#) **応用**
- (6) [タッチシャッター](#)

### ● 再生時 操作カスタマイズ



- (1) [での画像送り](#)

## ● 操作カスタマイズ/初期化



(1) [タッチ操作](#)

(2) [操作カスタマイズ一括解除](#) **応用**

## 操作カスタマイズで変更できる内容

---

[\[撮影時 操作カスタマイズ\]](#)

[\[再生時 操作カスタマイズ\]](#)

[\[操作カスタマイズ/初期化\]](#)

撮影スタイルに応じて、[\[設定\]](#) タブでカメラの機能を細かく設定することができます。

---

### ボタン カスタマイズ

よく使う機能を、自分が操作しやすいボタンに割り当てることができます。また、静止画撮影時と動画撮影時で、同じボタンに別の機能を割り当てることができます。

1. [🔍 : ボタン カスタマイズ] を選ぶ (🔍)
2. 操作部材を選ぶ







3. 割り当てる機能を選ぶ



- <🔍> を押すと設定されます。
- 画面左下に [🌟 詳細設定] が表示される機能は、<🌟> ボタンを押すと、さらに詳細設定を行うことができます。











## 参考

- [  ] は、外部ストロボに装備されている「メニューダイレクト」を表しています。
- [ **リモコンファンクションボタン1** ] [ **リモコンファンクションボタン2** ] は、ワイヤレスリモートコントローラーBR-E2（別売）に装備されている「リモコンファンクションボタン」を表しています。
- [  : **ボタン カスタマイズ** ] の設定は、[  : **カスタム機能(C.Fn)一括解除** ] を選んでも解除されません。設定した内容を解除するときは、[  : **操作カスタマイズ一括解除** ] を選んでください。

## 割り当て可能な機能一覧

### AF

● : 初期値 ○ : 機能割り当て可能

		M-Fn				
 AF : 測光・AF開始						
●*1	-	-	○	-	-	-
AF-OFF : AF停止						
-	○*1	○	○	-	-	-
 : AFフレーム選択						
-	○*1	○	○	-	-	-
 : AFフレーム中央戻し						
-	○*1	○	○	-	-	-
 : 全域トラッキングの開始/停止						
-	○*1	○	○	-	-	-
 : AFエリアダイレクト選択*1						
-	○	○	○	-	-	-
 : 検出する被写体ダイレクト選択*1						
-	○	○	○	-	-	-
ONE SHOT SERVO  : ワンショットAF ↔ サーボAF*1						
-	○	○	○	-	-	-
AF □ : AFエリア						
-	○*1	○	○	-	-	-
 AF : 検出した被写体でAF*1						
-	-	○	○	-	-	-
 AF : 睡AF*1						
-	-	○	○	-	-	-
 : 睡検出						
-	○*1	○	○	-	○	○







**PEAK : ピーキング**

-	○*1	○	○	-	○	○
---	-----	---	---	---	---	---

\* 1 : 動画撮影の設定では割り当てできません。

## 露出

● : 初期値 ○ : 機能割り当て可能

		M-Fn				
<b>☺</b> : 測光開始* <sup>1</sup>						
○	-	-	-	-	-	-
<b>*</b> : AEロック						
-	○* <sup>1</sup>	○	●* <sup>3</sup>	-	○	●* <sup>3</sup>
<b>組</b> : AEロック/FEロック* <sup>1</sup>						
-	○	○	●* <sup>4</sup>	-	-	-
<b>ISO</b> : ISO感度						
-	○* <sup>1</sup>	○	○	-	-	-
<b>☺</b> : 測光モード* <sup>1</sup>						
-	○	○	○	-	-	-
<b>FEL</b> : FEロック* <sup>1</sup>						
-	○	○	○	-	-	-

\* 1 : 動画撮影の設定では割り当てできません。

\* 3 : 動画撮影時の初期値

\* 4 : 静止画撮影時の初期値

## 画像












● : 初期値 ○ : 機能割り当て可能

		M-Fn				
 : 記録画質選択*1						
-	○	○	○	-	-	-
RAW JPEG : ワンタッチ記録画質切換*1						
-	○	○	○	-	-	-
RAW JPEG H : ワンタッチ記録画質切換 (ホールド) *1						
-	○	○	○	-	-	-
 : 静止画クロップ/アスペクト*1						
-	○	○	○	-	-	-
 : クロップ/アスペクト切り換え*1						
-	○	○	○	-	○	●
 : オートライティング最適マイザ						
-	○*1	○	○	-	-	-
ND : NDフィルター						
-	○*1	○	○	-	-	-
WB : ホワイトバランス選択						
-	○*1	○	○	-	-	-
 : ピクチャースタイル選択						
-	○*1	○	○	-	-	-
 : プロテクト						
-	○*1	○	○	-	-	-
★ : レーティング						
-	○*1	○	○	-	-	-
 : フォルダ選択						
-	○*1	○	○	-	-	-

\* 1 : 動画撮影の設定では割り当てできません。

## 動画

● : 初期値 ○ : 機能割り当て可能

		M-Fn				
 : ゼブラ <sup>*2</sup>						
-	-	○	○	-	○	○
 : 動画撮影						
-	● <sup>*1</sup>	○	○	-	-	-
 : 動画サーボAF一時停止						
-	○ <sup>*1</sup>	○	○	-	○	○
 : デジタルズーム <sup>*2</sup>						
-	-	○	○	-	○	○
 : 温度上昇緩和 <sup>*2</sup>						
-	-	○	○	-	-	-

\* 1 : 動画撮影の設定では割り当てできません。

\* 2 : 静止画撮影の設定では割り当てできません。

## 操作

● : 初期値 ○ : 機能割り当て可能

			M-Fn				
 : ストロボ機能設定*1							
-	○	○	○	●	-	-	-
 Gr : クイックストロボグループ制御*1							
-	○	○	○	○	-	-	-
DIAL FUNC : ダイヤルファンクション設定							
-	○*1	●	○	-	-	-	-
 : モニターオフ							
-	○*1	○	○	-	●	○	○
 : タッチシャッター*1							
-	○	○	○	-	-	-	-
 :  表示フレームレート設定*1							
-	○	○	○	-	-	-	-
 : 通信機能							
-	○*1	○	○	-	-	-	-
 : フォルダ作成*1							
-	○	○	○	-	-	-	-
OFF : 無効							
-	○*1	○	○	○*1	○	○	○



\* 1 : 動画撮影の設定では割り当てできません。

## 動画撮影時シャッターボタンの機能

動画撮影時にシャッターボタンを半押ししたときの動作を設定することができます。

## ホイール/リング カスタマイズ

⌚ ( ) < ( ) に、よく使う機能を割り当てることができます。


1. [  : ホイール/リング カスタマイズ ] を選ぶ (  )

## 2. 操作部材を選ぶ






## 3. 割り当てる機能を選ぶ



- 〈〉を押すと設定されます。


### 参考

- [ : ホイール/リング カスタマイズ] の設定は、[ : カスタム機能(C.Fn)一括解除] を選んでも解除されません。設定した内容を解除するときは、[ : 操作力カスタマイズ一括解除] を選んでください。

## 各コントローラーに割り当てできる機能の一覧

●：初期値 ○：機能割り当て可能

	機能名		
<b>Tv</b>	Mモード時、シャッタースピード変更	○	-
<b>Av</b>	Mモード時、絞り数値変更	●*1	-
<b>ISO</b>	ISO感度設定	○	-
	露出補正	○	-
<b>STD</b>	標準	●*2	●
	ピント調整	○	-
	ステップズーム	○	-
<b>OFF</b>	無効	○	○

\*1：〈M〉[M]モード時の初期値。



\*2：〈P〉〈Av〉〈Tv〉[P] [Av] [Tv]モード時の初期値。

### 参考

- 〈〉はコントローラーリングを、〈〉はコントローラーホイールを表しています。



### Tv/Av値設定時の回転

シャッタースピード、絞り数値設定時のコントローラーリングによる設定方向を反転させることができます。



- +：通常
- -：設定方向を反転

### Tv/Av値設定時の回転

シャッタースピード、絞り数値設定時の、コントローラーホイールによる設定方向を反転させることができます。

- +：通常
- -：設定方向を反転

## タッチシャッター

タッチシャッター機能を設定することができます。[する]にすると、撮影画面左下のがになり、タッチシャッター機能が有効になります。

タッチシャッター機能の使い方については、[タッチシャッターで撮影する](#)を参照してください。

## [再生時 操作カスタマイズ]

### 0での画像送り

1枚表示の再生画面で〈0〉を回してジャンプ表示する際の、ジャンプ方法を設定することができます。



#### 参考

- [指定した枚数ごとに画像を表示] を選んだときは、〈0〉でジャンプする枚数を設定します。
- [指定したレーティングの画像を表示] を選んだときは、〈0〉でレーティング (👍) を指定します。★を選んだときは、画像送りを行うと、レーティングが設定されているすべての画像が表示されます。

### タッチ操作




- タッチ操作を禁止するときは、[しない] を選びます。

#### ! 注意




##### タッチパネル操作時の注意事項

- 爪やボールペンなど、先のとがったもので操作しないでください。
- 濡れた指で操作しないでください。モニターに水滴がついていたり、濡れた指で操作すると、反応しなくなったり、誤動作することがあります。カメラの電源を一旦切ってから、布などでふき取ってください。
- モニターに市販の保護シートやシールを貼ると、タッチの反応が悪くなる場合があります。

### 操作カスタマイズ一括解除

[ : 操作カスタマイズ一括解除] を選ぶと、操作カスタマイズ機能の設定を一括で解除することができます。

#### 参考

- [ : ボタン カスタマイズ] [ : ホイール/リング カスタマイズ] で設定した内容を解除するときは、[ : 操作カスタマイズ一括解除] を選んでください。

## カスタム機能／マイメニュー

---

撮影スタイルに応じて、カメラの機能を細かく変更することができます。また、設定変更の頻度が高いメニュー機能とカスタム機能を選んで、マイメニュータブに登録することができます。

- [メニュー目次：カスタム機能タブ](#)
- [カスタム機能で変更できる内容](#)
- [メニュー目次：マイメニュータブ](#)
- [マイメニューの登録](#)

## メニュー目次：カスタム機能タブ

---

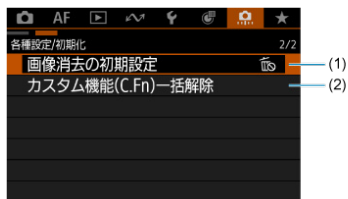
### ● 露出



(1) [ISO感度設定ステップ](#) **応用**


(2) [セーフティシフト](#) **応用**

### ● 各種設定/初期化



(1) [画像消去の初期設定](#) **応用**

(2) [カスタム機能\(C.Fn\)一括解除](#) **応用**

[: [カスタム機能\(C.Fn\)一括解除](#)] を選ぶと、設定されているカスタム機能がすべて解除されます。

## カスタム機能で変更できる内容

---

[\[露出\]](#)

[\[各種設定/初期化\]](#)

撮影スタイルに応じて、[\[設定\]](#) タブでカメラの機能を細かく設定することができます。初期設定から変更した内容は、設定値が青色で表示されます。

---

### ISO感度設定ステップ

ISO感度の手動設定ステップを1段ステップに変更することができます。

- **1/3 : 1/3段**
- **1/1 : 1段**

#### 参考



- [1段] に設定しても、ISOオート設定時は1/3段ステップで自動設定されます。


### セーフティシフト



〈Tv〉〈Av〉モードで任意に設定したシャッタースピードや絞り数値で標準露出が得られないときは、カメラが自動的にシャッタースピードや絞り数値を変更して、標準露出で撮影することができます。

- **OFF : しない**
- **ON : する**

### 画像消去の初期設定

画像再生時や撮影直後の画像表示中に  ボタンを押すと、消去メニューが表示されますが 、そのときにどの項目が選択されているかを設定することができます。




[キャンセル] 以外に設定したときは、 を押すだけで画像を素早く消去することができます。

-  : [キャンセル] を選択
-  : [消去] を選択
- **RAW** : [RAWのみ消去] を選択
- J/H : [RAW以外を消去] を選択




#### 注意

- [キャンセル] 以外に設定したときは、画像を誤って消去しないように注意してください。

### カスタム機能(C.Fn)一括解除

[ : カスタム機能(C.Fn)一括解除] を選ぶと、[ : ボタン カスタマイズ] と [ : ホイール/リング カスタマイズ] 以外のカスタム機能の設定を一括で解除することができます。

#### 参考

- [ : ボタン カスタマイズ] [ : ホイール/リング カスタマイズ] で設定した内容を解除するときは、[ : 操作カスタマイズ一括解除] を選んでください。

## メニュー目次：マイメニュータブ

---



- (1) [マイメニュータブの追加](#) **応用**
- (2) [マイメニュータブの全削除](#) **応用**
- (3) [全項目削除](#) **応用**
- (4) [メニュー表示](#) **応用**

## マイメニューの登録

---

- [マイメニュータブの追加（作成）](#)
- [マイメニュータブに項目を登録](#)
- [マイメニュータブの設定](#)
- [マイメニュータブの全削除／全項目削除](#)
- [メニュー表示の設定](#)

設定変更の頻度の高いメニュー機能とカスタム機能を選んで、マイメニュータブに登録することができます。

---

## マイメニュータブの追加（作成）

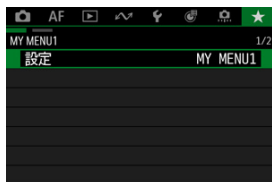
---

1. [★：マイメニュータブの追加] を選ぶ (🔗)
2. [OK] を選ぶ



- 手順1、2を繰り返すと、[MY MENU5] まで作成することができます。

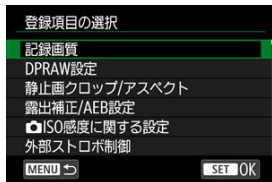
### 1. [MY MENU\* : 設定] を選ぶ



### 2. [登録項目の選択] を選ぶ



### 3. 項目を登録する



- 項目を選び〈MENU〉を押します。
- 確認画面で [OK] を選ぶと登録されます。
- 6項目まで登録できます。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、手順2の画面に戻ります。

## マイメニュータブの設定



タブに登録した項目の並べ替え、項目またはタブの削除、タブの名称の変更を行うことができます。

- **登録項目の並べ替え**

登録した項目の並び順を変えることができます。[登録項目の並べ替え]を選び、並び順を変える項目を選んで〈Ⓑ〉を押します。[◆]が表示された状態で〈▲〉〈▼〉を押して並び順を変え、〈Ⓑ〉を押します。

- **選択して削除／タブ内の全項目削除**

登録した項目を削除することができます。[選択して削除]を選ぶと1項目ずつ削除、[タブ内の全項目削除]を選ぶと、タブ内に登録されている項目がすべて削除されます。

- **タブの削除**

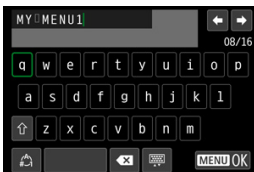
現在設定しているタブを削除することができます。[タブの削除]を選ぶと、[MY MENU \*]のタブが削除されます。

- **タブ名の変更**

タブの名称を [MY MENU\*] から任意の名称に変更することができます。

1. [タブ名の変更] を選ぶ

2. 文字を入力する

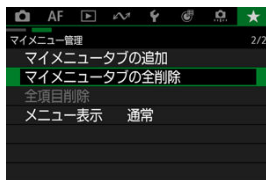


- 〈◀〉で文字を選び、〈⏎〉を押すと入力されます。
- [↕] を選ぶと、入力モードが切り換わります。
- [✖] を選ぶと、1文字消去されます。

3. 入力を確定する

- 〈MENU〉ボタンを押して [OK] を選びます。

## マイメニュータブの全削除／全項目削除



作成したすべてのタブの削除、作成したすべてのタブに登録されている全項目の削除を行うことができます。

- **マイメニュータブの全削除**

作成したタブをすべて削除することができます。[マイメニュータブの全削除]を選ぶと、[MY MENU1]～[MY MENU5]のタブがすべて削除され、[★]タブが初期状態に戻ります。

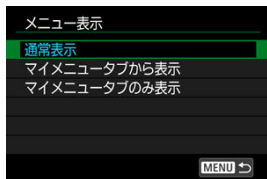
- **全項目削除**

[MY MENU1]～[MY MENU5]タブに登録されている項目だけを、すべて削除することができます。タブ自体は削除されません。

**!** 注意

- [タブの削除] [マイメニュータブの全削除] を行うと、[タブ名の変更] で設定した名前も削除されます。

## メニュー表示の設定



[メニュー表示] を選ぶと、〈MENU〉ボタンを押したときに表示する画面を設定することができます。

- **通常表示**

前回操作を行ったときに、最後に表示していたメニュー画面が表示されます。

- **マイメニュータブから表示**

[★] タブの画面から表示されます。

- **マイメニュータブのみ表示**

[★] タブの画面だけが表示されます ([カメラ] [AF] [▶] [W] [Y] [🌀] [📷] タブは表示されません。)

## 資料

---

この章では、撮影の参考になるカメラの機能情報などの説明を行っています。

- [パソコンへの画像の取り込み](#)
- [スマートフォンへの画像の取り込み](#)
- [故障かな?と思ったら](#)
- [エラー表示](#)
- [情報表示](#)
- [主な仕様](#)

## パソコンへの画像の取り込み

---

- [カメラとパソコンをインターフェースケーブルで接続する](#)
- [カードリーダーを使う](#)

### カメラとパソコンをインターフェースケーブルで接続する

---

インターフェースケーブルを使って、カメラで撮影した画像をパソコンに取り込むことができます。

#### ⚠ 注意

- Wi-Fi接続中に、カメラとパソコンをインターフェースケーブルで接続しても、パソコンと通信できません。

## カードリーダーを使う

---

カードリーダーを使って画像をパソコンに取り込むことができます。

1. Digital Photo Professionalをインストールする (🔗)
2. カードリーダーにカードを差し込む
3. Digital Photo Professionalを使って画像を取り込む

- Digital Photo Professional使用説明書を参照してください。

### 参考

- カードリーダーを使って画像を取り込むときは、カード内の「DCIM」フォルダをパソコンにコピーしてください。

# スマートフォンへの画像の取り込み

---

## [準備](#)

### [Camera Connectを使用する場合](#)

### [スマートフォンの機能を使用する場合](#)

マルチアクセサリ—シュースマートフォンリンクアダプター AD-P1（別売／Androidスマートフォンのみ）またはUSBケーブルでカメラとスマートフォンを接続して、カメラで撮影した画像をスマートフォンに取り込むことができます。

## 準備

---

### 1. [☑: USB接続アプリの選択] で項目を選ぶ (🔗)

- Androidスマートフォンと接続するとき、またはiOSスマートフォンと接続して写真アプリを使用するときは、**[画像取り込み/リモート制御]** を選びます。
- iOSスマートフォンと接続して、Camera Connectを使用するときは **[iPhone Canon アプリ]** を選びます。
- 設定が終了したら、カメラの電源を切ります。

### 2. AD-P1またはUSBケーブルでカメラとスマートフォンを接続する

- AD-P1を使用する場合は、AD-P1に同梱の使用説明書を参照してください。
- Androidスマートフォンと接続するUSBケーブルは、キヤノン純正品（インターフェースケーブル IFC-100U）の使用をおすすめします。
- iOSスマートフォンと接続するUSBケーブルについては、キヤノンのホームページを参照してください。

### 1. スマートフォンにインストールしたCamera Connectを起動する

- Camera Connectのインストールについては、『スマートフォンにCamera Connectをインストールする』を参照してください (🔗)。

### 2. カメラの電源を入れる

### 3. [カメラ内の画像一覧] をタップする

- 表示された画像を選んで、スマートフォンに取り込みます。

### 1. カメラの電源を入れる

### 2. スマートフォンを操作して画像を取り込む

- Androidスマートフォンの場合は、[ファイル]のメニューから[**Canon Digital Camera \*\*\***]を選び、DCIMフォルダ内の画像を取り込みます。
- iOSスマートフォンの場合は、写真アプリを起動して、カード内の画像を取り込みます。

## 故障かな？と思ったら

---

- ☑ [電源関連](#)
- ☑ [撮影関連](#)
- ☑ [無線通信機能関連](#)
- ☑ [操作関連](#)
- ☑ [表示関連](#)
- ☑ [再生関連](#)
- ☑ [マルチアクセサリシュー関連](#)

「カメラが故障したのかな？」と思ったら、下記の例を参考にしてカメラをチェックしてください。なお、チェックしても状態が改善しないときは、修理受付窓口にご相談ください。

### 電源関連

#### 充電器でバッテリーが充電できない

---

- 純正のバッテリーパック LP-E17を使用してください。
- 充電、または充電器に関する不具合は、[バッテリーを充電する](#)を参照してください。

#### 充電器のランプが点滅する

---

- (1) 充電器またはバッテリーに異常が発生した場合や、(2) バッテリーと通信できない場合（純正以外のバッテリー使用時）は、保護回路が働き充電が中止され、オレンジ色のランプが点滅します。(1) の場合は、充電器のプラグをコンセントから抜き、バッテリーの取り外し／取り付けを行ってから、2～3分後にもう一度コンセントに差し込んでください。改善しない場合は、修理受付窓口にご相談ください。

## USB電源アダプター（別売）で充電できない

---

- カメラの電源が入っているときは充電は行われません。ただし、オートパワーオフ中は充電が行われます。
- 充電中にカメラを操作すると、充電は中断されます。

## USB電源アダプターでの充電中にアクセスランプが点滅する

---

- 充電中に異常が発生した場合は、保護回路が働き充電が中止され、アクセスランプがオレンジ色に点滅します。電源プラグをコンセントから抜き、バッテリーの取り外し/取り付けを行ってから、2~3分後にもう一度コンセントに差し込んでください。改善しない場合は、修理受付窓口にご相談ください。
- バッテリーの内部温度が高い、または低い場合は、保護回路が働き充電が中止され、アクセスランプがオレンジ色に点滅します。このときは、バッテリーを周囲の温度になじませてから、再度充電してください。

## USB電源アダプターでの充電でアクセスランプが点灯しない

---

- USB電源アダプターのプラグを一度抜いてから差し直してください。

## USB電源アダプターで給電できない

---

- バッテリー残量を確認してください。バッテリー残量がないときは、充電が行われず、給電は行われません。

## 電源を入れてもカメラが作動しない

---

- バッテリーがカメラにきちんと入っているか確認してください (🔍)。
- カード/バッテリー収納部ふたが閉じているか確認してください (🔍)。
- バッテリーを充電してください (🔍)。

## 電源を切ってもアクセスランプが点灯/点滅する

---

- カードへの画像記録中に電源を切ると、アクセスランプ（緑色）が数秒間点灯/点滅します。画像記録が終了すると、自動的に電源が切れます。

## 【バッテリー通信エラー ご使用のバッテリーにCanonのロゴはありますか?】と表示される

---

- 純正のバッテリーパック LP-E17を使用してください。
- バッテリーの出し入れを行ってください (🔋)。
- バッテリーの接点が汚れているときは、やわらかい布などでふいてください。

## バッテリーの消耗が早い

---

- フル充電したバッテリーを使用してください (🔋)。
- バッテリーの性能が劣化している可能性があります。[🔋: バッテリー情報] でバッテリーの劣化状態を確認してください (🔋)。劣化している場合は、新しいバッテリーをお買い求めください。
- 以下の操作を行うと、撮影可能枚数が少なくなります。
  - シャッターボタン半押しの状態を長く続ける
  - AFのみを行って撮影しない操作を頻繁に行う
  - 手ブレ補正機能を使う
  - 無線通信機能を使用する

## 電源が勝手に切れる

---

- オートパワーオフ機能が働いています。自動的に電源が切れないようにしたいときは、[🔋: 節電] の [オートパワーオフ] を [しない] にしてください (🔋)。
- [オートパワーオフ] を [しない] に設定していても、[モニターオフ] で設定した時間放置すると、モニターの表示が消えます (カメラの電源は切れません)。

### 撮影・記録ができない

---

- カードが正しくセットされているか確認してください (🔗)。
- カードの書き込み禁止スイッチを、書き込み・消去可能な位置にしてください (🔗)。
- カードの空き容量がない場合は、空き容量のあるカードに交換するか、不要な画像を消去してください (🔗、🔗)。

### カードが使えない

---

- カードのトラブルに関するメッセージが表示されたときは、[バッテリーとカードを入れる/取り出す](#)、[エラー表示](#)を参照してください。

### カードを他のカメラに入れるとエラーになる

---

- SDXCカードはexFAT形式でフォーマットされるため、このカメラで初期化したカードを他のカメラに入れると、エラーが表示され使用できないことがあります。

### 画像がボケている/ブレている

---

- フォーカスモードを[AF]にしてください (🔗)。
- 手ブレを起こさないように、シャッターボタンを静かに押してください (🔗)。
- 暗い場所では、シャッタースピードが遅くなることがあります。シャッタースピードを速くする (🔗)、ISO感度を上げる (🔗)、ストロボを使用する (🔗)、三脚を使用するなどの方法で撮影してください。
- [ブレの少ない画像の撮影](#)を参照してください。

### ピントを固定したまま構図を変えて撮影できない

---

- AF動作をワンショットAFにしてください (🔗)。サーボAFのときは、フォーカスロック撮影はできません (🔗)。

## 連続撮影速度が遅い

---

- 高速連続撮影時の連続撮影速度は、バッテリー残量、温度、シャッタースピード、絞り数値、被写体条件、明るさ、AF動作、ストロボ使用、撮影機能の設定などにより低下することがあります (📷、📷)。

## 連続撮影可能枚数が少なくなる

---

- 芝生など細かいパターンの被写体を撮影すると、1枚あたりのファイルサイズが大きくなり、実際に連続撮影できる枚数が、[静止画・ファイルサイズ／撮影可能枚数／連続撮影可能枚数](#)に目安として示した連続撮影可能枚数より少なくなることがあります。

## カードを変えても連続撮影可能枚数の表示が変わらない

---

- 別のカードに変えても (例：高速タイプのカードを使用しても)、連続撮影可能枚数は変わりません。また、[静止画・ファイルサイズ／撮影可能枚数／連続撮影可能枚数](#)の表に記載している連続撮影可能枚数は、その試験条件のカードで実際に連続撮影できる枚数を示しています (書き込み速度が高速なカードなほど、実際に連続撮影できる枚数が多くなります)。そのため、表示される連続撮影可能枚数と、実際に連続撮影できる枚数は異なることがあります。

## 静止画撮影時にISO100に設定できない

---

- [📷：高輝度側・階調優先] が [する] [強] に設定されているときは、ISO感度の設定範囲がISO200～になります。

## 静止画撮影時に拡張ISO感度が選択できない

---

- [📷: 📷ISO感度に関する設定] で [ISO感度] の設定を確認してください。
- [📷: 高輝度側・階調優先] が [する] [強] に設定されているときは、H (拡張ISO感度) は選択できません。

## 露出を暗めに補正したのに明るく撮影される

---

- [📷: オートライティング最適マイザ] を [しない] に設定してください (🔒)。  
[弱め] [標準] [強め] に設定されているときは、露出補正、ストロボ調光補正で露出を暗めに補正しても、明るく撮影されることがあります。

## マニュアル露出+ISOオート時に露出補正ができない

---

- **M: マニュアル露出**を参照して露出補正を行ってください。

## 〈Av〉〈P〉モードでストロボ撮影するとシャッタースピードが遅くなる

---

- [📷: 外部ストロボ制御] の [スローシンクロ] を、[1/250-1/60秒自動] または [1/250秒固定] に設定してください (🔒)。

## 外部ストロボが発光しない

---

- カメラに外部ストロボがしっかり取り付けられているかどうか確認してください。

## 外部ストロボがいつもフル発光する

---

- EL/EXスピードライト以外のストロボを使用して、自動調光モードで撮影すると、常時フル発光します (🔗)。
- 外部ストロボカスタム機能の「調光方式」が「1:TTL」(自動調光)に設定されていると、常時フル発光します (🔗)。

## 外部ストロボ調光補正ができない

---

- 外部ストロボ側で調光補正量が設定されているときは、カメラで補正量の設定はできません。ストロボ側の設定を解除(ゼロに設定)すると、カメラで設定できるようになります。

## 〈Av〉モードでハイスピードシンクロができない

---

- [📷: 外部ストロボ制御] の「スローシンクロ」を、「1/250秒固定」以外に設定してください (🔗)。

## リモコン撮影ができない

---

- リモコンの撮影タイミング切り換えスイッチの位置を確認してください。
- ワイヤレスリモートコントローラーを使用するときは、[リモコン撮影](#)または[ワイヤレスリモコンと接続](#)を参照してください。
- リモコンを使用してタイムラプス動画撮影を行うときは、[タイムラプス動画](#)を参照してください。

## 赤い [FAN] が表示される

---

- 冷却ファンに異常が発生した場合は、[FAN] が赤色で点滅します。修理受付窓口にご相談ください。

## 動画撮影時に白い [🔊] または赤い [🔊] が表示される

---

- カメラ内部の温度が上昇していることを示しています。詳細は、撮影中のインジケータ表示 (🔗) を参照してください。

## 動画撮影が勝手に終了する

---

- 書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画撮影が自動的に終了することがあります。動画が記録できるカードについては、[要求カード性能 \(動画撮影\)「書き込み/読み出し速度」](#)を参照してください。なお、書き込み速度については、カードメーカーのホームページなどで確認してください。
- カードへの書き込み/読み取り速度が遅くなったときは、物理フォーマットでカードを初期化してください (🔗)。
- 動画撮影を開始してから6時間(ハイフレームレート動画撮影時は1時間30分)を経過すると、動画撮影が自動的に終了します。

## 動画撮影時にISO感度が設定できない

---

- 撮影モードが [P] のときはISO感度が自動設定されます。[M] モードのときはISO感度を任意に設定することができます (🔗)。
- [📷: 高輝度側・階調優先] が [する] [強] に設定されているときは、ISO感度の設定範囲がISO200～になります。

## 動画撮影時に拡張ISO感度が選択できない

---

- [📷: ISO感度に関する設定] で [ISO感度] の設定を確認してください。
- [📷: 高輝度側・階調優先] が [する] [強] に設定されているときは、拡張ISO感度は設定できません。

## 動画撮影時に露出が変化する

---

- 動画撮影中にシャッタースピードや絞り数値の変更を行うと、露出変化が記録されることがあります。
- 動画撮影中にズーム操作を行うときは、テスト撮影をおすすめします。動画撮影中にズーム操作を行うと、露出変化やレンズの作動音が記録されたり、ピントがズレることがあります。

## 動画撮影時に画面がちらつく／横縞が写る

---

- 蛍光灯やLED照明などの光源下で動画撮影を行うと、画面のちらつきや、横縞（ノイズ）や露出ムラが記録されることがあります。また、露出（明るさ）や色あいの変化が記録されることがあります。[M] モードのときは、シャッタースピードを遅くすると、現象が緩和されることがあります。なお、タイムラプス動画を撮影したときは、現象がより強く発生することがあります。

## 動画撮影時に被写体がゆがむ

---

- 動画撮影中にカメラを左右に動かしたり（パンニング）、動きのある被写体を撮影すると、像がゆがんで写ることがあります。なお、タイムラプス動画を撮影したときは、現象がより強く発生することがあります。

## 動画に音声記録されない

---

- ハイフレームレート動画撮影時は、音声は記録されません。

## タイムコードが付加されない

---

- ハイフレームレート動画撮影時に、[📷:タイムコード]の[カウントアップ]が[フリーラン]に設定されているときは(🔒)、タイムコードは付加されません。また、HDMI出力を行ったときも、HDMI出力映像にタイムコードは付加されません(🔒)。

## タイムコードのカウントが早い

---

- ハイフレームレート動画撮影時は、実時間1秒で4秒分カウントアップします(🔒)。

## 動画撮影時に静止画が撮影できない

---

- 動画撮影時に静止画は撮影できません。静止画を撮影するときは、動画撮影を終了して、静止画の撮影モードを選んでから撮影してください。

## 静止画撮影時に動画撮影ができない

---

- ライブビュー状態を長時間続けるなどして、カメラ内部の温度が上昇しているときは、静止画撮影時からの動画撮影ができないことがあります。カメラの電源を切るなどして、カメラ内部の温度が下がるのを待ってください。
- 動画記録サイズを下げると、撮影可能になることがあります。

### スマートフォンとペアリングできない

---

- Bluetooth Specification Version 4.1以上に対応しているスマートフォンを使用してください。
- スマートフォンの設定画面で、Bluetooth機能をONにしてください。
- スマートフォンのBluetooth機能設定画面では、カメラとのペアリングはできません。スマートフォンに専用アプリケーションのCamera Connect（無料）をインストールしてください (🔗)。
- 一度ペアリングしたスマートフォンと再びペアリングするときに、スマートフォン側に前回ペアリングしたときのカメラの登録が残っていると、ペアリングすることができません。そのときは、スマートフォンのBluetooth設定で残っているカメラの登録を解除してから、ペアリングをやり直してください (🔗)。

### Wi-Fi機能の設定ができない

---

- カメラとパソコンなどを、インターフェースケーブルで接続しているときは、Wi-Fi機能の設定はできません。インターフェースケーブルを取り外してから、設定を行ってください (🔗)。

### インターフェースケーブルで接続した機器が使えない

---

- Wi-Fi接続中は、カメラとパソコンなどを、インターフェースケーブルで接続して使用することはできません。Wi-Fi接続を終了してからインターフェースケーブルで接続してください。

### 撮影や再生などの操作ができない

---

- Wi-Fi接続中は、撮影や再生などの操作ができないことがあります。Wi-Fi接続を終了してから操作を行ってください。

### スマートフォンに再接続できない

---

- 同じカメラとスマートフォンの組み合わせでも、設定を変更したり、異なる設定を選んでいるときは、同じSSIDを選んでも再接続できなくなることがあります。そのときは、スマートフォンのWi-Fi設定で、カメラとの接続設定を削除してから、接続設定をやり直してください。
- 接続設定をやり直すときに、Camera Connectを起動したままにしていると、接続できないことがあります。そのときは、Camera Connectを一旦終了させてから再起動してください。

### Wi-Fi対応プリンターとWi-Fi接続できない

---

- プリンターのファームウェアをアップデートしてください。
- プリンター側をアクセスポイントにして接続してください。
- カメラ側の【セキュリティ】の設定で、【WPA2】を選んでください (🔗)。

### 静止画撮影から動画撮影、または動画撮影から静止画撮影に変更すると、設定した内容が変更される

---

- 設定内容は、静止画撮影時、動画撮影時のそれぞれに記憶されます。

### タッチ操作ができない

---

- [🔧 : タッチ操作] が [する] に設定されているか確認してください (🔧)。

### ボタンやスイッチなどが思ったとおりに動かない

---

- 動画撮影時は [🔧 : 動画撮影時シャッターボタンの機能] の設定を確認してください (🔧)。
- [🔧 : ボタン カスタマイズ]、[🔧 : ホイール/リング カスタマイズ] の設定内容を確認してください (🔧、🔧)。

### メニュー画面に表示されるタブや項目が少ない

- メニュー画面に表示されるタブや項目は、静止画撮影時、動画撮影時で異なります。

### 【★】マイメニュータブから表示される／【★】タブしか表示されない

- 【★】タブの【メニュー表示】が【マイメニュータブから表示】または【マイメニュータブのみ表示】に設定されています。【通常表示】に設定してください (🔗)。

### ファイル名の先頭文字がアンダーバー (「\_」) になる

- [📷 : 色空間] を [sRGB] に設定してください。[Adobe RGB] に設定されているときは、先頭文字がアンダーバーになります (🔗)。

### 画像番号が0001から始まらない

- 画像が記録されているカードを使用すると、撮影した画像の番号が0001から始まらないことがあります (🔗)。

### 撮影年月日／時刻が正しく表示されない

- 日付／時刻が正しく設定されているか確認してください (🔗)。
- エリア、サマータイムの設定を確認してください (🔗)。

### 画像に日付／時刻が写し込まれない

- 撮影した画像に日付／時刻は写し込まれません。画像データに撮影情報として記録されます。写真を印刷するときに、その情報を利用して用紙に日付／時刻を入れることができます (🔗)。

### 【###】が表示される

- カードに記録されている画像数が、カメラで表示できる桁数を超えると【###】と表示されます。

### モニターが表示が不鮮明になる

- モニターが汚れているときは、やわらかい布などでふいてください。
- 液晶の特性で低温下での表示反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されます。

### 画像の一部が黒く点滅する

---

- [▶: ハイライト警告表示] が [する] に設定されています (🔒)。

### 画像が消去できない

---

- プロテクトされている画像は消去できません (🔒)。

### 画像（静止画／動画）が再生できない

---

- 他のカメラで撮影した画像は再生できないことがあります。
- パソコンで編集した動画はカメラで再生できません。

### 再生できる画像が少ない

---

- [▶: 画像検索の条件設定] で再生する画像の絞り込みが行われています (🔒)。検索条件を解除してください。

### 動画を再生すると作動音や操作音がする

---

- 動画撮影中にAF動作を行ったり、カメラ／レンズの操作を行うと、カメラに内蔵されたマイクにより、レンズの作動音やカメラ／レンズの操作音が一緒に録音されることがあります。その場合、出力プラグを備えた外部マイクを、カメラやレンズから遠ざけて使用することで、これらの音を低減できることがあります。

## 動画再生が勝手に終了する

---

- 動画再生を長時間行ったり、高温下で動画再生を行うと、カメラ内部の温度が上昇し、動画再生が自動的に終了することがあります。そのときは、カメラ内部の温度が下がるまで、再生ができなくなりますので、一旦電源を切り、しばらく休止してください。

## 動画が一瞬止まって見える

---

- 自動露出撮影時に、大きな露出変化が生じると、明るさが安定するまでの一瞬の間、記録を止める仕様になっています。このようなときは、[M]モードで撮影してください (📷)。

## 動画がスローモーションで再生される

---

- ハイフレームレート動画は、29.97fps/25.00fpsの動画として記録されるため、再生時は1/4倍速のスローモーションで再生されます。

## テレビに映像が表示されない

---

- [📷: ビデオ方式] の [NTSC] [PAL] の設定を確認してください (テレビが対応している方式に合わせてください)。
- HDMIケーブルのプラグが根元までしっかりと差し込まれているか確認してください (📷)。

## 動画ファイルが複数作成される

---

- 1回の撮影でファイルサイズが4GBを超えると、動画ファイルが複数作成されます (📷)。ただし、SDXCカードをこのカメラで初期化してから撮影したときは、1回の撮影でファイルサイズが4GBを超えても1つのファイルに記録されます。

## カードリーダーでカードを認識できない

---

- SDXCカードは、お使いのカードリーダーやパソコンのOSにより、カードリーダーに差しても正しく認識されないことがあります。そのときは、カメラとパソコンをインターフェースケーブルで接続し、画像を取り込んでください。

## 画像をリサイズ/トリミングできない

---

- JPEGのS2、RAW画像、4K動画からフレーム切り出しを行い静止画として保存した画像は、カメラでリサイズできません (📷)。
- RAW画像、4K動画からフレーム切り出しを行い静止画として保存した画像は、カメラでトリミングできません (📷)。

### アクセサリを取り付けると、モニターにメッセージが表示される

---

- **【通信エラーが発生しました アクセサリを付けなおしてください】**と表示されたときは、アクセサリを取り付け直してください。再度取り付けて同じメッセージが表示される場合は、マルチアクセサリシューまたはアクセサリの端子にごみや水滴などが付着していないかを確認してください。なお、ごみや水滴などが除去できないときは、修理受付窓口にお申し付けください。
- **【アクセサリが使用できない状態です】**と表示されたときは、マルチアクセサリシューまたはアクセサリの端子を確認するか、アクセサリが故障していないかを確認してください。

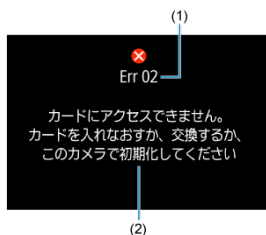
### マルチアクセサリシュースマートフォンのリンクアダプター AD-P1を使用時に、本体側のUSBが使用できない

---

- マルチアクセサリシュースマートフォンのリンクアダプター AD-P1を使用してUSB接続する場合、本体側のUSBは使用できません。本体側のUSBを使用する場合は、AD-P1を取り外してください。

## エラー表示

---



- (1) エラー番号
- (2) 原因・対処方法

カメラに異常が発生すると、エラー画面が表示されます。表示される内容に従って対応してください。

問題が解決しないときは、エラー番号（Err xx）を控えて、修理をご依頼ください。

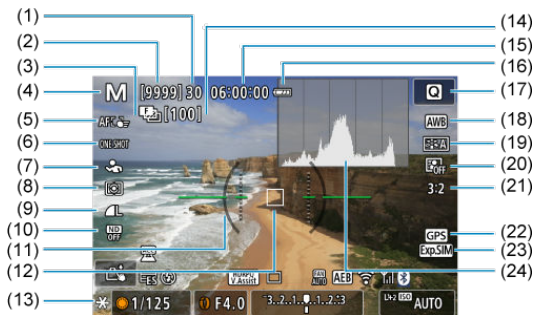
## 情報表示

- [静止画撮影画面](#)
- [動画撮影画面](#)
- [シーン判別アイコン](#)
- [手ブレ補正アイコン](#)
- [再生画面](#)

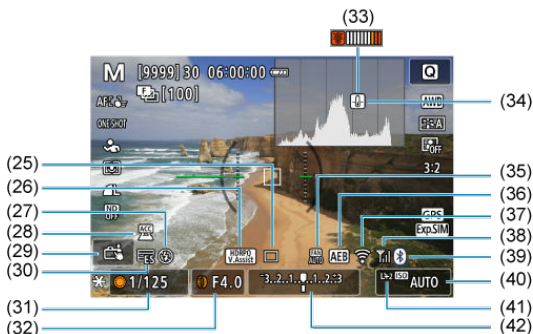
### 静止画撮影画面

〈INFO〉ボタンを押すと、押すたびに情報表示内容が切り換わります。

- 設定に応じた部分のみ表示されます。



- 
- (1) 連続撮影可能枚数
  - (2) 撮影可能枚数/セルフタイマー撮影秒数
  - (3) フォーカスブラケット撮影/HDR撮影/マルチショットノイズ低減
  - (4) 撮影モード
  - (5) AFエリア
  - (6) AF動作
  - (7) 検出する被写体
  - (8) 測光モード
  - (9) 記録画質
  - (10) NDフィルター
  - (11) 水準器
  - (12) AFフレーム (1点AF)
  - (13) AEロック解除
  - (14) フォーカスブラケット撮影残り枚数
  - (15) 動画撮影可能時間
  - (16) バッテリー残量
  - (17) クイック設定ボタン
  - (18) ホワイトバランス/ホワイトバランス補正
  - (19) ピクチャースタイル
  - (20) クリエイティブフィルター
  - (21) 静止画アスペクト比
  - (22) GPS
  - (23) 露出シミュレーション
  - (24) ヒストグラム (輝度/RGB)
-



(25) ドライブモード

(26) HDR PQ

(27) ストロボ充電完了/FEロック/ハイスピードシンクロ

(28) アクセサリー取り付け表示

(29) 電子シャッター

(30) タッチシャッター

(31) シャッタースピード

(32) 絞り数値

(33) 温度上昇警告

(34) 静止画画質劣化警告

(35) 冷却ファン

(36) AEB撮影/FEB撮影

(37) Wi-Fi機能

(38) Wi-Fi電波強度

(39) Bluetooth機能

(40) ISO感度

(41) 高輝度側・階調優先

(42) 露出レベル表示/露出補正

## 参考

- 〈INFO〉ボタンを押したときに表示する内容を設定することができます (i)。
- カメラとテレビをHDMIケーブルで接続したときは、水準器は表示されません。
- この他に、設定を変更したときに一時的に表示されるアイコンもあります。

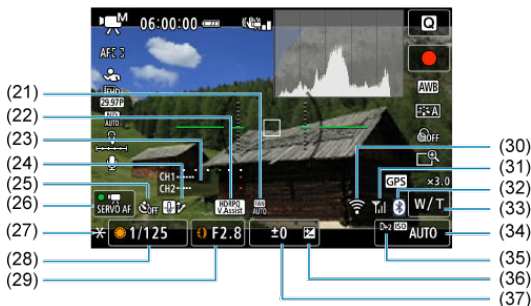
## 動画撮影画面

〈INFO〉ボタンを押すと、押すたびに情報表示内容が切り換わります。

- 設定に応じた部分のみ表示されます。



- |      |                 |
|------|-----------------|
| (1)  | バッテリー残量         |
| (2)  | 動画撮影可能時間／撮影経過時間 |
| (3)  | 撮影モード           |
| (4)  | AFエリア           |
| (5)  | 検出する被写体         |
| (6)  | 動画記録サイズ         |
| (7)  | NDフィルター         |
| (8)  | ヘッドフォン          |
| (9)  | マイク             |
| (10) | 水準器             |
| (11) | AFフレーム (1点AF)   |
| (12) | 動画電子IS          |
| (13) | ヒストグラム (輝度／RGB) |
| (14) | クイック設定ボタン       |
| (15) | 動画撮影ボタン         |
| (16) | ホワイトバランス／WB補正   |
| (17) | ピクチャースタイル       |
| (18) | クリエイティブフィルター    |
| (19) | デジタルズーム         |
| (20) | GPS             |



- (21) 冷却ファン
- (22) HDR PQ
- (23) 録音レベルメーター (マニュアル)
- (24) 温度上昇緩和
- (25) 動画セルフタイマー
- (26) 動画サーボAF
- (27) AEロック
- (28) シャッタースピード
- (29) 絞り数値
- (30) Wi-Fi機能
- (31) Wi-Fi電波強度
- (32) Bluetooth機能
- (33) デジタルズーム
- (34) ISO感度
- (35) 高輝度側・階調優先
- (36) 露出補正
- (37) 露出レベル表示 (測光値)

### ⚠ 注意

- 〈INFO〉ボタンを押したときに表示する内容を設定することができます (ⓘ)。
- カメラとテレビをHDMIケーブルで接続したときは、水準器は表示されません。
- 動画撮影中に水準器、グリッド、ヒストグラムを表示することはできません (表示した状態で動画撮影を開始すると、表示が消えます)。
- 「動画撮影可能時間」は、撮影が始まると「撮影経過時間」に変わります。

 参考

- この他に、設定を変更したときに一時的に表示されるアイコンもあります。

## シーン判別アイコン

撮影モードが **[A+]** のときは、カメラがシーンを判別して、シーンに合った全自動撮影が行われます。判別したシーンは、画面の左上に表示されます。

背景	被写体	人物		人物以外の被写体			背景色
			動いているとき*1	自然や屋外シーン	動いているとき*1	近いとき	
明るい							灰色
青空を含む							水色
夕景	-	-		-	-	-	オレンジ色
スポットライト							紺色
暗い							
三脚使用時*1						-	

\* 1：動画撮影中は表示されません。

\* 2：下記の条件が揃ったときに表示されます。











「撮影シーンが暗いとき」「夜景撮影時」「三脚などでカメラを固定しているとき」


### 参考

- シーンや撮影状態によっては、実際のシーンと異なるアイコンが表示されることがあります。
- **[カメラアイコン] : [A+アシスト]** の **[アドバンスA+]** が選択されているときは、アイコンが点滅表示されることがあります (🔊)。

## 手ブレ補正アイコン

撮影モードが **[A+]** のときは、撮影状況に最適な手ブレ補正に自動設定され、以下のアイコンが表示されます。

	静止画を撮影するときの手ブレを補正（通常）
	静止画を流し撮りで撮るときのブレを補正（流し撮り）*1
 	マクロ撮影するときの角度ブレとシフトブレを補正（ハイブリッドIS）。動画では  が表示され、さらに  も加えた手ブレを補正
	動画を撮影するときの手ブレを補正し、歩きながら撮影するときなどの大きな手ブレも補正（ダイナミック）
 	三脚などでカメラを固定したときは、手ブレ補正を停止。ただし、動画撮影中は  が表示され、風などによる振動の影響を低減するブレ補正を実施（三脚IS）

\* : **手ブレ補正（IS機能）設定** の **[IS機能]** が **[切]** に設定されているときは、手ブレ補正アイコンは表示されません。

\* 1: 動く被写体をカメラで追いつながら撮影（流し撮り）するときに表示されます。左右方向に動く被写体を追うと、上下方向の手ブレだけが補正されて、左右方向の補正は停止します。また、上下方向に動く被写体を追うと、左右方向の手ブレだけが補正されます。

## 静止画の簡易情報表示

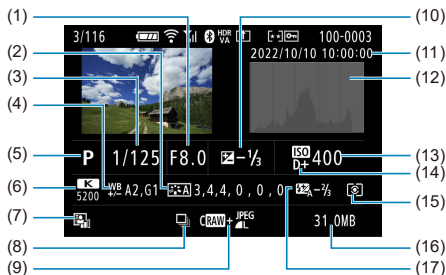


- |      |                            |
|------|----------------------------|
| (1)  | HDR出力状態/ビューアシスト            |
| (2)  | Bluetooth機能                |
| (3)  | Wi-Fi電波強度                  |
| (4)  | Wi-Fi機能                    |
| (5)  | バッテリー残量                    |
| (6)  | 再生番号/総記録画像数/検索結果画像数        |
| (7)  | シャッタースピード                  |
| (8)  | 絞り数値                       |
| (9)  | 露出補正量                      |
| (10) | パソコン/スマートフォンに送付済み          |
| (11) | レーティング                     |
| (12) | 画像プロテクト                    |
| (13) | フォルダ番号-画像番号                |
| (14) | 記録画質/画像加工済み/トリミング/フレーム切り出し |
| (15) | ISO感度                      |
| (16) | 高輝度側・階調優先                  |

**!** 注意

- 他のカメラで撮影した画像は、一部の撮影情報が表示されないことがあります。
- このカメラで撮影した画像は、他のカメラで再生できないことがあります。

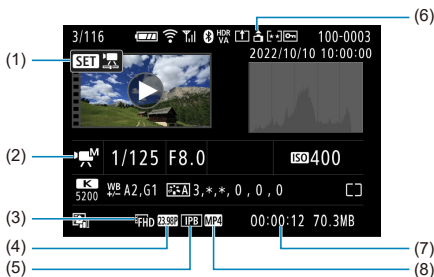
## 静止画の詳細情報表示



(1)	絞り数値
(2)	ピクチャースタイル/設定内容
(3)	シャッタースピード
(4)	WB補正/BKT設定
(5)	撮影モード/フレーム切り出し
(6)	ホワイトバランス
(7)	オートライティングオプティマイザ
(8)	連写したシーンの先頭画像
(9)	記録画質/画像加工済み/トリミング
(10)	露出補正量
(11)	撮影日時
(12)	ヒストグラム (輝度/RGB)
(13)	ISO感度
(14)	高輝度側・階調優先
(15)	測光モード
(16)	ファイルサイズ
(17)	ストロボ調光補正量/バウンス/HDR撮影/マルチショットノイズ低減

- \* RAW+JPEG/HEIFで撮影した画像は、RAW画像のファイルサイズが表示されます。
- \* RAW、RAW+JPEGの設定で、アスペクト比を設定して撮影した画像は、、撮影範囲が線で表示されます。
- \* トリミング情報が付加された画像は、撮影範囲を示す線が表示されます。
- \* 調光補正なしでストロボ撮影を行ったときは、 が表示されます。
- \* バウンス撮影を行った画像は、 が表示されます。
- \* HDR撮影を行った画像は、ダイナミックレンジの調整幅が表示されます。
- \* マルチショットノイズ低減処理が行われた画像は、 が表示されます。
- \* タイムラプス動画で、テスト撮影した静止画は、 が表示されます。
- \* リサイズ処理、トリミング、フレーム切り出しを行って保存した画像は、 が表示されます。
- \* トリミングを行って保存した画像は、 が表示されます。

## 動画の詳細情報表示



- (1) 動画再生
- (2) 動画撮影モード/ハイフレームモード
- (3) 動画記録サイズ
- (4) フレームレート
- (5) 圧縮方式
- (6) 動画の縦横情報
- (7) 記録時間/タイムコード
- (8) 動画記録形式

\* 記載のない項目は静止画の簡易情報表示、静止画の詳細情報表示と共通のため、説明を省いています。

### 参考

- 動画再生時、[ピクチャースタイル] の [シャープネス] の [細かさ] [しきい値] は、「\*、\*」と表示されます。

## 主な仕様

### レンズ

焦点距離	動画撮影時 (4K, 16 : 9)	8.2 - 25.6 mm * 約17 - 52 mm相当 (35 mm判換算)
	静止画撮影時 (クロップなし)	8.2 - 25.6 mm * 約16 - 50 mm相当 (35 mm判換算)
	静止画撮影時 (1.4倍クロップ)	8.2 - 25.6 mm * 約23 - 71 mm相当 (35 mm判換算)
画角	動画撮影時 (4K, 16 : 9)	104.4 - 44.9°
	静止画撮影時 (クロップなし)	107.0 - 46.8°
	静止画撮影時 (1.4倍クロップ)	86.8 - 33.7°
絞り	枚数	9枚
	開放F値	F2.8 - 4.5
	最小絞り	WIDE / TELE : F11
レンズ構成	8群9枚	
撮影距離	WIDE : 0.05 m ~ ∞ TELE : 0.15 m ~ ∞	

### 撮像素子

型式 : 1.4型 CMOS センサー

カメラ部有効画素数 <sup>*1,*2</sup>	動画撮影時	最大約1870万画素
	静止画撮影時	最大約2230万画素
総画素数 <sup>*1</sup>	約2390万画素	
画面サイズ	約18.4×12.3mm	
デュアルピクセルCMOS AF	対応	

\* 1 : 1万の位を四捨五入

\* 2 : 画像処理により有効画素が減少することがある

## 記録方式

記録画像形式：DCF2.0、Exif2.31<sup>\*1</sup>に準拠

\*1：時差情報に対応

### 記録画像タイプ/記録形式/拡張子

記録画像タイプ/記録形式		拡張子
静止画	JPEG	.JPG
	HEIF	.HIF
	RAW	.CR3
	C-RAW	
	DPRAW	
動画	ALL-I <sup>*1</sup> / IPB（標準） / IPB（軽量）	.MP4

\*1：タイムラプス動画のみ

## 記録メディア

### 記録媒体

SDXC / SDHC / SDメモリーカード

UHS-II	対応
UHS-I	対応
UHSスピードクラス	対応
SDスピードクラス	対応

## 静止画記録

### 記録画素数

画像サイズ		記録画素数 (画素)				
		静止画クロープ/アスペクト				
		3:2 (アスペクト)	1.4倍 (クロープ) *1	1:1 (アスペクト)	4:3 (アスペクト)	16:9 (アスペクト)
JPEG / HEIF	L	約2210万 (5760× 3840)	約1080万 (4032× 2688)	約1470万 (3840× 3840)	約1970万 (5120× 3840)	約1870万 (5760× 3240)
	M	980万 (3840× 2560)		約660万 (2560× 2560)	約870万*2 (3408× 2560)	約830万 (3840× 2160)
	S1	約550万 (2880× 1920)		約370万 (1920× 1920)	約490万 (2560× 1920)	約470万*2 (2880× 1616)
	S2	約380万 (2400× 1600)	約380万 (2400× 1600)	約260万 (1600× 1600)	約340万*2 (2112× 1600)	約320万*2 (2400× 1344)
RAW C-RAW DPRAW	<b>RAW / CRAW</b>	約2210万 (5760× 3840)	約1080万 (4032× 2688)	約2210万*2 (5760×3840)		

\* 記録画素数は、1万の位を四捨五入した値

\* RAW / C-RAWは「3:2」の画像を生成し、設定したアスペクト比情報を画像に付加

\* JPEG / HEIFは設定したアスペクト比の画像を生成

















\* リサイズ処理時も、上記アスペクト比と画素数が適用される

\* 1: 焦点距離の約1.4倍相当の画角となる

\* 2: この画像サイズは、正確な比率にならない

## 静止画・ファイルサイズ/撮影可能枚数/連続撮影可能枚数

### メカシャッター

記録画質		ファイルサイズ [約・MB]	撮影可能枚数 [約・枚] <sup>*1</sup>	連続撮影可能枚数 [約・枚] <sup>*1</sup>
JPEG <sup>*2</sup>	 L	7.6	3970	160
	 L	4.1	7260	370
	 M	4.3	7040	560
	 M	2.4	12240	560
	 S1	2.9	10430	740
	 S1	1.7	17050	740
	S2	1.8	16640	960
HEIF <sup>*3</sup>	 L	7.2	4110	150
	 L	5.5	5310	210
	 M	4.5	6420	290
	 M	3.5	8060	310
	 S1	3.1	9110	360
	 S1	2.6	11050	380
	S2	1.8	14660	460
RAW <sup>*2*4</sup>	RAW	23.5	1290	24
	CRAW	11.7	2620	69
RAW <sup>*4</sup> +JPEG <sup>*2</sup>	RAW +  L	23.5 + 7.6	970	22
	CRAW +  L	11.7 + 7.6	1580	53
RAW <sup>*4</sup> +HEIF <sup>*3</sup>	RAW +  L	25.5 + 7.2	910	22
	CRAW +  L	13.7 + 7.2	1430	53

\* 1 : 撮影可能枚数、および連続撮影可能枚数は、キヤノン試験基準UHS-I対応32 GB SDカード使用時の枚数

\* 2 : [HDR撮影(PQ) : しない] 設定時

\* 3 : [HDR撮影(PQ) : する] 設定時
















\* 4 : [DPRAW設定 : しない] 設定時

\* 連続撮影可能枚数は、キヤノン試験基準（ワンショットAF、高速連続撮影+、ISO 100、ピクチャースタイル : スタンダード）で測定

\* ファイルサイズは、撮影条件（クロップ/アスペクト、被写体、ISO感度、ピクチャースタイルなど）により異なる

\* 撮影可能枚数、連続撮影可能枚数は、撮影条件（クロップ/アスペクト、被写体、メモリーカードの銘柄、ISO感度、ピクチャースタイルなど）により異なる

## 電子シャッター

記録画質		ファイルサイズ [約・MB]	撮影可能枚数 [約・枚] *1	連続撮影可能枚数 [約・枚] *1
JPEG*2		「メカシャッター」参照		69
				69
				72
				72
				72
				72
	S2			72
HEIF*3				64
				64
				73
				73
				73
				73
	S2			74
RAW*2*4	RAW	19		
	CRAW	45		
RAW*4+JPEG*2	RAW+ 	19		
	CRAW+ 	45		
RAW*4+HEIF*3	RAW+ 	16		
	CRAW+ 	45		

\* 1 : 撮影可能枚数、および連続撮影可能枚数は、キヤノン試験基準UHS-I対応32 GB SDカード使用時の枚数

\* 2 : [HDR撮影(PQ) : しない] 設定時

\* 3 : [HDR撮影(PQ) : する] 設定時

\* 4 : [DPRAW設定 : しない] 設定時

\* 連続撮影可能枚数は、キヤノン試験基準（ワンショットAF、高速連続撮影+、ISO 100、ピクチャースタイル：スタンダード）で測定

\* ファイルサイズは、撮影条件（クロップ/アスペクト、被写体、ISO感度、ピクチャースタイルなど）により異なる

\* 撮影可能枚数、連続撮影可能枚数は、撮影条件（クロップ/アスペクト、被写体、メモリーカードの銘柄、ISO感度、ピクチャースタイルなど）により異なる

## 動画記録

### 動画・記録形式

Canon Log		OFF		ON (Canon Log 3)
HDR PQ		OFF	ON	OFF
コンテナフォーマット		MP4		
圧縮		H.264 / MPEG-4 AVC	H.265 / HEVC	
カラーサンプリング方式		YCbCr 4:2:0	YCbCr 4:2:2	
準拠規格		Rec. ITU-R BT.709	Rec. ITU-R BT.2100	—
音声	IPB (標準)	AAC / リニアPCM		
	IPB (軽量)	AAC / リニアPCM		

### 動画記録サイズ

	解像度	アスペクト 比	フレームレート (fps)		映像圧縮形 式	音声圧縮形 式
			NTSC	PAL		
4K	3840×2160 (UHD)	16 : 9	29.97 23.98	25.00	IPB (標準) IPB (軽量)	AAC リニアPCM
4Kクロップ*1			59.94	50.00	IPB (標準) IPB (軽量)	AAC リニアPCM
4Kタイムラプス動画*5			29.97*2	25.00*2	ALL-I	
フルHD ハイフレームレート動 画*3	1920×1080		119.88*4	100.00*4	IPB (標準) IPB (軽量)	
フルHD			59.94	50.00	IPB (標準) IPB (軽量)	AAC リニアPCM
			29.97 23.98	25.00		
フルHD タイムラプス動画*5			29.97*2	25.00*2	ALL-I	
クリエイティブフィル ター*6		29.97 23.98	25.00	IPB (標準) IPB (軽量)	AAC リニアPCM	

- \* 1 : 4K 59.94 / 50.00 fps時にクロップ撮影となる  
 \* 2 : 再生時のフレームレート  
 \* 3 : ハイフレームレート動画のときは、音声は記録されない  
 \* 4 : 撮影時のフレームレート  
 \* 5 : タイムラプス動画のときは、音声は記録されない  
 \* 6 : ジオラマ風動画のときは、音声は記録されない

## カラーサンプリング方式

記録形式		内部記録		HDMI出力	
		カラーサンプリング	色空間	カラーサンプリング	色空間
4K / フルHD	8bit	YCbCr 4:2:0	BT.709	YCbCr 4:2:0	BT.709
	Canon Log 3 10bit	YCbCr 4:2:2	BT.709	YCbCr 4:2:2	BT.709
			BT.2020		BT.2020* <sup>1</sup>
			Cinema Gamut		
HDR PQ 10bit	YCbCr 4:2:2	BT.2100 (PQ)	YCbCr 4:2:2	BT.2100 (PQ) * <sup>2</sup>	

\* 1 : BT.2020対応モニター接続時

\* 2 : HDR表示対応モニター接続時

**内蔵マイク** : ステレオマイク

## 記録時間、映像ビットレート、ファイルサイズの目安

Canon Log : OFF、HDR PQ : OFF

動画記録サイズ				カードごとの総記録時間 (約)			映像ビットレート (約・Mbps)	ファイルサイズ (約・MB/分)
動画記録	フレームレート (fps)		圧縮方式	32GB	128GB	512GB		
	NTSC	PAL						
4Kクロップ	59.94	50.00	IPB (標準)	18分	1時間14分	4時間56分	230	1647
			IPB (軽量)	35分	2時間21分	9時間27分	120	861
4K	29.97 23.98	25.00	IPB (標準)	35分	2時間21分	9時間27分	120	861
			IPB (軽量)	1時間10分	4時間43分	18時間52分	60	432
フルHD ハイフレームレート動画	119.88	100.00	IPB (標準)	35分	2時間22分	9時間28分	120	859
			IPB (軽量)	1時間00分	4時間3分	16時間15分	70	501
フルHD	59.94	50.00	IPB (標準)	1時間10分	4時間43分	18時間52分	60	432
			IPB (軽量)	2時間1分	8時間4分	32時間15分	35	253
	29.97 23.98	25.00	IPB (標準)	2時間20分	9時間23分	37時間35分	30	217
			IPB (軽量)	5時間47分	23時間11分	92時間47分	12	88
4K タイムラプス動画	29.97	25.00	ALL-I	9分	36分	2時間25分	470	3362
フルHD タイムラプス動画	29.97	25.00	ALL-I	47分	3時間9分	12時間38分	90	644

\* ビットレートの数値は、映像のみで、音声、メタデータは含まない

\* [オーディオ形式: AAC/16bit/2CH] 設定時

\* 1回の上限時間を超えた場合、動画記録が停止する

\* 動画記録画質の圧縮方式がIPB (標準)、IPB (軽量) のときは、最後の約2フレームには音声は記録されない。また、Windowsで動画を再生すると、映像と音声若干ズレることがある

Canon Log : ON、またはHDR PQ : ON

動画記録サイズ				カードごとの総記録時間 (約)			映像ビットレート (約・Mbps)	ファイルサイズ (約・MB/分)
動画記録	フレームレート (fps)		圧縮方式	32GB	128GB	512GB		
	NTSC	PAL						
4Kクロップ	59.94	50.00	IPB (標準)	12分	50分	3時間20分	340	2434
			IPB (軽量)	25分	1時間40分	6時間40分	170	1218
4K	29.97 23.98	25.00	IPB (標準)	25分	1時間40分	6時間40分	170	1218
			IPB (軽量)	50分	3時間20分	13時間20分	85	610
フルHD ハイフレームレート動画	119.88	100.00	IPB (標準)	23分	1時間34分	6時間19分	180	1288
			IPB (軽量)	42分	2時間50分	11時間22分	100	716
フルHD	59.94	50.00	IPB (標準)	47分	3時間9分	12時間36分	90	646
			IPB (軽量)	1時間24分	5時間39分	22時間38分	50	360
	29.97 23.98	25.00	IPB (標準)	1時間34分	6時間17分	25時間8分	45	324
			IPB (軽量)	2時間30分	10時間3分	40時間15分	28	203
4K タイムラプス動画	29.97	25.00	ALL-I	9分	36分	2時間25分	470	3362
フルHD タイムラプス動画	29.97	25.00	ALL-I	31分	2時間6分	8時間25分	135	966

\* ビットレートの数値は、映像のみで、音声、メタデータは含まない

\* [オーディオ形式 : AAC/16bit/2CH] 設定時

\* 1回の上限時間を超えた場合、動画記録が停止する

\* 動画記録画質の圧縮方式がIPB (標準)、IPB (軽量) のときは、最後の約2フレームには音声は記録されない。また、Windowsで動画を再生すると、映像と音声若干ズレることがある

## 要求カード性能（動画撮影）【書き込み/読み出し速度】

動画記録サイズ				SDカード	
解像度	フレームレート (fps)		圧縮方式	8bit	10bit (HDR PQ)
	NTSC	PAL			
4Kクロップ	59.94	50.00	IPB (標準)	UHSスピードクラス3以上	ビデオスピードクラスV60以上
			IPB (軽量)	UHSスピードクラス3以上	
4K	29.97 23.98	25.00	IPB (標準)	UHSスピードクラス3以上	
			IPB (軽量)	SDスピードクラス10以上	UHSスピードクラス3以上
フルHD ハイフレームレート動画	119.88	100.00	IPB (標準)	UHSスピードクラス3以上	
			IPB (軽量)	SDスピードクラス10以上	UHSスピードクラス3以上
フルHD	59.94	50.00	IPB (標準)	SDスピードクラス10以上	UHSスピードクラス3以上
			IPB (軽量)	SDスピードクラス6以上	SDスピードクラス10以上
	29.97 23.98	25.00	IPB (標準)	SDスピードクラス6以上	
			IPB (軽量)	SDスピードクラス4以上	
4K タイムラプス動画	29.97	25.00	ALL-I	読み出し速度が60MB/秒以上のカード	
フルHD タイムラプス動画	29.97	25.00	ALL-I	読み出し速度が30MB/秒以上のカード	

## 動画撮影の自動停止

### 1回の撮影上限時間

ハイフレームレート：切	59.94 fps以下	最大6時間00分00秒
ハイフレームレート：入	119.88 / 100.00 fps	最大1時間30分00秒

\* 1回に撮影できる最長時間

\* 発熱、電源、エラーなどの要因による動画記録停止を除く

## オートフォーカス (AF)

フォーカス方式：デュアルピクセルCMOS AF

### 測距輝度範囲

静止画撮影時

WIDE：EV -4.0～20、TELE：EV -2.0～20

\* 中央測距点・ワンショットAF・常温・ISO 100時

動画撮影時

4K 30p /フルHD 30p時


WIDE：EV -2.0～20、TELE：EV 0～20

\* 中央測距点・ワンショットAF・常温・ISO 100・29.97 / 25.00 fps時

### フォーカス動作

	静止画撮影	動画撮影
AF動作	<ul style="list-style-type: none"><li>ワンショットAF</li><li>AIフォーカスAF</li><li>サーボAF</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>動画サーボAF</li></ul>
手動ピント合わせ (MF)	対応	対応

\* AIフォーカスAF設定時は、被写体の動きに応じて、ワンショットAFからサーボAFに自動的に切り替わる (連写中を含む)

\*  モードは [AIフォーカスAF] に自動設定

### 測距エリア

#### 静止画

静止画クロープ/アスペクト	AF領域	
	横	縦
3 : 2 (アスペクト)	約90%	約90%
1.4倍 (クロープ) *1*2	約100%	約100%

\* シーンや被写体の状態によっては、AFフレームが画面の端まで移動できないことがある

\* 1 : 1.4倍クロープの撮影範囲に対するAF領域

\* 2 : 全域AF 時、および全域AF 以外で被写体検出時

## 動画

動画クropp	AF領域	
	横	縦
4K	約90%	約100%
4Kクropp *1*2	約100%	約100%
フルHD	約90%	約100%

\* シーンや被写体の状態によっては、AFフレームが画面の端まで移動できないことがある

\* アスペクト比16：9 設定時

\* 1：4K（クropp）の撮影範囲に対するAF 領域

\* 2：全域AF 時、および全域AF 以外で被写体検出時

## 自動選択時AFエリア分割数

分割数	静止画	最大425分割（25×17）
	動画	最大375分割（25×15）

\* 測距エリア：横：約90 %、縦：約90 %時

\* 設定により異なることがある

## AFフレーム選択可能ポジション

ポジション数	静止画	最大3431ポジション（73×47）
	動画	最大3139ポジション（73×43）

\* 測距エリア：横：約90 %、縦：約90 %時

\* 1点AF、測距選択モード時の十字キーによる選択時

\* AFフレーム選択可能ポジションは、AF性能を示す値ではない

## モニター/表示設定

**型式：**TFT式カラー液晶モニター

**画面サイズ：**3.0型（画面比率3：2）

**ドット数：**約104万ドット

**視野角：**上下／左右とも約170°

**視野率：**上下／左右とも約100%（画像サイズL、アスペクト比3:2）

**タッチパネル：**静電容量方式

## HDMI出力

出力端子 : HDMI出力端子 (タイプD)

\* HDMI CEC非対応

## 露出制御

### 各撮影状態の測光機能

項目		静止画撮影	動画撮影
測光センサー		撮像素子の出力信号による	
		384分割 (24×16) 測光*1	384分割 (24×16) 測光*1
測光モード	評価測光	○	○
	スポット測光*2	○ * 画面中央の約3.1%*3	
	中央部重点平均測光	○	—
測光輝度範囲 (常温・ISO 100)		EV -1~20	EV 1~20

\* 1 : [1.4倍 (クロップ)] 設定時も同一

\* 2 : マルチスポット測光不可 (非対応)

\* 3 [3 : 2 (アスペクト)] 設定時。[1.4倍 (クロップ)] 設定時も同一

## 静止画撮影時のISO感度（推奨露光指数）

### （静止画）ISO感度の手動設定

	ISO感度
常用ISO感度	ISO 100 ~ 32000 (1/3、1 段ステップ)
拡張ISO感度	H (ISO 51200相当)

\* [高輝度側・階調優先] 設定時の手動設定範囲は、ISO 200~32000

\* [HDR撮影(PQ)：する] 設定時は、拡張ISO感度の設定不可



### （静止画）ISO感度の手動設定範囲

ISO感度の範囲	ISO感度
下限値	ISO 100~ISO 32000
上限値	ISO 200~H (ISO 51200相当)

### （静止画）ISOオートの設定範囲

オートの範囲	ISO感度
下限値	ISO 100~25600
上限値	ISO 200~32000

### （静止画）ISOオート詳細

撮影モード		ストロボなし	ストロボ使用時
応用撮影ゾーン	P / Tv / Av / M (BULB以外)	ISO 100 <sup>*1,2</sup> ~ 32000 <sup>*2</sup>	ISO 100 <sup>*1,2</sup> ~ 1600 <sup>*2</sup>
	M (BULB)	ISO 400 <sup>*3</sup>	ISO 400 <sup>*3</sup>
かんたん撮影ゾーン		ISO 100~6400	ISO 100~1600
	SCN	それぞれの撮影モードで異なる	
		それぞれの撮影モードで異なる	

\* 1：[高輝度側・階調優先] 設定時はISO 200

\* 2：[オートの範囲] の [上限値] [下限値] の設定による

\* 3：設定範囲外の場合はISO 400に最も近い値に変更

## 動画撮影時のISO感度（推奨露光指数）

### （動画）ISO感度の手動設定（Mモード時）

	Canon Log 3	ISO感度
常用ISO感度	切	ISO 100～12800（1/3、1段ステップ）
	入	ISO 800～12800（1/3、1段ステップ）
拡張ISO感度	切	H（ISO 16000 / 20000 / 25600 相当）
	入	L（ISO 100 / 125 / 160 / 200 / 250 / 320 / 400 / 500 / 640 相当） H（ISO 16000 / 20000 / 25600相当）

\* ISO感度手動設定時の最高ISO感度は、**【ISO感度の範囲】**の設定による

\* **【高輝度側・階調優先】**設定時の設定範囲は、ISO 200～12800

\* Canon Log 3設定時は、**【高輝度側・階調優先】**設定不可

\* 高輝度側・階調優先、HDR PQ動画、および動画撮影時の撮影時クリエイティブフィルター設定時、デジタルズーム設定時は、拡張ISO感度不可

\* Canon Log 3設定時の初期設定範囲は、L、ISO 800～12800

### （動画）ISO感度自動設定（P / Tv / Avモード時、Mモード+ ISOオート時）

	Canon Log 3	ISO感度
常用ISO感度	切	ISO 100～12800（1/3、1段ステップ）
	入	ISO 800～12800（1/3、1段ステップ）
拡張ISO感度	切	H（ISO 16000 / 20000 / 25600相当）
	入	

\* ISO感度自動設定時の最高ISO感度は、**【オートの上限】**の設定による

\* **【高輝度側・階調優先】**設定時の設定範囲は、ISO 200～12800

\* 高輝度側・階調優先、HDR PQ動画、および動画撮影時の撮影時クリエイティブフィルター設定時、デジタルズーム設定時は、拡張ISO感度不可

**(動画) ISO感度の手動設定範囲**

ISO感度の範囲	ISO感度
下限値	ISO 100~12800 (1段ステップ)
上限値	ISO 200~12800、H (ISO 25600相当) (1段ステップ)

**(動画) ISOオートの上限定定**

	ISO感度
オートの上限	ISO 6400 / 12800 / H (ISO 25600相当) (1段ステップ)

**(動画) タイムラプス動画のISOオートの上限定定**

	ISO感度
オートの上限	ISO 400~12800 (1段ステップ)

## シャッター

### 静止画撮影

#### 型式：

電子制御式レンズシャッター

撮像素子によるローリングシャッター

#### シャッター方式

シャッター方式	ストロボ撮影
メカシャッター	可能
電子シャッター	不可

#### シャッタースピード

シャッター方式	設定範囲
メカシャッター	1/2000 ~ 30 秒 (1/3 段ステップ)、バルブ
電子シャッター*1	1/16000*2、1/8000 ~ 30 秒 (1/3 段ステップ)、バルブ

\* 1 : 1/8000秒より高速なシャッタースピードが設定できるのは、Tv / Mモードのみ (P / Avモード時は1/8000秒まで)

\* 2 : フォーカスブラケット撮影時は、シャッタースピードの上限が1/8000秒までとなる

#### ストロボ同調速度

シャッター方式	ストロボ同調速度		汎用ストロボ
	EL / EX スピードライト		
	右記以外	1.4倍 (クロップ)	
メカシャッター	1/250秒		

## 動画撮影

型式：撮像素子によるローリングシャッター

シャッタースピード：1/8000\*<sup>1</sup>～1/25\*<sup>2</sup>\*<sup>3</sup>秒（1/3 段ステップ）

動画Tv / Mモード時：1/8000\*<sup>1</sup>～1/8\*<sup>2</sup>\*<sup>3</sup>秒（1/3 段ステップ）

\* 1：タイムラプス動画撮影時は、上限が1/4000秒となる

\* 2：通常動画撮影時は、撮影モードやフレームレートにより下限値が変化する

\* 3：フレームレート：119.88 / 100.00 fps設定時は下限が1/125秒（NTSC） / 1/100秒（PAL）となる

## 手ブレ補正（Image Stabilizer）機能

レンズ光学式IS

## ドライブ

### ドライブモードと連続撮影速度

[最高・約]

ドライブモード	AF動作	メカシャッター	電子シャッター
1枚撮影		○	○
高速連続撮影+	ワンショットAF AIフォーカスAF サーボAF	15コマ/秒	30コマ/秒
高速連続撮影	ワンショットAF AIフォーカスAF サーボAF	8.2コマ/秒	16コマ/秒
低速連続撮影	ワンショットAF AIフォーカスAF サーボAF	3.0コマ/秒	5.0コマ/秒
セルフタイマー：10秒		○	○
セルフタイマー：2秒		○	○
セルフタイマー：連続撮影		○	○

## 外部ストレージ

マルチアクセサリシュー用接点：21ピン

調光補正：±3 段（1/3 段ステップ）

## 4K動画のフレーム切り出し

本機で撮影した4K動画の1フレームを、約830万画素（3840×2160）の静止画（JPEG / HEIF）として保存

\* 通常動画はJPEG、HDR PQ動画はHEIFとして保存される

\* Canon Log 3動画は切り出し不可

\* 切り出した静止画は、カメラ内でのリサイズ/トリミング、クリエイティブフィルター/クリエイティブアシストの編集不可

## 印刷指定（DPOF）

DPOF Version 1.1準拠

## 外部インターフェース

### デジタル端子

端子形状	USB Type-C™
通信	Hi-Speed USB（USB 2.0）相当
用途	<ul style="list-style-type: none"><li>パソコン/スマートフォン通信</li><li>USB充電/給電用 * USB PD非対応</li></ul>

**HDMI出力端子**：HDMI端子（タイプD）

\* 解像度自動切り換え

\* HDMI CEC非対応

**外部マイク入力端子**：Φ3.5 mmステレオミニジャック（3極）

\* プラグインパワーの機能を使用するときは、ステレオマイクロホンDM-E100を使用すること

**ヘッドフォン端子**：Φ3.5 mmステレオミニジャック

## 電源関連

### 使用電池

対応バッテリーパック	LP-E17
使用個数	1個

### USB充電時間

USB電源アダプターPD-E2による本体内充電時間は、以下の通りである

使用電池	充電時間*1	測定条件*2
LP-E17	約2時間	常温*3 新品電池 USB電源アダプターPD-E2使用

\* 1 : バッテリーを使い切った状態（過放電状態のバッテリーを除く）から充電完了まで（詳細は社内試験基準による）

\* 2 : 充電時間や充電される量は周囲の温度や残量によって異なる

\* 3 : 充電可能温度は+5℃～+40℃。安全に充電を行うため、低温下（+5℃～+15℃）では、充電時間が長くなる

### 撮影可能枚数

撮影方法	温度	撮影可能枚数（約・枚）	
		省電力優先*1	なめらかさ優先*2
モニター撮影	+23℃	400	340

\* 1 : CIPA規格準拠

\* 2 : CIPA規格を基準にした当社測定条件による

\* 新品・フル充電のLP-E17使用時

\* 撮影環境により、撮影可能枚数が大きく変動することがある

\* マルチアクセサリシュー対応のアクセサリ装着時は、カメラからアクセサリに給電が行われるため、撮影可能枚数が少なくなることがある

## 動作可能時間

使用条件			温度	動作可能時間
動画撮影可能時間*1	4Kクロップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>59.94 / 50.00 fps</li> <li>IPB (軽量)</li> </ul>	+23°C	約1時間5分
			0°C	約1時間
	4K	<ul style="list-style-type: none"> <li>29.97 / 25.00 fps</li> <li>IPB (標準)</li> </ul>	+23°C	約1時間10分
			0°C	約1時間5分
	フルHD	<ul style="list-style-type: none"> <li>59.94 / 50.00 fps</li> <li>IPB (標準)</li> </ul>	+23°C	約1時間25分
			0°C	約1時間20分
動画再生可能時間 (通常再生)	4K	<ul style="list-style-type: none"> <li>59.94 / 50.00 fps</li> <li>IPB (軽量)</li> </ul>	+23°C	約3時間

\* 新品・フル充電のLP-E17使用時

\* 1 : [動画サーボAF : しない] 設定時

## 大きさ・質量

### 大きさ

(幅) × (高さ) × (奥行)	約118.3×68.0×52.5 mm
-------------------	---------------------

\* CIPAガイドラインによる

### 質量

本体 (バッテリー、カードを含む) * CIPAガイドラインによる	約426g
本体のみ	約379g

\* シューカバー、ウィンドスクリーンを含まず

## 動作環境

使用可能温度：0～+40°C

使用可能湿度：10～90%

## Wi-Fi（無線LAN）

対応規格（IEEE 802.11b/g/n規格相当）

Wi-Fi規格（相当）	伝送方式	RU TYPE	リンク速度（最高）
			2.4GHz帯
IEEE 802.11n	OFDM変調方式 （CSMA / CA）	—	72 Mbps
IEEE 802.11g		54 Mbps	
IEEE 802.11b	DSSS変調方式	—	11 Mbps

送信周波数（中心周波数）

2.4GHz帯

周波数	2412～2462 MHz
チャンネル	1～11 ch

## 認証方式とデータ暗号化方式

### 2.4GHz帯

接続方式	認証方式	暗号方式
カメラアクセスポイント	WPA2 / WPA3-Personal	AES
	オープン	しない
インフラストラクチャー	オープン	WEP
		しない
	共有キー	WEP
	WPA / WPA2 / WPA3-Personal	TKIP AES

## Bluetooth

**準拠規格** : Bluetooth Specification Version 4.2準拠 (Bluetooth low energy技術)

**伝送方式** : GFSK変調方式

- 記載データはすべて当社試験基準、またはCIPA試験基準／ガイドラインによります。
- 大きさ、質量はCIPAガイドラインによります (カメラ本体のみの質量を除く)。
- 製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

## 商標・ライセンスについて

---

- [☑ 商標について](#)
- [☑ MPEG-4使用許諾について](#)
- [☑ アクセサリーについて](#)
- [☑ 無線機能（Wi-Fi/Bluetoothなど）について](#)
- [☑ 電波干渉について](#)

### 商標について

---

- Adobeは、米国およびその他の国におけるAdobeの登録商標または商標です。
- Microsoft、Windowsは、Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- App Store、macOSは、米国およびその他の国で登録されたApple Inc.の商標です。
- Google PlayおよびAndroidはGoogle LLCの商標です。
- IOSは、Ciscoの米国およびその他の国における商標または登録商標であり、ライセンスに基づき使用されています。
- QRコードは、株式会社デンソーウェーブの商標です。
- SDXCロゴは、SD-3C LLC.の商標です。
- HDMI、HDMI High-Definition Multimedia Interface、HDMIのトレードドレスおよびHDMIのロゴは、HDMI Licensing Administrator, Inc.の商標または登録商標です。
- DCF\*は、(社)電子情報技術産業協会の団体商標で、日本国内における登録商標です。
- カメラの設定画面と本書内で使用されている「WPS」は、Wi-Fi Protected Setupを意味しています。
- Bluetooth®のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する登録商標であり、キヤノン株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。その他の商標およびトレードネームは、それぞれの所有者に帰属します。
- USB Type-C®およびUSB-C®はUSB Implementers Forumの登録商標です。
- その他の社名、商品名などは、各社の商標または登録商標です。

\* DCFは、主としてデジタルカメラの画像を関連機器間で簡便に利用しあうことを目的として制定された(社)電子情報技術産業協会(JEITA)の規格の「Design rule for Camera File System」の略称です。



"This product is licensed under AT&T patents for the MPEG-4 standard and may be used for encoding MPEG-4 compliant video and/or decoding MPEG-4 compliant video that was encoded only (1) for a personal and non-commercial purpose or (2) by a video provider licensed under the AT&T patents to provide MPEG-4 compliant video. No license is granted or implied for any other use for MPEG-4 standard."

THIS PRODUCT IS LICENSED UNDER THE AVC PATENT PORTFOLIO LICENSE FOR THE PERSONAL USE OF A CONSUMER OR OTHER USES IN WHICH IT DOES NOT RECEIVE REMUNERATION TO (i) ENCODE VIDEO IN COMPLIANCE WITH THE AVC STANDARD ("AVC VIDEO") AND/OR (ii) DECODE AVC VIDEO THAT WAS ENCODED BY A CONSUMER ENGAGED IN A PERSONAL ACTIVITY AND/OR WAS OBTAINED FROM A VIDEO PROVIDER LICENSED TO PROVIDE AVC VIDEO. NO LICENSE IS GRANTED OR SHALL BE IMPLIED FOR ANY OTHER USE. ADDITIONAL INFORMATION MAY BE OBTAINED FROM MPEG LA, L.L.C. SEE [HTTP://WWW.MPEGLA.COM](http://www.mpegla.com)

\* 規定により英語で表記しています。

## アクセサリーについて

### アクセサリーはキヤノン純正品のご使用をおすすめします

本製品は、キヤノン純正の専用アクセサリーと組み合わせて使用した場合に最適な性能を発揮するように設計されておりますので、キヤノン純正アクセサリーのご使用をおすすめいたします。

なお、純正品以外のアクセサリーの不具合（例えばバッテリーの液漏れ、破裂など）に起因することが明らかな、故障や発火などの事故による損害については、弊社では一切責任を負いかねます。また、この場合のキヤノン製品の修理につきましては、保証の対象外となり、有償とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

#### ⚠ 注意

- バッテリーパック LP-E17は、キヤノン製品専用です。指定外の充電器、および製品と組み合わせて使用した場合の故障、事故に関しては一切保証できません。

最新の対応アクセサリーについては、下記のサイトでご確認ください。

- <https://cam.start.canon/H002/>



## 無線機能 (Wi-Fi/Bluetoothなど) について

- 本製品には、電波法に基づく認証を受けた無線装置が内蔵されており、証明ラベルは無線設備に添付されています。
- 無線機能が使える国や地域について
  - 無線機能の使用は、国や地域ごとの法令等により規制されていることがあるため、違反すると罰せられることがあります。  
そのため、無線機能が使用できる国や地域については、キヤノンのWebサイトで確認してください。(モデルナンバーは、DS126899です。)  
なお、それ以外の国や地域で無線機能を使用した際のトラブル等については、弊社は一切責任を負いかねます。
- 次の事項を行った場合、法律で罰せられることがあります。
  - 本製品を分解、または改造すること
  - 本製品上の証明ラベルをはがすこと
- 医療機器や電子機器の近くでは、本製品の無線機能は使用しないでください。
- 無線機能が医療機器や電子機器の動作に影響を及ぼす恐れがあります。
- 本製品は電気通信事業者の通信回線に直接接続することができません。
- 本製品をインターネットに接続する場合は、必ずルータ等を経由し接続してください。

## 電波干渉について

この機器の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）、および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）、およびアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

- (1) この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局、および特定小電力無線局、およびアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
- (2) 万が一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するか、または電波の発射を停止した上、お客様相談センターにご連絡いただき、混信回避のための処置等（例えば、パーティションの設置など）についてご相談ください。
- (3) その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局、あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、お客様相談センターへお問い合わせください。

2.4 DS2/OF1



2.4 XX 2



この表示は2.4GHz帯を使用している無線機器であることを意味します。

- 本製品は、他の電波を発する機器から、電波干渉を受ける場合があります。これらの機器からできるだけ遠く離すか、ご利用時間を分けるなどして、電波干渉を避けて使用してください。